

授 業 計 画

平成 24 年度

Syllabus 2012

経済情報学部 経済情報学科

経済情報学部

経済情報学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

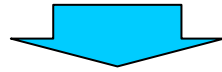
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

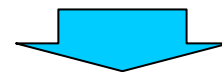


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

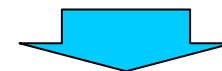


経済情報学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



経済情報学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

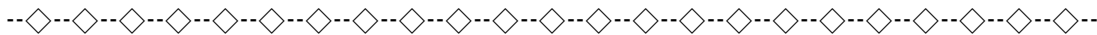
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

DPに定められた能力を身につけて卒業します。

経済情報学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・経済情報学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力し向上しようとする心を忘れず、柔軟な姿勢を有する学生を受け入れます。</p>	<p>・経済情報学部では、経済社会で起こる変化や様々な問題に対応し、生きていくために必要となる確かな力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・経済情報学部では、豊かな教養を身につけ、経済と情報の分野において学んだ知識や技術を活用し、社会で力強く生きていく志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



3つの方針（ポリシー）について

アドミッション
ポリシー

・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。

カリキュラム
ポリシー

・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。

ディプロマ
ポリシー

・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

経済情報学科ポリシー

経済情報学科は、学部ポリシーに基づき、社会に対する知性と洞察力を鍛えるとともに、経済学への深い理解、情報理論とその活用力を習得し、社会の諸問題を積極的に発見、分析、解決し、社会の発展に寄与できる人を育てることを目指します。

アドミッション ポリシー

・経済情報学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 学ぶことの意味を理解し、自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 社会に向けて主体的に行動できる人
3. 経済と情報に対する好奇心が旺盛な人

カリキュラム ポリシー

・経済情報学科のディプロマポリシーで示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 自ら学ぶ意味を考え、自ら学ぶ方法を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多様なものの見方や考え方を身につける
3. 経済の仕組みや経営に関わる専門知識を学び、経済問題を深く考察できる力を身につける
4. 情報理論に関する知識や技術を学び、社会で活用できる力を身につける
5. 自らと社会とのかかわりや働くことの意味について理解を深め、生涯にわたって学習し続ける意欲を身につける

ディプロマ ポリシー

・経済情報学部のポリシーに基づき、卒業までに次の力を身につけた人に学士(経済情報)の学位を授与します。

1. 自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力
2. 経済と情報の諸問題について関心を持ち、まわりに働きかけ、ともに行動する力
3. 学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【経済情報学部ディプロマポリシー】 豊かな教養を身につけ、経済と情報の分野において学んだ知識や技術を活用し、社会で力強く生きていく志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		経済情報学科ディプロマポリシー														
		1					2					3				
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心を持ち、まわりにも働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
	多様なものの見方、考え方	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	論理的思考力	問題発見力・分析力	経済学的思考力	システマ的思考力	ビジネス基礎力	情報処理能力	キャリア形成力	社会の動きをみる力	経済学の知識の応用	経営学の知識の応用	情報処理の知識の応用	
基礎科目	日本語(読解と表現)			◎	○											
	英語			◎												
	コンピュータ演習									◎						
教養科目	宗教と人生	○	○													
	生命倫理学	○	○													
	哲学	○	○			○										
	文学	○														
	芸術	○														
	色彩とデザイン	○														
	心理学	○														
	仏教と現代社会	○	○													
	国際理解と文化Ⅰ(キリスト教)	○	○													
	国際理解と文化Ⅱ(イスラム教)	○	○													
	法と社会	○	○			○										
	日本国憲法	○	○													
	人権の歴史	○														
	政治学	○	○			○	○									
	社会学	○				○	○									
	経済学	○				○	○									
	化学	○														
	生物学	○														
	食と健康	○	○													
	実用英語(初級)			○												
	実用英語(中級)			○												
	中国語(初級)			○												
	中国語(中級)			○												
	韓国語(初級)			○												
	韓国語(中級)			○												
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	○														
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○														
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○															
私のためのキャリア設計	○										◎					
演習科目	基礎演習A		○	○		○	○									
	基礎演習B		○	○		○	○									
	発展演習Ⅰ		○	○		○	○									
	発展演習Ⅱ		○	○		○	○									
	専門演習Ⅰ		○	○	○	○	○									
	専門演習Ⅱ		○	○	○	○	○									
	卒業演習Ⅰ		○	○	○	○	○									
	卒業演習Ⅱ		○	○	○	○	○									
	卒業研究		○	○	○	○	○									
	経済ビジネス入門	◎					○	○		○						
	情報科学入門					○			○		◎				○	
基礎数学A					◎	○			○							
アプリケーションソフト				○	○	○		○		◎				○		
プレゼンテーションA			○	◎	○	○			○		○					
プレゼンテーションB	○		○	◎	○	○			○		○					
日本社会論	○	◎			○	○						○				
現代経済社会論A	○						○				○	◎				
現代経済社会論B	○						○		○		○	◎				
簿記演習Ⅰ					◎		○				○	○				
経済学入門		○			○		◎				○	○				
経営学入門		○							◎		○	○				
民法					◎				○			○				
グラフィックス		◎		○										○		
ウェブデザイン		○		◎	○	○						○		○		
基礎数学B					◎	○		○	○							
経済数学A					◎	○	○	○	○		○	○				
経済数学B					◎	○	○	○	○		○	○				
統計学	◎								○					○		
社会経済史	○	○			○	◎	○					○	○			
現代思想論	◎	○			○	○						○				
現代社会文化論	○	◎			○	○						○				
国際政治学	○					○						◎				
国際社会論	◎					○						○				
行政学Ⅰ	○	○				◎					○	○				
行政学Ⅱ	○	○				◎					○	○				
マスメディア論	○		○	○		○						◎				
比較文化論	◎	○			○	○		○				○	○			
情報社会論	○				○	◎						○				
いなみ野ため池学	○	○	○			◎						○				
いなみ野まちおこし学	○	○	○			◎	○					○	○			
フィールドワーク	○	◎	○	○	○	○						○				
インターンシップ	○		○						○		◎					
経済情報特論A																
経済情報特論B																
経済情報特論C																
経済情報特論D																
経済情報特論E																
経済情報特論F																
経済情報特論G																
経済情報特論H																

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		経済情報学科ディプロマポリシー														
授業科目区分	授業科目名	1					2					3				
		自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力														
		経済と情報の諸問題について関心を持ち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力									
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		多様なものの見方、考え方	主体的に学び考える力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	論理的思考力	問題発見力・分析力	経済学的思考力	システムの思考力	ビジネス基礎力	情報処理能力	キャリア形成力	社会の動きをみる力	経済学の知識の応用	経営学の知識の応用	情報処理の知識の応用
経済コース専修科目	ミクロ経済学		○			○	○	◎								
	マクロ経済学		○			○	○	◎								
	経営学総論						○			◎		○	○		○	
	簿記演習Ⅱ					○			○	◎		○	○			
	工業簿記					○			○	◎		○	○			
	簿記論					○			◎	○		○	○			
	会計学入門									○		○	◎			
	会計学									○			○		◎	
	会社法									○			◎			
	金融論					○				◎			○	○		
	財政学Ⅰ					○				○			◎	○		
	財政学Ⅱ					○	◎	○		○			○	○		
	産業組織論Ⅰ					○	○	○					○	◎		
	産業組織論Ⅱ		○						○		○		◎			
	国際経済事情	○					○	○					◎			
	環境経済論A	○	○				◎	○				○	○			
	環境経済論B		○		○		○	○				○	◎			
	地域経済論Ⅰ	○	○			○	◎	○				○	○	○		
	地域経済論Ⅱ	○	○			○	○	○				○	◎	○		
	社会政策Ⅰ	○				○	○						◎			
	社会政策Ⅱ	○				○	◎						○			
	証券市場論					○		○				○	◎			
	経営戦略論Ⅰ						○						○		◎	
	経営戦略論Ⅱ						○						○		◎	
	財務諸表論Ⅰ										○		◎		○	
	財務諸表論Ⅱ										○		○		◎	
	情報会計論Ⅰ										○		◎		○	
	情報会計論Ⅱ										○		○		◎	
	労働経済論	○					○	○	○				○	◎		
	経済政策						○	○					◎	○		
職業指導	○										◎	○				
経済ビジネス特論A																
経済ビジネス特論B																
情報コース専修科目	情報数理					◎			○		○					○
	プログラミングⅠ		○			◎	○		○		○					○
	プログラミングⅡ		○			◎	○		○		○					○
	情報システム学					○			◎		○		○		○	○
	組み合わせ理論					◎	○		○							
	コンピュータ基礎論					○					◎					○
	プログラミング入門		○			◎	○		○							○
	オペレーティングシステム					○					◎					○
	情報ネットワーク					○			◎		○					○
	アルゴリズム					◎	○		○		○					○
	情報デザイン	◎				○	○		○	○	○					○
	オートマトン					◎			○		○					○
	情報セキュリティ					○			◎		○		○			○
	データベースⅠ					○	◎		○		○					○
	データベースⅡ					○	○		○		○					◎
	オペレーションズ・リサーチ						◎		○	○		○				○
	情報数学A					◎	○		○	○		○	○			
	情報数学B					◎	○		○	○		○	○			
	応用プログラミングA		○			○	○		○							◎
	応用プログラミングB		○			○	○		○							◎
	ソフトウェア設計論	◎				○	○		○		○					○
	情報検索論	○								○	◎					
情報倫理	○				○	○						◎				
情報管理論					○			○		○	○	◎			○	
情報システム特論A					○					◎						
情報システム特論B					○					◎						

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し、思いやる心と志をもって社会で生き抜く力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、とむに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

科目名			
担当者氏名			
授業方法	単位	選択区分	開講年次
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎	○	
	○	○	
	○	○	
	○	○	
	○	○	
	○	○	
《授業の概要》	《テキスト》		
《授業の到達目標》	《参考図書》		
《成績評価の方法》	《授業時間外学習》		
《授業計画》	《備考》		
週	テーマ (全角22文字)	学習内容など	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

経済情報学科

【卒業要件単位数】

■平成 24(2012) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		24 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	演習科目	16 単位	16 単位	8 科目
	コース共通科目	24 単位	14 単位	6 科目
	コース 専修科目	選択したコース専修科目 から 40 単位	選択したコース専修科目 から 10 単位 3 科目	
	その他、演習科目、コース共通科目、 コース専修科目のいずれかから	20 単位	—	—
合 計		124 単位	48 単位	21 科目

■平成 23～21(2011～2009) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		24 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	演習科目	20 単位	20 単位	9 科目
	コース共通科目	24 単位	14 単位	5 科目
	コース 専修科目	選択したコース専修科目 から 40 単位	選択したコース専修科目 から 16 単位 4 科目	
	その他、コース共通科目、コース専修科目 のいずれかから	16 単位	—	—
合 計		124 単位	58 単位	22 科目

平成 24（2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成24年度（2012年度）入学対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の担当者	ページ	
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎科目	◎日本語（読解と表現）	演習	2				2									[安井]・[辻本]・[野田]	13	
	◎英語	演習	2				2									(平本 幸治)	14	
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2								[小泉 毅]	15	
	◎英語	演習	2					2								[Michael. H. FOX]	16	
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2								西田 悦雄	17	
	◎コンピュータ演習	演習	2					2								(河野 稔)	18	
教養科目	宗教と人生	講義	2			◇	2									(本多 彩)	19	
	生命倫理学	講義	2					②		②		②		②		[浅沼 光樹]	20	
	哲学	講義	2			◇		②		②		②		②		[三浦 摩美]	21	
	文学	講義	2					②		②		②		②		[安井 重雄]	22	
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[柳楽 節子]	23	
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[岩見 健二]	24	
	心理学	講義	2					②		②		②		②		(北島 律之)	25	
	仏教と現代社会	講義	2						②		②		②		②	(本多 彩)	26	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②		[穂積 修司]	27	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②	[重親 知左子]	28	
	色彩とデザイン	講義	2					②		②		②		②		(浜島 成嘉)・(稲富 恭)	29	
	法と社会	講義	2						②		②		②		②	[國友 順市]	30	
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②		[笹田 哲男]	31	
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②		(西脇 修)	32	
	政治学	講義	2				◇	②		②		②		②		斎藤 正寿	33	
	社会学	講義	2					②		②		②		②		(吉原 恵子)	34	
	経済学	講義	2					②		②		②		②		石原 敬子	35	
	化学	講義	2					②		②		②		②		[岡本 一彦]	36	
	生物学	講義	2					②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	37	
	食と健康	講義	2						②		②		②		②	(亀谷 小枝)	38	
	実用英語（初級）	演習	2						②		②		②		②		[加藤 恭子]	39
	実用英語（中級）	演習	2							②		②		②				
	中国語（初級）	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]	40
	中国語（中級）	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	41
	韓国語（初級）	演習	2					②		②		②		②			[李 知妍]	42
	韓国語（中級）	演習	2						②		②		②		②		[李 知妍]	43
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	44
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(徳田 泰伸)	45
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		□	△	◇	②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	46	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2					②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	47	
	私のためのキャリア設計	講義	2					②		②		②		②			[有働 壽恵]	48

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目

△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目

◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎科目》

科目名	日本語（読解と表現）				
担当者氏名	安井 重雄、辻本 恭子、野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力				

《授業の概要》

授業内容は、大学での学習、日常生活、社会生活で活用する、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などである。毎回問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、辞書を引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考文献》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字、慣用表現を適切に使用し、読解できる。主語と述語をしっかりと呼応して用いることができる。助詞を適切に使用できる。敬語を適切に使用できる。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席しなければ単位を与えない。授業時に複数回実施する小テスト（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、必ず国語辞典を持参すること。電子辞書も可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	漢字には同じ音を持つものがたくさんあり、それらの意味による使い分けを学ぶ。
3	四字熟語	四字熟語には多くの種類があり、それらを理解する。それによって、日本文化の理解や、日常のコミュニケーションの理解に繋げる。
4	慣用表現・ことわざ	慣用表現は永く使い慣らされてきた表現。ことわざは教訓や生活の知恵を簡単に覚えることができる。
5	慣用表現・故事成語	故事成語は昔の出来事や書物を出典とする慣用表現。日常生活の知識として有効である。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
7	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の違い、「に」と「へ」の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	主語と述語、助詞の用法について復習する	主語と述語、助詞などについて復習し、発展問題を解く。
11	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	敬語についてまとめを行う。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』
クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

今回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。[Enjoy English] (長崎出版)

《参考文献》

NHKラジオの「新基礎英語 I」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて→話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表 (40%)、宿題 (30%)、小テスト (30%) 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《備考》

1. 出席重視です。2. 席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3. 恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4. 授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話 (挨拶)、Phonics (Alphabet) 英検 5級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの?	小テスト、会話、Phonics (Alphabet) 英検 5級リスニングテスト
4	何時ですか?	小テスト、会話、Phonics (子音) ①英検 4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics (子音) ②英検 4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics (母音) ①英検 3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics (母音) ②英検 3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習① 英検 5級 (全体)
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習② 英検 5級 (全体)
10	～しましょうか? ～しませんか?	小テスト、会話、Phonics (silent E) ① 英検 4級 (全体)
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics (silent E) ② 英検 3級 (全体)
12	～はいかがですか?と物を すすめる	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ① 英検準 2級 (全体)
13	乗り物で行き先を尋ね る・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics (polite vowels) ② 英検 5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考え をいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習① 英検 3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習② 英検準 2級総復習

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話し
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	試験or自己評価	試験or自己評価

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考文献》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際してのその利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

欠席回数が授業実施回数の1/3以上ある場合には単位認定ができない場合があります。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配付します。

《参考文献》

小柳・小野・平井・宮本編著
 (教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』学芸図書、2012
 など。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから、配付資料を熟読し理解を深めて下さい。
 課題作成については、授業時間内を基本としていますが、不足分は時間外学習で対応してください。

《備考》

“便利な文房具や道具として”のコンピュータの積極的な利用を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windows, 電子メール	Windowsの基礎操作と電子メールの活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法, 検索サイト
4	文書の作成(1)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用
5	文書の作成(2)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用
6	文書の作成(3)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの演習, セル, 罫線, 表組の活用
8	表計算ソフト(2)	表計算ソフトの演習, グラフ描画
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションのための基礎知識
10	プレゼンテーションソフト(2)	魅力ある資料のためのアニメーションの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表 レポート, 課題の作成のための実践
12	総合的な演習(2)	レポート, 課題の作成のための実践
13	総合的な演習(3)	レポート, 課題の作成のための実践
14	総合的な演習(4)	レポート, 課題の作成のための実践
15	総合的な演習(5) まとめ	総合的な演習とその他補足等

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力を修得します。

ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報モラルなど、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

○パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。

○目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。

○ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

○実習での提出課題（80%）と情報モラルに関するレポート等の提出物（20%）で評価します。

○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《テキスト》

○毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
○配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考文献》

矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2011)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2011』実教出版。
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。

とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では、3回の授業ごとにまとめ課題があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／授業前アンケートの実施
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	情報モラル
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト（図やイラストの利用）
8	文書作成(3)	まとめ課題
9	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
10	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
11	プレゼンテーション(3)	まとめ課題
12	プレゼンテーション(4)	まとめ課題の発表／相互評価
13	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
14	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用
15	データ処理(3)／まとめ	まとめ課題／授業全体のふり振り返り

《教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50% この3項目で評価する。
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る①	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る②	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る①	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を考えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
 人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がり努めてみよう。
 平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生き抜いていく上で参考となる価値観を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》

身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から - 1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から - 2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から - 3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拝 神道 仏教
6	仏教美術 - 1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 - 2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 - 1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 - 2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 - 3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 - 4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 - 5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 - 6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 - 7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%
レポート・小テストなど10%
受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
(より深く勉強したい人向き)
『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房
(内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・ 復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・ 心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって、どういうこと?(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2~4》
8	君って、どんな人?(性格)	性格という、分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2~3》
10	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1~2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷。《第6章 §2》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振り返り)	これまでの内容の振り返り。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40% この3項目で評価する。
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教 I (キリスト教)				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

*キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

*キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト (30%)、各分野の学習後に課すレポート (30%)、期末レポート (40%)

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《テキスト》

「聖書」(授業中に配布する)

《参考文献》

『信じる気持ち 初めてのキリスト教』富田正樹著(日本キリスト教団出版局)2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著(日本キリスト教団出版局)2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著(新潮OH!文庫)2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸(講談社現代新書)2011

《授業時間外学習》

*日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。
 *配布する資料が散在しないように整理しておく。
 *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書(旧約聖書と新約聖書)とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/ 小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ（例：モスク見学）。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目》

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

本授業は色彩とデザインの両分野について取り上げる。前者においては色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。後者においては、身の回りの様々なデザインと価値観との関連について多面的に考察する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解できるようにする。またデザイン一般に関する基礎知識を身につけるとともに、デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考文献》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)
- ・『近代椅子学事始』(ワールドフォトプレス)
- ・『北欧デザイン(1)~(3)』(プチグラフィック)
- ・『20世紀ファッションの文化史』(河出書房新社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めない。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。(担当:浜島)
2	色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
3	色の感情効果	赤、橙、黄、青など、それぞれの色相がもっている、色の感情効果について。色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。(担当:浜島)
4	色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。(担当:浜島)
5	配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それに従って配色を考えれば良い。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
6	デザインの概念	実用品、贅沢品、芸術作品という観点からデザインを理解する。(担当:稲富)
7	ギリシア・ローマ期からゴシックの様式	クラシックなデザインの系譜について理解する。(デザインの歴史(1))(担当:稲富)
8	ルネサンスから新古典の様式	科学技術の発展を背景としたデザインの変化について理解する。(デザインの歴史(2))(担当:稲富)
9	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムの様式	社会の変化とデザインの関わりについて理解する。(デザインの歴史(3))(担当:稲富)
10	建築とインテリア	建築・椅子のデザインを通じて、材料・技術の発展について理解する。(担当:稲富)
11	ファッションデザイン	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象の関わりについて理解する。(担当:稲富)
12	和風のデザイン	懐石料理と茶室の背景を理解し、和風デザインの系譜について学ぶ。(担当:稲富)
13	映像デザイン	映画・ドラマを通じて、映像作品の構造と文法を理解する。(担当:稲富)
14	プロダクトデザイン	アメリカ・イタリア・北欧のプロダクトデザインと社会の関連について理解する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力			

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第3版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下での平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》

共生教育のすすめ 仲田 直
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聰
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聰

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・靴、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
- 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵 (2007, 有斐閣アルマ)

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也 (2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシング
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類(社会的カテゴリー)
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域(公的領域)、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

《教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて 考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について 考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について 考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について 考えよう (3)	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方をを用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について 考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①. 10問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。 ②. 10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。 ①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせて、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E. F. Neuzil 著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人 (1970)。J. E. Brady, G. E. Humiston 著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」東京化学同人。(1991) J. N. Spencer, G. M. Bodner, L. H. Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人 (2012) など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」(幻冬舎新書) や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造 I	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造 II	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造 III	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造 IV	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造 V	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造 I	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造 II	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造 III	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態 I	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態 II	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液 I	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液 II	溶液の性質の続き。
13	化学反応 I	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応 II	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応 III	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期、II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつけられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》

生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。全回出席が原則。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつけられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたなら細胞は死ぬ。組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的增加（指数関数）の増加のものとすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きていだけであるのに、主体性がある、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナプスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的ふるまってもできてしまう関係である。

《テキスト》

使わない。図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。『細胞の分子生物学』 アルバーツ他著、『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《教養科目》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他編（南江堂）
- 「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編（学文社）
- 「私たちの食と健康」 吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

"Ultimate Solution to the TOEIC Test" by Tatsuo Kimura and David Coulson. Macmillan Languagehouse

《参考文献》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1~UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10: Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11: Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、 朝日出版社、 2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞 ・ 助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目》

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
『韓国語を学ぶⅡ』
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音+母音の後に来る子音、支えろと意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니체）、～は（助詞）について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの（해요체）、～が（助詞）について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も（助詞）について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に（助詞）について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で（場所+에서）を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社、2011年
 韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考文献》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）
受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）
学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考文献》

○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) ○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) ○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) ○『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト(20%) 各分野の学習後に課すレポート課題(60%) 平常点(20%)
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめたレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだロジック入門』(宮下充正(大修館))

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。

ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、(1)自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。(2)長期に亘るキャリアについて考える。(3)経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

(1) 家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。(2) ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。(3) 生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。(4) 収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 筆記試験 50%
- (2) 課題提出物 30%
- (3) 授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

(1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 (2) 矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 (3) 最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 (4) スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- (1) 次回のプリントを読んでおくこと
- (2) 「読む力」の課題をしておくこと
- (3) 新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- (1) 毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える (1)	生活経営とは何か
2	生活を考える (2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活 (1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活 (2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択 (1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択 (2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択 (3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択 (4)	職業の選択とライフロール (映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論 (1)	職業キャリアからライフキャリアへ (スーパー)
10	キャリア発達理論 (2)	組織におけるキャリア発達 (シャイン)
11	キャリア発達理論 (3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ (クランボルツ)
12	キャリア発達理論 (4)	転機へのアプローチ (シュロスバーグ)、視点の変化 (ハンセン)
13	生涯学習の必要性 (1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性 (1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

平成 23～21（2011～2009）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 24 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
					情 報	商 業	公 民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
基 礎 科 目	◎日本語（読解と表現）	演習	2				2											
	◎英語	演習	2	□	△	◇	2											
	◎コンピュータ演習	演習	2	□	△	◇	2											
教 育 系	宗教と人生	講義	2			◇	2											
	生命倫理学	講義	2					2		2		2		2		[浅沼 光樹]	53	
	哲学	講義	2			◇		2		2		2		2		[三浦 摩美]	54	
	文学	講義	2					2		2		2		2		[安井 重雄]	55	
	芸術	講義	2						2		2		2		2	[柳楽 節子]	56	
	芸術	講義	2						2		2		2		2	[岩見 健二]	57	
	心理学	講義	2					2		2		2		2		(北島 律之)	58	
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						2		2		2		2	(本多 彩)	59	
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						2		2		2		2	[穂積 修司]	60	
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2							2		2		2		[重親 知左子]	61	
	生活とデザイン	講義	2						2		2		2		2	(稲富 恭)	62	
	色彩学	講義	2						2		2		2		2	(浜島 成嘉)	63	
	音楽表現	演習	2						2		2		2		2	[大串 和久]	64	
	アメリカ文学	講義	2							2		2		2		(平本 幸治)	65	
論説と評論	講義	2							2		2		2		[安井 重雄]	66		
歴史学	講義	2						2		2		2		2	金子 哲	67		
養 育 系	法と社会	講義	2						2		2		2		2	[國友 順市]	68	
	日本国憲法	講義	2	□	△	◇		2		2		2		2		[笹田 哲男]	69	
	人権の歴史	講義	2						2		2		2		2	(西脇 修)	70	
	政治学	講義	2			◇		2		2		2		2		斎藤 正寿	71	
	国際関係論	講義	2							2		2		2		斎藤 正寿	72	
	社会学	講義	2						2		2		2		2	(吉原 恵子)	73	
	ジェンダー論	講義	2							2		2		2		(吉原 恵子)	74	
	経済学	講義	2						2		2		2		2	石原 敬子	75	
自 然 科 学 系	数学	講義	2						2		2		2		2	山本 真弓	76	
	物理学	講義	2						2		2		2		2	(湯瀬 晶文)	77	
	化学	講義	2						2		2		2		2	[岡本 一彦]	78	
	生物学	講義	2						2	2	2	2	2	2	2	(本多 久夫)	79	
	食と健康	講義	2							2		2		2		2	(亀谷 小枝)	80
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[Michael. H. FOX]	81	
	英語Ⅱ	演習	2							2		2		2		[Michael. H. FOX]	82	
	英語Ⅲ	演習	2								2		2		2	[Michael. H. FOX]	83	
	フランス語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[本多 雄一郎]	84	
	フランス語Ⅱ	演習	2						2		2		2		2	[本多 雄一郎]	85	
	ドイツ語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[竹内 節]	86	
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						2		2		2		2	[竹内 節]	87	
	中国語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[佟 曉寧]	88	
	中国語Ⅱ	演習	2							2		2		2		2	[佟 曉寧]	89
	韓国語Ⅰ	演習	2						2		2		2		2	[李 知妍]	90	
韓国語Ⅱ	演習	2							2		2		2		2	[李 知妍]	91	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						2		2		2		2	(三宅 一郎)	92	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2						2		2		2		2	(徳田 泰伸)	93	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2	□	△	◇		2		2		2		2		(三宅一)・(徳田)・(樺本)・(矢野)	94	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						2		2		2		2	(三宅一)・(徳田)・(樺本)・(矢野)	95	

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目

△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目

◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の担当者	ページ
					情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	◎日本語（読解と表現）	演習	2					2									
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2									
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2									
人文系	宗教と人生	講義	2				◇	2									
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②		[浅沼 光樹]
	哲学	講義	2				◇	②		②		②		②			[三浦 摩美]
	文学	講義	2					②		②		②		②			[安井 重雄]
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[柳楽 節子]
	芸術	講義	2						②		②		②		②		[岩見 健二]
	心理学	講義	2					②		②		②		②			(北島 律之)
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②		②		(本多 彩)
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2						②		②		②		②		[穂積 修司]
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②		[重親 知左子]
	生活とデザイン	講義	2						②		②		②		②		(稲富 恭)
	色彩学	講義	2						②		②		②		②		(浜島 成嘉)
	音楽表現	演習	2						②		②		②		②		[大串 和久]
	アメリカ文学	講義	2							②		②		②		②	(平本 幸治)
論説と評論	講義	2							②		②		②		②	[安井 重雄]	
歴史学	講義	2						②		②		②		②		金子 哲	
社会系	法と社会	講義	2						②		②		②		②		[國友 順市]
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②			[笹田 哲男]
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②			(西脇 修)
	政治学	講義	2				◇	②		②		②		②			斎藤 正寿
	国際関係論	講義	2						②		②		②		②		斎藤 正寿
	社会学	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)
	経済学	講義	2						②		②		②		②		石原 敬子
自然科学系	数学	講義	2						②		②		②		②		山本 真弓
	物理学	講義	2						②		②		②		②		(湯瀬 晶文)
	化学	講義	2						②		②		②		②		[岡本 一彦]
	生物学	講義	2						②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)
	食と健康	講義	2							②		②		②		②	(亀谷 小枝)
外国語系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②		[Michael. H. FOX]
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②			[Michael. H. FOX]
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②		[Michael. H. FOX]
	フランス語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[本多 雄一郎]
	フランス語Ⅱ	演習	2					②	②		②		②		②		[本多 雄一郎]
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[竹内 節]
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[竹内 節]
	中国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[佟 曉寧]
	中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]
	韓国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②			[李 知妍]
韓国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②		[李 知妍]	
体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②		(徳田 泰伸)
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		□	△	◇	②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(樺本)・(矢野)
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2					②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(樺本)・(矢野)

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目

△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目

◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 24 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
					情 報	商 業	公 民	1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基 礎 科 目	◎日本語（読解と表現）	演習	2				2										
	◎英語	演習	2		□	△	◇	2									
	◎コンピュータ演習	演習	2		□	△	◇	2									
教 育 系	宗教と人生	講義	2				◇	2									
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②	[浅沼 光樹]	53
	哲学	講義	2				◇		②		②		②		②	[三浦 摩美]	54
	文学	講義	2					②		②		②		②		[安井 重雄]	55
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[柳楽 節子]	56
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[岩見 健二]	57
	心理学	講義	2					②		②		②		②		(北島 律之)	58
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2						②		②		②		②	(本多 彩)	59
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2					②		②		②		②		[穂積 修司]	60
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②	[重親 知左子]	61
	生活とデザイン	講義	2					②		②		②		②		(稲富 恭)	62
	色彩学	講義	2					②		②		②		②		(浜島 成嘉)	63
	音楽表現	演習	2					②		②		②		②		[大串 和久]	64
	アメリカ文学	講義	2						②		②		②		②	(平本 幸治)	65
	論説と評論	講義	2						②		②		②		②	[安井 重雄]	66
歴史学	講義	2					②		②		②		②		金子 哲	67	
養 育 系	法と社会	講義	2					②		②		②		②		[國友 順市]	68
	日本国憲法	講義	2		□	△	◇	②		②		②		②		[笹田 哲男]	69
	人権の歴史	講義	2					②		②		②		②		(西脇 修)	70
	政治学	講義	2				◇	②		②		②		②		斎藤 正寿	71
	国際関係論	講義	2						②		②		②		②	斎藤 正寿	72
	社会学	講義	2					②		②		②		②		(吉原 恵子)	73
	ジェンダー論	講義	2						②		②		②		②	(吉原 恵子)	74
	経済学	講義	2					②		②		②		②		石原 敬子	75
自 然 科 学 系	数学	講義	2						②		②		②		②	山本 真弓	76
	物理学	講義	2					②		②		②		②		(湯瀬 晶文)	77
	化学	講義	2					②		②		②		②		[岡本 一彦]	78
	生物学	講義	2					②	②	②	②	②	②	②		(本多 久夫)	79
	食と健康	講義	2						②		②		②		②	(亀谷 小枝)	80
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2						②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	81
	英語Ⅱ	演習	2							②		②		②		[Michael. H. FOX]	82
	英語Ⅲ	演習	2								②		②		②	[Michael. H. FOX]	83
	フランス語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[本多 雄一郎]	84
	フランス語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[本多 雄一郎]	85
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[竹内 節]	86
	ドイツ語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[竹内 節]	87
	中国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[佟 曉寧]	88
	中国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[佟 曉寧]	89
	韓国語Ⅰ	演習	2					②		②		②		②		[李 知妍]	90
韓国語Ⅱ	演習	2						②		②		②		②	[李 知妍]	91	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②	(三宅 一郎)	92
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2						②		②		②		②	(徳田 泰伸)	93
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		□	△	◇	②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	94
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2					②		②		②		②		(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	95

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目

△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目

◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《教養科目 人文系》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を考えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目 人文系》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がり努めてみよう。
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目 人文系》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》

身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100％）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から 1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から 2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から 3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拝 神道 仏教
6	仏教美術 - 1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 - 2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 - 1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 - 2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 - 3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 - 4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 - 5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 - 6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 - 7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目 人文系》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%
レポート・小テストなど10%
受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
(より深く勉強したい人向き)
『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房
(内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういうこと?(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人?(性格)	性格という、分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
10	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷。《第6章 §2》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振り返り)	これまでの内容の振り返り。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化 I (仏教)				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40% この3項目で評価する。
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

*キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

*キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち 初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

*日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。
 *配布する資料が散在しないように整理しておく。
 *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/ 小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ（例：モスク見学）。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけで

はなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような価値観を配分する行為がデザインであるとの視点に立ち、身の回りのものと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

- デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
- デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
- デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建物のかたちと理由	住宅と家族の生活の関わり(建築デザイン)
3	携帯電話が欲しくなるわけ	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法(プロダクトデザイン)
4	なぜ椅子はこんなにたくさんの種類があるのか	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展(プロダクトデザイン)
5	H&MとGAPを比較する	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連(プロダクトデザイン)
6	ウェッジウッドが好きな人は何が好きなのか	クラシックなデザインの系譜(デザインの歴史(1):ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	機械式時計はなぜ復権したか	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(デザインの歴史(2):ルネサンスから新古典様式)
8	モダンの意味	社会の変化とデザインの関わり(デザインの歴史(3):アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	おもしろくない映画がなぜ名画に選ばれるのか	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法(映像デザイン)
10	エコカーに乗らないとだめですか	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト(インダストリアルデザイン)
11	シャネルVSユニクロ	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象(ファッションデザイン)
12	関西人が東京で迷子になってしまう原因	世界の都市における都市形態の決定要因(都市デザイン)
13	床の間は単なる無駄なスペースか	懐石料理と茶室の背景(和風デザインの系譜)
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考文献》

- ・以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
- ・『近代椅子学事始』島崎 信、ワールド・フォトプレス,2002
- ・『北欧デザイン(1)～(3)』渡部 千春、
グチゲラパブリッシング,2004
- ・『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

○予習の方法：シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。○復習の方法：授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。○学期末レポート：「学期末レポート」の執筆を行って下さい。課題は第11週(予定)に提示します。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色か注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのか考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのような色につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	音楽表現				
担当者氏名	大串 和久				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

歌唱・器楽活動を実践するとともに鑑賞まで範囲をひろげながら、楽しく音楽を表現する力を身に付けていきます。健康な心身をもって各自の可能性を最大限に活かせるよう歌唱を中心とした演習を行います。また、歌唱曲に関連する器楽曲を簡易なアレンジにて電子ピアノ（個人練習とスピーカによる全員合奏）で演習したり、リズムを打ち鳴らしながらの歌唱等、さらに鑑賞を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》

- 歌声を出すしくみを理解し、自分の体で実践したうえで楽曲をのびのびと歌うことができる。
- 簡易なキーボードアレンジの楽曲をパート演奏を重ね楽しく合奏したり、和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。
- 自分以外の人が行う演奏活動や行動を集中して聴き見ることによって一層自分の表現の幅をひろげることができる。

《成績評価の方法》

- ① 欠席が1/3を超える者は成績評価の対象とならない。
- ② 授業点30%（座席指定。真面目で積極的な授業参加を評価）。
- ③ レポート・課題等の提出20%（提出期日厳守）。
- ④ 授業中に実施の小テスト50%（定期試験は実施しない）。小テストは全員の前の実技（歌唱・ピアノ・和太鼓）、筆記を含む。

《テキスト》

『4訂版 歌のミュージックランド 〈楽しい歌とコーラス〉』（教育芸術社）

《参考文献》

- 『The Sound of Music: Piano Duets』（WILLIAMSON MUSIC）
- 『ピアノソロ サウンド・オブ・ミュージック』（ヤマハミュージックメディア）
- 『21世紀の音楽入門 1～7』（教育芸術社）

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。毎回の授業時の実践が一番大切であり、復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問したり図書館やWebで調べる等、各自で対応すること。

《備考》

- 1. 遅刻・早退は20分まで出席（減点）扱い。
- 2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁（発覚時は減点）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。ラップ等の芯2本と空き箱を6回までに用意。発声の基本＝呼吸（腹式・胸式）及び発声・響き等の説明と実践。簡易なアンケート調査。
2	歌う～自分の身体のメカニズムを知ろう	前回の説明内容を活かした実践＝呼吸と発声。テキストの中から歌唱。
3	歌う～のびのびと歌おう1 聴き入って見る～鑑賞1	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
4	歌う～のびのびと歌おう2 聴き入って見る～鑑賞2	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
5	歌う～のびのびと歌おう3 聴き入って見る～鑑賞3	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
6	歌う～のびのびと歌おう4 聴き入って見る～鑑賞4	発声。テキストの中から歌唱。関連曲の鑑賞。
7	歌う～のびのびと歌おう5 聴き入って見る～鑑賞5	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。関連曲の鑑賞。
8	歌う～のびのびと歌おう6 聴き入って見る～鑑賞6	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。関連曲の鑑賞。
9	歌う～のびのびと歌おう7 聴き入って見る～鑑賞7	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。関連曲の鑑賞・総まとめ（筆記テスト）。
10	やさしいアレンジで弾こう1 和太鼓を打ち鳴らそう1	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
11	やさしいアレンジで弾こう2 和太鼓を打ち鳴らそう2	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
12	やさしいアレンジで弾こう3 和太鼓を打ち鳴らそう3	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
13	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう1	全員の前で一人1曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
14	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう2	全員の前で一人1曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
15	総合復習とレポート提出	I期の総まとめとレポート作成・提出。

《教養科目 人文系》

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（1830－60）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テキストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	1776年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	1800年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家 Emerson	Ralph Waldo Emerson（1803－82）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家 Thoreau	Henry David Thoreau（1817－62）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家 Hawthorne	Nathaniel Hawthorne（1804－64）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter（1）	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter（2）	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家 Melville	Herman Melville（1819－91）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick（1）	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick（2）	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。

《教養科目 人文系》

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力				

《授業の概要》

現代に関する、教育、社会、芸術などさまざまな文章を読み、それぞれの論者の考え方を理解し、それに対する自らの意見を述べる。文章は、新書本、雑誌、新聞などのものを用いる。ひとつのテーマについて、3～4回の授業を行う。

《テキスト》

毎回、コピーを配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文章をしっかり読み、他人の多様な考え方について理解し、その上で自らの意見を述べるができる。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読して授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業回数（15回）の3分の2（10回）以上出席しないと単位を認定しない。その上で、授業中に行う評論についての意見文の提出（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
13	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
14	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

歴史って、嫌だよな。奇々怪々な暗記にウンザリしたよな。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよな。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからネ。覚えるんじゃなくて、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない 思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》

1. 時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。2. 現代人の魂の根底に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気付き、共感することができる。3. 人間の価値感の根底にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジюме（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》

なし

《参考文献》

勝俣鎮夫『戦国時代論』←学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。／網野善彦『増補 無縁・公界・楽』←必読教養書。危険な内容。／橋爪大三郎『はじめての構造主義』←「柔らかか頭」のための基本書。／今村仁司『排除の構造』←頭痛に襲われたいという方へ。／『週間朝日百科 日本の歴史』←前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場 1	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場 2	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場 3	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁 1	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁 2	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランシス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括 1	全体を振り返る
15	総括 2	全体を振り返る

《教養科目 社会系》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目 社会系》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第3版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	①「法の下での平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目 社会系》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》

共生教育のすすめ 仲田 直
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聰
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聰

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目 社会系》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目 社会系》

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

《教養科目 社会系》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 			

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
- 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵 (2007, 有斐閣アルマ)

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也 (2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシング
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類(社会的カテゴリー)
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域(公的領域)、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3) 講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

- 毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
- 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ①	(適宜、学習内容を提示します)
7	女の時間／男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間／男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ②	(適宜、学習内容を提示します)
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ③	(適宜、学習内容を提示します)
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編
(2005, 有斐閣)

《参考文献》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）
 『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）
 『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて 考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について 考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について 考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について 考えよう (3)	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方をを用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について 考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目 自然系》

科目名	数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 			

《授業の概要》

毎時間始めに計算問題のトレーニングを行う。
毎時間のように違ったトピックを取り上げ、高校までの数学とは違った角度から講義を行い、一般教養を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活にも役立つ計算力を身につける。
数学を通じて「考える力」、「集中力」、「論理力」を身につける。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直しておくこと。次回の復習テストに備えておくこと。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

毎時間遅刻せずに出席すること。
相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	数について	自然数、整数、有理数、実数を理解する。
2	循環小数について	有理数、無理数を小数で書き表すとどのようになるかを理解する。
3	最大公約数、最小公倍数	素数、素因数分解を理解し、最大公約数、最小公倍数の計算をできるようになる。
4	計算を速く行う方法	因数分解を用いれば速く計算できる方法などを学ぶ。
5	指数計算	指数に関する定義や指数法則を知り、指数計算ができるようになる。
6	検算	検算が速くなる方法などを知る。
7	数学の雑学(1)	フィールズ賞、円周率 π についてなどを知る。
8	数学の雑学(2)	地震のマグニチュードと震度の意味の違いなどについて知る。
9	数学の雑学(3)	数の単位や白地図の色分け問題などについて知る。
10	数学の雑学(4)	5次方程式の一般解の公式は、存在しない話題などを知る。
11	利子	複利計算を理解する。
12	数列	数列の定義を理解し、等比数列についてより深く学ぶ。
13	等比数列の和	まず記号 Σ の意味を理解し、等比数列の和を計算できるようになる。
14	借金の計算	10日で1割の利子がつき、10日ごとに1万円ずつ借り続けると100日目にはいくらの借金になるかなどの計算ができるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力			

《授業の概要》

近年、自然科学分野のみならず、幅広い分野において物理学的な世界観が取り入れられ、それらの分野の理解のためにも物理学の考え方は重要となっている。

この授業では物理の考え方を知らするために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み(20%)、レポート及びペーパーテスト等(80%)により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない(必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う)。

《参考文献》

- ①『物理学とは何だろうか(上・下)』朝永振一郎 岩波書店
- ②『おもしろい物理学(本編・続編・続続編)』ペレリマン 社会思想社現代教養文庫
- ③『研究者のための上手なサイエンス・コミュニケーション』英国物理学会監修 東京図書
- ④『物理入門コース』全10巻 岩波書店
- ⑤『非平衡系の秩序と乱れ』沢田康次 朝倉書店

《授業時間外学習》

毎回の授業の復習を行うこと、特に例題などを自分の頭で考え、計算してみることを。

機会を見つけて授業での考え方を実生活の中で実践してみることを。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定(大切なので履修希望者は必ず出席のこと)
2	物理の考え方(1)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(1)
3	物理の考え方(2)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(2)
4	力学の初歩と基本定理(1)	サンプル実験1 静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理(2)	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理(3)	加速度と運動方程式(1)
7	力学の初歩と基本定理(4)	加速度と運動方程式(2)
8	力学の初歩と基本定理(5)	サンプル実験2 運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理(6)	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学(1)	光や波の性質について(1) 光や波の基本的性質を考える、サンプル実験3
11	電磁気学(2)	光や波の性質について(2) 身の回りの現象を考える
12	相対論	時空間4次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習(1)	問題演習と実験
15	総合演習(2)	これまでのまとめ

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①. 10問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。 ②. 10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。 ①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせて、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E. F. Neuzil 著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人 (1970)。J. E. Brady, G. E. Humiston 著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」東京化学同人。(1991) J. N. Spencer, G. M. Bodner, L. H. Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人 (2012) など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」(幻冬舎新書) や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造 I	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造 II	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造 III	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造 IV	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造 V	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造 I	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造 II	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造 III	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態 I	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態 II	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液 I	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液 II	溶液の性質の続き。
13	化学反応 I	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応 II	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応 III	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期、II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつけられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》

生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。全回出席が原則。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつけられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができれば細胞は死ぬ。組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的增加（指数関数）の増加のものとすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きていだけであるのに、主体性がある、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナプスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的ふるまってもできてしまう関係である。

《テキスト》

使わない。図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。『細胞の分子生物学』 アルバーツ他著、『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他編（南江堂）
- 「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編（学文社）
- 「私たちの食と健康」 吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《教養科目 語学系》

科目名	英語 I				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅲ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語 I				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる。
10	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿・形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（どんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語Ⅱ				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、Ⅰ期に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をしますので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1)授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令・依頼の表現	様々な状況でひとに命令・依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語 I German I				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベット、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編 1	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語Ⅱ German II				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編 2	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法 1	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法 2	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編 1	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編 2	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編 3	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編 4	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 1	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 2	動詞の人称変化。

《教養科目 語学系》

科目名	中国語 I				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞 ・ 助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目 語学系》

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語 I				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
『韓国語を学ぶII』
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音②子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音③子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1): 韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字: 日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目 語学系》

科目名	韓国語Ⅱ				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社、2011年
韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考文献》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考文献》

○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) ○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) ○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) ○『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト(20%) 各分野の学習後に課すレポート課題(60%) 平常点(20%)
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだロジー入門』(宮下充正(大修館))

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。

ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授業 方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
演 習 科 目	基礎演習A	演習	2					2									*1	101
	基礎演習B	演習	2					2									堀池 聡	102
	基礎演習B	演習	2					2									木下 準一郎	103
	基礎演習B	演習	2					2									山本 真弓	104
	基礎演習B	演習	2					2									斎藤 正寿	105
	基礎演習B	演習	2					2									金子 哲	106
	基礎演習B	演習	2					2									森下 博	107
	基礎演習B	演習	2					2									竹川 宏子	108
	基礎演習B	演習	2					2									沖野 光二	109
	発展演習I	演習	2						2									
	発展演習II	演習	2							2								
	専門演習I	演習	2								2							
	専門演習II	演習	2									2						
	卒業演習I	演習	2										2					
	卒業演習II	演習	2											2				
卒業研究	演習		4											4				
専 門 教 育 科 目 コ ー ス 共 通 科 目	経済ビジネス入門	講義	2					2									池本・高本・澁本・竹川・沖野	110
	情報科学入門	講義	2					2									堀池 聡	111
	基礎数学A	講義	2					2									山本 真弓	112
	アプリケーションソフト	演習	4		□			4									穂積 隆広	113
	アプリケーションソフト	演習	4		□			4									森下 博	114
	プレゼンテーションA	演習	2					2	2								吉田 和志 *2	115
	プレゼンテーションB	演習	2					2	2								石原 敬子 *3	116
	日本社会論	講義	2					2									金子 哲	117
	現代経済社会論A	講義	2					2									森 義隆	118
	現代経済社会論B	講義	2						2									
	簿記演習I	演習	2			△		2									三宅 伸二	119
	経済学入門	講義	2			◆			2									
	経営学入門	講義	2			▲			2									
	民法	講義	2			▲			2									
	グラフィックス	講義	2		■			2									田中 正彦	120
	ウェブデザイン	講義	2					2									田中 正彦	121
	基礎数学B	講義	2					2									山本 真弓	122
	経済数学A	講義	2						2									
	経済数学B	講義	2							2								
	統計学	講義	2			▲			2									
	社会経済史	講義	2			▲			2								金子 哲	123
	現代思想論	講義	2							2								
	現代社会文化論	講義	2								2							
	国際政治学	講義	2			◇			2								齊藤 正寿	124
	国際社会論	講義	2							2								
	行政学I	講義	2								2							
	行政学II	講義	2									2						
	マスメディア論	講義	2		■			2									木下 準一郎	125
	比較文化論	講義	2							2								
	情報社会論	講義	2		■						2							
	いなみ野ため池学	講義	2								2							
	いなみ野まちおこし学	講義	2									2						
	インターンシップ	講義	2									2						
フィールドワーク	演習	2								2								
経済情報特論A	講義	2					2									森 義隆	126	
経済情報特論B	講義	2					2									不開講		
経済情報特論C	講義	2					2									三宅 伸二	127	
経済情報特論C	講義	2					2									高野 敦子	128	
経済情報特論C	講義	2					2									斎藤 正寿	129	
経済情報特論C	講義	2					2									森下 博	130	
経済情報特論D	講義	2					2									堀池 聡	131	
経済情報特論E	講義	2						2										
経済情報特論F	講義	2							2									
経済情報特論G	講義	2								2								
経済情報特論H	講義	2									2							

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当たり授業時間）								平成24年度の担当者	ページ
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
経済	マイクロ経済学	講義	④	◇							4							
	マクロ経済学	講義	④	◇							4							
	経営学総論	講義	②	▲							2							
	簿記演習Ⅱ	演習	2	▲							2							
	工業簿記	講義	2	▲							2							
	簿記論	演習	4	△								4						
	会計学入門	講義	2	△							2							
	会計学	講義	2	▲								2						
	会社法	講義	2									2						
	金融論	講義	2	▲								2						
	財政学Ⅰ	講義	2	◆								2						
	財政学Ⅱ	講義	2	◆									2					
	産業組織論Ⅰ	講義	2	◆									2					
	産業組織論Ⅱ	講義	2	◆										2				
	国際経済事情	講義	2	◆									2					
	環境経済論A	講義	2	◆									2					
	環境経済論B	講義	2	◆										2				
	地域経済論Ⅰ	講義	2	◆									2					
	地域経済論Ⅱ	講義	2	◆										2				
	社会政策Ⅰ	講義	2	◇									2					
	社会政策Ⅱ	講義	2	◆										2				
	証券市場論	講義	2	▲									2					
	経営戦略論Ⅰ	講義	2										2					
	経営戦略論Ⅱ	講義	2											2				
	財務諸表論Ⅰ	講義	2	▲									2					
	財務諸表論Ⅱ	講義	2	▲										2				
	情報会計論Ⅰ	講義	2	▲									2					
	情報会計論Ⅱ	講義	2	▲										2				
	労働経済論	講義	2											2				
	経済政策	講義	2											2				
職業指導	講義	2	△										2					
経済ビジネス特論A	講義	2										2						
経済ビジネス特論B	講義	2											2					
情報	情報数理	講義	②								2							
	プログラミングⅠ	講義	④	■							4							
	プログラミングⅡ	講義	4	■								4						
	情報システム学	講義	④	■								4						
	組合せ理論	講義	2								2							
	コンピュータ基礎論	講義	2	■							2							
	プログラミング入門	講義	2								2							
	オペレーティングシステム	講義	2	■								2						
	情報ネットワーク	講義	2	■								2						
	アルゴリズム	講義	2	■								2						
	情報デザイン	講義	2	■								2						
	オートマトン	講義	2	■									2					
	情報セキュリティ	講義	2	■									2					
	データベースⅠ	講義	2	■									2					
	データベースⅡ	講義	2	■										2				
	オペレーションズ・リサーチ	講義	2	■									2					
	専修	情報数学A	講義	2									2					
		情報数学B	講義	2										2				
		応用プログラミングA	講義	2										2				
		応用プログラミングB	講義	2											2			
ソフトウェア設計論		講義	2											2				
情報検索論		講義	2	■										2				
情報倫理		講義	2	■										2				
情報管理論		講義	2	□										2				
情報システム特論A		講義	2										2					
情報システム特論B		講義	2											2				

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目
※単位数の②および④はコースにおける必修科目単位

- *1 木下・山本・斎藤・森下・竹川・沖野
- *2 1年Ⅱ期「プレゼンテーションA」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションB」を履修すること。
- *3 1年Ⅱ期「プレゼンテーションB」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションA」を履修すること。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の担当者	ページ
									1年		2年		3年		4年			
									Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
必修	選択	情報	商業	公民														
					教職概論	講義	2	□	△	◇	2							
教育原理	講義	2	□	△	◇	2									岡本 洋之	133		
教育史	講義	2	■	▲	◆						2							
発達心理学	講義	2	■	▲	◆					2					(大平 曜子)	134		
教育心理学	講義	2	□	△	◇			2							[笹田 哲男]	135		
教育制度論	講義	2	□	△	◇			2										
教育課程論	講義	2	□	△	◇					2								
公民科教育法	講義	4			◇							4						
情報科教育法	講義	4	□									4						
商業科教育法	講義	4		△								4						
特別活動論	講義	2	□	△	◇					2								
教育方法・技術論	講義	2	□	△	◇					2								
教育情報化演習Ⅰ	演習	2	■	▲	◆							2						
教育情報化演習Ⅱ	演習	2	■	▲	◆							2						
生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2	□	△	◇					2								
教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2	□	△	◇							2						
教育実習予備演習Ⅰ	演習	2	□	△	◇					2								
教育実習予備演習Ⅱ	演習	2	□	△	◇						2							
教育実習事前事後指導	講義	1	□	△	◇									1				
高等学校教育実習	実習	2	□	△	◇								2					
教職実践演習（高）	演習	2	□	△	◇									2				

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。
※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 A				
担当者氏名	木下 準一郎、山本 真弓、斎藤 正寿、森下 博、竹川 宏子、沖野 光二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="checkbox"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="checkbox"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 1-5 論理的思考力 <input type="checkbox"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

基礎演習Aは、初年次教育の一環として行う授業で、入学時に振り分けられたクラス（約10名の少人数クラス）のなかで大学生活の送り方、大学での学び方を身につける。

具体的には、(1) 大学における学習方法、(2) ノートテイキング、(3) 文献・資料の探し方、(4) インターネットによる情報収集、(5) 情報の整理、(6) 文献の読み方、(7) レポートの書き方、等について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・大学生生活に慣れ、大学での学習の基本を身につける。
- ・図書館の利用方法、文献・資料の探し方、インターネットによる情報収集に関する基礎知識を身につける。
- ・情報の整理、文献の読み方、レポートの書き方の基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業時間外学習》

授業の概要でも述べたように、基礎演習Aで学ぶことは、大学での学修を充実したものにするうえで、大切なものばかりである。各担当者の指示に従って、その日の授業で学んだことをしっかりと確認しておこう。また、事前に課題が出された場合には、授業までにしっかりと取り組んでおくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

Excelは様々な用途に活用できるソフトウェアです。単なる表計算だけではなく、データベースとして利用したり、グラフを作成したり、簡単な繰返し計算によるプログラムも可能です。この基礎演習ではExcelの利用技術を向上させるための実習を行います。テーマはカレンダー作成、個人データ管理を予定しています。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

Excelの基本的な利用技術が身につきます。また、技術調査、論理的思考法といった基本的な能力の向上を目指します。

《授業時間外学習》

授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象とします。

《備考》

1年Ⅱ期の必修科目である「アプリケーションソフト」でもExcelに関する授業があります。基本操作をしっかり学んで下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ゼミの進め方とスケジュール、メンバー紹介、履修指導
2	Excelの基本操作(1)	簡単な問題によるExcel操作の復讐
3	Excelの基本操作(2)	相対参照、絶対参照、表示形式
4	Excelの基本操作(3)	条件付き書式、ドロップダウンリスト、名前の管理
5	カレンダーの作成(1)	月表示の枠組み、年と月のドロップダウンリストによる表示
6	カレンダーの作成(2)	第1週目の処理、第2週、第3週、第4週の処理
7	カレンダーの作成(3)	第5週、第6週の処理
8	Excelの基本操作(4)	セルの値による画像の変更方法
9	カレンダーの作成(4)	月ごとの画像切り替え表示
10	カレンダーの作成(5)	記念日の表示
11	カレンダーの作成(6)	カレンダーデザインのブラッシュアップと印刷
12	発表	各自作成カレンダーの発表
13	Excelの基本操作(5)	マクロとVBA
14	カレンダーの作成(7)	カレンダー作成におけるVBAの適用
15	まとめ	使用したExcel 関数のまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習B				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

大学卒業後の進路として公務員を目指す学生に向けて、公務員になるための心構えや必要となる情報を提供し、これらに情報をもとにこれから大学で何を学び、どのような大学生活を送っていくかについて説明する。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》

『行政ってなんだろう』[新版]新藤宗幸、岩波書房、2009
『地域の価値を創る』地域情報会議、時事通信社、1998

《授業の到達目標》

1. 自分自身のキャリアデザインを行う。
2. 社会の現状について認識する。
3. 自己表現力を養う。

《授業時間外学習》

指定された資料を読み、発表・討論の準備を行う。

《成績評価の方法》

授業中の発表（70%）と討論（30%）によって評価する。授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室（1W-112）を訪ねてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方および成績評価に関する説明
2	キャリアとは何か	キャリアデザイン入門、大学で学ぶことの意義、社会で働くことの意義等
3	就職活動の流れ	最近の就職活動の動向、インターンシップ、エントリーシート等
4	公務員と地方自治	全体に対する奉仕、住民生活に密着したサービス
5	採用試験の概要	試験の内容と合格率
6	自己分析	自分自身を知る、適性テストと解説
7	常識力トレーニング(1)	「文章の読解」、「漢字」
8	常識力トレーニング(2)	「計算力」、「社会常識」
9	自治体職員の仕事	自治体職員の仕事
10	グループディスカッション	グループによる発表と討論
11	警察官の仕事	警察官の仕事
12	グループディスカッション	グループによる発表と討論
13	海上保安官の仕事	海上保安官の仕事
14	グループディスカッション	グループによる発表と討論
15	全体のまとめ	演習の総括と今後の課題について

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

数学の勉強を通じて、基礎となる原理・原則の論理的理解、イメージによる概念の直感的理解、適切な問題演習による概念の体得を行う。また、計算問題を作成し、解答、解説は発表形式で行い、人前で説明するトレーニングを行う。最初20分間で計算トレーニングを行い、残り70分で数学の基礎学力強化を行う。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

人前で発表できるようになる。
 計算力が身に着く。
 個人個人の基礎数学学力強化ができる。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
 予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直すこと。次回の計算問題トレーニング担当者は、問題作成をすること。

《成績評価の方法》

毎回の授業の前後に実施する小テスト（80%）、単位ごとに課す宿題（10%）、発表内容及び態度（10%）

《備考》

毎時間遅刻せずに出席すること。
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	この演習の進め方	演習の進め方の説明、自己紹介など
2	定義域、値域	計算トレーニング1、区間について学び、定義域、値域を理解する。
3	最大値、最小値	計算トレーニング2、最大値、最小値の計算ができるようになる。
4	金銭に関する問題	計算トレーニング3、金銭に関する問題が解けるようになる。
5	速さ	計算トレーニング4、速さの問題が解けるようになる。
6	図形	計算トレーニング5、図形に関する問題が解けるようになる。
7	仕事算	計算トレーニング6、仕事算に関する問題が解けるようになる。
8	通過算	計算トレーニング 7、通過算に関する問題が解けるようになる。
9	n進法	計算トレーニング8、n進法に関する問題が解けるようになる。
10	植木算	計算トレーニング 9、植木算に関する問題が解けるようになる。
11	年齢算	計算トレーニング10、年齢算に関する問題が解けるようになる。
12	流水算	計算トレーニング11、流水算に関する問題が解けるようになる。
13	濃度	計算トレーニング12、濃度に関する問題が解けるようになる。
14	ニュートン算	計算トレーニング13、ニュートン算に関する問題が解けるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

この演習では、皆さんと「論理的に考える」つまり「言葉を正しく運用する」ことを学んでいきたい。具体的には『論理トレーニング』という教科書を輪読し、問題演習を積み重ねていくことになる。別の言い方をすれば、ある事柄を社会科学的に学んだり、考えたりするというのとはどういうことなのかを体験してもらうことになる。野球で言えば一番基礎的なバットやボールの握り方を学ぶ場だと考えていただきたい。

《授業の到達目標》

○基礎的な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《備考》

せっかく大学に入ったのだから、科学的「知」の「考え方のくせ」くらい身に付けてみるのもよいと思う。これを身に付けるだけでも、身の回りの見え方が変わってくるはずである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	序論 論理とは何か
3	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（1）
4	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（2）
5	論理トレーニング	第1章 さまざまな接続関係（3）
6	論理トレーニング	第2章 接続の構造（1）
7	論理トレーニング	第2章 接続の構造（2）
8	論理トレーニング	まとめと復習
9	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（1）
10	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（2）
11	論理トレーニング	第3章 議論の組み立て（3）
12	論理トレーニング	まとめと復習
13	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（1）
14	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（2）
15	論理トレーニング	まとめと復習

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

大学生活を送るために不可欠な知的作業の基礎力を養成します。第一に、図書文献、雑誌論文、データベース、ネット上の情報などの中から、必要な情報を検索する力を養成します。情報へのアクセスの仕方、条件の絞り込み方法、候補となるキーワードの発想方法、情報が正確であるかを検証する方法、などを学びます。次に、獲得した情報の組み合わせ方を学び、さらなる情報を如何に獲得するか、を学びます。

《授業の到達目標》

1. 情報検索力の獲得。2. 情報統合力の獲得。3. オリジナルな考えを導く力の獲得。4. オリジナルな考えを表現する力の獲得。5. 「先行研究等の情報引用の方法」「大学における標準的な知的著述方法のきまり」などの基礎的知識の獲得。6. 柔軟な思考力の育成。

《成績評価の方法》

毎回の演習における知的活動（積極的参加の意思を重視します）を60パーセント、学期末に示して頂きます成果（レポートになるかプレゼンテーションになるかは演習がある程度進んだ段階で、参加者と協議します）を40パーセントとします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	自己紹介 演習の進め方
2	知的情報収集論 1	図書・雑誌論文情報へのアクセスと収集 1
3	知的情報収集論 2	図書・雑誌論文情報へのアクセスと収集 2
4	知的情報収集論 3	図書・雑誌論文情報へのアクセスと収集 3
5	知的情報収集論 4	ネット情報へのアクセスと収集 1
6	知的情報収集論 5	ネット情報へのアクセスと収集 2
7	知的情報統合 1	獲得した情報を如何に組み合わせるか 1
8	知的情報統合 2	獲得した情報を如何に組み合わせるか 2
9	知的情報統合 3	中間考察を基にしたの次なる情報収集論 1
10	知的情報収集のステップアップ 1	中間考察を基にしたの次なる情報収集論 1
11	知的情報収集のステップアップ 2	中間考察を基にしたの次なる情報収集論 2
12	知的情報収集のステップアップ 3	中間考察を基にしたの次なる情報収集論 3
13	知的情報統合のステップアップ	最終的に獲得した情報を如何に組み合わせるか
14	新しい視座・切り口の発見方法	次の論点への飛翔 大学における知的著述方法のきまり
15	おわりに	全体の総括 研究内容要旨の発表

《テキスト》

なし

《参考文献》

各自の興味、学習・研究の進捗などにあわせて、随時示します。

《授業時間外学習》

ともかく、当該演習で選択した「興味ある対象」を常に考え、それに関する情報を貪欲に収集し、反芻しましょう。

《備考》

テーマは主体的に決定して下さい。この演習では、情報を検索・収集・取捨選択し、思索する方法論を学びます。ジャンクなネタ大歓迎です。フィールドワークも考えています。

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

情報化社会において、誰もが手軽に情報を発信できるようになりました。しかし、情報を発信する際には、何をどのように見せるかという人間の「表現技術」と、いかに効果的に魅せるかというコンピュータの「処理技術」が問われてきます。演習では、構想、制作、公開といった段階を踏みながらウェブページを仕上げていくことを目的にします。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- ウェブ上で表現するための技術を理解し、方法を説明することができる。
- ウェブ上で伝えたい情報をわかりやすくまとめることができる。
- ウェブ上で思い通りのデザインを表現することができる。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《成績評価の方法》

- 課題進捗状況レポート提出30%
- 課題提出とその成果70%

《備考》

授業では、ウェブページの制作技術を習得しながら自己表現力も身に付けて下さい。特に、制作の過程を楽しみながら取り組んでほしいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の目標と概要の説明	授業計画を説明するとともに、これから制作する自身のウェブページの構想を練る。
2	レイアウトとカラー	エディタによる記述とブラウザへの表示および更新の手順について流れを理解する。
3	テキストの表示	HTMLのタグの役割について学習し、テキスト表示やスタイル変更について理解する。
4	リストの活用	箇条書きスタイルを用いたテキストページを制作し、情報の要約について理解する。
5	イメージの活用	画像のイメージを取り入れたページを制作し、視覚的な表現方法について理解する。
6	リンクの活用	関連のあるページをつなげるためのリンクをおこない、階層構造について理解する。
7	スタイルシートの活用	統一感のあるデザインのページを構成するためのスタイルシートについて理解する。
8	テーブルの活用	表組みを用いたページを制作し、行列の概念とともに情報の整理について理解する。
9	フォームの活用	フォームボタンの特性を知り、ふさわしい選択とユーザビリティについて理解する。
10	スクリプトの活用	アクションをおこすページの制作をもとにし、必要なスクリプトについて理解する。
11	フレームの活用	画面分割したページ設計を通して、効果的なフレームの切り替えについて理解する。
12	ダイナミックHTMLの活用	ダイナミックHTMLのマウスイベントを活用し、ページの視覚効果について考察する。
13	サブウィンドウの活用	伝えたい情報を効果的に表現するための様々なページのパターンについて考察する。
14	クリッカブルマップ	クリッカブルマップの手法を理解し、リンクの可能性と活用方法について考察する。
15	ページ全体の確認と提出	制作してきたページ全体の構成や動作などを確認し、今後の発展について検討する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

この演習では、企業に関するさまざまな知識を学ぶために履修者が順番にテキストをまとめ、レジュメを作成し、発表する。それをもとに全員でディスカッションする。学習を通じて、企業活動や企業の仕組みについての基本的な知識を身につけると同時に、本をまとめる力、レジュメを作成する力、発表する力をつけることを目的とする。

《テキスト》

『わかる経営』小樽商科大学・高大連携チーム、日本経済評論社、2005

《参考文献》

『経営学の構図』齊藤毅憲、学文社、2003

《授業の到達目標》

- 企業の仕組みについて、基本的なことを理解できるようになる。
- 私たちの生活と企業活動とのつながりが理解できるようになる。
- 企業で働くことの意味について考えられるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んで分からないところをピックアップしてくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。報告担当者はレジュメを作成する。
- (2) 復習の方法：テキストおよび報告者によって配布されたプリントを読み返す。

《成績評価の方法》

- (1) 演習での報告、質疑応答など60%
- (2) 確認テスト（テキスト等の持ち込み可にて実施）40%として評価する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学習内容と進め方	学習内容全体について概観する、レジュメの書き方について学ぶ
2	経営学とは何か	経営学全体のイメージと4つの領域について学ぶ
3	経営戦略論	戦略の役割と環境分析、戦略の次元について学ぶ
4	経営戦略論	内部環境分析、外部環境分析について学ぶ
5	経営戦略論	基本的な競争戦略について学ぶ
6	マーケティング	マーケティングの概念について学ぶ
7	マーケティング	市場細分化、標的市場の設定について学ぶ
8	マーケティング	マーケティング・ミックスについて学ぶ
9	経営組織論	モチベーションについて学ぶ
10	経営組織論	リーダーシップについて学ぶ
11	経営組織論	チーム・マネジメントについて学ぶ
12	企業における会計の意味と役割	貸借対照表について基礎的なことを学ぶ
13	企業における会計の意味と役割	損益計算書について基礎的なことを学ぶ
14	企業における会計の意味と役割	財務分析について基礎的なことを学ぶ
15	まとめと学習内容の確認	学習のまとめと理解度の確認

《専門教育科目 演習科目》

科目名	基礎演習 B				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

本科目は、単なるビジネスマンではなくビジネスプレーヤに必要な知的創造スキルの基礎力を養うことを命題とし、会計学の意義を学習し、事業創造の知的好奇心に刺激を与える効果を目指す。

《授業の到達目標》

1. 会計学の知識が企業組織の会計部門のみならずビジネスマンやビジネスプレーヤに必要なことを実感する
2. 事業創造に必要な知識とは何か、有名企業の創業史をケーススタディで学びながら見出す
3. 事業計画書を作成し、発表できるための企画力を養う

《成績評価の方法》

毎回の出席態度（積極的コミュニケーション力）と各自に割当てられた演習課題発表（55点）を前提として、成果物の提出内容の結果（45点）で評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。受講生各自に演習課題を割当てる。
2	大学祭への屋台の出店	出店の企画（事業設立計画）と収入と支出の収支状況の計算（利益計算）について、大学祭への屋台の出店をモデルに学習する
3	打ち上げコンパ	大学祭の後に打ち上げコンパを行ない、最終的な利益計算をするため、損益計算書を作成する（あくまでシナリオであって、基礎演習Bの3週目に現実のゼミコンパはない）
4	来年の大学祭の準備	屋台の財産を表す貸借対照表を作成し、来年の大学祭に備える
5	会計システムの仕組みと記録の方法	帳簿記録の方法と財務諸表の作成を体験する
6	カレーショップの独立開業	開業資金の見積もり（事業設立計画）から開業まで
7	事業拡大	キャッシュフローと貨幣の時間的価値
8	ITが事業成功への必要なわけ	POS（販売時点情報管理）と経営分析（ABC分析・PPM分析）の重要性
9	株式会社化から上場手続き	会社法の設定登記から金融商品取引法の上場まで
10	株主総会	株主総会の趣旨と情報開示制度
11	公認会計士による会計監査	公認会計士の役割と不正・粉飾決算、業務監査と会計監査の違い
12	海外進出展開	外国通貨に関する会計（外貨建会計）、企業グループ決算（連結会計）、起業の合併・買収の会計（企業結合会計）、国際的な会計の共通ルール（国際会計基準）
13	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

浦崎直浩編著『これから学ぶ会計学』中央経済社
石井淳蔵著『ビジネス・インサイト：創造の知とは何か』[岩波新書1183]岩波書店、その他、後ほど案内する。

《参考文献》

- 【1】大学生の教養として理解しておくべき用語の基礎解説
自由国民社編『現代用語の基礎知識(2012年版)』自由国民社
- 【2】知的著述をする際に活用する参考文献の入手方法
井上真琴著『図書館に訊け!』[ちくま新書486]筑摩書房
- 【3】大学生が知的著述をするための日々の着眼点
伊丹敬之著『創造的論文の書き方』有斐閣

《授業時間外学習》

大学での演習科目の位置付けを確認し、進んで自学自習に努めることを希望する。
発表時の資料準備だけでなく、他の学生が発表した内容について議論できるように
発表以外の平時においても積極的に課題を探索してほしい。

《備考》

受講生の希望によるが、ゼミコンパ（当然アルコールはない）やイベント事もあり得る。ゼミ生からの「事業企画書」を随時受け付ける。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済ビジネス入門				
担当者氏名	池本 廣希・高本 茂・瀧本 眞一・竹川 宏子・沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

経済情報学部では、2年次Ⅱ期より「経済コース」「情報コース」のいずれかのコースを選択して、そこで専門的な学修を積んでいくことになります。

この授業では「経済コース」で学ぶ学習内容について、専門教育を担う教員5人がオムニバス形式で登場し、地域経済系を5回、経済・経営系を10回担当し、それぞれの学問領域の面白さを伝えていきます。

《授業の到達目標》

経済情報学部の「経済コース」ではどのようなことを学ぶのか、経済学、経営学、会計学、地域経済学それぞれの専門の教員によるオムニバス授業を通じて、それらの学修のイメージをつかみます。

《成績評価の方法》

授業全体を地域経済系の授業5回と経済経営系の授業10回の2つに分けます。そして、それぞれ5回めと10回めに学習のまとめとして筆記試験を実施して成績評価します。点数は、授業回数に合わせ、地域経済系（満点33点）、経済経営系（満点67点）、合計100点満点で計算します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地産地消の経済学について	中央集権と地域主権の違いについて学び、「食の地域自給」や「エネルギーの地域自給」と「環境問題」について考える。
2	いなみ野台地のため池灌漑と淡山疏水	いなみ野台地のため池灌漑と淡山疏水に注目し、地域経済の基礎づくりの苦難の歴史について学ぶ。
3	戦後地域政策の変遷	全国総合開発計画について学ぶ。
4	中心市街地の昔と今	コンパクトな街づくりについて学ぶ。
5	学習内容のまとめと理解度の確認	地域経済系の学習内容に関する理解度の確認。
6	市場の自動調整メカニズムについて	経済学の最も重要な事柄について学ぶ。
7	国民所得の諸概念	経済社会を巨視的にとらえる諸概念について学ぶ。
8	為替レートの話	現在の経済社会の最も大きい変動要因について学ぶ。
9	経営学とは何か	経営学では何を学ぶのか理解したうえで、私たちの生活における企業の役割について学ぶ。
10	企業経営の仕組み	企業内での仕事の専門化、経営組織など企業を動かしていく仕組みについて学ぶ。
11	企業活動と経営戦略	事例から経営戦略の必要性について学ぶ。
12	簿記（帳簿記入）と数学の歴史的関係	記憶と記録と簿記の関係性、中世ヨーロッパのローマ数字からアラビア数字への記数法の転換・導入の重要性について学ぶ。
13	簿記と会計の理論的關係	book-keeping（帳簿記入）とaccounting（説明すること）の本質と関係性、資本主義経済の発展の根源である資本概念は簿記から生まれた仮説について学ぶ。
14	簿記と会計と監査の概念的関係	公認会計士の監査業務と簿記と会計の概念的関係性、会計専門職である公認会計士業務と税理士業務の違いについて学ぶ。
15	学習内容のまとめと理解度の確認	経済、経営系の学習内容に関する理解度の確認。

《テキスト》

全体を通してのテキストは指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

それぞれの講義担当教員の指示に従ってください。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容について、しっかりと復習して下さい。わからないことがあれば、積極的に担当教員に質問して理解を深めましょう。

《備考》

※詳しい授業計画については、1回目の授業時にプリントを配布してお知らせします。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	情報科学入門				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

情報技術の進展には目を見張るものがあり、生活のあらゆる局面に浸透しています。情報技術の基本的な知識を習得することにより、現在の情報処理環境をより有効に活用でき、新しい技術にも柔軟に対応できます。情報技術は幅広い項目から構成されますが、本講義ではその中でも特に中核となる技術を中心に、基本的な内容について講義を行います。

《テキスト》

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付します。

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報科学を学んでいく上での基本事項を理解し、情報に関する専門教育科目にスムーズに取り組んでいけるようになります。

《授業時間外学習》

配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを40%、最後に行う総合テストを60%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

理解をより深めるため、周辺の情報処理システムを観察しつつ、本講義を受講してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 情報とは	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 情報科学の概要
2	現代社会とIT	大規模コンピュータシステム、組み込みコンピュータ、生活に浸透したIT
3	情報のデジタル化	2進数、16進数、文字コード、A-D変換とD-A変換、音声のデジタル化、静止画と動画のデジタル化
4	論理回路	ブール代数、論理演算の基本、組合せ回路
5	コンピュータハードウェア(1)	コンピュータの歴史、ノイマン型計算機、計算機の基本動作
6	コンピュータハードウェア(2)	周辺機器、半導体メモリ、磁気ディスク
7	ソフトウェアとプログラミング言語	ソフトウェアとは、プログラミングの初歩、言語処理プロセッサ
8	アルゴリズム	フローチャート、複雑さ、ソーティングアルゴリズム、検索アルゴリズム
9	オペレーティングシステム(OS)	OSの種類、OSの役割、OSの基本動作
10	データベース(DB)	DBの種類、リレーショナルDB、DB操作、排他制御
11	コンピュータシステム(1)	システム構成、集中型システム、分散型システム、システムの信頼性、コンピュータネットワーク
12	コンピュータシステム(2)	システム開発、ウォーターフォールモデル、システムエンジニア、プログラマー、仕様書
13	ネットワーク社会とセキュリティ	情報倫理、著作権、コンピュータウィルス、ファイアーウォール、暗号技術
14	習得事項の整理	情報科学の基礎に関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	基礎数学A				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 2-1 問題発見力・分析力			

《授業の概要》

現代の情報社会に必要な基礎的な数学の概念とその運用法を学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

整数、有理数、実数についての演算の意味を理解し、早く正確に計算できるようになる。

日常生活や経営学の観点から分からないことを方程式で表し解けるようになる。

1次関数、2次関数を理解し、未来を予想できるようになる。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の箇所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。

予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直しすること。次回の復習テストに備えること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

この科目は、オリエンテーション期間中にクラス分テストを実施し、理解度に応じてクラス分けを行う。

相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	クラス分け試験の解説	基礎数学がなぜ必要かを説明する。さらに、クラス分け試験の解説を行う。
2	整数に関する演算	整数に関する演算の計算練習を行う。
3	整数でない有理数に関する演算	整数でない有理数に関する演算の計算練習を行う。
4	有理数でない実数に関する演算	有理数でない実数に関する演算の計算練習を行う。
5	すべての実数に関する演算	すべての実数に関する演算の計算練習を行う。
6	方程式(1)	日常生活の観点から分からないことを方程式にして解く。
7	方程式(2)	経営学の観点から分からないことを方程式にして解く。
8	これまでの学習の振り返り	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。
9	1次関数の一般論	1次関数を理解し、グラフが描けるようになる。
10	1次関数のグラフから未来を予想する	1次関数のグラフから未来を予想できるようになる。
11	2次関数の一般論	2次関数を理解し、グラフが描けるようになる。
12	2次関数のグラフから未来を予想する	2次関数のグラフから未来を予想できるようになる。
13	不等式	不等式の計算ができるようになる。
14	連立不等式	連立方程式の計算ができるようになる。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	アプリケーションソフト				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

コンピュータ活用の基本となるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて演習を行います。原則として、毎週テーマや目標とする技能を設定した課題を提示し、それに対する演習結果を提出してもらいます。「コンピュータ演習」よりも、より深くテクニカルな内容を目指します。

なお、この授業のクラス分けは教員側で設定します。

《授業の到達目標》

現在の社会では、多くの情報を整理・分析してなんらかの結果を導き、それを他者を説得できるだけの情報としてまとめ、さらにその内容を大勢に伝える必要があります。これらの目的のために現在最も利用されているソフトがMicrosoft社のWord、Excel、PowerPointです。この授業ではこれらのソフトを自由に使いこなす技能を身につけるとともに、コンピュータに対する理解を深めることを目標とします。

《成績評価の方法》

- ・成績は毎回の授業時間内に提出する練習課題（40点満点）とその内容を元に各自が実践する提出課題の到達度（60点満点）の合計で評価します（ペーパーテストは行いません）。
- ・この授業は実習なので、出席を重視します。欠席回数が授業全体の1/3以上の場合、一切評価しません。

《テキスト》

プリントやウェブページなどを利用して、資料を配布します。

《参考文献》

- ・学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint, FOM出版
 - ・情報リテラシー (Windows 7 / Internet Explorer 8 / Word, Excel, PowerPoint 2010 対応), FOM出版
- この他にも図書館や市販の本を各自の理解度にあわせて参考にするようにしてください。

《授業時間外学習》

- ・提出課題は、授業時間だけでなく授業外の時間も取り組み、より完成度の高いものになるよう努力すること。
- ・この授業と直接関係のないものについても Word, Excel, PowerPoint を活用し、常に復習を行うこと。

《備考》

コンピュータをより深く理解し、より高度な応用力を身につけるため、普段からコンピュータを活用するよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ワープロ (1)	第01回 ガイダンスと文字入力 of 復習 第02回 ビジネス文書の編集
2	ワープロ (2)	第03回 文書の作成 第04回 図の利用とヘッダー、フッター
3	ワープロ (3)	第05回 表、ワードアート、ページ罫線 第06回 図形を利用した文書
4	ワープロ (4)	第07回 段組み文書の作成 第08回 応用課題
5	表計算 (1)	第09回 簡単な表の作成 第10回 関数の活用
6	表計算 (2)	第11回 相対参照と絶対参照 第12回 関数の活用 … VLOOKUP関数
7	表計算 (3)	第13回 VLOOKUP関数の応用 第14回 条件の判断と論理関数
8	表計算 (4)	第15回 グラフの作成 第16回 複合グラフの作成
9	表計算 (5)	第17回 シート間の集計 第18回 書式の活用
10	表計算 (6)	第19回 データベース関連機能 第20回 ピボットテーブル、ピボットグラフ
11	表計算 (7)	第21回 コピーとリンク貼り付け 第22回 文字列操作関数
12	表計算 (8)	第23回 応用課題 第24回 応用課題
13	プレゼンテーション (1)	第25回 プレゼンテーションソフト基礎 第26回 図表の利用
14	プレゼンテーション (2)	第27回 スライドの視覚効果 第28回 スライドマスタ
15	プレゼンテーション (3)	第29回 配布資料とノート 第30回 応用課題

科目名	アプリケーションソフト				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

社会では、情報を収集して筋道を立ててまとめ上げる力、その根拠となる情報を深く分析する力、そして情報をわかりやすく伝達する力が求められています。そのための強力な処理ツールとして、各種アプリケーションソフトを用いた実践の展開をおこないます。ツールの使い方にとどまらず、問題解決の本質を理解し、自ら企画してまとめ上げることを目指します。なお、この授業のクラス分けは教員側で設定します。

《授業の到達目標》

- ワープロソフトによる文書制作を通じ、話の手順や構造を組み立て、それを統一したスタイルでまとめることができる。
- 表計算ソフトによるシート制作を通じ、データを効率的に集計、分析し、本質をとらえることができる。
- プレゼンソフトによるスライド制作を通じて、伝えたい内容を正しくわかりやすく表現することができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出40%
 課題提出とその成果60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

効率よく仕事ができることを目指し、情報の集約や分析そして発信できる力を身に付けて下さい。そして、さまざまな課題に取り組みながら強力な道具の引き出しを増やして下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	01：授業構想と展開説明 02：装飾スタイルの適用	01：本授業の目標や構想を述べ、授業展開の方法や概要について具体的に説明する。 02：ワープロソフトを用いて、文字の装飾など統一したスタイルの文書を制作する。
2	03：書式スタイルの適用 04：表のスタイルと編集	03：ページの各種設定および箇条書きなどの書式スタイルを整えた文書を制作する。 04：表組を用いてデータを整理し、スタイルも整えた説得力のある文書を制作する。
3	05：図表挿入と相互参照 06：図形挿入と編集作業	05：図表の挿入と自動番号付けをもとにし、本文と相互参照できる文書を制作する。 06：各図形の配置と編集をおこない、視覚的にうったえる図形入り文書を制作する。
4	07：段組みとセクション 08：ドキュメントの管理	07：段組みの設定やセクションごとにページの書式が異なるような文書を制作する。 08：これまでの知識を活用したドキュメントを制作し、管理の方法についても扱う。
5	09：データのシート入力 10：データセル参照方法	09：表計算ソフトを用いて、データの効率的な入力の方法や計算について学習する。 10：データのセルを参照する際の相対参照、絶対参照、複合参照について学習する。
6	11：データ集計処理方法 12：データ条件判断処理	11：データを集計するためのさまざまな関数の効率的な使用方法について学習する。 12：条件を与え、その場合分けに応じて処理を変えるための関数について学習する。
7	13：データ検索取出処理 14：データ照合取出処理	13：指定の検索値をもとに、別表から該当データを取り出す関数について学習する。 14：データを照合し、合致するデータの必要情報が得られる関数について学習する。
8	15：データグラフ化方法 16：グラフ書式設定方法	15：データの視覚化にあたり、その特性に合うグラフの作成方法について学習する。 16：作成したグラフに必要な情報および書式を追加編集する方法について学習する。
9	17：シート操作処理方法 18：データセル書式設定	17：複数シート間のデータを集計処理し、またシートの取り扱いについて学習する。 18：セルに入力されたデータの表示を変更するための書式の定義について学習する。
10	19：データの並替と抽出 20：データ集計分析方法	19：データベースをもとに、条件によるデータの並替や抽出方法について学習する。 20：データベースをもとに、さまざまなクロス集計や分析の方法について学習する。
11	21：数値と文字列の操作 22：日付けと時刻の扱い	21：数値と文字列のセルデータを操作および加工編集できる関数について学習する。 22：日付けや時刻の取り扱い概念を理解し、処理をおこなう関数について学習する。
12	23：データ間の関連付け 24：データシートの管理	23：表計算とワープロソフトとの間のデータのリンク設定や更新について学習する。 24：これまでの知識を活用したデータシートを制作し、管理の方法についても扱う。
13	25：スライド作成と実行 26：スライドの視覚効果	25：プレゼンソフトを用いて、明確で効果的なスライド制作および実行をおこなう。 26：スライドにさまざまな視覚効果を実装し、見る人を引き付ける工夫をおこなう。
14	27：スライドのデザイン 28：スライド資料の印刷	27：スライドに統一的なデザインを適用する方法を扱い、制作の効率化をおこなう。 28：スライドの配布資料や各種印刷の設定方法を扱い、プレゼンの準備をおこなう。
15	29：スライドとプレゼン 30：授業総括と振り返り	29：スライドのリハーサル機能やペン機能を活用して、プレゼンの実行をおこなう。 30：授業全体の総括と振り返りをおこない、データファイルの管理について触れる。

科目名	プレゼンテーションA				
担当者氏名	吉田 和志				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

大学だけでなく社会の様々な機会においても必要とされるプレゼンテーションのうち、オーラルな分野つまりスピーチや口頭発表・討論などの方法を実習を交えて学ぶ。授業では、各種スピーチから始め、オーラルなプレゼンテーションの各技術、そしてディベート実習に至るまでを経験し、話す力・プレゼンテーション力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・多様なテーマや場に応じたスピーチができる。
- ・オーラルなプレゼンテーションにおけるストーリーの作り方、説得の技術、発表のしかたを理解し、実践できる。
- ・立論・反対尋問・最終弁論の作成・発表を経験して、ディベートを行うことができる。

《成績評価の方法》

毎回の授業での課題に対する評価と学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の演習課題を60%、学期末のレポートを40%とする。
 なお、学期末のレポートを提出しなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《テキスト》

プリントを配布してテキストに代える。

《参考文献》

- 佐々木繁範著『スピーチの教科書』ダイヤモンド社、2012年
 平林純著『論理的にプレゼンする技術』サイエンス・アイ新書、2009年
 吉田和志著『ディベートをどう指導するか』明治図書、1995年

《授業時間外学習》

毎時間の最後に、次時への課題を出すので、与えられた指示に基づいてしっかりと準備すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方 プレゼンテーションとは	授業の内容、進め方、到達目標などについて理解する。 プレゼンテーションの目的や方法、効果などについて学び、その必要性を理解する。
2	スピーチ① (魅力的な自己紹介)	自己紹介のしかたを工夫し、印象に残るスピーチを行う。
3	スピーチ② (Show & Tell)	自分のお気に入りの物を持参し、教室で提示しながら紹介するスピーチを行う。
4	スピーチ③ (最新の時事 ニュース紹介)	新聞やテレビなどで報じられた最新の時事ニュースを取り上げ、分かりやすく解説するスピーチを行う。
5	スピーチ④ (主張する・質問する)	自分の考えを分かりやすく主張するとともに、他人のスピーチ内容について質問して質疑応答を行う。
6	プレゼンテーションの技術① (ストーリーの作り方)	プレゼンテーションにおけるすぐれた構成のあり方、ストーリーの作り方について学ぶとともに、実際にプレゼンのストーリーを作ってみる。
7	プレゼンテーションの技術② (ストーリーの作り方)	前時で作成した内容をもとにプレゼンテーションを行い、他人の批評を受けて手直しし、よりよいストーリーに仕上げる。
8	プレゼンテーションの技術③ (説得の技術)	プレゼンテーションにおけるすぐれた説得の技術について学ぶとともに、それらを生かしたプレゼンテーションを行う。
9	プレゼンテーションの技術④ (発表のしかた)	プレゼンテーションにおけるすぐれた発表のしかたについて学ぶとともに、自分で工夫したプレゼンテーションを行う。
10	ディベートとは何か	ディベートの目的やテーマ、方法などについて学び、その特性を理解する。
11	ディベートの立論や反対尋問、最終弁論	ディベートの3要素である立論・反対尋問・最終弁論について、テーマに即して実際に作成する。
12	簡易ディベート実習	前時に作成した内容をもとに簡易ディベートを行い、ディベートとはどのようなものかを体験する。
13	ディベートマッチ①	クラス内でチームを編成し、テーマに即して立論・反対尋問・最終弁論を作成して次時のディベートマッチの準備を行う。
14	ディベートマッチ②	実際にディベートマッチを行い、審判団が勝敗を判定する。
15	プレゼンテーションのまとめ	プレゼンテーションの目的や方法、実践について振り返って協議を行い、学んだ方法や技術について理解を深める。

科目名	プレゼンテーションB				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

大学での学修のあらゆる場面で必要となる文章表現によるプレゼンテーションについて学ぶ。
 授業では、文章作法、構想の練り方、文章の組み立て方、論理的な書き方について解説する。毎時間の演習、添削指導を通じて文章を書く力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・演習を通じて、文章作法を身につける。
- ・資料の内容について、ポイントを押さえて要約できるようにする。
- ・序論・本論・結論のスタイルでまとまりのある文章を書けるようになる。
- ・レポート、論文の書き方の基礎を身につける。

《成績評価の方法》

毎回の授業での課題に対する評価と学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の演習課題を60%、学期末のレポートを40%とする。
 なお、学期末のレポートを提出しなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考文献》

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
 大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現－プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房、2005年。
 菊田千春・北林利治著『論理的に書き、プレゼンする技術』東洋経済新報社、2006年。 ※その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・毎回取り組んだ演習課題については、翌週添削して返却する。指摘された事柄を確認・理解し、もう一度自分なりにまとめなおすなどして、スキルアップに努めよう。
- ・第10週目以降は、学期末のレポート作成に向けて毎回宿題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	この授業の概要、到達目標、授業の進め方を解説する。指定したテーマ（身近な問題の中から指示する）について考えたことをまとめる。
2	基本的な文章作法を身につけよう	基本的な文章作法について解説する。指定したテーマについて、文体などに注意しながら考えたことをまとめる。
3	文章を要約するⅠ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。
4	文章を要約するⅡ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。
5	感想文を書くⅠ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
6	感想文を書くⅡ	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
7	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅠ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
8	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅡ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
9	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅢ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
10	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅣ	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
11	レポートを書こうⅠ	テーマを決めて、構想を練る。構想の練り方（リスティング、マッピング）を紹介するので、実践してみよう。
12	レポートを書こうⅡ	情報検索の方法について解説する。レポートを作成するには、どのような資料、文献が必要かを考えてみよう。
13	レポートを書こうⅢ	レポートの構成を考える。文章を組み立てる。
14	レポートを書こうⅣ	引用の仕方を身につける
15	学習のまとめ	レポートを完成させる。

科目名	日本社会論				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

現在の日本社会が形成されてきた過程を歴史的に考察します。日本社会の特質を考えていきます。日本社会は幾度ものグローバル化の波を受けながら、それを吸収・消化し、独自の社会システムを築いて来ました。この過程を理解し、今後の日本社会を考えて行きましょう。

《授業の到達目標》

- ①日本社会の形成過程に対する基礎的知識を獲得し、一生を通じて考察するシードを得る。
- ②日本社会の特質を理解しうる感覚を身につけ、一生をかけて考察するシード(種)を得る。
- ③日本社会の未来像に関して一生をかけて考察するシード(種)を得る。
- ④日本社会を相対化する文化相対主義的感覚を身につけ、一生をかけて異文化理解を進めていくシード(種)を得る。

《成績評価の方法》

学期末に行う確認テスト(ペーパーテスト)を60パーセントとします。比較的小人数の講義になるので、講義への積極的参加を40パーセントとし、随時行う小テスト等で評価します。

《テキスト》

なし

《参考文献》

網野善彦『東と西の語る日本の歴史』(講談社学術文庫)、佐藤進一『日本の中世国家』(岩波現代文庫)、上杉隆『檢察暴走』(朝日新聞出版)、加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』(朝日出版社)

《授業時間外学習》

柔軟な思考ができるように、頭のストレッチをしてから講義に臨んでください。また、常に周囲の人間行動に関心を持ち、観察してください。参考文献を自主的に読破してみてください。

《備考》

大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要 日本社会の構造・特質の概説
2	東日本と西日本	西国 東国 照葉常緑樹林帯 広葉落葉樹林帯 弥生文化 縄文文化
3	日本の周縁地域	南西諸島 北海道 非弥生文化圏 非水稻耕作文化圏
4	東の武士と西の公家	武士 公家 牛 馬 郡司
5	ヤマト大王政権の成立と太政官の議定会議	御神輿型政治構造 稟議と根回し 天皇制 太政官の議場官
6	中国志向と国内志向	幻に終わった律令体制 蔵人 検非違使 王朝国家 請負制 院政 王家
7	宋のグローバル経済と日本	平清盛 貨幣 唐房 江南農法 江南経済 市場の連鎖
8	惣の成立と平等社会	惣 村 大字 自治 平等 寄り合い 株
9	タテ社会とヨコ社会	平等 トップダウン 護送船団方式 稟議 根回し
10	倭寇世界と17世紀の世界平和	倭寇 マージナルマン 海商 海禁政策 分権世界
11	幕藩体制	新律令体制 石高 貨幣 集権 経済の自立
12	大日本帝国体制	明治維新 王政復古 大日本帝国憲法 内閣制度 統帥権 参謀本部 超然主義
13	政党政治と官領主義、そして軍国主義	政党政治 普通選挙法 平沼騏一郎 檢察 治安維持法 帝人事件
14	民主主義と官領主義、そしてグローバリズム	社会保障 生存権 昭電疑獄 造船疑獄 陸山会事件 新自由主義 サヨク ウヨク
15	おわりに	全体の総括

科目名	現代経済社会論A				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この講義では現代の日本社会が当面する政治や経済の問題を取り上げ、その基本となる知識を確実に理解することを目的としている。概念の理論的な理解よりも日々変化する社会の実相を新聞やテレビに登場するイメージによりつつ直感的に理解することに主眼が置かれている。いわば「現代用語の基礎知識」を社会科学の分野に限定して学ぼうとするものである。

《授業の到達目標》

財政や貿易収支、株式会社の経営の日本的特徴、年金・介護・医療などの社会保障の費用と便益、失業の実態、戦後の高度成長、バブル経済の発展と崩壊などのテーマを取り上げるが、これらは現代を生きる我々にとってもはや常識となっている事柄である。これらの社会経済的事象をしっかりと理解し、現代がどのような時代であるかを自ら画定していく際のガイドラインとなるものである。

《成績評価の方法》

小テストで30点、期末試験で70点で採点し、総合評価とする。

《テキスト》

ビジュアル『日本経済の基本（第3版）』
小峰隆夫、日経文庫、2006年

《参考文献》

『もう一度読む山川政治経済』
山崎広明編、山川出版社、2010年

『経済データの読み方（新版）』

鈴木正俊、岩波新書、2006年

《授業時間外学習》

講義での理解を確認するために空欄充填式の小問題を課外学習として提供する。またトピックをテレビや新聞で自ら確認するようにレポートを課す場合もある。

《備考》

授業中居眠りしたり、携帯電話でメールをしたりしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要	日本経済をみる視点。国内総生産（GDP）とは何か。
2	国内総生産の中身	個人消費、設備投資、公共投資、輸出などの割合。
3	経済成長の話	高度成長の実績とその主要因、戦後半世紀にわたる日本経済の歩み（概観）
4	財政の話（一般会計歳入）	日本の税制の構造、財政赤字の実態、再建の試み
5	財政の話（一般会計歳出）	激増する社会保障関係費、低迷する公共事業費と国防費
6	IT化と産業構造の変化	IT化を先導する産業と衰退する産業、産業空洞化
7	経営システムの変化	バブル経済崩壊後の企業経営の変化、リストラ、雇用行動の変化
8	産業・企業の再生	ガバナンスとコンプライアンス、企業買収、円高対策
9	社会保障と税の一体改革	民主党野田政権の経済改革を評価する
10	消費税の話（1）	税制改革の基本構想、直接税と間接税、消費税10%引き上げと国民生活への影響
11	消費税の話（2）	持続可能な税制（最適税制）とはなにか、所得税や資産税の検討、直接税と間接税のバランス
12	日本の景気	インフレーションとデフレーションではどちらがよいか、デフレ脱却の途はあるのか
13	TPPをめぐる問題	経済連携協定はいかにあるべきか、EPAやFTAとTPPとはどのように異なるのか、
14	グローバル経済の功罪	国民経済とグローバル経済の違い、政治や文化にどのような影響を与えたのか
15	まとめ	持続可能な社会の構築は可能か、環境問題の解決と共生社会の実現は今後も重要な課題

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	簿記演習 I				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

簿記演習 I・Ⅱを通じて、会計学関係科目の基礎となる簿記の基本について学習します。この科目を学んだ後、会計学入門、簿記論、会計学、工業簿記、財務諸表論、情報会計論へと学びを広め深めることで、会計学のより深い知識を習得することができます。そして、税理士、公認会計士などの職業会計人を目指すこともできます。

《テキスト》

使用しません

《参考文献》

TAC出版「合格テキスト日商簿記3級」ver.5.0
 TAC出版「合格トレーニング日商簿記3級」ver.5.0
 日商簿記検定合格を目指す人には最適です。

《授業の到達目標》

簿記の基本原理を習得し日商簿記検定に向けた基礎を身につけます。

《授業時間外学習》

宿題を出します。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

ぜひ、早い段階で日商簿記検定を目指してください。先が見えてきます。検定は、6月、11月、2月と年3回あります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎	簿記とは何か。
2	日常の手続き	仕訳の仕組み
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法。三分法。
5	現金	簿記上の現金とその取扱い
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い。当座借越の処理
7	小口現金	小口現金の意味と処理。インプレストシステムの仕組みと処理方法
8	約束手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法。
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受・仮払、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法。訂正処理の仕方
10	試算表 1	試算表の意義。試算表の仕組みと作成方法。
11	試算表 2	試算表の作成演習
12	決算手続き 1	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品の処理、未収・未払いの処理、減価償却
13	決算手続き 2	売上原価の計算
14	精算表	精算表の形式と作成方法
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	グラフィックス				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

コンピュータグラフィックスの基礎的技法を学び、イラスト作成などの作品制作に結びつける。
 この授業では色や形の情報を数値で表すベクトルグラフィックスを主に扱います。
 フリーのCGソフトであるInkscapeを用いて作品作りを行います。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

画像の表現方法、データの扱い方、色彩、構成
 ドローソフトの使い方、グラフィックスの基礎的技法

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。
 毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《テキスト》

なし
 資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》

CGに関する書籍は数多く出版されているので、いろいろ読んでみることを薦めます。
 また、CGに限らず絵画を見ることも作品制作の参考になります。

<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えると。
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業概要とeラーニングの使い方
2	ドローソフトとは	ドロー系ソフトウェアの基本的な使い方
3	作品の構成	ドロー系ソフトウェアでの作品制作の考え方
4	パスの構造	パスの構造とその編集方法
5	ベジェ曲線	ベジェ曲線を描くツールの使い方
6	着色	パスの色、色の表現、グループ化
7	グラデーション	グラデーションの作り方、使い方
8	下絵を使う	画像ファイルを下絵として利用する
9	パスの編集	パスの演算、複雑なパスの扱い方
10	レイヤー	レイヤーの利用方法
11	オブジェクトへの特殊な操作	クリップ、マスク、クローン
12	正確に配置する	スナップ、整列、配置
13	テキスト	文字に関する機能
14	作品制作(1)	Webなど画面上で利用するための作品
15	作品制作(2)	印刷物としての作品

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	ウェブデザイン				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

コミュニケーションでは、伝えたい情報を適切にデザインすることが重要である。
 特にWeb上のコンテンツでは、ユーザビリティ（使いやすさ）とアクセシビリティ（アクセスしやすさ）も考慮しなければならない。
 Webページの制作を通して、Webに関する知識と技術と、目的や対象に合った情報デザインの習得を目指す。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

HTML (XHTML) とCSS、Webそのものの特徴
 情報の構造とデザイン、目的・対象に応じたデザイン
 アクセシビリティ、ユーザビリティ

《テキスト》

なし
 資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》

『Web標準の教科書』 益子貴寛（秀和システム）

『詳細 HTML&XHTML&CSS辞典 第三版』 大藤幹（秀和システム）
 『ウェブ・ユーザビリティ』 ヤコブ・ニールセン（MdN）
 『WEBデザイン・ユーザビリティ』 池谷義紀（ソフトバンク）

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 作成しようとするWebページに必要な資料を集めること。

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。
 毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	ガイダンスとeラーニングの使い方
2	Webページとは	Web全体の基礎知識、HTMLの基本、Webページ作成の手順
3	XHTMLの基本	XHTMLの基本的な記述方法
4	XHTMLの構造	表のあるWebページを作る
5	XHTMLの要素	画像のWebページを作る、ここまでのまとめ
6	CSS	情報の意味構造と表現のデザイン
7	CSSの利用	空間をデザインする
8	CSSの利用	フォント関係をデザインする
9	CSSの利用	Classを利用してデザインする
10	CSSの利用	背景をデザインする
11	応用	スタイルの切替をする
12	応用	ページ全体をレイアウトする
13	応用	統一されたデザイン
14	応用	サイトデザイン
15	応用	ユーザビリティとアクセシビリティ

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	基礎数学B				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

基礎数学Aに引き続き、さらに、社会の情報を読み取り活用するための数学の概念を学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

指数関数、対数関数を理解し、計算できるようになる。
 場合の数と確率を理解する。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
 予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直すこと。次回の復習テストに備えること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

毎時間遅刻せずに出席すること。
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基礎数学の学力チェック	1年I期に学んだ数学の知識の確認を行う。
2	指数の定義	指数関数の定義を理解する。
3	指数計算演習	指数計算ができるようになる。
4	指数関数のグラフ	指数関数のグラフが描けるようになる。
5	対数の定義	対数関数の定義を理解する。
6	対数の計算演習	対数計算ができるようになる。
7	対数関数のグラフ	対数関数のグラフが描けるようになる。
8	これまでの学習の振り返り	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。
9	集合	集合の定義を理解し、演習問題を解くことができるようになる。
10	2項定理	2項定理を理解し、演習問題を解くことができるようになる。
11	順列	順列を理解し、演習問題を解くことができるようになる。
12	円順列	円順列を理解し、演習問題を解くことができるようになる。
13	組み合わせ	組み合わせを理解し、演習問題を解くことができるようになる。
14	確率	確率を理解し、演習問題を解くことができるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	社会経済史				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-2 経済学的思考力				

《授業の概要》

格好良く言えば、「商業・資本の奥底に潜んでいる非合理的感性の究明」なんて御題目になります。経済・商業の奥底に潜んでいる反秩序・反社会性を考察します。これは、現代人の感性にも潜んでいます。商業・経済が本来的に深く関わっている「性」の要素も真っ向から取り上げます。かなりカッ飛んだ講義になります。

《授業の到達目標》

商業・経済の根底に横たわる非合理性を一生をかけて理解するシードを獲得する。少なくとも、非合理性を感受できる感覚を身につけていくシードを獲得する。そして、固い頭を柔らかくすること。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテスト(100点)で評価します。自筆ノート(ワープロ書き不可、コピー不可)と直接配布したレジュメ(コピー不可)の持ち込みのみ可とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	所有論 1	パンツ交換は何故嫌か? 所有者の魂 マナ
3	所有論 2	呪術的所有
4	縁切りの原理 1	お祓い 神社 市
5	縁切りの原理 2	フリーセックスの原理と商業 交換と交歓
6	市・都市 1	市の立つ時 縁日 祭 盆と正月 三齋市 六齋市 虹 巨木
7	市・都市 2	市・都市の空間 境界 河原 墓場 虹 国境・郡境
8	庭訓往来の世界	市 商人 職人 物流 名産品 風俗
9	中世絵巻物に見る商業	市 商人 職人 非人 物流
10	マーガナルマンの世界	商人 行商 遍歴する宗教民 倭寇
11	市場社会の出現と南北朝期の大断絶	平氏政権 宋銭 江南農法 南宋 唐房 惣 悪党
12	中世後期のアジール	沼田市庭 楽市楽座例
13	徳政令	不動産 年期法 徳政 戻り現象
14	買戻特約付売買と現在に生きる本主権	買戻 遡及効 民法
15	おわりに	全体の総括

《テキスト》

なし

《参考文献》

『戦国時代論』勝俣鎮夫(岩波書店)
 『増補 無縁・公界・楽』網野善彦(平凡社ライブラリー 平凡社)
 『はじめての構造主義』橋爪大三郎(講談社現代新書 講談社)
 『排除の構造』今村仁司(ちくま学芸文庫 筑摩書房)
 『週間朝日百科 日本の歴史』(朝日新聞社)

《授業時間外学習》

講義の前には「頭の柔軟体操」をし、常識を疑う思考に切り替えてください。そして、前回までの講義内容を頭の中で反芻してください。参考書を極力読み進めてください。

《備考》

かなりカッ飛んだ、常識破りの講義となります。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させるので授業計画とは完全に一致しない場合があります。

科目名	国際政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この講義では、国際政治を国際社会での「政治」と立場から捉えて、政治学的思考に必要な概念・ボキャブラリーを学ぶことから出発し、次第に国際社会特有のアクター（国家、国民、多国籍企業、NGO等）の特徴を理解することを目標としたい。その後に現実に起こっている「国際政治」をどのような概念操作で理解することができるのかを、諸君と討論を重ねながら考えていきたい。

《授業の到達目標》

- 授業の到達目標 国際政治学の基本的概念を習得できる。
- 現代に生起する様々な国際問題の構造的な理解が可能となる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配付する。

《参考文献》

参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の国際政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・国際政治を理解するという行為は、モデル（model）とモデル（muddle）の間の知的な往復運動に他ならないと私は考えています。皆さんとその知的興奮を楽しみたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	主体（1）	さまざまな国際社会のアクター
2	主体（2）	国家（1） 帝国・王国
3	主体（3）	国家（2） 中世・封建国家
4	主体（4）	国家（3） 近代主権国家・絶対主義
5	主体（5）	国家（4） 近代主権国家・国民国家
6	構造（1）	近代国際体系
7	構造（2）	勢力均衡、パワーポリティクス
8	構造（3）	相互依存、国家と世界経済
9	構造（4）	世界システム
10	事例（1）	米ソ冷戦と核兵器
11	事例（2）	ポスト冷戦
12	事例（3）	国連と地域主義
13	事例（4）	国際経済と政治
14	事例（5）	エスニシティ、民族紛争
15	事例（6）	地球環境と南北問題

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	マスメディア論				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

新聞・放送・インターネットなどの様々なメディアの由来や特性、またその変革の可能性について考える。講義が中心だが、討論の機会を毎回設ける予定である。

《テキスト》

『メディア文化論』吉見俊哉、有斐閣、2008

《参考文献》

『テレビの教科書』碓井広義、PHP、2003

《授業の到達目標》

マスメディアのあるべき姿について実践的に学び、自分で問題点を発見することを目標とする。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだうえで出席していることを前提に講義を進める。

《成績評価の方法》

小テスト (40%)

定期試験 (60%)

授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室(1W-112)を訪ねてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明等
2	メディアの理論	マクルーハンの『メディア論』
3	世論調査	世論と輿論、調査手法
4	プロパガンダ研究	国際関係とメディア
5	新聞の歴史	印刷・出版の歴史
6	電話の発明	ユニバーサルサービス
7	無線通信の発明	ラジオ・ブーム
8	テレビの登場	テレビジャーナリズムと広告
9	公共放送	二元的放送秩序、国際比較
10	小テスト	1～9週までの学習範囲について小テストを行う予定
11	インターネットの時代	メディアとしてのコンピュータ
12	デジタル時代の出版	ソーシャルメディアとしての電子出版
13	メディア集中排除	多様な言論の自由な流通
14	メディア・リテラシー	メディアを活用する能力
15	学習のまとめ	これから学ぶべきこと

科目名	経済情報特論A				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 問題発見力・分析力 2-2 経済的思考力 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

野村証券、野村総合研究所から講師を招いて、「証券市場の役割と証券投資」について実践的に学ぶ。各講師とも野村証券等で豊富な実務経験を積んだ資産運用のプロである。授業は、単なる株式講座ではなく、ダイナミックな経済の動きの中での身近な資産（お金）をめぐる問題を具体的に分かりやすく説明する。

《テキスト》

『証券投資の基礎』 野村証券投資情報部編、丸善、2002

《参考文献》

『日本の資本市場』 氏家純一編、東洋経済新報社

《授業の到達目標》

資本主義社会である日本においては、お金がすべてではないにしろ、お金と無関係に暮らすことなど不可能である。それどころか、少子高齢社会を迎えて、年金・保険などお金をめぐる知識はますます必要不可欠になっている。この授業では、これからの経済社会において当然必要とされるお金（資金）との付き合い方に関する知識を身近な問題として実践的に学ぶ方法を修得する。

《授業時間外学習》

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日ごろから目を通しておくことが望ましい。

《成績評価の方法》

期末試験での成績（100点満点）で評価する。

《備考》

野村証券などから現役のスタッフを招いて、金融・証券の実務の現場で起きている現象をじかに聞く貴重な時間になります。就活にも役立つ情報が満載です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の概要と計画
2	経済関係の情報とは	経済情報の捉え方
3	金融資本市場とは	金融資本市場の役割とその変化
4	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ
5	債券投資とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ
6	株式市場とは	株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ
7	株式投資の話	株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ
8	投資信託とは	投資信託の役割とその仕組み
9	リスクの負担	リスク・リターンとポートフォリオ分析
10	外国為替とは何か	外国為替相場とその変動要因について
11	日本の株式	日本の株式市場史
12	今後の産業	産業展望と投資の考え方
13	投資の論理と心理	資本市場における投資家の心理
14	人生設計と資産運用	資産運用とライフ・プランニング
15	まとめ	一連のオムニバス講座の総括的結語

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論C				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力			

《授業の概要》

この授業では、簿記を初めて学ぶ人を対象に、簿記の基本的考え方・仕組みを学び、初歩的な財務諸表が作成できることを目的とします。少人数での授業を前提として行いますので、定員は15名とします。希望者が定員を超過した場合は、電卓のテスト等で選抜します。授業には12桁の電卓が必要です。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

「合格テキスト日商簿記3級」TAC出版

《授業の到達目標》

初級財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の作成を目標としますが、より具体的には、6月中旬に実施される日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。

《授業時間外学習》

日商簿記検定3級合格の標準学習時間は38時間です。90分授業15回で22時間30分ですので、15時間30分不足します。これを埋め合わせるには1日30分の授業外学習が必要です。その日の授業内容を確実にマスターするため、毎日30分間演習問題を解いてもらいます。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

簿記を初めて学ぶ人が対象ですので、事前の簿記の知識は必要ありません。ただし、「やる気」は必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎	簿記とは何か。
2	日常の手続き	仕訳の仕組み
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法。三分法。
5	現金	簿記上の現金とその取扱い
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い。当座借越の処理
7	小口現金	小口現金の意味と処理。インプレストシステムの仕組みと処理方法
8	約束手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法。
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受・仮払、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法。訂正処理の仕方
10	試算表1	試算表の意義。試算表の仕組みと作成方法。
11	試算表2	試算表の作成演習
12	決算手続き1	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品の処理、未収・未払いの処理、減価償却
13	決算手続き2	売上原価の計算
14	精算表	精算表の形式と作成方法
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習。

科目名	経済情報特論C				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

インターネット、電子商取引、POSシステム、情報家電など身近なビジネスや日常の様々な場面で私たちの生活を支えている情報システムについて、一般利用者の立場からその仕組みと社会との関わりについて学びます。また、情報に関する時事問題について考えていきます。各テーマの導入として、ITパスポート試験問題を取り上げますので、資格取得のための学習のスタートと位置付けて取り組むこともできます。

《授業の到達目標》

1) これからの情報関連授業で学ぶことが実際の社会や暮らしとどのように関連しているかを知ることができます。また、(2) 資格試験の概要と学習方法を知ることができます。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考文献》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

到達目標(1)については、試験によって見ます。(2)については、毎回提出してもらう課題を見ます。平常点(出席および毎回の課題)を50%、期末試験を50%の割合で評価します。ただし、課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報とは(1)	経済情報学部で情報を学ぶことの意味を考える。
2	情報とは(2)	ライフゲームを通じて、情報とは何かについて考える。
3	ヒューマンインターフェース	ユーザインターフェースを通して情報システムについて考える。
4	アプリケーション	WORDを例としてアプリケーションについて考える。
5	コンピュータと人間	コンピュータの発達によって人間の仕事がどのように変わってきたかを考える。
6	情報の表現技術とマルチメディア	情報のデジタル化について考える。
7	情報の表現技術とセキュリティ	情報ハイディングと暗号の仕組みについて学ぶ。
8	ネットワークとファイルシステム	ネットワークの基礎を学び、ネットワークとしてのファイルシステムを理解する。
9	ネットワークとインターネット	ネットワークの基礎を学び、ネットワークとしてのインターネットを理解する。
10	WWWの仕組み	Webページを見る仕組みを理解する。
11	HTML(1)	簡単なWebページの作成実習
12	HTML(2)	簡単なWebページの作成実習
13	ITを巡る時事問題(1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
14	ITを巡る時事問題(2)	プレゼンテーション実習。
15	まとめ	ITパスポート問題の復習

科目名	経済情報特論C				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力				

《授業の概要》

この特論では、台詞が英語で書かれたマンガを、英文法を確認しながらゆっくりと輪読していきたい。諸君になじみのあるマンガを使用しながら、英語の力を付けていくのが目標である。高等学校までの英語が苦手であった人向けに開講するつもりなので、基礎的な部分にまでさかのぼりながら、授業を進めて行く予定である。

《テキスト》

輪読するマンガはこちらで用意する。なお授業には英和辞典を必ず持ってくること、もちろん電子辞書も可。

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業の到達目標》

- 英語の基礎的な文法を習得することができる。
- 基礎的な英語読解力を習得することができる。
- 中程度の英語の語彙、表現を習得することができる。

《授業時間外学習》

毎週、次の時間にとりあげるマンガに出てくる単語を調べてきてもらう。また基礎的な英文法についての練習問題を毎週解いてきて提出してもらう予定である。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行なう。評価の割合は、課題への取り組み(70%)、レポート(30%)である。

《備考》

・英語の苦手な人向けに、丁寧に英文法の復習をおこなう演習形式の授業ですので、定員を6名に絞って実施します。受講希望者は講義初日に必ず出席して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	受講者の確定、なおこの場で参加者を6名に絞るので、受講希望者は必ず第1回目に出席すること。
2	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
3	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
4	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
5	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
6	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
7	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
8	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
9	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
10	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
11	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
12	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
13	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
14	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう
15	英語マンガの輪読	マンガを輪読しながら、関連語彙を習得し、英文法の復習をおこなう

科目名	経済情報特論C				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

コンピュータで実行できるソフトウェアにおいて、ワープロと並んで活用されているものに表計算ソフトがあります。表計算ソフトで何ができるのでしょうか。表を作る、計算をする、そしてグラフを描くことができますが、それだけではありません。日常のさまざまな場面で活用できる手段がつまっています。本授業では、表計算ソフトを活用することで、道具としての強みや醍醐味を感じられるきっかけを与えます。

《授業の到達目標》

- 問題解決するために最適なアプリケーションの機能を取捨選択することができる。
- 問題解決するための手順を組み立て、正確に実行することができる。
- 結果出力の表現センスを磨き、思い通りに実行することができる。

《成績評価の方法》

- 課題進捗状況レポート提出30%
- 課題提出とその成果70%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

日々の作業において表計算ソフトは欠かせない存在になりました。アイデア次第でさらに活用の機会を広げることが可能です。皆さんの積極的な取り組みを願っています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	特論の目標と概要の説明	本授業(特論)の特性や目標を述べ、授業展開(演習)の方法や概要について説明する。
2	表計算の活用事例の紹介	表計算ソフトのさまざまな活用事例を見ることで、奥深さと可能性について考える。
3	データの入力と表の装飾	データの種類を理解し、セルの効率的なデータ入力と効果的な表の装飾をおこなう。
4	データの検索と並び替え	様々な条件指定のもとで、それに合うデータ検索と抽出および並び替えをおこなう。
5	セルの参照と関数の活用	セルの相対的および絶対的な参照について理解し、関数の実践的な活用をおこなう。
6	各種グラフの作成と分析	データの特徴を意識した視覚化について理解し、効果的なグラフの作成をおこなう。
7	シミュレーション(No.1)	セルオートマトンをテーマにして、規則と計算によるシミュレーションをおこなう。
8	シミュレーション(No.2)	数学の未解決問題をテーマにして、数値の振る舞いのシミュレーションをおこなう。
9	シミュレーション(No.3)	カオスをテーマにして、繰り返しの計算とグラフ化のシミュレーションをおこなう。
10	シートの手書式と印刷設定	印刷による出力を意識したシート画面のバランス調整と各種書式の設定をおこなう。
11	フォームのボタンの活用	ビジュアルインターフェースとしてのフォームを活用したシートの制作をおこなう。
12	評価と分析シート制作	ウェブページとリンクしながらデータの評価と分析をおこない、シートにまとめる。
13	報告文書の制作とリンク	ワープロソフトによる報告書の制作と表計算シートとの効果的なリンクを構築する。
14	スライドの制作とまとめ	プレゼンソフトによるスライドの制作および報告書とシートとの統合連携化を図る。
15	課題作品提出と振り返り	課題作品の最終確認および提出の後、授業全体を通じた学習履歴について振り返る。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論D				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力			

《授業の概要》

ITパスポート試験の出題範囲のうち、アルゴリズムとデータ構造、表計算、データベース、セキュリティを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《テキスト》

『平成22年度 栢木先生のITパスポート試験教室』栢木厚 技術評論社

《参考文献》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対してはITパスポート試験の合格レベルに達することを目標とします。

《授業時間外学習》

授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えて下さい。

《成績評価の方法》

第3週から第15週までの授業の最初に前週の授業内容に関する10点満点のテストを行います。13回のテストのうち、良い成績10回分の合計点(100%)により成績を評価します。

《備考》

授業の性質上10人程度の小人数のクラス編成とします。受講希望者は必ず第一回目の授業に参加して受講許可を得て下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ITパスポート試験の概要、授業の進め方、単位の認定基準 受講者多数の場合は選抜を実施
2	データ構造	n進数(2進数、16進数)
3	ハードウェア(1)	クロック周波数、半導体メモリー 第2週の講義内容に対する試験
4	ハードウェア(2)	ハードディスクの構成、容量、動作 第3週の講義内容に対する試験
5	ハードウェア(3)	ディレクトリ構造、ファイルアクセス、バックアップ 第4週の講義内容に対する試験
6	ハードウェア(4)	仮想記憶、解像度、補助記憶の容量 第5週の講義内容に対する試験
7	表計算(1)	表計算の相対参照、絶対参照 第6週の講義内容に対する試験
8	表計算(2)	表計算の関数、IF関数の構造 第7週の講義内容に対する試験
9	システム(1)	システムの稼働率、MTBF、MTTR 第8週の講義内容に対する試験
10	システム(2)	直列接続、並列接続、バスタブ曲線 第9週の講義内容に対する試験
11	データベース(1)	関係データベースの演算、データベースの正規化 第10週の講義内容に対する試験
12	データベース(2)	データベースの抽出操作、データの並べ替え 第11週の講義内容に対する試験
13	セキュリティ(1)	パスワード、フィッシング詐欺、個人情報 第12週の講義内容に対する試験
14	セキュリティ(2)	暗号、署名 第13週の講義内容に対する試験
15	まとめ 試験	正解率の低かった問題に対する復習 第14週の講義内容に対する試験

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教職の歴史や意義とはどのようなものか、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事とはどのようなものか、教員の身分保障と地位はどのようなものか、教育職員免許状の授与と取得の条件とは何か、教員の研修・服務とはどのようなものか、等について講義する。

《テキスト》

授業中に紹介する。

《参考文献》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

教員の資質向上が焦眉の課題である状況のなかで、教育実習を行う教職課程履修者は、その責任が以前にもまして重くなったことをよく認識して、教育実習に積極的に取り組むことが求められよう。その意味で本講義は、将来教職の道を歩む履修者にとって、教員になるための基礎的・基本的態度と知識を学ぶことをめざす。

《授業時間外学習》

本授業の理解を深めるのに有効であると判断される場合には、休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。

《成績評価の方法》

授業への取り組みの度合い40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子等によりこれを変更することがある。下記授業計画も同じである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教職に関する問題意識の出し合い
2	教えるとはどういうことかを考える(1)	映画「フラガール」鑑賞(前半)
3	教えるとはどういうことかを考える(2)	映画「フラガール」鑑賞(後半)
4	教えるとはどういうことかを考える(3)	ディスカッション
5	教師のとるべき姿勢を考える(1)	東日本大震災における「釜石の奇跡」
6	教師のとるべき姿勢を考える(2)	ディスカッション
7	特別授業	教育実習生から話を聴く
8	教師の仕事は学ぶこと(1)	教員の研修と服務、教材研究の実際
9	教師の仕事は学ぶこと(2)	知の世界に分け入って遊ぶ
10	日本近代教員養成史概観(1)	ロボット人間をつくる「道具」としての教員
11	日本近代教員養成史概観(2)	教養教育中心の「学芸大学」での教員づくりとその挫折
12	日本近代教員養成史概観(3)	教育行政の右往左往のなかで—今日の免許・採用のしくみができるまで—
13	人権教育を考える(1)	在日外国人教育の今昔
14	人権教育を考える(2)	教員に求められる資質・能力との関連
15	本授業の総括	教員の身分保障と地位

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは、(1)人間とは何かを考える、(2)世界教育史に学ぶ、(3)日本の教育の流れを押さえ、これから教師になる者の歴史的位置づけを考える、(4)人権教育の概略を知る、(5)「総合的な学習」を検討しつつ、未来の教育の展望を探る、の諸点である。なお開講期間中に教育実習生の大半が実習を終えるので、彼らの話も聴く。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析できることを目指す。

《成績評価の方法》

授業への参加度40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子等によりこれを変更することがある。下記授業計画も同じである。

《テキスト》

教員採用試験情報研究会『教職教養教育原理—これだけは暗記しよう—2013年度版』（一ツ橋書店）

《参考文献》

授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

本授業の理解を深めるのに有効であると判断される場合には、休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育に関する問題意識の出し合い
2	人間とは何かを考える(1)	映画「サラエボの花」鑑賞(前半)
3	人間とは何かを考える(2)	映画「サラエボの花」鑑賞(後半)
4	人間とは何かを考える(3)	ディスカッション
5	世界教育史に学ぶ(1)	筋が通った教育者とは—ペスタロッチが問いかけるもの—
6	世界教育史に学ぶ(2)	教育は時代を反映するもの—モニトリアル・システムを考える—
7	特別授業	教育実習生から話を聴く
8	日本教育史に学ぶ(1)	イロハから帝王学まで—手習塾(寺子屋)は近世のフリースクールだった—
9	日本教育史に学ぶ(2)	水道方式—「下から」の教育方法現代化—
10	日本教育史に学ぶ(3)	能力主義—「上から」の教育方法現代化—
11	日本教育史に学ぶ(4)	ゆれ動く学校教育—経済審議会答中から現在まで—
12	人権教育を考える(1)	差別・被差別からの解放をめざす教育
13	人権教育を考える(2)	同和教育から人権教育へ
14	未来の教育への展望	「総合的な学習」が問いかける、「自分で考える人間」づくり
15	本授業の総括	教育とは明日の日本・世界をつくる営み

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

- 教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
- 自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。
- 教育効果の検証（評価）ができる。
- 教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30％）、定期試験（70％）
授業実施回数の3分の1以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》

配布プリントを使用する。

《参考文献》

「絶対役立つ教育心理学」 藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業中の課題について参考文献等に目を通して、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。
「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。 教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念、
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示、
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ、
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

明治以降の日本教育制度史を、学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度について、検討を加えていく。

《テキスト》

『要説 教育制度【三訂版】』森秀夫、学芸図書、2008

《参考文献》

授業中、その都度、紹介する。

《授業の到達目標》

1. 近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
2. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
3. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型などについて説明することができる。
2	近代以降の日本教育制度(1)	明治期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
3	近代以降の日本教育制度(2)	大正期、昭和(戦前)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
4	近代以降の日本教育制度(3)	昭和(戦後)期の学校教育制度、教育行政制度について説明することができる。
5	現代日本の教育制度(1)	現代日本の保育制度、保育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
6	現代日本の教育制度(2)	現代日本の初等教育制度、初等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
7	現代日本の教育制度(3)	現代日本の中等教育制度、中等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
8	現代日本の教育制度(4)	現代日本の高等教育制度、高等教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
9	現代日本の教育制度(5)	現代日本の社会教育制度、社会教育行政について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
10	現代日本の教育制度(6)	現代日本の教員養成制度について説明できるとともに、その課題について検討することができる。
11	現代日本の教育行財政制度	現代日本の教育行財政制度を体系的に説明できるとともに、その課題について検討することができる。
12	学校、教職員と教育法規(1)	現代日本の学校教育についての関係法規を、体系的に説明することができる。
13	学校、教職員と教育法規(2)	現代日本の教職員についての関係法規を、体系的に説明することができる。
14	海外主要国の学校制度	海外主要国の学校制度を、日本の学校制度と比較しながら考察し、その特質について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

平成 23（2011）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
 () は兼任、[] は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の 担当者	ページ					
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年									
								I	II	I	II	I	II	I	II								
演 習 科 目	基礎演習A	演習	2						2														
	基礎演習B	演習	2						2														
	発展演習I	演習	2							2										森 義隆 142			
	発展演習I	演習	2							2											高本 茂 143		
	発展演習I	演習	2							2											瀧本 眞一 144		
	発展演習I	演習	2							2											堀池 聡 145		
	発展演習I	演習	2							2											齋藤 正寿 146		
	発展演習I	演習	2							2											森下 博 147		
	発展演習II	演習	2								2											森 義隆 148	
	発展演習II	演習	2								2											高本 茂 149	
	発展演習II	演習	2								2											瀧本 眞一 150	
	発展演習II	演習	2								2											堀池 聡 151	
	発展演習II	演習	2								2											齋藤 正寿 152	
	発展演習II	演習	2								2											森下 博 153	
	専門演習I	演習	2										2										
	専門演習II	演習	2											2									
	卒業演習I	演習	2												2								
卒業演習II	演習	2													2								
卒業研究	演習	4													4								
専 門 教 育 科 目 コ ー ス 共 通 科 目	経済情報概論	講義	4						4														
	数学基礎	講義	2						2														
	アプリケーションソフト	演習	4		□					4													
	プレゼンテーションA	演習	2							2	2										[福永 弘之]*1 154		
	プレゼンテーションB	演習	2							2	2											石原 敦子*2 155	
	現代経済社会論A	講義	2							2													
	現代経済社会論B	講義	2							2	2											瀧本 眞一・堀池 聡 156	
	簿記原理I	講義	2			△				2													
	簿記原理II	講義	2			▲				2												三宅 伸二 157	
	経済学入門	講義	2			◆				2												高本 茂 158	
	経済統計	講義	2			▲				2												不開講 159	
	民法	講義	2			▲				2												不開講 159	
	会計学入門	講義	2			△				2	2											三宅 伸二 160	
	情報科学入門	講義	2							2													
	プログラミング入門	講義	2							2												田中 正彦 161	
	コンピュータ基礎論	講義	2			■				2												堀池 聡 162	
	グラフィックス	講義	2			■				2													
	ウェブデザイン	講義	2							2													
	基礎経済数学	講義	2							2													
	基礎情報数学	講義	2							2													
	統計学	講義	2							2													
	社会経済史	講義	2			▲				2													
	コミュニケーション論	講義	2			■				2													
	国際政治学	講義	2					◇		2													
	国際社会論	講義	2							2													齋藤 正寿 165
	マスメディア論	講義	2							2													
	比較文化論	講義	2							2	2												岡本 洋之 166
	インターンシップ	講義	2							2													榎木 浩 167
	経済情報特論A	講義	2						2														
	経済情報特論B	講義	2						2														
	経済情報特論C	講義	2						2														
	経済情報特論D	講義	2						2														
経済情報特論E	講義	2						2														穂積 隆広 168	
経済情報特論E	講義	2						2														金子 哲 169	
経済情報特論E	講義	2						2														岡本 洋之 170	
経済情報特論F	講義	2						2														榎木 浩 171	
経済情報特論F	講義	2						2														金子 哲 172	
経済情報特論F	講義	2						2														岡本 洋之 173	

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度(2011年度)入学者対象
()は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		教員免許関係				学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ		
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
専 門 教 育 科 目	経済ビジネス専修科目	マイクロ経済学		④				◇					4						石原 敬子	174
	マクロ経済学	講義		④				◇					4						森 義隆	175
	経営学総論	講義		④										4						
	簿記論	演習		④			△							4						
	金融論	講義		2			▲							2					高本 茂	176
	工業簿記	講義		2			▲							2					三宅 伸二	177
	会計学	講義		2			▲							2					三宅 伸二	178
	会社法	講義		2										2					[國友 順市]	179
	財政学Ⅰ	講義		2					◆					2						
	財政学Ⅱ	講義		2					◆						2					
	産業組織論Ⅰ	講義		2					◆					2						
	産業組織論Ⅱ	講義		2					◆						2					
	国際経済論Ⅰ	講義		2					◆					2						
	国際経済論Ⅱ	講義		2					◆						2					
	証券市場論	講義		2				▲						2						
	経営戦略論Ⅰ	講義		2										2						
	経営戦略論Ⅱ	講義		2											2					
	財務管理論Ⅰ	講義		2										2						
	財務管理論Ⅱ	講義		2											2					
	財務諸表論Ⅰ	講義		2					▲					2						
	財務諸表論Ⅱ	講義		2					▲						2					
	情報会計論Ⅰ	講義		2					▲					2						
	情報会計論Ⅱ	講義		2					▲						2					
	労働経済論	講義		2											2					
	経済政策	講義		2											2					
職業指導	講義		2					△						2						
経済ビジネス特論A	講義		2											2						
経済ビジネス特論B	講義		2												2					
専 門 教 育 科 目	情報システム専修科目	数理論理学		④									4						田中 正彦・穂積 隆広	180
	プログラミングⅠ	講義		④			■						4						西田 悦雄	181
	プログラミングⅡ	講義		④			■							4						
	情報システム学	講義		④			■							4						
	オペレーティングシステム	講義		2			■						2						榎木 浩	182
	情報ネットワーク	講義		2			■						2						堀池 聡	183
	アルゴリズム	講義		2			■						2						森下 博	184
	情報デザイン	講義		2			■						2						西田 悦雄	185
	情報基礎理論	講義		2			■							2						
	情報セキュリティ	講義		2			■							2						
	データベースⅠ	講義		2			■							2						
	データベースⅡ	講義		2			■								2					
	オペレーションズ・リサーチ	講義		2										2						
	情報数学	講義		2										2						
	応用プログラミングA	講義		2											2					
	応用プログラミングB	講義		2												2				
	オブジェクト指向方法論	講義		2												2				
	システム解析	講義		2				■							2					
	情報検索論	講義		2				■							2					
	情報法学	講義		2				■							2					
	情報管理論	講義		2				□								2				
	情報システム特論A	講義		2											2					
	情報システム特論B	講義		2												2				

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教員免許関係				学 年 配 当 （ <small>数字は週当り授業時間</small> ）								平 成 24 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択	情 報	商 業	公 民	1年		2年		3年		4年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
専 門 教 育 科 目	コ ー ス 専 修 科 目	フィールドワーク	演習	④								4					池本・瀧本・木下・金子・岡本	186	
		地域分析論	講義	④									4					(田端 和彦)	187
		人と地域	講義	④										4					
		地域デザイン論	講義	④										4					
		地域経済論Ⅰ	講義	2				◆					2					瀧本 眞一	188
		地域経済論Ⅱ	講義	2				◆						2					
		環境と地理	講義	2										2					
		社会調査Ⅰ	講義	2										2				[根本 敏行]	189
		社会調査Ⅱ	講義	2										2					
		社会情報論	講義	2										2				木下 準一郎	190
		ジャーナリズム	講義	2											2				
		社会政策Ⅰ	講義	2				◇						2					
		社会政策Ⅱ	講義	2				◆							2				
		行政学Ⅰ	講義	2										2					
		行政学Ⅱ	講義	2											2				
		環境経済論A	講義	2										2					
		環境経済論B	講義	2											2				
		情報社会論	講義	2		■								2					
		いなみ野ため池学	講義	2										2					
		いなみ野まちおこし学	講義	2											2				
メディアと政治	講義	2										2							
地域史	講義	2											2						
地域デザイン特論A	講義	2											2						
地域デザイン特論B	講義	2												2					

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※単位数の④はコースにおける必修科目単位

- *1 1年Ⅱ期「プレゼンテーションA」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションB」を履修すること。
- *2 1年Ⅱ期「プレゼンテーションB」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションA」を履修すること。

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係					学年配当（数字は適当り授業時間）								平成24年度の担当者	ページ	
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
教職に関する科目	教職概論	講義	2	□	△	◇	2													
	教育原理	講義	2	□	△	◇	2													
	教育史	講義	2	■	▲	◆						2								
	発達心理学	講義	2	■	▲	◆				2									[松田 信樹]	191
	教育心理学	講義	2	□	△	◇		2												
	教育制度論	講義	2	□	△	◇		2											(廣岡 義之)	192
	教育課程論	講義	2	□	△	◇				2										
	公民科教育法	講義	4	□		◇						4								
	情報科教育法	講義	4	□								4								
	商業科教育法	講義	4	□	△							4								
	特別活動論	講義	2	□	△	◇				2									[上寺 常和]	193
	教育方法・技術論	講義	2	□	△	◇				2									(河野 稔)	194
	教育情報化演習Ⅰ	演習	2	■	▲	◆						2								
	教育情報化演習Ⅱ	演習	2	■	▲	◆							2							
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2	□	△	◇				2									[上寺 常和]	195
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2	□	△	◇							2							
	教育実習予備演習Ⅰ	演習	2	□	△	◇				2									岡本 洋之	196
	教育実習予備演習Ⅱ	演習	2	□	△	◇					2								岡本 洋之	197
教育実習事前事後指導	講義	1	□	△	◇															
高等学校教育実習	実習	2	□	△	◇													2		
教職実践演習（高）	演習	2	□	△	◇														2	

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係					学年配当（数字は適当り授業時間）								平成24年度の担当者	ページ	
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
総合・キャリア関連科目	日本語表現法	演習	2						②		②								[野田 直恵]	198
	コンピュータ応用演習	演習	2						②		②			②					(河野 稔)	199
	特別講義	講義	2						②		②			②						
	私のためのキャリア設計	講義	2						②		②			②					[有働 壽恵]	200
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2							②		②		②					[山本 清美]	201
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2								②		②		②				[山本 清美]	202
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2									②		②		②			[山本 清美]	203

※総合・キャリア関連科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

私たちの身近な経済や社会の問題をニュースや新聞記事から取り上げて、何がどのように問題となっているのか、を考える。こうした問題関心の形成とアプローチの方向を示すのがこの演習の目的である。特に、現在日本の社会には高齢者の医療や年金、若者の失業など緊急に解決を要する問題が山積している。どんな解決法があるのか、議論したい。

《テキスト》

テキストはとくに指定しない。その都度、新聞記事やインターネットで検索して教材とする。

《参考文献》

必要に応じて適宜紹介する。

《授業の到達目標》

演習での輪読や報告、討論を通じて、各自がどのような問題に関心を示し、数回のレポート作成を通して問題への関心がより明確に形成されたかどうかを確認する。例えば、若者の失業は他の年齢層の失業に比べてどのような特徴があるのか、また現在の政府はそれに対してどのような政策を打ち出しているのか、こうした一連の考察によってどこまで認識を高めることができたかが分かるようになる。

《授業時間外学習》

その都度テーマに即したレポート課題を与え、その解答を報告してもらおう。また、こちらからいくつかのコメントを付して返却する。

《成績評価の方法》

演習への参加意欲、態度や討論（50%）、テーマに応じたレポートの提出（50%）などで評価する。

《備考》

授業中の携帯電話の使用（通信もメールも）禁止。遅刻や欠席はしないこと。もし正当な理由があれば考慮するので、事前事後を問わず必ず報告すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の計画	取り上げるテーマを決定する
2	社会保障と税の一体改革 (1)	新聞報道から改革案（2011年6月30日）構想の経緯を探る
3	社会保障と税の一体改革 (2)	新聞報道から改革案（2011年6月30日）構想の経緯を探る
4	社会保障と税の一体改革 (3)	消費税引き上げの根拠を財務省の財政再建戦略から探る、レポート(第1回)の提出
5	TPP参加の功罪 (1)	食の安全、公的保険制度の維持、金融分野へのアメリカの戦略
6	TPP参加の功罪 (2)	農業と工業、行政機構
7	TPP参加の功罪 (3)	レポート(第2回)の提出
8	若者の雇用問題 (1)	若年層の失業の実態と政府の対策
9	若者の雇用問題 (2)	日米の比較
10	若者の雇用問題 (3)	若者の就業意識の変化、価値観の多様化
11	アメリカと中国 (1)	リーダーの交代が予定される両国の政治と経済の問題を考える
12	アメリカと中国 (2)	リーダーの交代が予定される両国の政治と経済の問題を考える
13	アメリカと中国 (3)	リーダーの交代が予定される両国の政治と経済の問題を考える
14	アメリカと中国 (4)	レポート(第3回)の提出
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

経済学を基礎の基礎から学びます。

《テキスト》

坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』（ダイヤモンド社）
 上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』（かんき出版）

《参考文献》

大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』（中経出版）
 大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』（中経出版）

《授業の到達目標》

経済学的なものの見方がどのようなかを身につけるようにします。

《授業時間外学習》

新聞の経済記事をよく読みなさい。

《成績評価の方法》

日頃の学習態度（100%）をもって評価する。

《備考》

私が経済学を本格的に学び始めたのは40歳近くになってからです。経済学という学問は学習の順序さえ間違えなければ必ずマスターできるものです。一緒に頑張っていきましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第1章 日本の景気はいい？それとも悪い？（1）
2	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第1章 日本の景気はいい？それとも悪い？（2）
3	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第2章 借金大国日本の未来はどうなる（1）
4	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第2章 借金大国日本の未来はどうなる（2）
5	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第3章 グローバルな企業価値の争奪戦（1）
6	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第3章 グローバルな企業価値の争奪戦（2）
7	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第4章 世界は一つの市場になる（1）
8	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第4章 世界は一つの市場になる（2）
9	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第5章 3つの経済思想でニュースがわかる（1）
10	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』	第5章 3つの経済思想でニュースがわかる（2）
11	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	Part1 経済を動かす基本的な仕組みと法則を理解しよう（1）
12	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	Part1 経済を動かす基本的な仕組みと法則を理解しよう（2）
13	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	Part2 現実の経済活動を経済データで把握しよう（1）
14	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	Part2 現実の経済活動を経済データで把握しよう（2）
15	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	Part3 経済の命運を握る経済政策① 金融政策を理解しよう（1）

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

まず、地域研究とはいかなるものであるかを学びます。つぎに、『いろはにほへと加古川事典』を参考にして様々な地域の特徴を、いくつかのフィールドワークを通して学びます。さらに、文献や資料を読破し、各自が住んでいる市町村と比較して探求します。その結果をミニレポートとしてまとめ、発表し、議論し、探求を深めます。適切な発表の仕方についても考えます。

《授業の到達目標》

資料や文献を読み解く力を高めます。現地調査から発見する力を高めます。地域に関しての問題点を探し出す力を高めます。これらを通して、問題発見能力や問題分析能力を高めます。

《成績評価の方法》

授業への取組・ミニレポートで評価します。評価の割合は、取組(40%)・ミニレポート(60%)です。

《テキスト》

使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。自分で探す能力を身につけることも重要です。

《授業時間外学習》

特に指定はしません。日常生活で接する情報から地域に関する事柄を取捨選択して調べることを勧めます。こうしたことを通して、地域に事柄について関心を深めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	地域研究とは何かを学びます。
2	文献読破	『いろはにほへと加古川事典』を読みます。一つのことについて解説し、議論します。
3	文献調査	一つのことについて、各自がすんでいる市町村と比較・調査をおこないます。
4	ミニレポート作成	加古川地域と各自がすんでいる市町村との比較をミニレポートにまとめ、提出します。
5	文献読破	『いろはにほへと加古川事典』を読みます。一つのことについて(ため池群)解説し、議論します。
6	現地調査	一つのことについて(ため池群)現地調査を実施します。
7	現地調査結果の議論と文献調査	現地調査(ため池群)について発見したことを議論し文献調査をおこないます。
8	ミニレポート作成	現地調査(ため池群)についてミニレポートにまとめ、提出します。
9	文献読破	『いろはにほへと加古川事典』を読みます。一つのことについて解説し、議論します。
10	文献調査	一つのことについて、各自がすんでいる市町村と比較・調査をおこないます。
11	ミニレポート作成	加古川地域と各自がすんでいる市町村との比較をミニレポートにまとめ、提出します。
12	文献読破	『いろはにほへと加古川事典』を読みます。一つのことについて(駅前商店街)解説し、議論します。
13	現地調査	一つのことについて(駅前商店街)現地調査を実施します。
14	現地調査結果の議論と文献調査	現地調査(駅前商店街)について発見したことを議論し文献調査をおこないます。
15	ミニレポート作成	現地調査(駅前商店街)についてミニレポートにまとめ、提出します。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

現代の情報セキュリティの中核技術である暗号について学習します。暗号の歴史、用途、基本方式について学んだ後、暗号解読の実習を行います。

《テキスト》

演習の初回に指定します。

《参考文献》

サイモン・シン著『暗号解読』（新潮文庫）
その他は適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

暗号の学習を通じて、文献調査、論理的思考法、コンピュータ操作といった基本的な技術の向上を目指します。英語で記述された初歩的な換字式暗号文を頻度分析により解読できるようになります。

《授業時間外学習》

授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象とします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ゼミの進め方とスケジュール、メンバー紹介、履修指導
2	暗号解読第I章輪読(1)	ステガノグラフィー、クリプトグラフィー、シーザー暗号
3	暗号解読第I章輪読(2)	アラビアの暗号解読者たち、換字式暗号、暗号文の頻度分析
4	暗号解読第I章輪読(3)	暗号解読の例題
5	Excelによる暗号作成ツール(1)	乱数による鍵の作成
6	Excelによる暗号作成ツール(2)	英文の整形、文字の置換
7	Excelによる暗号解読ツール(1)	暗号文のExcelへの読み込み
8	Excelによる暗号解読ツール(2)	アルファベット文字の出現頻度分析、出現頻度のグラフ表示
9	Excelによる暗号解読ツール(3)	短文字単語の抽出、短文字単語の強調表示
10	Excelによる暗号解読ツール(4)	暗号解読結果の表示
11	換字式暗号解読の準備(1)	作成したツールの整備
12	換字式暗号解読の準備(2)	作成したツールによる暗号解読演習
13	暗号解読コンテスト	チームに分かれて暗号解読の時間と正確さを競う。
14	発表	各自成果の発表、作成したツールのレビューと討論
15	まとめ	I期で得られた暗号知識のまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習 I				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

この演習では、基礎演習Bにつづき、『論理トレーニング』の第3部「演繹」を中心に、論理的な言語運用能力を鍛えていくつもりである。いままでの演習が広い意味での論理をとらえる練習であったとすると、これからはかなり厳密な意味での論理の運用について学んでいくことになる。もちろん、発展演習から初めて『論理トレーニング』を行おうという人にも、十分に配慮をするつもりである。

《授業の到達目標》

○ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《備考》

・文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
2	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（1）
3	論理トレーニング	第4章 論証の構造と評価（2）
4	論理トレーニング	第5章 演繹と推測（1）
5	論理トレーニング	第5章 演繹と推測（2）
6	論理トレーニング	まとめと復習
7	論理トレーニング	第6章 価値評価（1）
8	論理トレーニング	第6章 価値評価（2）
9	論理トレーニング	第6章 価値評価（3）
10	論理トレーニング	第7章 否定（1）
11	論理トレーニング	第7章 否定（2）
12	論理トレーニング	第8章 条件構造（1）
13	論理トレーニング	第8章 条件構造（2）
14	論理トレーニング	第8章 条件構造（3）
15	論理トレーニング	まとめと復習

科目名	発展演習 I				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

授業では、自分のおこないたいことをコンピュータへ伝達するための手段として、プログラミング（C言語）を扱います。具体的には、プログラミング言語の命令の役割や組み立て方を学びながら、情報伝達（提示）作品を制作します。目の前で実行結果を確認する演習形式で進めます。作品の構想、制作、公開といった段階を経て、グラフィカルな作品を仕上げます。表現できる楽しさを感じてもらいたいと思います。

《授業の到達目標》

- プログラミング言語の命令を理解し、役割を説明することができる。
- プログラム全体の流れを把握し、手順を説明することができる。
- 伝えたい内容を思い通りの表現で作品を創り上げることができる。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出30%
 課題提出とその成果70%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングをおこなう場合に大切なのは、実現したいことを正確に記述することです。うまくいかない時には一つ一つ原因を探りながら解決に近づこうとする根気も必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の目標と概要の説明	授業計画を説明するとともに、プログラムの実行例を見ることで自身の構想を練る。
2	記述の方法と実行の手順	プログラムのコーディング、コンパイル、実行までの一連の流れについて理解する。
3	情報の伝達(座標設計)	文字やボタンの配置などをおこなう上で必要な座標の概念や設計について理解する。
4	情報の伝達(出力表現)	設計した座標を用いて、メッセージをウィンドウに出力する方法について理解する。
5	情報の伝達(装飾表現)	出力した文字情報に対し、装飾シミュレーションをおこなう方法について理解する。
6	情報の伝達(条件判断)	与えられた条件に対応した実行が組み込めるよう、条件分岐処理について理解する。
7	情報の伝達(繰り返し)	アニメーションの表現を例にし、その実行のための繰り返し処理について理解する。
8	情報の伝達(切替制御)	流れるメッセージのボタンによる切り替えを例にとり、制御処理について理解する。
9	情報の伝達(速度制御)	流れるメッセージに対する速度調整を例にし、仕組みと見やすさについて考察する。
10	情報の伝達(色彩制御)	流れるメッセージに対する色彩調整を例にし、色構成や見やすさについて考察する。
11	情報の伝達(画面制御)	画面全体のバランスおよび情報の見やすさや操作のしやすさなどについて考察する。
12	プログラムの仕上げ	自身の座標設計をもとに、思い通りのコンテンツや実行を表現し、作品を仕上げる。
13	報告書の制作とまとめ	プログラム作品のこれまでの制作の過程および最終版について、報告書にまとめる。
14	スライドの制作とまとめ	制作したプログラム作品の内容や特徴そして工夫点について、スライドにまとめる。
15	作品の公開と意見交換	各自作品を提出し、クラス内で公開と意見交換の場を設け、今後の発展につなげる。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

わが国社会の「少子高齢化」がマスコミを通じて喧伝されてから久しいが、今後20年、30年のうちに日本の人口はどうなるのか、労働力人口はどうか、減少する総人口に直面して日本のGDPはどのように変化するのか、またその時の国民の生活水準はいったいどうなっているのか、こうした重要な問題を身近な例を引き合いにして考える。

《授業の到達目標》

演習では、指定のテキストを輪読し、関連する事例やデータを新聞やインターネットなどから検索し、問題の理解を深める。高齢化の進行が、年金、医療、介護などの社会保障に直接関連する喫緊の問題ばかりでなく、将来の企業の生産や消費の仕組みをもどのように変換させるのかを併せて考えることが目標である。

《成績評価の方法》

この演習では、毎回のレジュメでの報告と討論を重視し、レポートの課題について規定の様式で記述する。書式や提出期限が守られているかどうかは平常点の評価の基準となる。

《テキスト》

『2100年、人口3分の1の日本』
メディアファクトリー新書、鬼頭 宏、2011年

《参考文献》

『人口減少経済の新しい公式』
松谷明彦、日本経済新聞社、2004年

『労働経済白書』各年版、厚生労働省編

《授業時間外学習》

新聞やテレビなどで読者や視聴者から年金や医療・介護に関して寄せられたさまざまな意見を参考にして、少子化と高齢化の現実を自らイメージを膨らませる努力を積み重ねる。

《備考》

毎回の出席を義務とするが、遅刻や欠席の場合は必ずその理由を明らかにすること。それにより事情を考慮することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の計画	日本の人口統計（推計）、他の経済統計との違いを考える
2	100年後の日本の人口(1)	出生率の低下はいつ始まったのか
3	100年後の日本の人口(2)	そもそも人口は増えない、人口変動が新しい文明を生む
4	人口4000万人の暮らしと経済(1)	日本経済の凋落、これからの働き方
5	人口4000万人の暮らしと経済(2)	高齢者の労働意欲を社会に活かす、女性が職場で活躍する社会（レポート提出）
6	人口4000万人の都市と地方(1)	地域の人口構造が逆転する、21世紀は再定住の時代、
7	人口4000万人の都市と地方(2)	土地活用をめぐる感情的な課題、地方色と緑豊かな田園国家へ
8	人口4000万人の人間関係(1)	人とのつき合い方が変わる、戦後の核家族化が与えた影響
9	人口4000万人の人間関係(2)	「人生90年」時代の老後、江戸に近い現代の離婚模様、「ともだち100人」は夢物語になるのか（レポート提出）
10	外国人5000万人の未来(1)	人口の1/3が外国人になる、これまでの日本は鎖国大国、「頭脳輸入」は始まっている
11	外国人5000万人の未来(2)	海外との距離は密接になる、農業回帰で鎖国は可能か、
12	外国人5000万人の未来(3)	文明を開くのは海外との交流、外国人の子どもの環境（レポート提出）
13	人口100億人の世界(1)	過去の予想された未来社会、全世界で拡大していくGDP、新興国の「爆食」で訪れる食糧危機
14	人口100億人の世界(2)	地球はどれだけ人を支えられるか、数字で見るこれからの人口変動、同質化した社会を変え外へ出よう
15	まとめ	人口変動の経済社会に及ぼすさまざまな影響を総括する（最終レポート提出）

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

前半はテキストを輪読し、後半は議論と質疑応答を行います。

《テキスト》

上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』（かんき出版）
弘兼憲史『知識ゼロからの経済学入門』（幻冬舎）

《参考文献》

大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』（中経出版）
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』（中経出版）

《授業の到達目標》

経済学を基礎の基礎から身につける。

《授業時間外学習》

新聞の経済記事をよく読みなさい。

《成績評価の方法》

日頃の学習態度（100%）をもって評価する。

《備考》

私が経済学を学び始めたのは40歳近くになってからです。経済学は学習の順序さえ間違わなければ必ず身に付くものです。一緒に頑張っていきましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	経済の命運を握る経済政策① 金融政策を理解しよう（2）
2	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	経済の命運を握る経済政策② 財政政策を理解しよう（1）
3	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	経済の命運を握る経済政策② 財政政策を理解しよう（2）
4	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	グローバルな経済活動を見てみよう（1）
5	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	グローバルな経済活動を見てみよう（2）
6	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	世界各国の経済活動を見てみよう（1）
7	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	世界各国の経済活動を見てみよう（2）
8	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	将来の景気動向を予測するエコノミストの読み方・考え方（1）
9	上野泰也『世界一わかりやすい経済の本』	将来の景気動向を予測するエコノミストの読み方・考え方（2）
10	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』	1. 経済学を通じて世界を読み解く（1）
11	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』	1. 経済学を通じて世界を読み解く（2）
12	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』	2. 生活することは経済活動を行うこと（1）
13	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』	2. 生活することは経済活動を行うこと（2）
14	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』	3. 買い手と売り手の思惑で値段が決まる—ミクロ経済学の基礎（1）
15	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』	3. 買い手と売り手の思惑で値段が決まる—ミクロ経済学の基礎（2）

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

まず、地域研究とはいかなるものであるかを学びます。つぎに、『いろはにほへと加古川事典』を参考にして様々な地域の特徴を、いくつかのフィールドワークを通して学びます。さらに、文献や資料を読破し、各自が住んでいる市町村と比較して探求します。その結果をミニレポートとしてまとめ、発表し、議論し、探求を深めます。適切な発表の仕方についても考えます。

《授業の到達目標》

資料や文献を読み解く力を高めます。現地調査から発見する力を高めます。地域に関しての問題点を探し出す力を高めます。これらを通して、問題発見能力や問題分析能力を高めます。

《成績評価の方法》

授業への取組・ミニレポートで評価します。評価の割合は、取組(40%)・ミニレポート(60%)です。

《テキスト》

使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。自分で探す能力を身につけることも重要です。

《授業時間外学習》

特に指定はしません。日常生活で接する情報から地域に関する事柄を取捨選択して調べることを勧めます。こうしたことを通して、地域に事柄について関心を深めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	地域研究とは何かを学びます。
2	文献読破	『いろはにほへと加古川事典』を読みます。一つのことについて解説し、議論します。
3	文献読破	『いろはにほへと加古川事典』を読みます。一つのことについて解説し、議論します。
4	文献読破	『都市と地方』に関する新聞記事を読みます。
5	調査	一つのことについて居住地の状況を調査します。テーマは「名産品」。
6	レポート作成	一つのことについて居住地の状況をレポートにまとめます。テーマは「名産品」。
7	調査	一つのことについて居住地の状況を調査します。テーマは「人口の推移」。
8	レポート作成	一つのことについて居住地の状況をレポートにまとめます。テーマは「人口の推移」。
9	調査	一つのことについて居住地の状況を調査します。テーマは「大型小売店」。
10	レポート作成	一つのことについて居住地の状況をレポートにまとめます。テーマは「大型小売店」。
11	調査	一つのことについて居住地の状況を調査します。テーマは「コンビニ」。
12	レポート作成	一つのことについて居住地の状況をレポートにまとめます。テーマは「コンビニ」。
13	調査	一つのことについて居住地の状況を調査します。テーマは「駅のバリアフリー」。
14	レポート作成	一つのことについて居住地の状況をレポートにまとめます。テーマは「駅のバリアフリー」。
15	まとめ	作成したレポートをもとに居住地の特徴を議論します。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

インターネットで用いられる公開鍵暗号方式のRSAについて学習します。まず、RSA暗号誕生の過程、RSAに用いられている数学の基礎などについて学びます。ExcelによりRSAの暗号化と復号化の演習も行います。

《テキスト》

演習の初回に指定します。

《参考文献》

サイモン・シン著『暗号解説』（新潮文庫）
 その他は適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

暗号の学習を通じて、文献調査、論理的思考法、コンピュータ操作といった基本的な技術の向上を目指します。具体的な知識として、最新の暗号の手法とその強度を理解します。

《授業時間外学習》

授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象とします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ゼミの進め方とスケジュール、履修指導
2	暗号解説第Ⅵ章輪読(1)	コンピュータによる暗号利用、暗号鍵配布問題
3	数学的基礎(1)	モジュラー算術
4	暗号解説第Ⅵ章輪読(2)	ディフィー・ヘルマン鍵共有方式
5	Excelによる鍵共有ツール(1)	モジュラー関数の利用、べき乗
6	Excelによる鍵共有ツール(2)	大きな数のべき乗計算の処理
7	Excelによる鍵共有の演習	3チームに分かれ、2チームがディフィー・ヘルマン鍵共有方式を実行しし、残りの1チームが鍵を入手できないことを確認する。
8	暗号解説第Ⅵ章輪読(3)	RSA暗号に必要なExcel関数の演習(1)
9	数学的基礎(2)	素数、素因数分解、最大公約数・最小公倍数
10	暗号解説第Ⅵ章輪読(4)	RSA暗号の手順
11	ExcelによるRSA暗号(1)	素因数分解の実現、大きな数の素因数分解が困難であることの確認
12	ExcelによるRSA暗号(2)	Excelを用いてRSA暗号の手順の実施
13	ExcelによるRSA暗号(3)	ExcelによりRSA暗号の解読を試み、素数が小さい場合は解読可能であることを確認
14	発表	各自成果の発表、作成したツールのレビューと討論
15	まとめ	Ⅱ期で得られた暗号知識のまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

この演習では、あるまとまった量の論説や書籍を批判的に読んでいく練習をしていきたい。その後、自ら選択したトピックについてリサーチを行ってもらい、自分の意見を文章で書いていく練習を行う予定である。最後には全員のレポートを全員で輪読しながら批判的に読み、相互に評価をおこなって演習のしめくりとしたい。一応の論理の基礎的修練を終えた諸君の「自分の意見を文章の形で表現する」ための練習の場である。

《授業の到達目標》

- ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。
- 論理学の知識をベースに、明解で説得的な文章を書いたり、口頭で発表をおこなったりすることができる。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	前期の復習
2	論理トレーニング	第9章 推論の技術（1）
3	論理トレーニング	第9章 推論の技術（2）
4	論理トレーニング	第9章 推論の技術（3）
5	論理トレーニング	第9章 推論の技術（4）
6	論理トレーニング	第10章 批判への視点（1）
7	論理トレーニング	第10章 批判への視点（2）
8	論理トレーニング	第10章 批判への視点（3）
9	論理トレーニング	第11章 論文を書く（1）
10	論理トレーニング	第11章 論文を書く（2）
11	論理トレーニング	最終口頭発表のための課題の説明
12	論理トレーニング	発表準備（1） 各自課題の批判的読解
13	論理トレーニング	発表準備（2） レジюме、説明の作法
14	論理トレーニング	口頭発表会（1）
15	論理トレーニング	口頭発表会（2）

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006年

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらおう。また演習後半には独自の課題のリサーチを積極的に進めてもらおう。

《備考》

・実は「書き始めなければ考えることができない」領域が、我々の周りには多く存在します。とりあえず書き始める、これをこの演習では実践してみたいと思います。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	発展演習Ⅱ				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

授業では、発展演習Ⅰで学んだプログラミング技術を活用して、あらたなテーマで作品を制作します。具体的には、プログラミング言語の命令の役割や組み立て方をより深く理解しながら、情報表現（提示）作品を制作します。目の前で実行結果を確認する演習形式で進めます。アイデアをかたちにすることの難しさとともに面白さを感じながら、楽しめる作品を構築します。表現の可能性を感じてもらいたいと思います。

《授業の到達目標》

- プログラム全体の流れを把握し、手順を説明することができる。
- 伝えたい内容を思い通りの表現で作品を創り上げることができる。
- 構成する作品の見やすさや使いやすさを追及し、実現することができる。

《成績評価の方法》

- 課題進捗状況レポート提出30%
- 課題提出とその成果70%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングを活用して、作品を組み立てていきます。思い通りの表現が可能になってくると、プログラミング言語の理解力が加速し、さらにアイデアが広がってきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の目標と概要の説明	授業計画を説明するとともに、プログラムの実行例を見ることで自身の構想を練る。
2	情報の表現(座標設計)	ポジショニングマップを作成する上で必要となるウィンドウの座標設計をおこなう。
3	情報の表現(文字と図形)	ポジショニングマップのテーマと縦軸と横軸を決め、文字と図形の配置をおこなう。
4	情報の表現(スタイル)	ポジショニングマップのテーマや項目のイメージに合うスタイルの設定をおこなう。
5	情報の表現(動作ボタン)	ポジショニングマップに配置した項目に対する動作ボタンの設定と実行をおこなう。
6	情報の表現(操作性)	ポジショニングマップに配置した項目に対する表現方法と操作性の検討をおこなう。
7	情報の表現(バランス)	ポジショニングマップ全体について、動作確認とバランスについて検討をおこなう。
8	情報の表現(分析と考察)	ポジショニングマップの内容について、グルーピングなどの分析と考察をおこなう。
9	情報の表現(HTMLとCSS)	ポジショニングマップを取り込んだウェブページを制作し、情報の発信をおこなう。
10	情報の表現(リンク)	ポジショニングマップをもとにして、クリックマップの設定と制作をおこなう。
11	情報の表現(スクリプト)	ポジショニングマップの解説について、スクリプトを用いた提示の工夫をおこなう。
12	プログラムの仕上げ	自身の座標設計をもとに、思い通りのコンテンツや実行を表現し、作品を仕上げる。
13	報告書の制作とまとめ	プログラム作品のこれまでの制作の過程および最終版について、報告書にまとめる。
14	スライドの制作とまとめ	制作したプログラム作品の内容や特徴そして工夫点について、スライドにまとめる。
15	作品の公開と意見交換	各自作品を提出し、クラス内で公開と意見交換の場を設け、今後の発展につなげる。

科目名	プレゼンテーションA				
担当者氏名	福永 弘之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input checked="" type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

オーラルなプレゼンテーションに重点をおいて、(1) プレゼンテーションの定義と種類、(2) プレゼンテーションへの準備、(3) 実践(自己紹介、スクラップでの発表、クラブ、アルバイト紹介)、(4) ゼミ発表(レジュメの書き方とカンタンな製品比較のゼミ発表)、(5) 議論の仕方、を学ぶ。

《授業の到達目標》

大学に必要なゼミ発表、卒論発表ができるように、プレゼンテーション技法、コミュニケーション作法の修得をめざし、就職での面接力、会社での企画発表できる力を養う。

《成績評価の方法》

平常点(出席状況、授業態度など)10%、授業中の発表の評価30%、定期試験60%をもって行う。

《テキスト》

福永弘之監修『キャンパスライフとプレゼンテーション』
樹村房、2002年

《参考文献》

茂木秀昭著『ザ・ディベート』筑摩書房、2001年

大島武著『「相手の聞きたいこと」を話せ』

マキノ出版、2006年

《授業時間外学習》

スクラップ発表のときは事前に配布して要点をまとめてきて発表させる。自己PR文のときも事前に例題集を配り、家庭で考えてきてから作成させる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	学士力、YESプログラム、社会人基礎力とプレゼンテーション
2	プレゼンテーションの基礎 I	プレゼンテーションのアウトライン I
3	プレゼンテーションの基礎 II	プレゼンテーションのアウトライン II
4	プレゼンテーション入門 I	プレゼンテーションのやさしい概説 I
5	プレゼンテーション入門 II	プレゼンテーションのやさしい概説 II
6	プレゼンテーション演習 I	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介
7	プレゼンテーション演習 II	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介、店・ふるさと紹介、スクラップによる発表
8	プレゼンテーション演習 III	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介、店・ふるさと紹介、スクラップによる製品比較の発表
9	ゼミ発表	ゼミ発表の仕方とレジュメ
10	就職とプレゼンテーション I	ビジネス・マナーなどについてビデオを使用して演習、自己分析
11	就職とプレゼンテーション II	エントリーシートのうち自己PR文作成演習、面接についてビデオを使用して演習
12	会議とプレゼンテーション	会議の種類、議決の方法、会社の会議における話し方
13	企画とプレゼンテーション	企画書の作成・要領、パワーポイントの使い方、パソコン営業の実際、ビデオ使用
14	議論をしよう	ディベートとはどのようなものか、ディベートの種類、新しいディベート、パネル・ディベートについて、パネル・ディベート演習
15	まとめ	本講義のまとめと要点の整理 法則や原理をそれぞれ示しているの、それを整理してまとめていく

科目名	プレゼンテーションB				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

大学での学修のあらゆる場面で必要となる文章表現によるプレゼンテーションについて学ぶ。

授業では、文章作法、構想の練り方、文章の組み立て方、論理的な書き方について解説する。毎時間の演習、添削指導を通じて文章を書く力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・演習を通じて、文章作法を身につける。
- ・資料の内容について、ポイントを押さえて要約できるようにする。
- ・序論・本論・結論のスタイルでまとまりのある文章を書けるようになる。
- ・レポート、論文の書き方の基礎を身につける。

《成績評価の方法》

毎回の授業での課題に対する評価と学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の演習課題を60%、学期末のレポートを40%とする。

なお、学期末のレポートを提出しなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考文献》

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房、2005年。

菊田千春・北林利治著『論理的に書き、プレゼンする技術』東洋経済新報社、2006年。 ※その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・毎回取り組んだ演習課題については、翌週添削して返却する。指摘された事柄を確認・理解し、もう一度自分なりにまとめなおすなどして、スキルアップに努めよう。
- ・第10週目以降は、学期末のレポート作成に向けて毎回宿題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	この授業の概要、到達目標、授業の進め方を解説する。指定したテーマ（身近な問題の中から指示する）について考えたことをまとめる。
2	基本的な文章作法を身につけよう	基本的な文章作法について解説する。指定したテーマについて、文体などに注意しながら考えたことをまとめる。
3	文章を要約する I	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。
4	文章を要約する II	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。
5	感想文を書く I	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
6	感想文を書く II	当日配布する資料の内容についてしっかりと理解し、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
7	議論をふまえて自分の考えを表現しよう I	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
8	議論をふまえて自分の考えを表現しよう II	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
9	議論をふまえて自分の考えを表現しよう III	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
10	議論をふまえて自分の考えを表現しよう IV	相対立する意見が存在する身近な問題に関する資料を配布する。賛否両論をふまえて自分の考えをまとめる。
11	レポートを書こう I	テーマを決めて、構想を練る。構想の練り方（リスティング、マッピング）を紹介するので、実践してみよう。
12	レポートを書こう II	情報検索の方法について解説する。レポートを作成するには、どのような資料、文献が必要かを考えてみよう。
13	レポートを書こう III	レポートの構成を考える。文章を組み立てる。
14	レポートを書こう IV	引用の仕方を身につける
15	学習のまとめ	レポートを完成させる。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	現代経済社会論B				
担当者氏名	瀧本 眞一、堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力 				

《授業の概要》

現代経済社会の実際を知るために、現代社会を理解する上での基礎知識を習得し、民間企業等で活躍している方々から経済社会の現場で起きていることを学びます。現場の話は外部講師によるオムニバス形式の講義で、外部講師としては公認会計士、地元加古川市の企業経営者、企業の人事担当者などを予定しています。また受講生は各自が一つの業界を調査し、授業で発表してもらいます。

《授業の到達目標》

各講師の話を通じて、今の経済社会を実感することを目標とします。将来の自分の姿を思い描くための助けにもなります。

《成績評価の方法》

毎回授業で作成するレポートによる平常点(60%)と、発表点(40%)により評価します。平常点では、受講態度も考慮します。

平常点が40点に達しない場合は、発表点に関係なく不合格とします。

《テキスト》

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付します。

《参考文献》

必要に応じ、各講師から指示します。

《授業時間外学習》

毎回の講義内容を振り返り、レポートを作成して下さい。各自の発表の準備をして下さい。

《備考》

第1回目のガイダンスを必ず受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の目的、注意事項、単位取得方法について述べる。現在講師のスケジュールを調整中であり、下記スケジュールは暫定のものである。
2	現代社会の基礎知識	現代の日本社会を知るための基礎知識：雇用問題、少子化問題、新興国の経済など
3	発表準備	各自で発表する業界を選び、発表スケジュールを確定する。発表について必要な調査や発表方法について説明する。
4	将来塾 柳本周介様	将来塾の紹介、仕事とは、会社とは、会社の最終目的は、あなたは何のために仕事をするのか。
5	小長谷公認会計事務所 小長谷敦子様	厳しい時代にお金をかけずに「社内のやる気」を引き出す方法
6	税理士 糞谷憲章様	税理士の業務、税理士の一日、税理士の仕事体験
7	学生発表(1)	自動車、エレクトロニクス、インターネット・通信の業界
8	オフィスF 福島克三様	組織の成熟度、逆ピラミッド型組織の時代
9	加古川市役所企画部 前川かおり様	加古川市政の概要：加古川市のすがた、加古川市のまちづくり、市役所の組織と業務
10	社会保険労務士会加古川支部	保険労務士の役割、業務内容
11	学生発表(2)	金融サービス、素材資源エネルギー、社会インフラの業界
12	富士コンピュータ 森和明様	富士コンピュータの創業、情報技術学院、相生学院高校、学生に期待すること
13	(株)チクマキャンパス事業部	コミュニケーションとしての衣服 ～何が伝わるのか、何を伝えるのか～
14	(株)光洋 中村耕治様	小売業の歴史、小売業の業務
15	学生発表(3)	小売・流通、生活資材・サービスの業界

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	簿記原理Ⅱ				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この授業では、簿記原理Ⅰに続いて、会計学関係科目の基礎となる簿記の基本について学習します。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

日商簿記検定3級のレベルを目標とします。

《授業時間外学習》

宿題を出しますので、次回授業時間時に提出してください。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

ぜひ、早い段階で日商簿記検定に合格してください。先が見えてきます。検定は6月、11月、2月と年3回あります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記原理Ⅰの復習	商品売買（三分法）、現金の処理、当座預金（当座借越）
2	手形取引1	約束手形、為替手形
3	手形取引2	手形の裏書、手形貸付、手形借入、自己宛手形、自己受手形
4	貸付金・借入金	利息の計算
5	未収金・未払金	売掛・買掛と未収・未払
6	立替金・預り金 前払金・未払金	発生時の処理
7	仮払金・仮受金	発生時の処理 精算時の処理
8	商品券	自店発行商品券と他店発行商品券
9	固定資産	取得、売却、原価償却
10	個人企業の資本と税務	引出金の意義と資本金の処理－期中・決算時の処理
11	訂正仕訳	一般の訂正と簿記上の訂正処理
12	決算手続き1	貸倒引当金（差額補充法）
13	決算手続き2	減価償却の意義と方法（定額法、定率法） 費用・収益の見越し・繰延
14	精算表	帳簿の締切と繰越
15	損益計算書・貸借対照表の作成	精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する。 帳簿の締切と繰越

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済学入門				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

経済学全般の基礎的知識を幅広く教える。難易は高校の「現代社会」ないしは「政治経済」と大学の「経済原論」の中間ぐらいとなる。毎時間授業の初めに「日本経済新聞」の記事を1本取り上げる。

《テキスト》

独自に作成したプリントをテキストとして用いる。

《参考文献》

高本茂『初歩の経済学』（幻冬舎ルネッサンス）

《授業の到達目標》

大学の本格的経済学を理解できる素養を身につける。

《授業時間外学習》

特になし。

《成績評価の方法》

期末に定期試験を行う。これが半分で残りの半分は出席状態と授業中の学習態度で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経済学を学ぶ意義	現代経済社会の歴史的位置。現代経済社会の特質。
2	戦後日本経済の歩み①	日本経済の成立と発展。敗戦からの戦後復興。
3	戦後日本経済の歩み②	高度経済成長期。石油ショックと低成長時代の到来。
4	戦後日本経済の歩み③	バブルの発生と崩壊。失われた20年と平成大不況。
5	市場機構と価格	市場の自動調整メカニズム。独占と市場の失敗。
6	現代の企業①	経済主体と経済循環。大きな政府と小さな政府。
7	現代の企業②	財務諸表とその読み方。
8	国民経済と国民所得	国民所得をめぐる諸概念。国民所得の3面等価。
9	租税と財政①	現代の財政。ケインズの考え方（1）。
10	租税と財政②	ケインズの考え方（2）。財政政策
11	貨幣と金融①	貨幣と金融。金融の仕組みと金融機関。
12	貨幣と金融②	中央銀行と金融政策
13	国際経済①	国際分業と貿易。国際収支の内訳。
14	国際経済②	為替レートと経済変動。第2次大戦後の国際経済。
15	景気変動と景気指標	現代日本と世界の経済の現状。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	民法				
担当者氏名	不開講				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	会計学入門				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

会計の技術基盤は簿記 (Book-Keeping) ですから、まず、初級簿記の仕組み (簿記原理) を学びます。続いて、会計の基本原則、一般原則について理解した上で、損益会計、資産会計、負債会計、資本会計の概要へと進みます。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

企業は、仕入先、販売先、銀行、政府、従業員、投資家などの様々な主体と利害関係を持ちながら活動をしています。会計とは、こうした利害関係者に企業の財務情報を提供するものです。この授業では、財務情報を作成するルールと、財務情報がいったい何を示しているのか、財務情報から何を読み取り、いかにして企業の今を知るのかについて学びます。

《授業時間外学習》

時々、宿題を出します。

《成績評価の方法》

到達度確認試験 (3回) の状況 (90%) と宿題 (10%) で評価します。

《備考》

会計は「ビジネス言語」と言われるように、ビジネス社会での必須知識です。「税理士」「公認会計士」「国税専門官 (国家公務員)」などを目指すにも必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	会計学とは	会計学とは何か。授業方針、成績評価の方法などのオリエンテーション
2	企業と利害関係者	会社とは何か。会社の意義と会計学の関係
3	簿記と会計学 1	簿記と会計学の違い。 仕訳から試算表まで。
4	簿記と会計学 2	複式簿記の仕組み。 精算表と決算
5	会計原則 1	会計原則の意義と必要性
6	会計原則 2	一般原則、費用収益対応の原則の概要と意義
7	財務諸表	財務諸表の体系
8	貸借対照表	貸借対照表の構成。資産・負債の分類基準 (流動と固定)。
9	損益計算書	損益計算書の形式と作成方法。5つの利益とその意義。
10	資産会計 1	流動資産の処理。有価証券、売上債権、棚卸資産
11	資産会計 2	固定資産の処理。固定資産の範囲と区分。固定資産の取得原価、減価償却。
12	負債会計	負債の認識。引当金。
13	純資産の会計	資本と利益の基礎概念。資本準備金と利益準備金
14	企業結合	企業結合とのれん会計
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	プログラミング入門				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

コンピュータの動作手順はすべてプログラムで記述されています。プログラムを知らなくてもパソコンを使うことは出来ますが、どうやって動いているのかを知ることでさらに進んだ利用ができるようになります。自分が行いたいことがらをパソコンにさせるにはどうしたらよいかなど、使い方を考えることで思考や表現の幅を広げましょう。スクイークe-toysを使って、グラフィカルなプログラミングを行います。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

- プログラムに記述されたとおりに動作すること
- プログラムを記述すると新たな使い方ができること

《成績評価の方法》

次のことがらを理解し活用することができる。

- プログラムに記述されたとおりに動作すること
- プログラムを記述すると新たな使い方ができること

《テキスト》

なし
資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》

『スクイークであそぼう』とーるやまもと（翔泳社）
『Squeak入門』Mark J. Guzdial他（エスアイビーアクセス）

<http://squeakland.org/>

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

e-Learningシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業の進め方、eラーニングの使い方
2	etoysとは	Etoysの基本的な使い方
3	作品を構成するもの	モーフ、画像、プロジェクト
4	オブジェクト	ハロ、ビューア、オブジェクトの状態
5	スクリプト	オブジェクトを動作させるためのプログラム
6	軌跡	タートルグラフィックス
7	条件	条件により処理を変える
8	関連	複数のオブジェクト
9	変化	コスチューム
10	繰り返し	同じ処理を必要なだけ繰り返すには
11	変数	新しい属性を作る
12	計算	属性の値と演算
13	応用	他のオブジェクトの状態
14	応用	Etoysによる作品を設計する
15	応用	Etoysによる作品を制作する

科目名	コンピュータ基礎論				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

コンピュータが行う情報処理の基本動作の理解を目的とします。まず、コンピュータを構成する要素である中央演算処理装置、ディスク、メモリなどの基本的な要素の動作について説明します。次に、コンピュータ内部でそれらの要素がどのように連携するかについて説明します。

《テキスト》

『コンピュータシステム』 志村正道著 (コロナ社)

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

コンピュータの基本的な動作が理解できます。例えば、パソコンでプログラムを実行させたとき、パソコンの中で各部品が連携してデータを処理する過程の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

周辺にあるパーソナルコンピュータに関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 コンピュータハードウェアの概要
2	コンピュータの概要	コンピュータの歴史、コンピュータの種類、コンピュータの構成
3	情報とデータ	ビット、文字コード、画像情報、2進数
4	コンピュータの仕組み	コンピュータの基本動作、高信頼性技術、インタフェース、ディスプレイ
5	論理回路(1)	基本的な論理回路(NOT, OR, AND, NOR)
6	論理回路(2)	論理回路による加算器の構成、組み合わせ回路
7	中央処理装置(1)	中央演算装置の基本構成、中央処理装置の動作
8	中央処理装置(2)	中央演算装置の処理高速化の手法、キャッシュメモリ、パイプライン
9	記憶装置(1)	半導体メモリ、RAM、ROM
10	記憶装置(2)	ハードディスク、RAID、DVD、CD
11	アセンブリ言語(1)	機械語、アセンブラ、アドレス指定
12	アセンブリ言語(2)	CASL IIによるプログラム例
13	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの種類、位置づけ、役割
14	習得事項の整理	コンピュータハードウェアに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	基礎情報数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力				

《授業の概要》

前半では、微分法を学ぶための必要不可欠な基礎数学をまなぶ。後半では、「微分法」を基礎から勉強する。抽象的な理論を理解し、具体的に展開することにより、情報学や経済学の学習に適応できる基礎学力を養う。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

数列を理解し計算できるようになる。
 指数、対数を理解し計算できるようになる。
 微分の意味を理解できるようになる。
 微分の計算ができるようになる。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
 予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直しすること。次回の復習テストに備えること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

基礎を学ぶには、積み重ねが重要である。毎回復習を行い理解して次の週に臨むこと。
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	数列	数列、等比数列、等差数列の定義を理解する。
2	等差数列の和	等差数列の和の計算ができるようになる。
3	等比数列の和	等比数列の和が計算できるようになる。
4	指数関数	指数の定義、法則を知る。
5	対数関数	対数の定義、法則を知る。
6	指数関数、対数関数のグラフ	指数関数、対数関数のグラフが描けるようになる。
7	指数、対数の計算練習	指数、対数の計算ができるようになる。
8	関数の定義、右極限值、左極限值	関数の定義を知り、さらに、右極限值、左極限値の定義を理解する。
9	極限值	関数のグラフをか描き、左極限值、右極限値を深く理解し、極限値の定義を理解する。
10	極限値の計算演習	極限値の計算ができるようになる。
11	微分の定義	微分の定義を理解する。
12	微分の定理	微分に関する様々な定理を知る。
13	微分の計算演習	微分の計算ができるようになる。
14	微分の応用	微分を用いて、最大値、最小値などの問題を解く。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	統計学				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

インターネットの普及により私たちは多くのデータを容易に手に入れることができます。そして、その背景にある現象を偏らない目で見つめるために必要なものが「統計的センス」です。これは、訓練で身につけることができます。激動する時代において少しでも安全に気持ちよく暮らしてゆくための知恵として、「統計的センス」を身に付けてもらうことを目的とします。

《授業の到達目標》

統計の基本的な概念・技法に対して次のことを目指します。

- (1) 基本的な概念が「わかること」
- (2) 基本的な技法が「わかって使えること」

具体的には、経済分析など実用的な題材に対して、計算機を使って基本的な統計処理ができることを目指します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考文献》

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

到達目標(1)については、試験によって見ます。(2)については、確認テストと毎回提出してもらう課題を見ます。平常点(毎回の課題)を20%、期末試験を80%の割合で評価します。ただし、課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。

《備考》

多くのデータに接して、「統計的」センスを磨きましょう。そして、日ごろからデータを単なる数字の並びと見るのではなく、その奥にある現象をみつめる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身近で役立つ統計	学校、社会、学びの中に見られるごく身近な統計を取り上げ、実際に生活に役立っていることを確認する。
2	統計にだまされるな	統計データやグラフから誤解が生じる例を学び、統計的センスとは何かを理解する。
3	グラフを描く意味と効果的なグラフの描き方	グラフの有効性を確認し、グラフの読み方、効果的な描き方を学ぶ。
4	EXCELを使ったグラフの描き方	EXCELを使った様々な種類のグラフ描き方を学ぶ。
5	中心傾向の測度	平均値、中央値、最頻値の特徴と求め方を学ぶ。
6	度数分布(1)	度数分布表の作り方、度数分布グラフの作り方を学ぶ。
7	度数分布(2)	度数分布グラフの見方を学ぶ。
8	データの散らばり度合い(1)	分散、標準偏差の求め方を学ぶ。
9	データの散らばり度合い(2)	箱ひげ図の描き方、見方を学ぶ。
10	幹葉図	幹葉図の描き方、見方を学ぶ。
11	母集団と標本	標本調査の考え方を学ぶ。
12	信頼区間	身近な例を取り上げ、信頼区間の求め方とその利用方法を学ぶ。
13	相関	経営問題を取り上げ、相関係数の求め方とその応用について学ぶ。
14	累積度数分布	累積度数分布の描き方見方を学び、その応用として、パレート図やABC分析について学ぶ。
15	まとめ	社会現象の意味を統計データに基づいて考える。

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	国際社会論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この講義では、まるで空気のように、私たちがふだん意識することのない「近代的」な現象を、様々なトピックをとりあげ、主に歴史的アプローチを使って議論していくことで、現代の私たちの生活を相対化する視点を提供したいと思っています。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》

講義の中で随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 文化のもつ曖昧さ、凝集性、そして政治性を理解できる。
- 様々な国際的事象を理解するための思考ツールを習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《備考》

・毎回、国際的であることを意識しつつ、いろいろなトピックを用意して、諸君とゆっくりと考えてみたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	いろいろな近代
2	近代以前の世界（1）	世界がまだいくつもあった頃
3	近代以前の世界（2）	神のあたたかい眼差しがあった頃
4	近代以前の世界（3）	王様がすべての中心であった頃
5	近代の到来（1）	大航海時代のヨーロッパ
6	近代の到来（2）	キリスト教世界の拡大
7	近代の到来（3）	フランス革命の衝撃
8	近代の到来（4）	ヨーロッパ国際体系の成立
9	近代の到来（5）	資本主義の誕生
10	近代の装置（1）	近代国家、近代戦争
11	近代の装置（2）	市場、貨幣
12	近代の装置（3）	学校、監獄、病院
13	近代の思想（1）	子ども、経済人
14	近代の思想（2）	進歩、進化、差別
15	近代の思想（3）	計画、文化、博物館

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	比較文化論				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

本授業においては、いくつかの国または地域における文化を、主として映画観賞によって感じ取り、それらを比較考察する。

《テキスト》

とくには指定しない。

《参考文献》

とくには指定しない。

《授業の到達目標》

本授業では、さまざまな文化の中で生活した人々の声に耳を傾け、それをふまえたうえで日本文化や「日本のかたち」などについて、みなさんが自力で思索を深められるようにしたい。

《授業時間外学習》

日ごろから様々な文学や映像の作品に親しむことを勧める。

《成績評価の方法》

上映する各映画を観た考察を書いてもらう小テストと、授業への参加度を合わせた平常点（100%）で評価する。

その詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがありうる。これらは教育学のイロハである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	米国映画鑑賞(1)	「顔のない天使」(前)
3	米国映画鑑賞(2)	「顔のない天使」(後)
4	米国映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
5	中国映画鑑賞(1)	「芙蓉鎮」(前)
6	中国映画鑑賞(2)	「芙蓉鎮」(中)
7	中国映画鑑賞(3)	「芙蓉鎮」(後)
8	中国映画鑑賞(4)	小テスト(考察を書く)
9	韓国映画鑑賞(1)	「われらの歪んだ英雄」(前)
10	韓国映画鑑賞(2)	「われらの歪んだ英雄」(後)
11	韓国映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
12	日本映画鑑賞(1)	「おくりびと」(前)
13	日本映画鑑賞(2)	「おくりびと」(後)
14	日本映画鑑賞(3)	小テスト(考察を書く)
15	本授業の総括	文化を相対化してとらえることの重要性

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 キャリア形成力			

《授業の概要》

企業等の一員として、組織で働くことの苦労や喜びを体験することを通じて、社会を知る。8月～9月に企業等で5日間（40時間）以上の実習を行う。実習の前後に事前事後指導を行う。受入先により、期間・日数・時間は異なる。受入先企業等は、実習生の希望は聞くが、原則として大学が調整して決定する。実習後は、実習成果をレポートとして提出する。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

必要に応じて事前指導時に指示する。

《授業の到達目標》

- ・企業等で実際に作業ができる。
- ・報告書が正しく書ける。
- ・社会人として行動できる。

《授業時間外学習》

実習中毎日の作業日誌を書き、その日の作業報告、翌日の作業計画を示すこと。

《成績評価の方法》

受入先企業等からの報告(50%)と、実習後のレポート(50%)により評価する。実習での遅刻、欠勤があった場合は、単位認定は行わない。

《備考》

受入先企業等の人達に、兵庫大学生の良さをアピールしよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導	I期第1週、第2週にオリエンテーション 実習前の8月上旬に事前指導
2	実習	受入先での実習（受入先により、期間・日数・時間は異なる）
3	実習	受入先での実習
4	実習	受入先での実習
5	実習	受入先での実習
6	実習	受入先での実習
7	実習	受入先での実習
8	実習	受入先での実習
9	実習	受入先での実習
10	実習	受入先での実習
11	実習	受入先での実習
12	実習	受入先での実習
13	実習	受入先での実習
14	実習	受入先での実習
15	事後指導	事後指導（報告書、作業日誌の提出）

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論E				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この授業では、情報処理技術者の国家資格『ITパスポート試験』のカリキュラムの3つの分野のうち、テクノロジ系の内容（情報処理の基礎理論、コンピュータやネットワークの基礎知識、アプリケーションの活用など）について学ぶ。特に他の授業でカバーしきれていない細かなトピックを中心に授業を進める。なお、残りの2つの分野についてはII期開講の経済情報特論Fにおいて取り扱う。

《授業の到達目標》

この授業では、情報処理技術者の国家資格『ITパスポート試験』のテクノロジ系分野の問題に合格する力を身に付けることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回実施する小テストの得点（20%）と期末試験の得点（80%）によって評価する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

授業中に適宜指示する。

《授業時間外学習》

各自毎回の授業内容を復習しておいてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報処理技術者試験について	情報処理技術者試験の「ITパスポート試験」の概要とこの授業の位置づけなどについて説明する。
2	2進数と文字コード	数値と文字のコンピュータ内部での取り扱いの基礎となる2進数と文字コードについて説明する。
3	CPUとメモリの関係	コンピュータ構成要素において最も重要なCPUとメモリの関係について説明する。
4	ハードディスクの内部構造とディレクトリパス	最も代表的な補助記憶装置であるハードディスクの仕組みと、ファイルの取り扱いについて説明する。
5	アナログとデジタルと代表的なデータ形式	アナログデータのデジタルデータへの変換と、その代表的なファイル形式について説明する。
6	ネットワーク基礎	インターネットの元になるコンピュータネットワークの基礎を説明する。
7	プロトコルとポート番号	インターネットの元になるコンピュータネットワークにおいて、各種サーバーを利用するときに必要なプロトコルとポート番号について説明する。
8	暗号化	インターネットで利用される暗号化方式（共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式）について説明する。
9	ウイルスとセキュリティ対策	インターネットの利用において気を付けるべきウイルスの特徴とそのセキュリティ対策について説明する。
10	ソフトウェアや開発言語の種類と特徴	代表的なソフトウェアの種類や特徴、また開発言語の種類や特徴について説明する。
11	システムの稼働率	頻出問題のひとつであるシステム稼働率の問題について説明する。
12	データベース基礎	データベースの基礎と基本的なデータベース操作言語の命令について説明する。
13	練習問題	まとめと復習
14	練習問題	まとめと復習
15	練習問題	まとめと復習

科目名	経済情報特論E				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力				

《授業の概要》

比較的短い論理的な文章を素材として、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

《テキスト》

なし

《参考文献》

講義中に随時示します。

《授業の到達目標》

文章の論理的読解力の獲得。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。

新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが50パーセントです。持ち込みは不可です。

毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が50パーセントです。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	本講義の目的 論理的読解の方法論
2	文章の論理的読解 1	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
3	文章の論理的読解 2	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
4	文章の論理的読解 3	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
5	文章の論理的読解 4	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
6	文章の論理的読解 5	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
7	文章の論理的読解 6	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
8	文章の論理的読解 7	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
9	文章の論理的読解 8	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
10	文章の論理的読解 9	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
11	文章の論理的読解 10	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
12	文章の論理的読解 11	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
13	文章の論理的読解 12	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
14	文章の論理的読解 13	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
15	おわりに	全体の総括

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論E				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ◎ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本授業は教職免許取得要件ではないが、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

開講年次は2年次となっているが、実際の履修登録は担当者に相談し、その指示を受けて行うこと。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

- (1) 開講時に必ず出席すること。
- (2) 非配当学年生や本授業の既履修者、本授業の他の担当者クラスを履修する者には単位を認定できないが、受講は歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画
7	模擬授業(1)	例：受講生A
8	模擬授業(2)	例：受講生B
9	模擬授業(3)	例：受講生C
10	模擬授業(4)	例：受講生D
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育
15	本授業の総括	教師の仕事の楽しみ

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論F				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

情報処理技術者の国家資格『ITパスポート』のカリキュラムにもとづいて、この授業では、情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的知識（ストラテジ系知識）、システム開発のやり方に関する基礎的知識（マネジメント系知識）を学習します。資格取得を目指す諸君がⅠ期開講の経済情報特論E（テクノロジ系）とともに履修することが望ましい。

《テキスト》

毎回プリントを配布する。

《参考文献》

『よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト』（FOM出版）

《授業の到達目標》

ITパスポート試験に合格できる。

《授業時間外学習》

事前学習

・授業のプリントを事前にWebに公開するので、授業までに読んでおくこと。

事後学習

・確認試験の間違ったところをよく復習すること。

《成績評価の方法》

毎回の授業時の確認試験(50%)、評価試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ITパスポートとは	オリエンテーション、練習問題
2	ストラテジ 企業と法務	企業-組織・OR
3	ストラテジ 企業と法務	企業-会計・財務
4	ストラテジ 企業と法務	法務
5	ストラテジ 経営戦略	経営戦略マネジメント
6	ストラテジ 経営戦略	技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ
7	ストラテジ システム戦略	システム戦略
8	ストラテジ システム戦略	システム企画
9	マネジメント 開発技術	システム開発技術
10	マネジメント 開発技術	ソフトウェア開発管理技術
11	マネジメント プロジェクトマネジメ	プロジェクトマネジメント
12	マネジメント サービスマネジメント	サービスマネジメント
13	マネジメント サービスマネジメント	システム監査
14	総括	まとめと練習問題
15	評価	評価試験

科目名	経済情報特論F				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-5 論理的思考力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力			

《授業の概要》

比較的短い論理的な文章を素材として、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

《テキスト》

なし

《参考文献》

講義中に随時示します。

《授業の到達目標》

文章の論理的読解力の獲得。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。

新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが50パーセントです。持ち込みは不可です。

毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が50パーセントです。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	本講義の目的 論理的読解の方法論
2	文章の論理的読解 1	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
3	文章の論理的読解 2	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
4	文章の論理的読解 3	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
5	文章の論理的読解 4	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
6	文章の論理的読解 5	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
7	文章の論理的読解 6	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
8	文章の論理的読解 7	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
9	文章の論理的読解 8	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
10	文章の論理的読解 9	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
11	文章の論理的読解 10	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
12	文章の論理的読解 11	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
13	文章の論理的読解 12	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
14	文章の論理的読解 13	記号を用いての文章の論理読解 要旨作成
15	おわりに	全体の総括

《専門教育科目 コース共通科目》

科目名	経済情報特論F				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ◎ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本授業はI期の「経済情報特論E」（岡本）の続きであり、教職免許取得要件ではないが、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

開講年次は2年次となっているが、実際の履修登録は担当者に相談し、その指示を受けて行うこと。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

- (1) 開講時に必ず出席すること。
- (2) 非配当学年生や本授業の既履修者、本授業の他の担当者クラスを履修する者には単位を認定できないが、受講は歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド(上級)
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり(上級)
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索(上級)
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画(上級)
7	模擬授業(1)	例：受講生A
8	模擬授業(2)	例：受講生B
9	模擬授業(3)	例：受講生C
10	模擬授業(4)	例：受講生D
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	教師の仕事の深い楽しみ

科目名	ミクロ経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 経済学的思考力				

《授業の概要》

ミクロ経済学の基礎理論を学びながら、経済学的考え方を身につけることを目標とする。周知のように、私たちが暮らしている市場経済では、市場メカニズムが重要な役割を演じている。ミクロ経済学は、市場のはたらきを分析するための手法である。この授業では、基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場のはたらきについて理解を深め、私たちの身近にみられる問題について経済学的に分析するための基礎的な力を養う。

《授業の到達目標》

- ・ミクロ経済学の基礎的な概念（需要と供給、市場均衡、需要の価格弾力性、費用の諸概念など）を理解する。
- ・ミクロ経済学の基礎理論を用いて、企業の価格戦略など、身近な問題について考察できるようになる。
- ・市場経済の特徴、市場のはたらき（資源配分メカニズム）について理解し、説明できるようになる。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題への取り組みなど）、中間テスト、期末テストをもって評価する。
 評価の割合は、平常点20%、中間テスト40%、期末テスト40%とする。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社、2003年。

《参考文献》

柳川隆・町野和夫・吉野一郎著『ミクロ経済学・入門 ビジネスと政策を読みとく』有斐閣、2008年。
 奥野正寛編著『ミクロ経済学』東京大学出版会、2008年。
 伊藤元重・下井直毅著『ミクロ経済学 パーフェクトマスター』日本評論社、2007年。
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・経済理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。授業で学んだ箇所については、必ずテキストを読んで復習すること。また、理解を深めるために適宜課題を出すので、しっかりと取り組むこと。
- ・中間テスト前、期末テスト前には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

経済理論を理解するためには、基礎からの積み重ねが重要である。毎回必ず出席し、毎時間ごとにしっかりと復習して理解するように努力していただきたい。質問は随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 ミクロ経済学とは	授業の概要、進め方について解説する。 テキスト第0章にしたがって、ミクロ経済学とはどのような学問かを説明する。
2	需要と供給	需要曲線、供給曲線の特徴について学ぶ。 需要曲線・供給曲線に関わる概念（需要の価格弾力性、供給の価格弾力性）を理解する。
3	消費者行動と需要曲線	需要曲線の構造について学ぶ。 消費者行動について需要曲線を用いて考察する。
4	供給に関する分析 (1)	生産に関わる費用構造について考える。 さまざまな費用概念について理解する。
5	供給に関する分析 (2)	企業の利潤最大化行動について考える。
6	市場と価格メカニズム	効率的な資源配分とはどのようなことを考え、理解する。 市場経済の特徴と価格メカニズムの働き、計画経済の問題点について考察する。
7	余剰分析	消費税の引き上げ、農業の支援策、自由貿易と保護貿易の経済効果など身近な問題をとりあげ、その経済効果について需要曲線・供給曲線を用いて分析する。
8	第1～7週までの復習 消費者行動の理論 (1)	中間テストを実施 無差別曲線について解説する。
9	消費者行動の理論 (2)	予算制約のもとでの効用最大化行動、所得の変化が必要に及ぼす影響について無差別曲線と予算制約線を用いて分析する。
10	消費者行動の理論 (3)	価格の変化が必要に及ぼす影響について無差別曲線と予算制約線を用いて分析する。 価格の変化がもたらす2つの効果（所得効果と代替効果）について学ぶ。
11	労働供給に関する分析 生産と費用 (1)	賃金の変化が労働供給に与える影響について分析する。 生産関数について解説する。
12	生産と費用 (2)	等量曲線と等費用曲線を用いて、生産要素（労働、資本など）の価格の変化が生産方法に与える影響、費用最小化行動について考察する。
13	生産と費用 (3) 一般均衡と資源配分 (1)	企業の利潤最大化行動について考える。 交換の利益について考える。
14	一般均衡と資源配分 (2)	ボックスダイヤグラムを用いて効率的な資源配分について考察する。 産業間での資源配分について考察する。
15	一般均衡と資源配分 (3) 学習のまとめ	比較優位の理論について学び、自由貿易の経済効果について考察する。 第8週以降の学習内容を中心に、これまでの学習内容を振り返る。

科目名	マクロ経済学				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 経済学的思考力				

《授業の概要》

講義では、まず短期のマクロ経済の構造を国民所得（あるいは国民経済計算）勘定体系の理解からはじめ、単純なケインズ理論、現代の主流派マクロ経済学にまで発展した理論構造を正確に把握することに重点が置かれる。後半では分析の次元を長期化して、なお国際的な広がりの中の国民経済を分析するために、国際マクロ経済学を取り上げ、技術進歩と生産性の変化、為替レートや経常収支の変動をも考察する。

《テキスト》

『基礎コース マクロ経済学（第2版）』 岩田規久男（新世社）2005年

《参考文献》

『マクロ経済学（第2版）』 吉川洋（岩波書店）2003年

《授業の到達目標》

マクロ経済学は一国経済全体の動きを捉えるための経済学の基礎の理論である。生産、消費、投資、輸出、輸入などの動きを総括的に理解するための国内総生産・国民所得の理論をしっかり学ぶとともに、マクロ経済全体のあるべき姿を均衡概念と比較しながら現実の経済の構造的特徴を理解することが主要な目的である。いわゆるIS曲線やLM曲線を使った既存の分析枠組みなどがそうした目的達成の一助となる。

《授業時間外学習》

テキストの各章末の練習問題や用意した類似問題を自宅学習の課題とする。場合によっては答案を適宜提出してもらう。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験（100点）の結果で判定する。

《備考》

経済ビジネスコースの選択必修科目（4単位）であるため、しっかり予習や復習を行わないと合格しない危険性がある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要	マクロ経済学とは何か。学修の目的と意義。ミクロ経済学との違いを理解する。
2	国民経済計算の方法	マクロ経済の総括指標としての国内総生産の概念、国民所得の3面等価、国内総支出とマクロの総需要との対応関係、国民総生産と対外取引の関係
3	45度線グラフによる所得-支出アプローチ	総需要と総供給曲線による実質国内総生産の決定を古典派とケインズの2つのモデルを用いて理解する。物価一定の下での有効需要の原理を45度線を使って理解する。
4	乗数理論とその応用	単純な投資乗数から財政乗数、租税乗数、均衡予算乗数、輸出乗数、外国貿易乗数、などを公式として理解し、政策効果の判定に活かす方法を学ぶ。
5	投資決定の理論	投資の限界効率率、実質利子率の概念を用いて企業家の設備投資の実行規準を理解する。古典派をケインズ派との違いを明確にする。
6	マクロ経済均衡の理論 (1)	財（生産物）市場の需要と供給の均衡を示すIS曲線の導出。
7	マクロ経済均衡の理論 (2)	貨幣の需要に関するケインズ理論（流動性選好理論）を理解し、貨幣の供給（マネー・サプライ）の外生性や、貨幣市場の均衡を示すLM曲線の導出の方法を学ぶ。
8	IS/LM分析の応用 (1)	政府支出や租税の変化による財政政策の効果を比較静学的に分析する。具体的には公共事業の増加や減税の国内総生産に及ぼす効果を均衡点の比較によって理解する。
9	IS/LM分析の応用 (2)	信用創造による貨幣乗数、中央銀行によるマネー・サプライの増加、またはゼロ金利政策などがLM曲線にどのような影響を及ぼすのか、金融政策の比較静学効果を判定する。
10	物価変動下のマクロ経済モデル	IS・LM分析の応用としての総需要（AD）曲線と総供給（AS）曲線の導出し、物価と実質GDPの決定の2つのマクロ経済モデル、ケインズモデルと古典派モデルを理解する。
11	AD/AS分析の応用	財政政策と金融政策の効果を比較静学の方法で理解する。物価の変化としてのインフレーションや実質GDPの変化としての失業を概念的に理解する。
12	インフレと失業	フィリップス曲線の原型とその修正版を周知のグラフを使って理解する。適応的期待から合理的期待までの理論的展開を現実の事象に照らして学ぶ。
13	国際マクロ経済学	日米の経常収支の構造の特徴や為替レートの決定のメカニズムを理解し、円高や現在の世界経済不況の原因を探る。
14	マンデル・フレミングの理論	Jカーブ効果とは何か。円高不況とバブル期のバランスシート不況（資産不況）の違いを理解する。
15	まとめ	短期のマクロ経済モデルから長期の経済発展や経済成長の理論への展開の見通しと残された課題を明確にする。

科目名	金融論				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

現代の金融の仕組みとシステムを学んだ後、中央銀行の役割と金融政策、第二次大戦後の国際金融、現代経済社会の理解のカギとも言えるIS・LM分析等を身につけていけるようにしたい。ビジネスの世界で生きていくためには、新聞の経済記事を自由自在に読みこなせなければならない。毎時間授業の初めに経済記事を一本解説する。

《テキスト》

独自に作製したプリントをテキストとして用いる。

《参考文献》

本多拓三『はじめての金融』（有斐閣）

《授業の到達目標》

われわれは、ほぼ例外なしに、金融機関（銀行・保険会社・証券会社）の利用者であり、金融サービスの需要者である。この意味で、われわれ全員が金融とは深いかかわりを持っている。換言すると、金融サービスは、現代の生活に不可欠なライフライン（生命線）と言ってよい。本講義はこうした現代の金融への関心を育む。

《授業時間外学習》

新聞の経済記事をよく読むこと。

《成績評価の方法》

期末に学期全体で学んだ全般的範囲についてペーパーテスト（50%）を行う。日頃の学習態度（50%）を考慮する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	(1) 金融論を学ぶ意義	①現代経済社会の現状
2	(1) 金融論を学ぶ意義	②金融行為の必然性
3	(2) 通貨と金融	①貨幣と通貨制度
4	(2) 通貨と金融	②金融の仕組みと金融機関
5	(2) 通貨と金融	③中央銀行と金融政策
6	(2) 通貨と金融	④国際金融
7	(3) IS・LM分析	①予備的考察
8	(3) IS・LM分析	②IS曲線の導出
9	(3) IS・LM分析	③LM曲線の導出
10	(3) IS・LM分析	④財・サービス市場と貨幣市場の均衡の同時達成（一般的均衡）
11	(4) 現代の金融	①金融政策をめぐる諸問題
12	(4) 現代の金融	②現代日本の金融情勢
13	(4) 現代の金融	③マネーサプライ論争
14	(4) 現代の金融	④日本の企業金融と経営
15	(4) 現代の金融	⑤金融業の新たな展開

科目名	工業簿記				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

日商簿記検定2級レベルの工業簿記を学習します。
 まず、工業簿記の全体的な流れを説明した後、費目別計算、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算と進んでいきます。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

商業簿記に続いて製造業で実施される帳簿記入の方法を学び、管理会計と原価計算の基礎を身に付けます。

《授業時間外学習》

その日の授業に係る宿題を出しますので、次回の授業時に提出して下さい。

《成績評価の方法》

商業簿記に続いて製造業で実施される帳簿記入の方法を学び、管理会計と原価計算の基礎を身に付けます。

《備考》

商業簿記の基礎知識(日商3級程度)がなければ理解できません。商業簿記の基礎を身につけた上で、受講してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 工業簿記とは	授業の進行方法、成績評価等の説明。電卓の持参。 商業簿記と工業簿記の類似点と違い。原価計算と工業簿記
2	工業簿記の全体像	工業簿記の記帳体系 原価の3要素と直接費・間接費
3	原価の費目別計算(材料1)	材料の購入と消費の処理。
4	原価の費目別計算(材料2)	継続記録法と棚卸計算法
5	原価の費目別計算(材料3)	予定消費価格による処理と、材料消費価格差異の計算 棚卸減耗費の処理。
6	原価の費目別計算(労務費1)	給与計算期間と原価計算期間の相違の調整 未払賃金の処理方法
7	原価の費目別計算(労務費2)	直接工・間接工の労務費計算 予定消費賃率による労務費計算と賃率差異の計算
8	原価の費目別計算(経費1)	経費の分類と消費額の把握
9	原価の費目別計算(経費2)	支払経費の計算 前月末払・前月前払、当月未払、当月前払の各処理
10	製造間接費1	製造間接費の種類と把握方法
11	製造間接費2	製造間接費の製品への配賦 配賦基準と配賦方法
12	製造間接費3	製造間接費の予定配賦と製造間接費差異の計算
13	個別原価計算	個別原価計算の意義と基本的処理
14	総合原価計算	総合原価計算の基本的処理 個別原価計算と総合原価計算の違い
15	復習と確認	総合演習による復習と到達度の確認

科目名	会計学				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

ビジネスの言語と言われる会計学について、基礎的諸概念を理解すると共に、財務諸表が読めるようになることをねらいとします。その過程で、折に触れ、キャッシュフロー計算書、税効果会計など新しい会計概念についても説明します。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

ビジネスの言語と言われる会計学について、基礎的諸概念を理解すると共に、財務諸表が読めるようになることをねらいとします。その過程で、折に触れ、キャッシュフロー計算書、税効果会計など新しい会計概念についても説明します。

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回の授業時に提出してください。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

簿記を修めたら次にマスターすべき科目です。税理士、公認会計士、国税専門官（国家公務員）を目指すためには、かならずクリアしなければならない基本科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	企業会計の意義と必要性	企業会計とは何か。 簿記と会計学の関係
2	企業会計の基本理念	1) 一般原則 2) 企業会計の仕組み
3	損益会計	1) 収益の認識と測定 2) 貸倒引当金
4	資産会計 1	1) 資産の概念 2) 資産の評価
5	資産会計 2	棚卸資産の原価配分と利益計算
6	資産会計 3	1) 有価証券 2) 固定資産
7	資産会計 4	1) 固定資産の減価償却 2) 圧縮記帳
8	資産会計 5	1) のれん 2) ソフトウェア
9	減損会計	導入の背景と処理
10	繰延資産	繰延資産の種類と処理
11	負債会計	1) 引当金の意義 2) 退職給付会計
12	純資産会計 1	1) 純資産の意義と内容 2) 資本金、資本剰余金、利益剰余金
13	純資産会計 2	1) 合併 2) 会社分割
14	連結財務諸表	連結決算の意義と必要性 子会社、関連会社
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	会社法				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

株式会社法の講義を行う。会社法はきわめて技術的な色彩が強いため、講義内容はかなり難解と感ずるかも知れないが、可能な限り平易な解説に努める予定である。

《テキスト》

國友順市・西尾幸夫・田中裕明「新会社法」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

株式会社法の基礎的な知識の習得を目標とする。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	会社の概念・会社法総論	会社の法的な理解を目指す
2	株式会社の設立	設立の法的規制、発起人の義務
3	株式Ⅰ	株式の法的性質、株券の意義
4	株式Ⅱ	株式の種類
5	株式会社の機関総論	株主総会・取締役会・代表取締役・監査役等の意義
6	株主総会	株主総会の意義、議事、株主総会の瑕疵
7	取締役および取締役会Ⅰ	取締役の責任および義務
8	代表取締役	代表取締役会の意義・責任
9	監査役および監査役会	意義および責任・義務
10	会社役員損害賠償責任Ⅰ	対会社責任
11	会社役員損害賠償責任Ⅱ	対第三者責任
12	組織変更、解散、清算	意義および形態
13	資金調達Ⅰ	方法
14	資金調達Ⅱ	資金調達と支配権
15	近時の諸問題	近時の諸問題のトピック

科目名	数理論理学				
担当者氏名	田中 正彦, 穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

情報を整理し、分析するためにはその情報ですべての状況を網羅できているのか、不足している情報はないのかを考える状況分析力が必要となる。また、そのようにして得られた情報をもとに正しい結果を間違いなく導くための論理的思考力も必要となる。この授業ではこれら二つの能力の習得を目指す。

《テキスト》

なし

《参考文献》

必要に応じて授業中に指示する。

《授業の到達目標》

この授業ではまず集合の概念について説明し、その要素数や集合自体の数を調べる数え上げについて説明し、「すべての場合をもれなく考える力」を身に付けて状況分析力を習得する。また、命題論理やその記号化、計算について説明し、与えられた情報から「間違いのない結論を論理的に導く力」を身に付けて論理的思考力を習得する。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容を復習し、次の授業に備えること。また、レポートなどを確実に完成させ期日を守って提出すること。

《成績評価の方法》

小テストやレポートなどの点数を30%、中間、期末などの試験の点数を70%で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	集合	集合の記法
2	部分集合	部分集合, 集合の演算
3	関係	同値関係, 順序関係
4	グラフ	グラフ, マッチング
5	組合せと数え上げ	並べ方の数え上げ
6	組合せと数え上げ	選び方の数え上げ
7	組合せと数え上げ	分け方の数え上げ
8	まとめと復習	まとめと復習
9	命題論理	命題
10	命題論理	記号化, 論理演算
11	論理関数	真理値表, 論理式
12	論理関数	論理式の変換, ド・モルガンの法則
13	論理関数	論理式の標準形
14	論理関数	論理式の簡単化, カルノー図
15	まとめと復習	まとめと復習

科目名	プログラミングI				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

コンピュータを使って実現できることやプログラミング言語の特徴・歴史などプログラミングの基礎知識を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としての処理や制御など技法(前半部分)の獲得と論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミング力の基礎の確立を目指します。

授業は基礎知識や論理・方法を説明する講義とC言語を使った演習を併せて行い『プログラミングII』への接続を行います。

《授業の到達目標》

課されている問題解決のための一手段として、プログラミング言語を活用するための基礎(前半部分)を対象とし、プログラミング言語での処理を行う命令等の理解や記述規則に従いながら、処理手順や手続きの記述ができることと処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(25%)、筆記による試験(中間試験と定期試験の2回)(70%)、平常点(5%)を総合的に判定し評価します。提出課題は提示された課題のすべてを対象とします。欠席回数が1/3以上ある場合には認定ができないことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 プログラミング環境の整	プログラミング学習専用サーバへのアクセス
2	C言語を学ぶための基礎知識	サーバでのツールの操作方法 プログラミングの基本構成
3	標準出力の概念	printf 関数の解説 書式、書式変換
4	文字、文字列、数字	printf 関数を用いての出力
5	定数と変数 標準入力	定数と変数の定義 scanf 関数の解説
6	式	式、演算子の解説
7	制御文(1)条件分岐	if 文の解説とその応用
8	制御文(2)多岐にわたる条件分岐	if else 文の解説とその応用
9	中間試験	筆記試験の実施および解答返却/解説
10	制御文(3)繰り返し(1)	while 文, for 文を使った繰り返しの概念
11	制御文(4)繰り返し(2)	繰り返しの制御の応用
12	制御文(5)繰り返し(3)	繰り返しの入れ子状態の解説とその応用
13	制御文(6)その他の制御	switch 文やその他制御文の解説とその応用
14	総合的な演習	実践的な問題解決のための基礎
15	まとめ	その他補足とまとめ

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は、適宜配付します。

《参考文献》

B. W. Kernighan, D. M. Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版, ¥2,940.-
 鈴木正人著, 『実践Cプログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』, サイエンス社, ¥1,995.- など
 その他参考文献については必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい。
 また、計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから、各自で記述したプログラムの動作など確認を行ってください。

《備考》

『プログラミング入門』の既履修が望ましいです。
 履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更/修正する場合があります。

科目名	オペレーティングシステム				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

オペレーティングシステムは、計算機ハードウェアとその使用者の間で、便利で有効な計算機環境を提供するシステムです。現在では、携帯電話、パソコンをはじめ、大規模なシステムのために、数多くのオペレーティングシステムが構築されています。しかし、それらのオペレーティングシステムにおける基本的な概念はみな共通しています。この授業では、オペレーティングシステムの基本的な概念や技法を学習します。

《テキスト》

『オペレーティングシステムの基礎』 大久保英嗣著（サイエンス社）1997年

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

(1) オペレーティングシステムとはなにか、(2) オペレーティングシステムの構成要素、(3) プロセスの概念と管理方法、(4) プロセスが並行して動作するためのプロセスの同期とプロセス間通信の方法、(5) メモリや仮想メモリの管理技法、(6) ファイルの構造やアクセス方法、ディレクトリの管理方法、(7) 割り込み、入出力、タイマの管理方法について説明できる。

《授業時間外学習》

事前学習

・授業のプリントを事前にWebに公開するので、授業までに読んでおくこと。

事後学習

・授業開始時に前回の確認を問題形式で行うので、授業内容の復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

レポート課題2回(30%)、評価試験(70%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オペレーティングシステムとは	授業の内容とオペレーティングシステムの説明
2	カーネル	オペレーティングシステムの歴史、オペレーティングシステムの構成要素と構成法
3	プロセス管理	プロセスの概念、マルチプログラミング
4	プロセス管理	スケジューリング
5	プロセス管理	並行プロセス
6	プロセス管理	プロセス間通信、デッドロック
7	メモリ管理	メモリ割り付け方法
8	メモリ管理	仮想メモリ、ページング、セグメンテーション
9	メモリ管理	仮想メモリ割り付け方法
10	ファイル管理	ファイルシステム、ファイル操作、ファイル構造、アクセス方法
11	ファイル管理	ディレクトリ構造、ファイル保護、2次記憶の割付方法
12	割り込み処理	割り込み、タイマ管理
13	入出力制御	入出力装置の制御
14	総括	オペレーティングシステムのまとめ
15	評価	評価試験

科目名	情報ネットワーク				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

インターネットに見られるように、ネットワークなくしては情報処理は成り立ちません。この講義ではネットワーク技術の基本を学ぶことにより、計算機とネットワークがどのように関わっているかを理解し、ネットワークの今後の発展にも対応できる知識を習得します。

《テキスト》

『ネットワーク利用の基礎 [新訂版]』 野口健一郎 (サイエンス社)

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報ネットワークの基本的な動作が理解できます。例えば、自宅のパソコンからインターネットを通じて外部のサイトにアクセスしたとき、パケットがどの経路をたどるか、どのプロトコルが用いられるか等の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

「情報科学入門」と「コンピュータ基礎論」の両方か、少なくとも一つは必ず受講しておいて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法 情報ネットワークの概要
2	ネットワークとデジタル通信	ネットワークとは、コンピュータネットワークの利点、ビットの伝送
3	ネットワークの構成	伝送媒体、通信機器、ネットワークの形状、ネットワークの種類
4	プロトコル	プロトコルの必要性、プロトコルの階層構造、プロトコルの体系
5	コンピュータ間の通信接続	通信回線の実現方法、データ伝送の実現
6	ローカルエリアネットワーク	LANプロトコルで考慮すべき事項、LANプロトコルの位置づけ、主要なLANプロトコル、無線LAN
7	インターネットワーク	広域ネットワークの成り立ち、インターネットワーク通信のプロトコル、IP、経路制御
8	トランスポートサービス	トランスポートサービスの位置づけ、トランスポートプロトコル、TCP
9	インターネットワーク	インターネットの構成方法、インターネットへの接続、IPアドレス、ドメイン名、名前解決
10	電子メール	電子メールの基本形式、電子メールの配達の仕事、電子メールの利用
11	ワールドワイドウェブ	WWWの基本構成、ハイパーリンクとハイパーテキスト、URI、ブラウザ、WWWのプロトコル
12	ネットワークプログラミング	FTP、TELNET、クライアントサーバ方式、Webサービス
13	ネットワークセキュリティ	ネットワーク上の脅威、通信路の安全性、暗号技術、不正プログラム
14	習得事項の整理	情報ネットワークに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	アルゴリズム				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

与えられた問題を解決する処理手順のことをアルゴリズムとよびます。問題の内容を把握し、手順を正確に記さなければなりません。その上で、より効率的な方法を考えることが重要になってきます。本授業では、フローチャートなどを活用して、解決までの手順や考え方について学習します。特にアルゴリズムの効率性に関わるデータ構造について触れ、それを実装し、コンピュータ上で実行できるようになることを目指します。

《授業の到達目標》

- 問題の内容を把握し、その処理手順について図を用いて説明することができる。
- 各種アルゴリズムの内容と方法の違いについて、明確に説明することができる。
- アルゴリズムを忠実にコンピュータ上で実行し、問題解決を図ることができる。

《成績評価の方法》

授業内演習課題の提出30%
 最終提出課題とその成果10%
 筆記試験60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかった課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

アルゴリズムで大切なのは、問題を正確に把握し、手順を誤りなく示すことです。一旦コンパクトにした問題に置き直してみると手順が見えてきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要の説明	授業計画を説明するとともに、アルゴリズムに関する具体的な事例紹介をおこなう。
2	アルゴリズムの記述(1)	フローチャートを活用し、アルゴリズムの記述の仕方と変数への代入について学ぶ。
3	アルゴリズムの記述(2)	フローチャートを用いた条件判断の記述を扱い、分岐処理とその構造について学ぶ。
4	アルゴリズムの記述(3)	フローチャートを用いた繰り返しの記述を扱い、条件付繰り返し構造について学ぶ。
5	データ構造と処理(1)	データを保存するための基本的なデータ構造である配列と連結リストについて学ぶ。
6	データ構造と処理(2)	データを記憶し、処理するためのデータ構造であるスタックとキューについて学ぶ。
7	データ構造と処理(3)	データ順序や依存関係をあらわす木のデータ構造と再帰アルゴリズムについて学ぶ。
8	探索アルゴリズム(1)	多くのデータの中から目的のものを見つけるための探索アルゴリズムについて学ぶ。
9	探索アルゴリズム(2)	配列のデータ構造を活用した探索方法である線形探索法と2分探索法について学ぶ。
10	探索アルゴリズム(3)	データ格納方法を工夫することで効率的な探索をおこなうハッシュ法について学ぶ。
11	ソートアルゴリズム(1)	与えられたデータを決められた順番に並び替えるソートアルゴリズムについて学ぶ。
12	ソートアルゴリズム(2)	さまざまなソートアルゴリズムの中でバブルソートや選択ソートなどについて学ぶ。
13	ソートアルゴリズム(3)	再帰的な概念を含む高速なソートアルゴリズムであるクイックソートについて学ぶ。
14	グラフアルゴリズム	グラフで表された最短経路問題を効率よく解くためのダイクストラ法について学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業の振り返りとアルゴリズムの効率性を表す時間計算量について説明をおこなう。

科目名	情報デザイン				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

「情報」の特性や特徴を捉えて、表現やその技術と思考方法など、より良いコミュニケーションがはかれるよう情報のデザインを学びます。

授業では、基礎的な知識や考え方等を説明する講義を主としますが、それらの理解度を高めるための演習もあわせて行います。

《授業の到達目標》

伝えたい情報を分かりやすくかつ正確に、適切な情報量を伝達するための情報の整理方法の理解、表現の意味の理解の獲得を目標とします。

考え方や表現方法は主観的なものと位置付けられますが、この科目では主観的でなく、客観的な視点での情報を扱います。

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(40%)、試験に代わる課題(55%)、平常点(5%)とし総合的に判定し評価します。課題提出は、提示された課題のすべてを対象とします。

欠席回数が全授業実施回数の1/3以上ある場合には単位認定ができない場合があります。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は、適宜配付します。

《参考文献》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン, ¥3,360.-

Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML 2.0』, オライリージャパン, ¥2,940.- など。

その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料を熟読し理解して下さい。

《備考》

『アプリケーションソフト』の既修得が望ましいです。

より深い理解を促すために授業計画の順序等変更・修正する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 導入	情報とは? 情報をデザインするとは?
2	意味と形式	意味と形式の違い
3	整理	情報を整理するとは?
4	形	形が有する情報の活用
5	色	色彩が有する情報の活用
6	図と表と文	図, 表, 文の違いと有用性
7	グラフ	有向グラフ
8	モデリングの基礎(1)	「もの」の特性: インスタンスとクラス
9	モデリングの基礎(2)	「もの」の特性: 関係(集約)
10	モデリングの基礎(3)	「もの」の特性: 関係(汎化と継承)
11	モデリングの基礎(4)	「手続きと制御」: シナリオ, 事象トレース図
12	モデリングの基礎(5)	「手続きと制御」: アクティビティ図
13	モデリングの基礎(6)	「手続きと制御」: 状態と事象
14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの定義と有用性
15	まとめ	その他補足とまとめ

《専門教育科目 コース専修科目 地域デザインコース専修科目》

科目名	フィールドワーク				
担当者氏名	池本 廣希、瀧本 眞一、木下 準一郎、金子 哲、岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

1. 授業の最初と最後は、全員を対象にガイダンスとまとめをおこないます。
2. 五つのグループに分け、五人の担当者によるローテーションシステムで授業を展開します。
3. 瀧本担当部分の内容は、「中心市街地の活性化策を探る」です。

《テキスト》

使用しません。必要に応じてプリント・資料を配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

地域デザインコースの入門演習。地域の事象を自分の足と目で直視し、自分の頭で考え、何かを発見する。五感を研ぎ澄まし、発見する力を養います。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、日常的に接することから地域の問題や課題を発見する努力を重ねてください。

《成績評価の方法》

事前学習・現地調査・事後学習の成果で評価します。各担当者20点を満点として評価し、五人の担当者評価点の合計を最終評価とします。

《備考》

授業の性質上、二コマ連続で授業を実施します。雨天の場合は現地調査を中止する場合があります。担当五人の現地調査の詳細は初回の授業時間にプリントで配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	フィールドワーク実施についての全体ガイダンス
2	講義と事前学習	前半:フィールドワークとは 後半:一回目担当者によるグループごとの事前学習
3	フィールドワーク	一回目担当者によるグループごとの現地調査
4	事後学習と事前学習	前半:一回目担当者によるグループごとの事後学習 後半:二回目担当者によるグループごとの事前学習
5	フィールドワーク	二回目担当者によるグループごとの現地調査
6	事後学習と事前学習	前半:二回目担当者によるグループごとの事後学習 後半:三回目担当者によるグループごとの事前学習
7	フィールドワーク	三回目担当者によるグループごとの現地調査
8	事後学習と事前学習	前半:三回目担当者によるグループごとの事後学習 後半:四回目担当者によるグループごとの事前学習
9	フィールドワーク	四回目担当者によるグループごとの現地調査
10	事後学習と事前学習	前半:四回目担当者によるグループごとの事後学習 後半:五回目担当者によるグループごとの事前学習
11	フィールドワーク	五回目担当者による現地調査
12	事後学習と講義	前半:五回目担当者によるグループごとの事後学習 後半:全体のまとめ
13	予備日	雨天に備えた予備日
14	予備日	雨天に備えた予備日
15	口頭発表会	フィールドワーク全五回を終了して諸君たちが感じたこと・発見したことについて発表をおこないます。

科目名	地域分析論				
担当者氏名	田端 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

統計学：地域経済統計を用い回帰分析など統計分析手法を学びます。経済地理学：産業立地理論の考え方や応用を学びます。情報学：GIS（地理情報システム）を使った分析の実際を学びます。

《テキスト》

使用しません

《参考文献》

吉岡茂、千歳壽一『地域分析調査の基礎』古今書院
 大友篤『地域分析入門』東洋経済新報社
 中村隆英、新家健精、他『経済統計入門』東京大学出版会

《授業の到達目標》

特化係数などの分析手法を理解し他に応用することができま
 す。立地論を理解し現在の地域でどのような意味を持つか説明
 することができます。GISの方法とその結果の意味を理解する
 ことができます。

《授業時間外学習》

授業時間が限られているため、実際の分析は授業の後、パソコンで確かめる課題を出します。

《成績評価の方法》

定期試験で70%を評価します。授業態度として、レポート課題の提出状況などを評価します（30%）。

《備考》

週2回授業があります。半年間で1年分の授業を学びます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス/地域の定義	地域の意味や統計学からのアプローチと地理学からのアプローチがあることを学びます。
2	地域分析に必要な基礎知識1	地域統計や分析の横断的分析、時系列分析の考え方、地理行列を学びます。
3	地域分析に必要な基礎知識2	統計値など1変数の分析方法について学びます。
4	地域分析に必要な基礎知識3	回帰分析の意味とその応用による分析方法を学びます。
5	比率の役割	比率の役割と特徴について学びます。比率を使って産業構造や立地分析を行います。
6	特化係数	特化係数の算出と意味について学び、産業集積の分析の方法とその意義を学びます。
7	基盤非基盤分析	特化係数を使い地域の産業を基盤産業、非基盤産業に分けて分析をします
8	地域乗数と産業連関表	地域乗数の算出とその意味を学び、事例を通して地域波及効果を理解します。
9	地域間格差の測定	ジニ係数と変動係数を学び、時系列の分析を行います。
10	経済立地論1	立地論の意義を学び、続いてチューネンの孤立国の考え方を学びます。
11	経済立地論2	ヴェーバーの工業立地論について学びます。
12	経済立地論3	クリスタラーの中心地理論について学びます。
13	GIS1	地図からGISの確立に至るまでの歴史を学びます。
14	GIS2	GISの原理を学び、また市販のGISソフトの説明をします。
15	GIS3	簡単なGIS手法でもあるメッシュ法を説明します。

科目名	地域経済論I				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

地域経済のダイナミックな動きを検証し、地域経済の発展が全国経済や他地域の経済に与えた影響を探ります。なぜ、地域経済の発展は様々な展開を見せるのかについて、地域類型の動向や全国総合開発計画の変遷を実証的に分析します。また、地域経済統計の基本的な見方を学びます。

《テキスト》

特に使用しません。授業の進行に合わせて、必要なプリントや資料を配布します。

《参考文献》

適宜、リストを紹介します。

《授業の到達目標》

地域政策の課題を探る力や地域経済政策を考える基礎力を養います。

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、日常的に接する情報の中から地域問題に関しての知識を深めてください。

《成績評価の方法》

授業中に提示する複数の課題についてのレポート(100%)で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	地域経済を考える視点を考えます。
2	地域の類型化と特徴	大都市圏と中枢管理機能について考えます。
3	地域の類型化と特徴	地方中枢都市と階層ピラミッドについて考えます。
4	地域の類型化と特徴	地方工業都市とその再生について考えます。
5	地域の類型化と特徴	中山間地域とその再生について考えます。
6	戦後地域経済政策の特徴	戦後すぐの地域経済政策について考えます。
7	戦後地域経済政策の特徴	全国総合開発計画について考えます。
8	戦後地域経済政策の特徴	新全国総合開発計画について考えます。
9	戦後地域経済政策の特徴	第三次全国総合開発計画について考えます。
10	戦後地域経済政策の特徴	テクノポリス構想について考えます。
11	戦後地域経済政策の特徴	第四次全国総合開発計画について考えます。
12	戦後地域経済政策の特徴	リゾート構想について考えます。
13	戦後地域経済政策の特徴	第五次全国総合開発計画について考えます。
14	戦後地域経済政策の特徴	国土形成計画と展望について考えます。
15	学習のまとめ	地域が自立出来る地域経済政策について考えます。

科目名	社会調査 I				
担当者氏名	根本 敏行				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

社会調査の基本的な手法について背景や社会経済情勢との関連について学ぶ。特に、ニュースなどの社会現象に積極的に興味を持つことに重点を置く。また、具体的なデータを用いて、調査の基礎的なスキルを学ぶことを目指す。受講生が持つ社会経済的領域の興味・関心の度合いをもとに、これに適合した教材、手法を用いることとし、必要に応じて追加的な学習の機会を提供することを検討する余地があるものとする。

《授業の到達目標》

- 社会調査の基礎的な方法論を理解する。
- ニュース等から普段感じる印象と、統計データなどの社会現象を客観的に示すデータとの関連を理解する。

《成績評価の方法》

出席は2/3以上が必要で1/3以上の欠席は不可。授業への積極的な参加意欲に応じて成績評価の30%程度までを加点。複数回のレポートを課し、全てを提出する。これらの質的な内容の程度に応じて成績評価の70%とする。提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方の説明
2	イントロダクション	社会調査の意義、注意事項
3	ケーススタディ (1)	時事問題などからトピックを取り上げ、データの裏づけに基づいて考察する
4	ケーススタディ (2)	時事問題などからトピックを取り上げ、データの裏づけに基づいて考察する
5	ケーススタディ (3)	時事問題などからトピックを取り上げ、データの裏づけに基づいて考察する
6	基礎概念の理解 (1)	社会事象とそれを示す指標との関連について
7	基礎概念の理解 (2)	初歩的な統計事象の読み方について
8	中間課題	身近な社会の課題を取り上げて客観的にこれを分析する
9	サンプリングの考え方	サンプリングの基本的な概念と信頼性などについて
10	ケーススタディ (4)	時事問題などからトピックを取り上げ、データの裏づけに基づいて考察する
11	ケーススタディ (5)	時事問題などからトピックを取り上げ、データの裏づけに基づいて考察する
12	ケーススタディ (6)	時事問題などからトピックを取り上げ、データの裏づけに基づいて考察する
13	調査デザイン	社会調査を企画するための調査方法の組み立てについて
14	社会調査の課題と将来	社会調査の手法の限界や構造的な課題について
15	まとめと講評	レポートについての講評と授業全体のまとめ

《テキスト》

特に指定しない。
授業の中で適宜資料を配布する。

《参考文献》

特に指定しない。
授業の中で適宜資料を配布する。

《授業時間外学習》

普段から身の回りの社会経済の現象に興味・関心を持ち、時に批判的に社会を観察する習慣を実践する。授業で配布されるレポート課題等について、事前に取り組んで理解できないことや知らなかった言葉などについて調べる。授業後も授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりすること。

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、わからないところなどはできるだけ授業時に質問すること。

科目名	社会情報論				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

メディアや情報の社会的な機能を考える。マスメディアの第一線で活躍しているジャーナリストを講師として迎え、メディアの歴史や役割、取材や報道について講義を予定している。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

メディア社会における情報の意義について様々な学説を理解し通信と放送の融合という現象を踏まえ、これからの出版や放送のあり方について理論的な考えを身につける。

《参考文献》

『21世紀放送の論点』
郵政研究所編、日刊工業新聞社、1998

『ブロードバンド時代の制度設計』
林紘一郎、東洋経済新報社、2003

《授業時間外学習》

適宜宿題を指示する。

《成績評価の方法》

小テスト (40%)
定期試験 (60%)
授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室 (1W-112) を訪ねてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明等
2	情報という概念	情報の概念・定義
3	新聞・出版の歴史	印刷・出版の歴史
4	放送の歴史	ラジオ・テレビの歴史と現状
5	戦争と報道	イラク戦争取材
6	情報操作	日常的行動としての情報操作
7	メディア効果の理論	メディア効果研究の系譜
8	小テスト	1～7週までの学習範囲について小テストを行う予定
9	ワイアード・シティ	パブリックアクセス運動
10	コミュニティ放送	地域情報の提供、コミュニティの形成
11	ドキュメンタリー	ドキュメンタリーの制作プロセス
12	携帯電話の普及	公的空間と私的空間の境界
13	放送と通信の融合	技術進歩と経済・社会への影響
14	サイバー戦争	サイバー犯罪、サイバー戦争
15	学習のまとめ	これから学ぶべきこと

《教職に関する科目》

科目名	発達心理学				
担当者氏名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

人間の一生にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。
- 発達障がいに関する正しい知識・理解の仕方を習得すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%
欠席回数が全授業回数の3分の1を上回った学生は成績評価の対象としない。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考文献》

- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』 川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010
- 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達心理学への招待	発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間はなぜ発達・成長することができるのかという根本的な問いを設定し、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達～その1	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期の発達～その2	幼児期の知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	児童期の発達～その3	第11回目の学習内容を受けて、モチベーションの低下に対する対応策を中心に学ぶ。
13	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
14	成人期の発達	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
15	発達のつまずき	発達障がいに関する基礎的事柄について学ぶ。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育の目的達成のために学習指導要領に沿ってどのような教育内容をどのような手順で展開するかということを探究する授業である。教育課程は、広くは教育方法論において展開される領域であるが、教育内容の充実と選択の必要性から、教育課程の独立が成立した。以下のことを中心に授業は実施される。わが国の教育改革の歴史的展開と教育課程、教育課程の意義と目的について。

《テキスト》

広岡義之編著、『新しい教育課程論』、ミネルヴァ書房、2010年

《参考文献》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育課程は何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態をしているのか、学習指導要領における教育課程の意義と特徴との理解等を到達目標とする。また、これらの到達目標を主体的に探究することも到達目標ということができる。

《授業時間外学習》

課題が毎回到提示されるので、予習としてその課題に取り組む必要がある。講義では、テキストの内容をしっかりと予習し、さらに現代の教育的課題と関わることを予想されるので、常日頃新聞を読んだりする必要がある。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加(討議、プレゼンテーション、質疑応答など)50%、小試験50% 授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは、試験の受験資格を失う。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人等のためにあるので、その人たちの妨げになる私語や遅刻はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育課程論オリエンテーション	教育課程論の授業に必要な基本的な視点、学習動機づけ、学習方法、評価などについて説明して、履修学生に履修決意をさせる。
2	教育課程の意義	教育課程の語源や歴史的発展を示し、教育課程成立時のその時代、その社会などについて考察し、教育課程の意義を考察し理解する。
3	学習指導要領と教育課程論	教育課程は、学習指導要領において展開されているので、両者の親密な関係をしっかりと理解する。
4	学習指導要領の変遷とそれぞれの特徴	学習指導要領の変遷は、教育課程にどのような変化と特徴をもたせているか、整理していく過程で学習指導要領が教育課程にいかにかかわるか把握させる。
5	教育課程編成の教育目的・目標	教育基本法・学校教育法・学習指導論などにある教育の目的や目標を考えた得腕、教育課程編成の教育目的・目標について探究する。
6	保育・教育課程の構成	現在求められている保育課程・教育課程を明確にして、編成において何が求められるのかまた、具体的な形態としてどのようなものが考えられ実施されているか理解する。
7	小学校教育課程の構成	小学校教育課程において、どのようなカリキュラムが生まれどのような内容が教授され、何が課題かなどを具体的に探究する。
8	中学校教育課程の編成	中学校教育課程において、カリキュラムの特徴、教育内容、テキストの採択などに関して解説することを通して、何が現在の課題であるか考察する。
9	高等学校教育課程の編成	高等学校教育課程において、どのような目的でどのような内容をどのような手順で実施されているかを客観的に考え、現代の課題を考える力を身につけさせる。
10	教育課程と教育行政(教科書の作成から採択まで)	教育課程は、教育行政と深くかかわっていることを教科書採択などの具体的事例を挙げながら、教育課程の本質を探る能力を養う。
11	総合的学習の時間と教育課程論	総合的な学習の導入のいきさつと発展について、学習指導要領とのかかわりから探究する力をつける。
12	学習指導要領改訂の要点	学習指導要領の改訂に伴ってそれぞれの改訂の特徴が教育課程にどのように反映されているか理解する能力を養成する。
13	教育課程の歴史的展開と教育方法	教育課程の語源や歴史的発展を提示し、教育課程をさらに深く理解する。
14	教育課程における教育方法の諸課題	教育課程と教育方法との関わりから教育課程をより明確に位置付けることを試みる。教育学の成立から教育課程が独立するまでを明確に理解できるようにする。
15	教育課程の現代的課題	教育課程が現代の教職課程において高く評価されることを基本に、今後の教育課程の進むべき方向を探究することを履修学生が主体的に考察できるようにする。

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

新学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する、また実践における実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得をすることを目的とする。そのために、①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて、などを中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解できるようにすることを狙いとする。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(70%)、授業態度(10%)、課題(20%)により評価する。課題は、現在問題になっている出来事を探究する。

《テキスト》

広岡義之の編著 『新しい特別活動論』 創言社 2009年

《参考文献》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートと整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
3	特別活動の歴史	特に戦前の学校教育で実施されていた学校行事などを紹介して、現代の特別活動の意義を明確にする。
4	特別活動と学習指導要領の変遷	戦後特別活動が誕生したいきさつと発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。
5	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説し分析し理解することができるように指導する。
6	特別活動の内容全体に関わる解析	特別活動の内容を全体的な視点から眺め、個々の内容理解のための準備をする。全体の内容の特徴を明確にする。
7	特別活動の内容とその特徴	特別活動における学級活動の位置づけに始まり、学級活動の内容を説明し、その特徴を明確にする。
8	特別活動の内容(ホームルーム活動)とその特徴	特別活動におけるホームルームの位置づけ、ホームルームの内容を解明し、その特徴を理解する。
9	児童会活動と学習指導要領	児童会活動がどのように理解され、その内容をどのように解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことが求められているか明らかにする。
10	生徒会活動と学習指導要領	学習指導要領における生徒会活動の評価、生徒会活動の内容把握と特徴の明確化を試みることによって、生徒会活動の教育課程における評価を考察する。
11	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の説明と、意義を学習指導要領の説明から抽出し、適切な理解を推進する。その行事に関わる危機管理に関しても明確にする。
12	文化的行事について	教科指導との関わりを明確にし、文化的行事の内容と特徴の把握に力を注ぐ。教科指導と特別活動との関連を理解する。
13	健康安全・体育的行事と旅行・集団宿泊的行事	健康安全・体育的行事と集団宿泊的行事との内容と特徴を理解し、その特徴を把握する、その上で、これらの行事の課題について考える。
14	勤労生産・奉仕的行事と特活の指導計画について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を明確にし、ゆとり教育の行事との違いを明確にしてみる。特別指導計画に関してその種類とそれらの特徴、留意点などを論じる。
15	特別活動の指導計画と評価について	特別活動の指導計画をさらに理解度を高め、最終段階の評価について考察してみる。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の系統的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計の系統的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも系統的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

- 自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
- 小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）
- 欠席回数が授業実施回数数の3分の1以上の場合には単位を与えない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	系統的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル — 独学を支援するために』北大路書房。

《参考文献》

稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル — 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
 その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
 復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

『生徒指導の手引』書、『生徒指導提要』と生徒指導に関するテキスト『新しい生徒指導・進路指導』における理論に基づいて、事例研究を分析し、生徒指導の課題を認識し、課題の解決のための探究を展開する。進路指導に関して、必要な資質を持った教員養成が、現在社会に求められていることを十分に意識して、キャリア教育との関わりを明確にしていく。成長と発達との関係から生徒指導について考察する。

《テキスト》

加澤恒雄・広岡義之編著 『新しい生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房 2007年

《参考文献》

文部科学省著 『生徒指導提要』 文部科学省 2011年

《授業の到達目標》

生徒指導を、生徒指導の原理、生徒指導の方法論、学校教育における位置づけなどの理解をする。生徒指導が学校教育にどのような影響を与えることができるか解明する。進路指導の意味と方法論、進路指導に必要な資質を身につける。生徒指導がどのような過程で重視されることになったか、理解できるような能力を身につける。実際に、生徒を指導できる基本的な能力を身につける。

《授業時間外学習》

生徒指導に関わる事例研究に関する著書を収集し、または大学図書館で見つけ、重要と思われる本を読書することが必要である。また、事例研究の機会があればそれらに触れることは言うまでもなく、新聞をはじめマスコミが報道する記事は必ず目を通して、他の履修学生や教職を取っている先輩と生徒指導について話し合うことが必要である。

《成績評価の方法》

講義には積極的に参加(20%)し、課題が出てきたときに必ず探究してレポート提出ないし発表をするよう(20%)に心がけてほしい。定期試験(30%)は必ず受けること、また60%以上の成績を取ることが求められる。グループディスカッションには、積極的な参加が求められる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導に関するオリエンテーション	生徒指導の授業について説明、生徒指導の重要性を解明して教育課程における生徒指導の重要性について考える。
2	生徒指導の原理と目的について	生徒指導の領域の説明と生徒指導の原理と目的について解明する。
3	生徒指導の内容Ⅰ(内容を主として説明)	生徒指導において何をどのような手順で展開するか考える。
4	生徒指導の内容Ⅱ(内容の関わりを解明する)	生徒指導の内容それぞれがどのように関わっているか、有効な関わり方はどうあるべきか考察する。
5	生徒指導の方法	生徒指導の内容にふさわしい方法を考察し、方法をより有効に展開することを考えてみる。
6	生徒指導と新学習指導	生徒指導が新学習指導要領において活用されているか考える。
7	生徒指導と進路指導	生徒指導の中で進路指導がどのように位置づけられているか解釈することを試みる。
8	これからの進路指導	現在求められている生徒指導の現実とこれからの進路指導に求められるであろう者を考えてみる。
9	進路指導とガイダンス	進路指導におけるガイダンスの意義と機能について解明する。
10	青年期と生徒指導	青年期の心理とその発達と生徒指導の意義について考える。
11	青年期の心理的発達論と生徒指導	青年期の心理的発達論を歴史的観点から解明し、それらの理論が生徒指導にどのように生かされているか探究する。
12	生徒理解のさまざまな方法と技術	生徒理解にとって必要な方法と技術について、出来る限り新しいものを紹介する。
13	生徒指導と教育課程	教育課程と生徒指導の関係について明確にし、理解する。
14	進路相談	学校におけるカウンセリングと進路指導について明確にし、教育相談の意義をカウンセリングとの違いを明確にして生徒指導に生かすことを考える。
15	生徒指導の課題とキャリア教育	生徒指導の課題を取り上げ、キャリア教育を展開する際にどのように関わるか考える。

《教職に関する科目》

科目名	教育実習予備演習I				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業は、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようになる。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画
7	模擬授業(1)	例：受講生A
8	模擬授業(2)	例：受講生B
9	模擬授業(3)	例：受講生C
10	模擬授業(4)	例：受講生D
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育
15	本授業の総括	教師の仕事の楽しみ

《教職に関する科目》

科目名	教育実習予備演習Ⅱ				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業はI期の「教育実習予備演習Ⅰ」（岡本）の続きであり、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちへのメッセージ伝達の基本ができるようになる。

《授業時間外学習》

休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

本科目の単位を取得することは、4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	模擬授業準備・講義と作業(1)	担当教員による模範模擬授業
3	模擬授業準備・講義と作業(2)	教材研究ガイド(上級)
4	模擬授業準備・講義と作業(3)	授業のアウトラインづくり(上級)
5	模擬授業準備・講義と作業(4)	教材研究における文献検索(上級)
6	模擬授業準備・講義と作業(5)	板書計画(上級)
7	模擬授業(1)	例：受講生A
8	模擬授業(2)	例：受講生B
9	模擬授業(3)	例：受講生C
10	模擬授業(4)	例：受講生D
11	教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	教師の仕事の深い楽しみ

《総合・キャリア関連科目》

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

- 論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
- 状況に応じて用語を使い分けできる。
- 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
- 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《総合・キャリア関連科目》

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を発展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

- 読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
- 各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
- 口頭発表の資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成できる。

《成績評価の方法》

- 課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。
- 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理（ここまで）のふり返し
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	学習のふり返し

《テキスト》

- 授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
- その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》

- 矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
- 奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。
- その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

《総合・キャリア関連科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、(1)自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。(2)長期に亘るキャリアについて考える。(3)経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

(1) 家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。(2) ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。(3) 生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。(4) 収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 筆記試験 50%
- (2) 課題提出物 30%
- (3) 授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

(1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 (2) 矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 (3) 最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 (4) スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- (1) 次回のプリントを読んでおくこと
- (2) 「読む力」の課題をしておくこと
- (3) 新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- (1) 毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える (1)	生活経営とは何か
2	生活を考える (2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活 (1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活 (2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択 (1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択 (2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択 (3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択 (4)	職業の選択とライフロール (映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論 (1)	職業キャリアからライフキャリアへ (スーパー)
10	キャリア発達理論 (2)	組織におけるキャリア発達 (シャイン)
11	キャリア発達理論 (3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ (克蘭ボルツ)
12	キャリア発達理論 (4)	転機へのアプローチ (シュロスバーグ)、視点の変化 (ハンセン)
13	生涯学習の必要性 (1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性 (1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力 I				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。自らの行動パターンを分析を通し対人折衝能力を高めます。スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》

学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム1単位「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・発言を奨励：40%
 授業中に実施するレポート及び実技試験：60%
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》

プリント資料（講師作成）
 テキストは使用しない

《参考文献》

ホスピタリティの教科書：林田正光 あさひ出版
 あいさつの教科書：挨拶教育研究会 中経出版
 あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク 草思社
 日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の違いの分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識一言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《テキスト》

最新最強のSPIクリア問題集13年版：成美堂出版
プリント資料（講師作成）

《参考文献》

筆記試験の完全攻略
内定ロボット 日経ナビ&就職ガイド編集部

フィンランドメソッド実践ドリル
諸葛正弥 毎日コミュニケーションズ

《授業の到達目標》

本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力一言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40%
筆記試験：60%
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	SPI非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なSPI基礎知識を知る
2	SPI検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・SPI言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	SPI検査対策	SPI言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	SPI検査対策	SPI検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び3級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び2級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだSPI非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にSPI検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書1	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書2	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書3	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《テキスト》

はじめてのビジネスマナー
株式会社 同友館発行 著者 東条文千代

《参考文献》

ビジネス基本ルール120：PHP研究所
日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業の到達目標》

「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40%
筆記試験（記述式）：60%
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身に付ける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する5つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身に付けるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書1	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書2	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本—為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする

平成 22（2010）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度(2010年度)入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授 業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教員免許関係					学 年 配 当 (数 字 は 適 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 4 年 度 の 担 当 者	ペー ジ
										1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 教 育 科 目	経済情報概論	講義	4					4											
	数学基礎	講義	2					2											
	アプリケーションソフト	演習	4			□			4										
	プレゼンテーションA	演習	2						2	2									
	プレゼンテーションB	演習	2						2	2									
	現代経済社会論A	講義	2						2										
	現代経済社会論B	講義	2							2									
	簿記原理I	講義	2			△			2										
	簿記原理II	講義	2			▲				2									
	経済学入門	講義	2				◆			2									
	経済統計	講義	2			▲				2									
	民法	講義	2			▲				2									
	会計学入門	講義	2			△				2									
	情報科学入門	講義	2						2										
	プログラミング入門	講義	2							2									
	コンピュータ基礎論	講義	2			■				2									
	グラフィックス	講義	2			■				2									
	ウェブデザイン	講義	2							2									
	基礎経済数学	講義	2							2									
	基礎情報数学	講義	2								2								
	統計学	講義	2								2								
	社会経済史	講義	2			▲				2									
	コミュニケーション論	講義	2			■				2									
	国際政治学	講義	2				◇			2									
	国際社会論	講義	2								2								
	マスメディア論	講義	2							2									
	比較文化論	講義	2								2								
	インターンシップ	講義	2								2								
	経済情報特論A	講義	2						2										
	経済情報特論B	講義	2							2									
	経済情報特論C	講義	2						2										
経済情報特論D	講義	2							2										
経済情報特論E	講義	2								2									
経済情報特論F	講義	2									2								

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授業 方法	単位数	教員免許関係					学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の 担 当 者	ページ											
				必修		情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年														
				選択	情報				I	II	I	II	I	II	I	II													
専 門 教 育 科 目	経済学	講義	④				◇						4																
	マクロ経済学	講義	④				◇							4															
	経営学総論	講義	④											4												竹川 宏子	241		
	簿記論	演習	④					△						4													三宅 伸二	242	
	金融論	講義	2					▲						2															
	工業簿記	講義	2					▲						2															
	会計学	講義	2					▲						2															
	会社法	講義	2											2															
	財政学Ⅰ	講義	2																										
	財政学Ⅱ	講義	2																										
	産業組織論Ⅰ	講義	2																										
	産業組織論Ⅱ	講義	2																										
	国際経済論Ⅰ	講義	2																										
	国際経済論Ⅱ	講義	2																										
	証券市場論	講義	2																										
	経営戦略論Ⅰ	講義	2																										
	経営戦略論Ⅱ	講義	2																										
	財務管理論Ⅰ	講義	2																										
	財務管理論Ⅱ	講義	2																										
	財務諸表論Ⅰ	講義	2																										
	財務諸表論Ⅱ	講義	2																										
	情報会計論Ⅰ	講義	2																										
	情報会計論Ⅱ	講義	2																										
	労働経済論	講義	2																										
	経済政策	講義	2																										
	職業指導	講義	2																										
	経済ビジネス特論A	講義	2																										
経済ビジネス特論B	講義	2																											
コ ー ス 専 修 科 目	数理論理学	講義	④											4															
	プログラミングⅠ	講義	④					■						4															
	プログラミングⅡ	講義	④					■							4														
	プログラミングⅢ	講義	④					■							4														
	情報システム学	講義	④					■							4														
	オペレーティングシステム	講義	2					■							2														
	情報ネットワーク	講義	2					■							2														
	アルゴリズム	講義	2					■							2														
	情報デザイン	講義	2					■							2														
	情報基礎理論	講義	2					■							2														
	情報セキュリティ	講義	2					■							2														
	データベースⅠ	講義	2					■							2														
	データベースⅡ	講義	2					■																					
	オペレーションズ・リサーチ	講義	2												2														
	情報数学	講義	2												2														
	応用プログラミングA	講義	2																										
	応用プログラミングB	講義	2																										
	オブジェクト指向方法論	講義	2																										
	システム解析	講義	2																										
	情報検索論	講義	2																										
情報法学	講義	2																											
情報管理論	講義	2																											
情報システム特論A	講義	2																											
情報システム特論B	講義	2																											

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教 員 免 許 関 係					学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 4 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択	情 報	商 業	公 民	1 年		2 年		3 年		4 年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
専 門 教 育 科 目	フィールドワーク	演習	④										4							
	地域分析論	講義	④										4							
	人と地域	講義	④										4						金子 哲	278
	地域デザイン論	講義	④										4						瀧本 真一	279
	地域経済論Ⅰ	講義	2			◆							2							
	地域経済論Ⅱ	講義	2			◆							2						瀧本 真一	280
	環境と地理	講義	2										2						[南 埜 猛]	281
	社会調査Ⅰ	講義	2										2							
	社会調査Ⅱ	講義	2										2						[根本 敏行]	282
	社会情報論	講義	2										2							
	ジャーナリズム	講義	2										2		2				[森本 章夫]	283
	社会政策Ⅰ	講義	2			◇							2						(河野 真)	284
	社会政策Ⅱ	講義	2			◆							2		2				(河野 真)	285
	行政学Ⅰ	講義	2										2						木下 準一郎	286
	行政学Ⅱ	講義	2										2						木下 準一郎	287
	環境経済論A	講義	2										2						池本 廣希	288
	環境経済論B	講義	2										2						池本 廣希	289
	情報社会論	講義	2		□								2						[藤田 智博]	290
	いなみ野ため池学	講義	2										2						池本 廣希	291
	いなみ野まちおこし学	講義	2										2						瀧本 真一	292
メディアと政治	講義	2										2						木下 準一郎	293	
地域史	講義	2										2						[岡 陽一郎]	294	
地域デザイン特論A	講義	2										2						[亀田 俊和]	295	
地域デザイン特論B	講義	2										2						[亀田 俊和]	296	

- は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
- △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
- ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※単位数の④はコースにおける必修科目単位

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の担当者	ページ	
									1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教職に関する科目	教職概論	講義	2	□	△	◇	2												
	教育原理	講義	2	□	△	◇	2												
	教育史	講義	2	■	▲	◆						2						岡本 洋之	297
	発達心理学	講義	2	■	▲	◆			2										
	教育心理学	講義	2	□	△	◇		2											
	教育制度論	講義	2	□	△	◇		2											
	教育課程論	講義	2	□	△	◇				2									
	公民科教育法	講義	4	□	△	◇						4						[吉井 直樹]	298, 299
	情報科教育法	講義	4	□	△	◇						4						高野 敦子	300, 301
	商業科教育法	講義	4	□	△	◇						4						[鎌田 志恵雄]	302, 303
	特別活動論	講義	2	□	△	◇				2									
	教育方法・技術論	講義	2	□	△	◇				2									
	教育情報化演習Ⅰ	演習	2	■	▲	◆						2						池本 廣希	304
	教育情報化演習Ⅱ	演習	2	■	▲	◆						2						岡本 洋之	305
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2	□	△	◇				2									
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2	□	△	◇						2						（琴浦 志津）	306
	教育実習予備演習Ⅰ	演習	2	□	△	◇				2									
	教育実習予備演習Ⅱ	演習	2	□	△	◇				2									
	教育実習事前事後指導	講義	1	□	△	◇													
	高等学校教育実習	実習	2	□	△	◇													2
教職実践演習（高）	演習	2	□	△	◇													2	

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係				学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の担当者	ページ	
									1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
総合・キャリア関連科目	日本語表現法	演習	2					②										[野田 直恵]	307
	コンピュータ応用演習	演習	2					②		②		②						（河野 稔）	308
	特別講義	講義	2					②		②		②							
	私のためのキャリア設計	講義	2					②		②		②						[有働 壽恵]	309
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2					②		②		②						[山本 清美]	310
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2					②		②		②						[山本 清美]	311
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2					②		②		②						[山本 清美]	312

※総合・キャリア関連科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

国際化、情報化、少子高齢化がすすむ現代社会にあつて、3, 11の福島原発事故はこれまで経験したことのない段階に入った。このことをエネルギー・食料・環境・ケアの観点から考える。ゼミでは学生と意見交換しながら問題の問題は何なのかを発見し、分析し、解決できる能力を養う。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《授業の到達目標》

①社会に目を開き、現代社会との関わりと帰属意識をもつ ②問題を発見する力を培い、分析・解決する力を養う ③問題を地場から自分の頭で考え、学を立ち上げる意識と力を養う ④卒業研究テーマを発見する

《授業時間外学習》

新聞から気になる記事を収集する。

《成績評価の方法》

コミュニケーション能力 70% 研究テーマ予備発表 30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義科目と演習科目の違いについて説明し、これからの専門演習を迎える心構えについて問いかける。
2	①現代社会の問題について	人口問題について話題提供し、意見交換する。
3	②現代社会問題について	食料問題について話題提供し、意見交換する。
4	③現代社会問題について	エネルギー問題について話題提供し、意見交換する。
5	④現代社会問題について	環境問題について話題提供し、意見交換する。
6	⑤現代社会問題について	福祉問題について話題提供し、意見交換する。
7	⑥地域問題について	地域主権について話題提供し、意見交換する。
8	⑦地域問題について	いなみ野台地のため池灌漑に見られる地域問題について考える。寺田池をフィールドワークする。ため池クイズを用意し、ため池の観察を楽しむ。
9	⑧地域問題について	寺田池を学習教材としていなみ野台地の地域問題を考える。ため池クイズの解答と解説をし、意見交換する。
10	⑨地域問題について	いなみ野台地を走る淡山疏水のビデオを觀賞し、地域問題を考え、問題提起する。
11	⑩地域問題について	いなみ野台地の苦難の歴史を「母里村難恢復史略」から学習し、意見交換する。
12	⑪研究テーマ発表	ゼミ生が研究テーマについて発表し、意見交換する。
13	⑫研究テーマ発表	ゼミ生が研究テーマについて発表し、意見交換する。
14	⑬研究テーマ発表	ゼミ生が研究テーマについて発表し、意見交換する。
15	まとめ	口頭試問

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

現実の経済では、情報化・グローバル化などを背景に様々な変化が生じている。私のゼミでは、現実の経済問題（とくに産業・企業に関わる問題）の中から各自興味あるテーマを選んで卒業論文を作成することを最終目的として勉強する。専門演習 I ではその準備段階として、基礎的な知識を身につけるためにテキストを輪読する。授業はゼミ生の報告に基づいて進める。

《授業の到達目標》

- ・経済学の基礎理論を理解し、経済学的考え方を身につける。
- ・経済理論が現実の経済問題を考える際にどのように応用できるのかを考える。
- ・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
- ・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
- ・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢30%、報告内容20%、レポート50%とする。
- ・出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合、レポート未提出の場合には、単位を与えないので注意すること。

《テキスト》

伊藤元重著『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004年。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
- ・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

- ・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたい。
- ・レポートについては卒業論文作成に備えて添削指導を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 テキストの内容の紹介	ゼミの進め方、受講上の注意、テキストの内容について説明する。
2	レジュメの作り方 (1)	第4週目以降の報告者の割り当てを行う。 レジュメの作り方を説明する。実際に作成してみよう。
3	レジュメの作り方 (2)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察する。 レジュメを実際に作成してみよう。
4	価格戦略と儲けの仕組み (1)	さまざまな価格戦略について経済学の考え方に基づいて考察する。 ※この週からゼミ生の報告に基づいて授業を進める
5	価格戦略と儲けの仕組み (2)	さまざまな価格戦略について経済学の考え方に基づいて考察する。
6	価格からビジネスの構造が見える	流通のメカニズムについて考察する。
7	市場メカニズムを活用する (1)	市場経済の特徴、計画経済の特徴と問題点について考察する。
8	市場メカニズムを活用する (2)	市場原理による調整のメカニズム、組織原理による調整のメカニズムについて考察する。
9	エージェンシーの理論 (1) レポートの準備 (1)	さまざまな給与体系を比較検討し、「インセンティブ」の与え方について考察する。 【レポート作成に向けて】レポートのテーマを決める
10	エージェンシーの理論 (2) レポートの準備 (2)	告発のメカニズム、退出のメカニズムを活用した組織運営について考察する。 【レポート作成に向けて】構成を考える
11	ビジネスはゲームだ (1) レポートの準備 (3)	ゲームの理論を用いて、企業戦略について考察する。 【レポート作成に向けて】資料・文献の収集、情報の検索
12	ビジネスはゲームだ (2) レポート作成	ゲーム理論を用いて、企業買収、オークションなどの企業戦略について考察する。 【レポート作成】各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
13	レポート作成	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
14	レポートの報告会	各自のレポートの内容について報告する。 レポートの提出
15	学習のまとめ	前回提出したレポートを添削して返却する。 指摘された箇所について手直しし、レポートを完成させよう。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

経済学の再入門。

《テキスト》

高本茂『初歩の経済学』（幻冬舎ルネッサンス）
 中谷巖『マクロ経済学入門』（日経新聞社）

《参考文献》

大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』（中経出版）
 大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』（中経出版）

《授業の到達目標》

経済学をもう一度初歩から学び直す。

《授業時間外学習》

新聞の経済記事をよく読むこと。

《成績評価の方法》

日頃の学習態度（100%）をもって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	高本茂『初歩の経済学』	第1章「現代の経済社会の歴史的位置」
2	高本茂『初歩の経済学』	第2章「市場機構と価格」
3	高本茂『初歩の経済学』	第3章「現代の企業」
4	高本茂『初歩の経済学』	第4章「国民経済と国民所得」
5	高本茂『初歩の経済学』	第5章「財政政策とその必要性」
6	高本茂『初歩の経済学』	第6章「貨幣と金融」（1）
7	高本茂『初歩の経済学』	第6章「貨幣と金融」（2）
8	高本茂『初歩の経済学』	第7章「国際経済」
9	高本茂『初歩の経済学』	第8章「戦後日本経済の歩み」
10	中谷巖『マクロ経済学入門』	第1章 マクロ経済学とは何だろうか
11	中谷巖『マクロ経済学入門』	第2章 GDPを理解する
12	中谷巖『マクロ経済学入門』	第3章 消費や投資の決まり方
13	中谷巖『マクロ経済学入門』	第4章 所得水準の決まり方
14	中谷巖『マクロ経済学入門』	第5章 利率の決まり方
15	中谷巖『マクロ経済学入門』	第6章 IS-LM分析

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

1. 適切な文献を読みます。
2. 地域問題に関する新聞記事や図書・資料を読み、解説します。
3. 調査・研究の方法論を学びます。
4. 実態調査や取材によって現状を学びます。
5. 各自の研究課題を探っていきます。

《授業の到達目標》

これまでに学んできたことを基礎として、専門演習I・IIを通して地域問題・地域づくり・まちづくりの実態を調査・研究します。その中から各自の研究課題を探り、卒業演習I・IIの中で、卒業研究として完成させる準備を備えます。

《成績評価の方法》

発表(40%)、レポート(60%)で評価します。

《テキスト》

輪読文献を諸君と相談して決定します。さらに、必要に応じてプリントや資料を配布します。新聞記事・図書も利用します。

《参考文献》

1. 適宜、紹介しますが、自分で芋づる的に探す能力を身につけることも必要です。
2. 『地域再生の条件』本間義人、岩波書店・岩波新書1059、2007年

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、アンテナを広く掲げて日常的に接する情報から、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業計画の説明。輪読文献の決定。成績評価の方法説明。全体の進行状況を見て進めますので各回の詳細は設定しませんが、おおよそ次の予定にそって進めます。
2	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
3	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
4	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
5	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
6	現場レポート作成の準備	現地調査の事前学習をおこないます。現地調査の詳細は諸君達と相談します。
7	現地調査	
8	現場レポートの作成	現地調査の結果を諸君達の視点からレポートを作成します。
9	レポートの発表	作成したレポートを発表し、全員で議論します。
10	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
11	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
12	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
13	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
14	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
15	学習のまとめ	専門演習Iを通して学んだことを発表します。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	三宅伸二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

簿記の基本概念を説明した後、主に、演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。2級合格後は、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」に向けた勉強に進みます。最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に指示・紹介します。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級合格をめざします。

《授業時間外学習》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。3級に合格するには、毎日少なくとも1時間の家庭学習が必要です。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。毎日30分の家庭学習が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記上の取引と仕訳	簿記上の取引の意義 仕訳の原理
2	仕訳と勘定への転記	仕訳から勘定記入へ
3	勘定の締切と試算表	締切の意味と方法（大陸式と英米式） 試算表の意義と作成方法
4	6桁精算表	精算表の意義と作成方法
5	商品売買1	商品売買の基本的処理 分記法による処理
6	商品売買2	付随費用、返品・値引きを伴う商品売買 三分法による処理
7	現金	簿記上の現金の種類と処理方法 現金過不足の処理
8	当座預金	当座預金の意義と基本的な処理 当座借越の処理
9	手形1	手形の意義と約束手形の処理
10	手形2	為替手形の意義と処理 裏書手形、手形借入・手形貸付
11	貸付金・借入金 未収金・未払金	基本的な処理と利息計算
12	前払金・前受金	予約販売の処理
13	仮払金・仮受金	基本的な処理と利息計算
14	立替金・預り金 商品券	自店発行商品券、他店発行の商品券の処理
15	固定資産の処理	固定資産の購入と減価償却 固定資産の売却

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

立体造形の設計と制作を行います。授業では次のような演習を行い、ものを見る目と表現力のトレーニングをします。

- 3次元CGソフトを利用した立体形状のモデリング。
- コンピュータ上で設計した形状を、実際に紙を使って組み立てる。
- コンピュータ上での形状とペーパークラフトとの比較。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

- 立体形状の理解
- 3次元CGソフトの利用
- 文による表現と図を使った表現の違い

《成績評価の方法》

作品(70%)、レポート(30%)

《テキスト》

なし
資料は学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》

<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。
作品制作

《備考》

メールやWebページを使って資料配布などを行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の目的	過去の作品の紹介、授業全体の進行の説明
2	3DCG	3次元CGソフトの使い方
3	立体形状	モデリングとレンダリング
4	複雑な形状	複雑な形状を作るには
5	単一の形状	1つの部品でできる形状
6	立体と展開図	展開図を作る
7	形の確認	3次元CGで設計した形を実際に組み立ててみる
8	作品の企画	デッサン、計画
9	形状作成	計画にしたがってモデリングを行う
10	評価	試作品の評価
11	記述	評価、修正内容などを記述する
12	解説	作り方を説明する
13	連携	複数のソフトの連携
14	展開図と立体	展開図と立体との対応を考える
15	作品完成	作品を完成させる

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本演習では地域社会と地域メディアとの関係について学ぶ。授業は個人・グループによる発表・討論によって進める。

《テキスト》

『地域メディアを学ぶ人のために』
田村紀雄編、世界思想社、2003

《参考文献》

必要に応じて参考文献を指定する。

《授業の到達目標》

多様な地域の個性を作り出し同時に人々の地域アイデンティティを確立する地域メディアの意義について理解できる。

《授業時間外学習》

教科書の指定された箇所、あるいは指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《成績評価の方法》

授業中の報告（70%）と討論（30%）により評価する。
授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室（1W-112）を訪れてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方および成績評価に関する説明
2	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（1）
3	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（2）
4	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（3）
5	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（4）
6	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（5）
7	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（6）
8	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（7）
9	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（8）
10	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（9）
11	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（10）
12	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（11）
13	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（12）
14	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（13）
15	学習のまとめ	演習の総括と今後の課題について

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	高野敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用 ○ 2-1 問題発見力・分析力			

《授業の概要》

私たちの生活や社会の構造に影響を与える新しい情報技術の仕組みや問題点を学び、オリジナルな活用方法を提案します。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考文献》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《授業の到達目標》

経済情報学部における情報関連の授業での学びが実際の社会や暮らしとどのように関連しているかを知ることができます。また、(2)情報技術をユーザの目で見、活用方法を提案するための力をつけることができます。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

学期中に提出する課題が評価の100%です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報とは(1)	経済情報学部で経済と情報をバランスよく学ぶことの意味を考える。
2	情報とは(2)	ライフゲームを通じて、セルオートマトンについて学ぶ。
3	ヒューマンインターフェース	ユーザインターフェースを通して使いやすい情報システムについて考える。
4	アプリケーション	WORDを例としてアプリケーションの使いやすさについて考える。
5	コンピュータと人間の仕事	コンピュータの発達によって人間の仕事がどのように変わってきたかを考える。
6	情報の表現技術とマルチメディア	情報のデジタル化によって、表現方法やメディアがどのように変わってきたかについて学ぶ。
7	情報の表現技術とセキュリティ	情報ハイディングと暗号の仕組みについて学ぶ。
8	ネットワークとファイルシステム	ネットワークの基礎を学び、ネットワークとしてのファイルシステムを理解する。
9	ネットワークとインターネット	ネットワークの基礎を学び、ネットワークとしてのインターネットを理解する。
10	WWWの仕組み	Webページを見る仕組みを理解する。HTML5について学ぶ。
11	HTML 5 (1)	HTML5を使ったWebページの作成実習
12	HTML 5 (2)	HTML5を使ったWebページの作成実習
13	JavaScript	JavaScriptを使ったWebページの作成実習
14	ITを巡る時事問題(1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
15	ITを巡る時事問題(2)	プレゼンテーション実習。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

主として日本文化に関係する研究を行います。各自が興味を持っている対象を課題として設定し、その自主的探求を行います。データー、参考文献・論文の検索方法を積極的にサポートします。各種分析方法に関しても、随時適切な方法論を示していきます。演習全体で統一的に学習をすすめるのではなく、個別の研究をサポートします。

《テキスト》

なし

《参考文献》

各自にあった参考文献を随時紹介します。

《授業の到達目標》

第一の目標は、各自が強い関心を有している対象に関する知見を大きくすることです。爾後、一生をかけて考えていくシード（種）となります。第二の目標は、適切な思考方法論を探求し、論理的思考をする力、のシード（種）を獲得することです。一生をかけて、大木としていきましょう。第三の目標は、適切なデーター、参考資料を検索する力、の第一歩を踏み出すことです。一生をかけて磨き上げていきましょう。

《授業時間外学習》

常にテーマに関して思索するようにしてください。すると、日常生活で会う様々な情報が、そのテーマと関連を有していることに気づくはずですが。そうしましたら、即、調べましょう。大学で、自宅で、ちょっとした空き時間に、テーマに関して調べ、思索してください。

《成績評価の方法》

学期末に提出するレポートが40パーセントです。演習内での討議など、演習への参加度が40パーセントです。提出したレポートに関して、口頭試問を行います。この口頭試問が20パーセントです。

《備考》

ジャンク（屑）なネタも大歓迎です。研究内容によってはフィールドワークも行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	自己紹介 研究テーマの相談
2	テーマの探求 1	研究テーマの整理 1 先行研究収集に関する方法論
3	テーマの探求 2	研究テーマの整理 2 各種情報収集に関する方法論
4	テーマの探求 3	研究テーマの切り口
5	論文の読解 1	収集した論文の読解方法 1
6	論文の読解 2	収集した論文の読解方法 2
7	論文の読解 3	収集した論文の読解方法 3
8	中間総括 1	中間的な成果の整理
9	中間総括 2	中間的成果の発表
10	突破点の探求 1	論点整理 情報の統合
11	突破点の探求 2	新たな切り口 新たな方法論
12	突破点の探求 3	先行研究の再探求
13	総括 1	討論 1
14	総括 2	討論 2
15	おわりに	全体総括 研究成果要旨の発表

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習I				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本ゼミでは、モノ(形ある服装や道具など)やコト(無形の行事や儀礼など)を通じて、私たちの日常生活の深層を読み解く。たとえばもとは男子の服装だったセーラー服は、日本に入ると女学生の服装の定番に変わり、今ではアニメや漫画を通じて世界に発信されている。

世界史的な広がりの中で、日本の特徴を考えたい。時期は主に近現代を扱う。

《授業の到達目標》

本ゼミは、「教育から私たちの生活を考えるーモノとコトを中心の一」のテーマで、文化史の方面から私たちの生活を見つめなおす能力を身につけることを期す。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。演習科目であるので、詳細は受講生と協議して決める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方の説明と協議
2	セーラー服(1)	国際服飾学会における論文の検討
3	セーラー服(2)	セーラー服の襟の形状の多様性
4	セーラー服(3)	セーラー服の襟の形の地理的分布
5	セーラー服(4)	セーラー服の襟の形の地理的分布に隠された、日本人の外来文化への態度(国際学会での議論をもとに)
6	ケガレ(1)	日本人の外来文化への態度に見る、ケガレ観(文科省の科学研究費を受けた研究成果をもとに)
7	ケガレ(2)	ケガレから、差別の多重構造を考える(国際学会での議論をもとに)
8	女子の学校制服(1)	女子の学校制服のいろいろ
9	女子の学校制服(2)	女子の学校制服から、スクール・アイデンティティを考える(教育史学会における研究論文をもとに)
10	女子の学校制服(3)	女子の学校制服における、スカートのヒダ(文科省の科学研究費を受けた研究成果をもとに)
11	女子の学校制服(4)	女子の学校制服におけるスカートのヒダから、スクール・アイデンティティを論ず(長崎県教育史を例に)
12	サブカルチャーとセーラー服(1)	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服
13	サブカルチャーとセーラー服(2)	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から、文化の海外発信を考える
14	サブカルチャーとセーラー服(3)	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から、日本における文化発信の特徴を考える
15	本演習の総括	文化の深層を探る意味

《テキスト》

授業中に適宜プリント等を配布する。

《参考文献》

宅間紘一『新版初めての論文作成術一問うことは生きること一』(日中出版)2003年

《授業時間外学習》

演習であるので、当然自分で文献を調べ、適宜フィールドワークを行う必要がある。

《備考》

本授業シラバス、とくに「授業計画」はあくまで見本である。教育学のイロハである「個に応じた教育」を実践するため、実際には受講生の関心をふまえて進める。

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

専門演習 I ではもっとも身近なコンピュータネットワーク技術であるWWWの仕組みやページの記述方法などについて説明し、実際にウェブページを作成します。さらに php というプログラム言語を使い、ユーザーの操作によって変化するウェブページの作成を行います。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではウェブの仕組みを学習し、そのウェブ上で動作する開発言語であるphpの基礎を身に付ける。またそのphpとHTMLの構成要素との関係を学び、ウェブ上で動作する簡単なゲームを作成する。さらに、データベース操作言語SQLの基礎について説明し、データベースを活用したウェブページの作成についても身に付ける。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません。毎回予習として自分が作るようとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください。また、授業内で作ったプログラムを振り返り、様々な課題に応用して復習するようにしてください。

《成績評価の方法》

数回の課題プログラム（60%）とレポート（40%）を元に採点します。

《備考》

コンピュータの使い方は教えますが、それで何をするかは皆さん自身に考えてほしいと思います。自分が本当に興味を持っているものは何なのかと常に考えるよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンスとphpの基礎について	htmlとphpの関係とLinuxサーバーの基本的な利用法について説明する。
2	phpの基本命令	phpでの変数の取り扱いや制御文について説明する。
3	フォームとphpの連携	ウェブ上の入力欄に入力された内容がphpでどのように取り扱われるのかを説明する。
4	ファイルへの書き込みについて	ウェブ上で入力された情報をファイルに記録するための取り扱いについて説明する。
5	ファイルからの読み込みと簡単なデータ処理	ファイルに記録された情報を取り出して表示する方法や、簡単な集計方法について説明する。
6	簡易掲示板の作成	データファイルとウェブページを連携させ、簡単な掲示板を作成する。
7	cookieの活用	ウェブ上でデータ保存に利用されるcookieについて説明する。
8	応用課題	今までの復習として、ウェブ上で動作するゲームを作成する。
9	応用課題	今までの復習として、ウェブ上で動作するゲームを作成する。
10	応用課題	今までの復習として、ウェブ上で動作するゲームを作成する。
11	Oracleの利用について	データベースサーバーの基本的な操作とphpとの連携について説明する。
12	データベース基礎	ウェブ上の入力欄に入力された値をもとに、条件に合ったデータだけを取り出して表示する方法について説明する。
13	データベース基礎	データベースに対してウェブ上からデータを登録する方法について説明する。
14	データベース基礎	データベースに登録されたデータを集計し、その結果を表示する方法について説明する。
15	応用課題	まとめと復習

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input checked="" type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

プロジェクトによるゼミのウェブページ作成を通じて、情報システムの企画から開発までを体験し、実践技術やプロジェクトの進め方などIT実務に必要な技術を習得します。

- ・設計書や報告書などさまざまな文書（ドキュメント）を作成
- ・プロジェクトを問題なく進める
- ・納期を守る ・想定される問題（リスク）を考え予防策をとる
- ・システムの問題を解決する

《授業の到達目標》

- ・プロジェクトによるシステム開発方法が説明できる。
- ・各種ドキュメントが正しく作成できる。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

事後学習

- ・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《成績評価の方法》

平常の取り組み(50%)、開発成果(50%)で評価する。

特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

《備考》

文書はすべてパソコンを使った電子文書で作成、プロジェクト内コミュニケーションは電子メールで行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	専門演習の内容説明
2	ソフトウェア開発方法	プロジェクトの結成, ウェブサイト開発方法の説明
3	ソフトウェア企画	基本計画
4	ソフトウェア要求定義	要求定義
5	ソフトウェア設計	ウェブページ構成・設計
6	ソフトウェア設計	ウェブページ構成・設計
7	ソフトウェア設計	ウェブページ内詳細設計
8	ソフトウェア設計	ウェブページ内詳細設計
9	ソフトウェア実装、テスト	ウェブページ作成・単体テスト
10	ソフトウェア実装、テスト	ウェブページ作成・単体テスト
11	ソフトウェア実装、テスト	ウェブページ作成・単体テスト
12	ソフトウェア実装、テスト	ウェブページ作成・単体テスト
13	ソフトウェアテスト	ウェブ結合・総合テスト
14	ソフトウェアテスト	ウェブ結合・総合テスト
15	総括	ウェブ公開・運用 まとめと報告

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

第1に経営学の基本書（テキスト）を輪読し、各自まとめを作り報告すること、第2に新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解すること。第3に企業に関連する時事問題を適宜取り上げて議論することである。

《テキスト》

『やさしい経営学』海野博・所伸之、創成社、2007

《参考文献》

《授業の到達目標》

- 経営学の基本書を読んでまとめを作成し、関連資料を収集し、報告ができるようになる。
- 企業の事例研究の方法を理解することができる。
- 企業と社会について学び、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《授業時間外学習》

1. 予習の方法：報告担当者の予習は、テキストのまとめの作成。報告担当者以外の予習は、該当箇所のテキストを読んで、質問を考えてくること。
2. 復習の方法：授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを次の回までに調べてくること。

《成績評価の方法》

1. 平常点（テキストのまとめ作成と報告）を70%
2. 質疑応答などディスカッションに対する積極性を20%
3. 事例研究に関するレポートその他課題の提出を10%として評価する。

《備考》

無断欠席、遅刻はいっさい認めない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の概要と進め方	経営学の学び方、学ぶ意義について学習する。
2	テキストの輪読、ディスカッション	会社の種類について学ぶ。
3	テキストの輪読、ディスカッション	株式会社の特徴について学ぶ。
4	テキストの輪読、ディスカッション	専門経営者について学ぶ。
5	テキストの輪読、ディスカッション	経営者の役割と責任について学ぶ。
6	事例研究①	企業の戦略について具体的な事例を検討する。
7	テキストの輪読、ディスカッション	経営戦略の概念について学ぶ。
8	テキストの輪読、ディスカッション	企業環境分析について学ぶ。
9	テキストの輪読、ディスカッション	成長戦略について学ぶ。
10	テキストの輪読、ディスカッション	競争戦略について学ぶ。
11	事例研究②	企業の戦略について具体的な事例を検討する。
12	テキストの輪読、ディスカッション	機能別戦略について学ぶ。
13	テキストの輪読、ディスカッション	経営組織について学ぶ。
14	テキストの輪読、ディスカッション	組織の管理原則について学ぶ。
15	テキストの輪読、ディスカッション	人的資源管理の概要について学ぶ。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習 I				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本科目は、財務会計に関する基礎知識を取り扱う。
 テキストを順次読み解いて行く。受講生に担当範囲を割り当てますので、レジュメを作成し、報告してもらう。

《テキスト》

後ほど案内する

《参考文献》

適時紹介する

《授業の到達目標》

1. 財務会計に関する基礎知識の取得
2. 具体的な企業の「もうけのからくり」を把握できる力を養う
3. 就職先の選択時に思考力を養う

《授業時間外学習》

大学での演習科目の位置付けを確認し、進んで自学自習に努めることを希望する。
 発表時の資料準備だけでなく、他の学生が発表した内容について議論できるように
 発表以外の平時においても積極的に課題を探求してほしい。

《成績評価の方法》

毎回の出席態度を前提として、報告状況、議論への参加と貢献度、課題の提出内容を総合的に評価する（100％）。

《備考》

受講生の希望によるが、ゼミコンパやイベント事もあり得る。
 ゼミ生からの「事業企画書」を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。受講生各自に演習課題を割当てる。
2	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
3	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
4	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
5	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
6	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
7	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
8	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
9	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
10	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
11	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
12	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
13	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習I				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

研究のための環境の構築・整備と研究テーマの設定、進め方の基礎を学びます。

《テキスト》

奥村晴彦著, 『改訂第5版 LaTeX2e 美文書作成入門』, 技術評論社, ¥3,339.-

《参考文献》

Alan W. Biermann著, 和田英一監訳, 『やさしいコンピュータ科学』, アスキー・メディアワークス, ¥4,893.-
 砂原秀樹, 石井秀治, 植原啓介, 林周志著, 『改訂版プロフェッショナルBSD』, ASCII, ¥2,940.-
 その他の参考文献に関しては必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

研究環境であるUnixサーバの構築および整備を第一の目標とし、各自がUnixサーバを活用できることが必要です。
 また、研究の進捗状況報告や論文作成のための文書組版のためのLaTeX2eの理解と活用も必要です。
 また、並行して各自の研究テーマの設定や調査などに必要となるスキルや考え方の獲得も目標とします。

《授業時間外学習》

課題、演習および研究に必要な活動に関しては授業時間外で対応して下さい。

《成績評価の方法》

基礎課題(50%), 研究テーマに関わる課題(40%), 平常点(10%)として判定し評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要	
2	計算機構成の基礎(1)	研究のための準備としての基礎知識 (ハードウェア構成)
3	計算機構成の基礎(2)	研究のための準備としての基礎知識 (データ紛失を防ぐ)
4	Unix の基礎	研究のための準備としての基礎知識 (計算機利用環境の基礎知識)
5	ネットワークの基礎	研究のための準備としての基礎知識 (コンピュータ・ネットワーク)
6	研究用環境の構築(1)	研究のための準備 (研究サーバでの個人設定)
7	研究用環境の構築(2)	研究のための準備 (研究サーバでの個人設定)
8	文書組版の基礎(1)	文書作成のための LaTeX の基礎知識
9	文書組版の基礎(2)	文書作成のための LaTeX の基礎知識
10	文書組版の基礎(3)	文書作成のための LaTeX の基礎知識
11	研究テーマの調査(1)	Webブラウザ等によるテーマ決定のための調査資料作成等
12	研究テーマの調査(2)	Webブラウザ等によるテーマ決定のための調査資料作成等
13	研究テーマの調査(3)	Webブラウザ等によるテーマ決定のための調査資料作成等
14	研究テーマの調査発表	テーマ決定のための調査報告
15	まとめ	その他補足およびまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

専門演習Ⅰの後修科目として位置づけ、専門演習Ⅱではテキストを用意し、ゼミ学生にレジメを課して演習を行う。

《テキスト》

富山和子著『環境問題とは何か』PHP新書

《参考文献》

なし

《授業の到達目標》

①読書力と文章理解力が向上する。②発表の要点をまとめ、プレゼンテーション能力が鍛えられる。③「逆も真なり」の教えから主体的に物事を考える能力が身に着く。④主体的な卒業研究に着手できる。

《授業時間外学習》

テーマ研究の準備

《成績評価の方法》

コミュニケーション能力 30% レジメ発表 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	専門演習Ⅰから専門演習Ⅱに向けて、説明する。
2	「環境問題とは何か」を読む一	富山和子著「環境問題とは何か」をテキストにしてゼミ生のレジメに沿って意見交換をしながら読み説いていく。第1章
3	「環境問題とは何か」を読む二	第2章
4	「環境問題とは何か」を読む三	第3章
5	「環境問題とは何か」を読む四	第4章
6	「環境問題とは何か」を読む五	第5章
7	「環境問題とは何か」を読む六	第6章
8	中間のまとめ	卒業研究テーマとテキストで学んだことについて意見交換
9	「環境問題とは何か」を読む七	第7章
10	「環境問題とは何か」を読む八	第8章
11	「環境問題とは何か」を読む九	第9章
12	テーマ研究の準備Ⅰ	卒業研究の予備的研究発表①
13	テーマ研究の準備Ⅱ	卒業研究の予備的研究発表②
14	テーマ研究の準備Ⅲ	卒業研究の予備的研究発表③
15	まとめ	口頭試問

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

日本の産業・企業は、経済のグローバル化や情報化などを背景にさまざまな課題に直面している。この授業では、専門演習Ⅰに引き続いて、テキストを輪読しながら、現実産業や企業行動を分析するための基礎理論を学ぶとともに、日本経済・産業・企業の現状と課題について検討する。専門演習Ⅰと同様に、学生の報告に基づいて授業を進める。

《テキスト》

伊藤元重著『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004年。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・現実の経済問題について経済学の基礎理論を用いて考察できるようにする。
- ・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
- ・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
- ・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《授業時間外学習》

- ・事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
- ・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《成績評価の方法》

- ・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢30%、報告内容20%、レポート50%とする。
- ・出席率が70%に満たない場合、報告を行わなかった場合、レポート未提出の場合には、単位を与えないので注意すること。

《備考》

- ・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたい。
- ・レポートについては卒業論文作成に備えて添削指導を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 資料を読んで考える(1)	ゼミの進め方、受講上の注意について説明する。 経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
2	資料を読んで考える(2)	第4週目以降の報告者の割り当てを行う。 経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
3	資料を読んで考える(3)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。
4	経済学で競争戦略を解剖する(1)	マイケル・ポーターの競争戦略論について考察する。 ※この週からゼミ生の報告に基づいて授業を進める
5	経済学で競争戦略を解剖する(2)	戦略的ポジショニング、さまざまな企業戦略について考察する。
6	デジタル革命は何を変えたか(1)	情報技術革命の意味について考える。
7	デジタル革命は何を変えたか(2)	情報技術を活用したビジネスについて考察する。
8	ビジネスは世界に広がる(1)	貿易、直接投資、技術移転など、グローバル時代のビジネスについて考察する。
9	ビジネスは世界に広がる(2)	為替レートの変動がビジネスに与える影響について考察する。 【レポート作成に向けて】レポートのテーマを決める
10	ビジネス環境は変わり続ける	近年の日本経済の動きを振り返り、経済・ビジネスの動向について考察する。 【レポート作成に向けて】構成を考える
11	資料を読んで考える(4) レポートの準備(3)	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。 【レポート作成に向けて】資料・文献の収集、情報の検索
12	資料を読んで考える(5) レポート作成	経済・ビジネスに関する資料を読んで考察し、議論する。 【レポート作成】各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
13	レポート作成	各自のテーマに基づいてレポートを作成する。
14	レポートの報告会	各自のレポートの内容について報告する。 レポートの提出
15	学習のまとめ	前回提出したレポートを添削して返却する。 指摘された箇所について手直しし、レポートを完成させよう。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

経済学の再入門

《テキスト》

中谷巖『マクロ経済学入門』
本多拓三『はじめての金融』

《参考文献》

大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』（中経出版）
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』（中経出版）

《授業の到達目標》

経済学をもう一度初歩から学び直し、最終的には、日経新聞を読みこなす実力を身につける。

《授業時間外学習》

日本経済新聞をよく読みなさい。

《成績評価の方法》

日頃の学習態度(100%)をもって評価する。

《備考》

日経新聞を読みこなす実力を身につけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	中谷巖『マクロ経済学入門』（続き）	第7章 所得と物価水準の決まり方
2	中谷巖『マクロ経済学入門』	第8章 インフレとデフレ
3	中谷巖『マクロ経済学入門』	第9章 より進んだ消費と投資の理論
4	本多拓三『はじめての金融』	第1章 サブプライム・ローン問題から世界同時不況へ
5	本多拓三『はじめての金融』	第2章 貨幣
6	本多拓三『はじめての金融』	第3章 金融制度の変遷
7	本多拓三『はじめての金融』	第4章 金融市場
8	本多拓三『はじめての金融』	第5章 債券市場
9	本多拓三『はじめての金融』	第6章 資本市場
10	本多拓三『はじめての金融』	第7章 日本銀行と金融政策
11	本多拓三『はじめての金融』	第8章 貨幣の供給
12	本多拓三『はじめての金融』	第9章 マクロ経済の基本概念
13	本多拓三『はじめての金融』	第10章 国民所得の決定
14	本多拓三『はじめての金融』	第11章 IS-LM分析
15	本多拓三『はじめての金融』	第12章 外国為替レートと金融

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

1. 適切な文献を読みます。
2. 地域問題に関する新聞記事や図書・資料を読み、解説します。
3. 調査・研究の方法論を学びます。
4. 実態調査や取材によって現状を学びます。
5. 各自の研究課題を探っていきます。

《授業の到達目標》

これまでに学んできたことを基礎として、専門演習Ⅰ・Ⅱを通して地域問題・地域づくり・まちづくりの実態を調査・研究します。その中から各自の研究課題を探り、卒業演習Ⅰ・Ⅱの中で、卒業研究として完成させる準備を備えます。

《テキスト》

輪読文献を諸君と相談して決定します。さらに、必要に応じてプリントや資料を配布します。新聞記事・図書も利用します。

《参考文献》

1. 適宜、紹介しますが、自分で萃づる的に探す能力を身につけることも必要です。
2. 『地域再生の条件』本間義人、岩波書店・岩波新書1059、2007年

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、アンテナを広く掲げて日常的に接する情報から、地域問題に関しての知識を深めてください。

《成績評価の方法》

発表(40%)、レポート(60%)で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業計画の説明。輪読文献の決定。成績評価の方法説明。全体の進行状況を見て進めますので各回の詳細は設定しませんが、おおよそ次の予定にそって進めます。
2	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
3	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
4	文献の読破と発表	指定された発表者が担当部分を作成したレジュメにそって解説し全員で議論します。
5	現場レポート作成の準備	現地調査の事前学習をおこないます。現地調査の詳細は諸君達と相談します。
6	現地調査	
7	現場レポートの作成	現地調査の結果を諸君達の視点からレポートを作成します。
8	レポートの発表	作成したレポートを発表し、全員で議論します。
9	テーマの設定	卒業研究のテーマを探ります。
10	テーマの設定	卒業研究のテーマを探ります。
11	テーマの設定	卒業研究のテーマを探ります。
12	テーマの予備調査と研究	卒業研究のテーマに関して予備調査と研究を行います。
13	テーマの予備調査と研究	卒業研究のテーマに関して予備調査と研究を行います。
14	テーマの予備調査と研究	卒業研究のテーマに関して予備調査と研究を行います。
15	学習のまとめ	専門演習Ⅱを通して学んだことを発表します。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

主に、演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。2級合格後は、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」に向けた勉強に進みます。最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に指示、紹介します。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級を目指します。

《授業時間外学習》

日商3級合格には連続した学習時間約40時間が必要です。家庭学習の習慣を付けてください。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

税理士、公認会計士、国税専門官など職業会計人を目指すためのワンステップになればと考えています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	有価証券	有価証券の売買の処理
2	資本と引出金	個人資本と引出金の処理
3	試算表	試算表の作成に係る総合問題の演習
4	精算表の作成	試算表から精算表作成に至る手続き
5	決算整理1	有価証券の評価 現金過不足の処理
6	決算整理2	消耗品の処理 売上原価の計算と処理
7	決算整理3	貸倒の処理と貸倒引当金の設定（差額補充法）
8	決算整理4	固定資産の減価償却
9	決算整理5	費用・収益の見越し・繰延の処理
10	決算整理6	費用・収益の再振替処理
11	決算整理7	決算手続きの総合演習
12	簿記における訂正	簿記における訂正処理の意義と方法
13	8桁精算表	8桁精算表作成に係る総合問題の演習
14	勘定の締切と財務諸表の作成	勘定の締切と費用・収益勘定の集合 損益勘定から資本金勘定への振替と資本金勘定の締切
15	伝票会計	伝票会計の処理方法 3伝票制、5伝票制

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

ペーパークラフトの設計と制作、および展示を行います。授業では次のような演習を行い、ものを見る目と表現力のトレーニングをし、人に伝える方法について考えます。
 コンピュータを利用したペーパークラフトの設計。
 ペーパークラフト作品の仕様書の記述。
 大学祭での展示の企画と実施。

《テキスト》

なし
 資料は学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》

<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

各種グラフィックソフトの連携
 いろいろなメディアを用いた表現

複数の工程からなる製作における問題点を発見できる。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。
 作品制作

《成績評価の方法》

作品(70%)、レポート(30%)

《備考》

メールやWebページを使って資料配布などを行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	企画	大学祭の展示の企画を行う
2	展示計画	配置、準備物など展示に必要な計画
3	デザイン	作品のデザインを行う
4	仕様	作品の仕様を記述する
5	制作	仕様にしたがって作品の制作を行う
6	作品の評価	作品の評価を行う
7	良い作品とは	良い作品とはなにか考える
8	説明	はじめての人のために作り方を記述する
9	評価	作業工程の評価を行い、問題点を発見する
10	モデリングの工夫	モデリング工程における問題点の解決
11	展開時の工夫	展開工程における問題点の解決
12	着色時の工夫	着色工程における問題点の解決
13	組み立て時の工夫	組み立て工程における問題点の解決
14	問題点の分類	発見した問題点を分類する
15	問題点の記述	発見した問題点を詳細に記述する

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

本演習では地域社会と地域メディアとの関係について学ぶ。授業は個人・グループによる発表・討論によって進める。選んだテーマについて5,000字程度のゼミ論文を執筆する。

《テキスト》

『地域メディアを学ぶ人のために』
田村紀雄編、世界思想社、2003

《参考文献》

必要に応じて参考文献を指定する。

《授業の到達目標》

多様な地域の個性を作り出し同時に人々の地域アイデンティティを確立する地域メディアの意義について理解できる。

《授業時間外学習》

教科書の指定された箇所、あるいは指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《成績評価の方法》

授業中の報告（70%）と討論（30%）により評価する。授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室（1W-112）を訪れてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方および成績評価に関する説明
2	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（1）
3	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（2）
4	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（3）
5	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（4）
6	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（5）
7	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（6）
8	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（7）
9	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（8）
10	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（9）
11	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（10）
12	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（11）
13	報告と討論	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（12）
14	ゼミ論文の発表	学生による報告と演習、テーマに関連した講義（13）
15	学習のまとめ	演習の総括と今後の課題について

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	高野敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

私たちの生活や社会の構造に影響を与える新しい情報技術の仕組みや問題点を学び、オリジナルな活用方法を提案します。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考文献》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《授業の到達目標》

経済情報学部における情報関連の授業での学びが実際の社会や暮らしとどのように関連しているかを知ることができます。また、(2)情報技術をユーザの目で見、活用方法を提案するための力をつけることができます。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《成績評価の方法》

学期中に提出する課題が評価の100%です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ITを巡る時事問題(1)	今、ITを巡って社会で起きている現象、問題を学ぶ。
2	ITを巡る時事問題(2)	プレゼンテーション実習。
3	ITを巡る時事問題(3)	レポート作成実習。
4	新しいIT技術の調査	社会の仕組みや私たちの暮らしに与える影響の大きい新しいIT技術について調査する。
5	新しいIT技術の調査	社会の仕組みや私たちの暮らしに与える影響の大きい新しいIT技術についてその意義や問題点を議論する。
6	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
7	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
8	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
9	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
10	新しいIT技術の習得	技術を習得する。
11	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
12	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
13	IT技術の活用方法提案に向けた実験	実験
14	提案のまとめ	プレゼンテーション準備
15	提案の発表	プレゼンテーションと議論

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

主として日本文化に関係する研究を行います。各自が興味を持っている対象を課題として設定し、その自主的探求を行います。データー、参考文献・論文の検索方法を積極的にサポートします。各種分析方法に関しても、随時適切な方法論を示していきます。演習全体で統一的に学習をすすめるのではなく、個別の研究をサポートします。

《テキスト》

なし

《参考文献》

各自にあった参考文献を随時紹介します。

《授業の到達目標》

第一の目標は、各自が強い関心を有している対象に関する知見を大きくすることです。爾後、一生をかけて考えていくシード（種）となります。第二の目標は、適切な思考方法論を探求し、論理的思考をする力、のシード（種）を獲得することです。一生をかけて、大木としていきましょう。第三の目標は、適切なデーター、参考資料を検索する力、の第一歩を踏み出すことです。一生をかけて磨き上げていきましょう。

《授業時間外学習》

常にテーマに関して思索するようにしてください。すると、日常生活で会う様々な情報が、そのテーマと関連を有していることに気づくはずですが。そうしましたら、即、調べましょう。大学で、自宅で、ちょっとした空き時間に、テーマに関して調べ、思索してください。

《成績評価の方法》

学期末に提出するレポートが40パーセントです。演習内での討議など、演習への参加度が40パーセントです。提出したレポートに関して、口頭試問を行います。この口頭試問が20パーセントです。

《備考》

ジャンク（屑）なネタも大歓迎です。研究内容によってはフィールドワークも行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	夏期休暇中の成果発表 研究テーマの相談
2	テーマの探求1	研究テーマの整理1 先行研究収集に関する方法論
3	テーマの探求2	研究テーマの整理2 各種情報収集に関する方法論
4	テーマの探求3	研究テーマの切り口
5	論文の読解1	収集した論文の読解方法1
6	論文の読解2	収集した論文の読解方法2
7	論文の読解3	収集した論文の読解方法3
8	中間総括1	中間的な成果の整理
9	中間総括2	中間的成果の発表
10	突破点の探求1	論点整理 情報の統合
11	突破点の探求2	新たな切り口 新たな方法論
12	突破点の探求3	先行研究の再探求
13	総括1	討論1
14	総括2	討論2
15	おわりに	全体総括 研究成果要旨の発表

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 				

《授業の概要》

本ゼミは「専門演習Ⅰ」（岡本）の続きであり、モノ（形ある服装や道具など）やコト（無形の行事や儀礼など）を通じて、私たちの日常生活の深層を読み解く。

《テキスト》

授業中に適宜プリント等を配布する。

《参考文献》

宅間紘一『新版初めての論文作成術一問うことは生きること一』（日中出版）2003年

《授業の到達目標》

本ゼミは、「教育から私たちの生活を考える—モノとコトを中心に—」のテーマで、文化史の方面から私たちの生活を見つめなおす能力を身につけることを期す。

《授業時間外学習》

演習であるので、当然自分で文献を調べ、適宜フィールドワークを行う必要がある。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。演習科目であるので、詳細は受講生と協議して決める。

《備考》

本授業シラバス、とくに「授業計画」はあくまで見本である。教育学のイロハである「個に応じた教育」を実践するため、実際には受講生の関心をふまえて進める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本演習の進め方の説明と協議
2	セーラー服(1)	セーラー服の歴史を深める(国際服飾学会の論文をもとに)
3	セーラー服(2)	セーラー服の襟の形状の多様性(長崎歴史文化博物館資料を中心とした、長崎学研究成果からの考察)
4	セーラー服(3)	セーラー服の襟の形の地理的分布(外来文化、とくにキリシタン関係の問題との関連を探る)
5	セーラー服(4)	セーラー服の襟の形の地理的分布に隠された、日本人の外来文化への態度を深く考察(教育史学会での議論をもとに)
6	ケガレ(1)	日本人、とくに長崎住民の外来文化への態度に見るケガレ観と、キリシタン弾圧(哲学研究の成果をもとに)
7	ケガレ(2)	ケガレから、差別の多重構造—とくにキリシタンと被差別部落の対立問題—を考える
8	女子の学校制服(1)	女子の学校制服のいろいろ(佐藤秀夫のライフワークをもとに)
9	女子の学校制服(2)	女子の学校制服から、スクール・アイデンティティーに関する考察を深める(比較教育風俗研究会における研究論文をもとに)
10	女子の学校制服(3)	女子の学校制服における、スカートのヒダ(長崎県と京都府に見られた現象をもとに)
11	女子の学校制服(4)	女子の学校制服における、スカートのヒダから、スクール・アイデンティティーをより深く論ず(教育史学会における研究論文検討)
12	サブカルチャーとセーラー服(1)	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服(記号論も含めて深める)
13	サブカルチャーとセーラー服(2)	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から、文化の海外発信を考える(アニメ、声優等も含めて考察を深める)
14	サブカルチャーとセーラー服(3)	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から、日本文化の発信の特徴に関する考察を深める
15	本演習の総括	セーラー服を入り口として、私たち自身を知る

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

専門演習ⅡではⅠで学んだphpを使い、データベースと連携させたウェブページの作成について学びます。そしてそれらを通して卒業演習で作成するウェブアプリケーションの方向性や内容を決定していく予定です。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではまずphpとデータベースの連携についてより深く説明する。その上でウェブ上の情報を一時的に記録する方法のひとつであるセッション変数について説明し、複数のページ間で同じ変数の値を共有する方法について説明する。このような内容を通してユーザーごとに個別の内容を表示するウェブページ作成方法の基礎を身に付ける。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません。毎回予習として自分が作るようとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください。また、授業内で作ったプログラムを振り返り、様々な課題に応用して復習するようにしてください。

《成績評価の方法》

作成したウェブページと数回のレポートを中心に（約70％）に評価しますが、授業態度や発表内容も重視（約30％）します。

《備考》

インターネット上の様々なサービスについて、単に利用するだけに終わらず、どんな仕組みで動いているのだろうと少しでも考えてみるよう常に心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンスとデータベースの設計について	授業の概要を説明した上で各自が作成するデータベースの設計を行う。
2	データテーブルの作成	各自が設計したデータベースを実際にデータベースサーバー上に作成する方法について説明する。
3	oracleとphpの連携について	データベースサーバー上のデータをphpを使って取り出し、ウェブページとして表示する方法について説明する。
4	phpとデータの絞込み	条件に合ったデータだけを取り出して表示するウェブページの作成について説明する。
5	phpとデータの並べ替え	データを並べ替えたうえで表示するウェブページの作成について説明する。
6	phpとデータのグループ化	データをグループ化し、集計を行った結果を表示するウェブページの作成について説明する。
7	phpとデータの追加	ウェブ上からデータを追加する方法について説明する。
8	phpとデータの削除	ウェブ上からデータを削除する方法について説明する。
9	phpとデータの変更	ウェブ上からデータを変更する方法について説明する。
10	セッション機能	複数ページ間で同じ変数の値を共有するセッション変数について説明する。
11	人気投票システムの作成	投票可能なポイント数をユーザーごとに制限した人気投票システムに必要なユーザー管理について説明する。
12	人気投票システムの作成	ユーザーごとにポイント数を制限した状態でポイントの投票を受け付けるウェブページを作成する。
13	人気投票システムの作成	投票データを集計し、その結果を表示するウェブページの作成について説明する。
14	人気投票システムの作成	投票データをユーザーごとや投票対象ごとに表示するウェブページを作成し、投票システムを完成させる。
15	まとめ	まとめと復習

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input checked="" type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

プロジェクトによる簡単なWebアプリケーションを開発し、情報システムの企画から開発作業を通して、実践技術やプロジェクトの進め方などIT実務に必要な技術を習得します。
 ・設計書や報告書などさまざまな文書（ドキュメント）を作成
 ・プログラムをhtmlで作成 ・プロジェクトを問題なく進める
 ・納期を守る ・想定される問題（リスク）を考え予防策をとる
 ・システムの問題を解決する

《授業の到達目標》

・プロジェクトによるシステム開発方法が説明できる。
 ・各種ドキュメントが正しく作成できる。
 ・問題発生時の対応ができる。
 ・Webページ&プログラミングコンテストのテーマに則したシステムを完成させ、コンテストに応募する。

《成績評価の方法》

平常の取り組み(50%)、開発成果(50%)で評価する。
 特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

事後学習
 ・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《備考》

文書はすべてパソコンを使った電子文書で作成、プロジェクト内コミュニケーションは電子メールで行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	専門演習の内容説明
2	開発技術	プログラミング、データベースの説明と演習
3	開発技術	プログラミング、データベースの説明と演習
4	開発技術	プログラミング、データベースの説明と演習
5	ソフトウェア要求定義	基本計画と要求定義
6	ソフトウェア要求定義	基本計画と要求定義
7	ソフトウェア設計	概要設計
8	ソフトウェア設計	概要設計
9	ソフトウェア設計	詳細設計
10	ソフトウェア設計	詳細設計
11	ソフトウェア実装、テスト	プログラミング・単体テスト
12	ソフトウェア実装、テスト	プログラミング・単体テスト
13	ソフトウェア実装、テスト	プログラミング・単体テスト
14	ソフトウェアテスト	ウェブ結合・総合テスト
15	総括	ウェブ公開・運用 まとめと報告

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

第1に経営学の基本書（テキスト）を輪読し、各自まとめを作り報告すること、第2に新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解すること。第3に企業に関連する時事問題を適宜取り上げて議論することである。

《テキスト》

『やさしい経営学』海野博・所伸之、創成社、2007

《参考文献》

《授業の到達目標》

- 経営学の基本書を読んでまとめを作成し、関連資料を収集し、報告ができるようになる。
- 企業の事例研究の方法を理解することができる。
- 企業と社会について学び、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：報告担当者の予習は、テキストのまとめの作成。報告担当者以外の予習は、該当箇所のテキストを読んで、質問を考えてくること。
- (2) 復習の方法：授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを次の回までに調べてくること。

《成績評価の方法》

- (1) 平常点（テキストのまとめ作成と報告）を70% (2) 質疑応答などディスカッションに対する積極性を20% (3) 事例研究に関するレポートその他課題の提出を10%として評価する。

《備考》

無断欠席、遅刻はいっさい認めない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	テキストの輪読、ディスカッション	人事の「等級制度」について学ぶ。
2	テキストの輪読、ディスカッション	人事の「評価制度」について学ぶ。
3	テキストの輪読、ディスカッション	人事の「育成制度」について学ぶ。
4	テキストの輪読、ディスカッション	人事の「評価制度」について学ぶ。
5	テキストの輪読、ディスカッション	人事の「評価制度」について学ぶ。
6	事例研究①	企業の戦略について具体的な事例を取り上げ、検討する
7	テキストの輪読、ディスカッション	公害問題と地球環境問題について学ぶ。
8	テキストの輪読、ディスカッション	環境マネジメントの概念について学ぶ。
9	テキストの輪読、ディスカッション	環境報告書について学ぶ。
10	テキストの輪読、ディスカッション	生産管理について学ぶ。
11	テキストの輪読、ディスカッション	生産システムの進化について学ぶ。
12	テキストの輪読、ディスカッション	流通の仕組みについて学ぶ。
13	テキストの輪読、ディスカッション	マーケティングについて学ぶ。
14	テキストの輪読、ディスカッション	企業の社会的責任について学ぶ。
15	テキストの輪読、ディスカッション	経営の国際化について学ぶ。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

本科目は、財務会計に関する基礎知識を取り扱う。
 テキストを順次読み解いて行く。受講生に担当範囲を割り当てますので、レジュメを作成し、報告してもらう。

《テキスト》

後ほど案内する

《参考文献》

適時紹介する

《授業の到達目標》

1. 財務会計に関する基礎知識の取得
2. 具体的な企業の「もうけのからくり」を把握できる力を養う
3. 就職先の選択時に思考力を養う

《授業時間外学習》

大学での演習科目の位置付けを確認し、進んで自学自習に努めることを希望する。
 発表時の資料準備だけでなく、他の学生が発表した内容について議論できるように
 発表以外の平時においても積極的に課題を探求してほしい。

《成績評価の方法》

毎回の出席態度を前提として、報告状況、議論への参加と貢献度、課題の提出内容を総合的に評価する（100％）。

《備考》

受講生の希望によるが、ゼミコンパやイベント事もあり得る。
 ゼミ生からの「事業企画書」を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。受講生各自に演習課題を割り当てる。
2	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
3	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
4	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
5	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
6	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
7	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
8	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
9	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
10	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
11	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
12	発表力と議論力	テキストの担当章をレジュメにまとめて発表し、議論を行う
13	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専門演習Ⅱ				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

研究を進めて行く段階では、理論に基づく実験が必要となりますが、コンピュータ上でのシミュレータを作成し実験を行います。研究環境であるUnixサーバ上でのシミュレータ作成のための基礎を学びます。

《テキスト》

B. W. Kernighan, D. M. Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版, ¥2,940.-

《参考文献》

B. W. Kernighan, Rob. Pike著, 福崎俊博訳, 『プログラミング作法』, ASCII, ¥2,940.-
 その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

「プログラミングI」「プログラミングII」等で学んだC言語をさらに補足し、より実践的なプログラミングのための知識の獲得を目標とします。
 また、並行して各自が設定した研究テーマもさらに進めることも目標とします。

《授業時間外学習》

課題、演習および研究に必要な活動に関しては授業時間外で対応して下さい。

《成績評価の方法》

基礎課題(40%), 研究テーマに関わる課題(50%), 平常点(10%)として判定し評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要	研究テーマの確認
2	データ構造とアルゴリズム	C言語プログラミングの基礎, アルゴリズム・データ構造の重要性
3	Cプログラミング(1)	C言語プログラミングの補足
4	Cプログラミング(2)	C言語プログラミングの補足
5	Cプログラミング(3)	シミュレーションのための拡張と実践
6	Cプログラミング(4)	シミュレーションのための拡張と実践
7	Cプログラミング(5)	シミュレーションのための拡張と実践
8	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
9	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
10	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
11	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
12	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
13	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
14	研究テーマの調査・報告・議論	関連論文の発表/研究へのアプローチに対する議論等
15	まとめ	その他補足およびまとめ

科目名	経営学総論				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

20世紀以降、世界の経済社会に対して大きな影響を及ぼし続けている大企業に焦点を当て、その仕組みと戦略について解説する。企業と私たちが直接かかわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時、テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げる。

《テキスト》

『経営学1』『経営学2』周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔、実教出版、2009

《参考文献》

『はじめの一步 経営学』守屋貴司・近藤宏一・小沢道紀、ミネルヴァ書房、2007

《授業の到達目標》

- 社会における企業の役割を理解できるようになる。
- 株式会社の制度と意味について理解できるようになる。
- 企業活動の内容（経営の諸機能、経営管理、経営戦略）について理解できるようになる。
- 社会の変化と企業の対応（国際経営、環境経営、非営利組織）について理解できるようになる。
- これからの企業のあり方や組織での働き方について考えられるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験80%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
- (2) レポート課題の提出物を20%として評価する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代企業における企業経営	授業の概要説明と進め方、経営学学習の意義を学ぶ
2	企業活動と利害関係者	利害関係者の概念、社会における企業の役割について学ぶ
3	株式会社の制度と意味	株式会社の制度、会社の種類について学ぶ
4	財務と会計	企業の活動資金の調達と運用について学ぶ
5	人的資源管理	採用、配置、異動、評価、能力向上、退職など主要な管理項目について学ぶ
6	生産管理	生産の仕組みや効率的な生産、品質の向上についての工夫について学ぶ
7	マーケティング	マーケティングの概念、顧客のニーズ調査、商品開発などについて学ぶ
8	経営管理	企業という組織をうまく動かしていくための仕組み（計画と実行、命令と責任、管理機能の役割分担など）について学ぶ
9	経営戦略	企業の環境の変化、経営戦略の概念について学ぶ
10	事例研究	VTRを視聴し、企業活動の実際を学び、関連するテーマでレポートを作成する
11	グローバル化と企業	グローバル化（国際化）とはどういう現象か、国際化した企業活動の実際について学ぶ
12	多国籍企業の経営戦略	国際化の発展段階、EPRGプロファイルについて学ぶ
13	環境経営	環境経営の概念と具体的な取り組み事例について学ぶ
14	多様化する組織と企業	NPO法人、非営利組織のマネジメントについて学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

《専門教育科目 コース専修科目 経済ビジネスコース専修科目》

科目名	簿記論				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

週2回の授業があるので、基本的には、週の最初の時間は基本的な内容について簿記の原理的解説を行う。次の時間に解説した内容に関連する問題を解き、知識の定着を図る。

《テキスト》

使用しませんが、『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）に準拠して授業を行う。持っていれば役に立ちます。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

企業会計の基礎となる簿記の知識と技術の習得

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

簿記の知識は社会に出てから必要になります。しっかりマスターし、日商簿記検定3級、2級を取得して下さい。そして、国税専門官、税理士、公認会計士などを目指して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎 1	仕訳と勘定記入
2	簿記の基礎 2	勘定記入と試算表
3	商品売買 1	分記法と三分法
4	商品売買 2	付随費用と返品・値引きの処理
5	現金・預金	簿記上の現金の種類と処理。小切手の処理。当座預金と当座借越 現金過不足
6	手形取引 1	当座預金と手形 約束手形と為替手形
7	手形取引 2	手形の裏書き。自己振り出し手形の受け入れ。 手形貸付、手形借入、自己受手形、自己宛手形
8	前受金・前払金 仮払金・仮受金	それぞれの意義と処理方法
9	固定資産	購入、減価償却の処理（直接法と間接法）、売却時の処理
10	試算表 1	試算表の意義と作成方法
11	試算表 2	試算表作成の演習
12	決算手続き 1	精算表の作成原理
13	決算手続き 2	精算表の作成。 売上原価、現金過不足、消耗品
14	決算手続き 3	貸倒引当金、減価償却費、費用・収益の見越・繰延
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度確認。

科目名	財政学I				
担当者氏名	水野利英				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 経済学の知識の応用 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 2-2 経済学的思考力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方				

《授業の概要》

財政学について、経済理論理論、日本の財政制度と現状について、包括的に説明します。特に、今日、もってとも問題になっている税と社会保障については、やや詳細に説明します。

《テキスト》

なし

《参考文献》

講義で指示します。

《授業の到達目標》

学生が、税や社会保障の問題についてのニュースや新聞記事などが理解できるだけでなく、批判的に検討できるような基礎知識を得ること。

《授業時間外学習》

財政関係のニュース、新聞記事などは、注意して見ておいてください。

《成績評価の方法》

最終試験によります。(100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	日本財政の現状、財政学の対象などについて、包括的に紹介します。
2	日本財政の現状	主に、国民経済計算を用いて、日本財政の特徴について、やや詳細に検討します。
3	予算制度	財政法を基本に日本の財政制度を説明するとともに、24年度予算の概要を見ます
4	市場経済の限界と財政の役割	市場経済における価格の役割を経済学的に説明し、政府の財政的介入の根拠となる市場の失敗について、説明します。
5	公共財	財政の資源配分機能の中心である公共財について説明します。
6	税の分類・租税原則	課税対象に基づき、主な税目について説明します。また、公平や効率といった好ましい税の基準について、簡単に説明します。
7	税の現状・所得税	国税を中心に日本の税の現状を説明します。さらに、もっとも基幹的な税である所得税について、給与所得に対する課税方法を含め説明します。
8	法人税・消費税	所得税について重要な法人税・消費税について説明します。
9	税の効果	税の資源配分や所得配分に与える効果をミクロ経済学を用いて説明します。
10	公的年金	今日、先進諸国の財政で、もっとも大きな支出項目となっている社会保障のなかでも、特に重要な公的年金について説明します。
11	公的医療保険	社会保障の中で税について重要な支出項目である医療保険について説明します。
12	地方財政	図説日本の財政ビジュアル版を用いて、制度を中心に日本の地方財政の概要を説明します。
13	公共事業・その他の支出	公共事業などの社会保障以外の支出について説明します。
14	公債と財政政策	日本における財政赤字の現状、公債に対する考え方、財政政策の効果についての考え方などを紹介します。
15	最近の財政関係のトピック	ニュースになっている財政問題のなかから、重要なものを選び解説します。

科目名	財政学Ⅱ				
担当者氏名	水野利英				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 2-2 経済学的思考力 ◎ 3-3 経済学の知識の応用 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

日本経済新聞の財政関係の記事のスクラップを用いて、税と社会保障の一体改革のような時事的なテーマについて、できるだけリアル・タイムに、説明、議論していく。授業方法は、一応講義としてあるが、演習に近い形で進めていきたい。下のテーマ、内容は例示で、実際は、カレント・トピックにしたがって進行していく。

《テキスト》

なし

《参考文献》

講義で、指示する。

《授業の到達目標》

今問題になっている財政関係の問題について、意識を高めることが最低の条件である。現実の財政過程は、政治のなかで行われているので、日本の政治の現状についての、常識的な知識も養うことも目標とする。

《授業時間外学習》

日頃から、財政や政治についての新聞やニュースを見ておくことが重要である。特に、年末は、予算関係の記事が表れるので、リアル・タイムに情報を集めておくことが必要である。

《成績評価の方法》

基本的に平常点で、授業時間における発言などを評価対象とする。(70%)繰り返し出てきた事項については、適宜、小テストをして、最低の理解ができていのかどうかをチェックする。(30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	少子高齢化社会と日本財政	経済教室の論文などを用い、日本における少子高齢化と財政について、概説的に見る
2	税と社会保障の一体改革(1)	消費税の増税を中心とした、税と社会保障の一体改革について、記事を中心に推移を見る
3	税と社会保障の一体改革(2)	税と社会保証の一体改革について、解説記事を用いて、問題を少し掘り下げる。
4	税と社会保障の一体改革(3)	税と社会保障の一体改革について、経済教室の論文を用いて、さらに、批判的に検討する。
5	消費増税の諸問題(1)	消費増税に関してして生じる諸問題について、解説記事を用いて紹介する。
6	消費増税の諸問題(2)	消費増税に関してして生じる諸問題について、経済教室の論文を用いて、さらに掘り下げて検討する。
7	社会保障の諸問題(1)	年金、医療、介護の問題から、新聞記事にしたがって、できるだけホットなトピックを紹介する。
8	社会保障の諸問題(2)	上のトピックについて、解説記事を用いて、さらに検討する。
9	社会保障の諸問題(3)	上のトピックについて、経済教室の論文を用いて、批判的に検討する。
10	平成25年度予算案の検討事項(1)	平成25年度予算の決定過程において、トピックとなっている事項を新聞記事を用いて解説する。
11	平成25年度予算案の検討事項(2)	上記のトピックの推移を見るとともに、別のトピックを解説する。
12	平成25年度予算案の検討事項(3)	それまでに解説したトピックの推移をみるとともに、新たなトピックがあれば紹介する。
13	平成25年度予算案の検討事項(4)	様々なトピックが如何に決まりそうかを見て、政治過程についても考える。
14	平成25年度予算案について(1)	年末に決定した平成25年度予算案について、新聞記事を中心に概観する
15	平成25年度予算案について(2)	平成25年度予算案について、解説記事を用いて、やや詳細に検討する。

科目名	産業組織論 I				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

産業組織論 (Industrial Organization) は、ミクロ経済学の応用領域であり、我々の身近にある現実の諸産業を研究対象とするものである。ここでは単に現状を分析するにとどまらず、さらに進んで、政策のあり方を論じることが多い。事実、この領域での研究成果は、現実の競争政策や規制改革に理論的基礎を提供している。この授業では、主として政策論的視点に立つて、産業組織論の基礎理論を中心に解説する。

《授業の到達目標》

- ・我々が暮らしている自由主義経済の基本的特徴、市場の働きとその限界について理解する。
- ・産業組織分析の基本的概念や基礎理論について理解する。
- ・競争政策や規制改革など、現実産業に対する政策のあり方について考察するための基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題など）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点30%、期末テスト70%とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業組織論とは	産業組織論とはどのようなものかをその歴史も紹介しながら解説するとともに、この講義の特徴について説明する。
2	自由主義経済の基本的特徴	自由主義社会とのかかわり、市場の働きについて考察し、理解を深める。
3	価格理論による分析 (1)	完全競争市場の長期均衡について考察する。
4	価格理論による分析 (2)	供給独占の理論について学ぶ。
5	価格理論による分析 (3)	独占的価格設定の問題点について考察する。
6	自由主義経済と競争の役割 (1)	経済的自由の保障、競争の情報伝達機能について考える。
7	自由主義経済と競争の役割 (2)	企業間競争が資源配分効率、生産効率、技術革新に与える効果について考察する。
8	「市場の失敗」と政府の役割	市場メカニズムの働きでは解決できない問題について考察する。
9	産業組織分析 (1)	市場構造に関する分析視点について解説する。
10	産業組織分析 (2)	企業間協調のメカニズムや参入阻止行動についてゲーム理論を用いて考察する。
11	産業組織分析 (3)	望ましい市場成果を実現するための分析視点について解説する。
12	産業組織分析 (4)	国内航空市場、電力市場などでの規制改革をとりあげ、産業組織分析がどのように活用されているかを解説する。
13	競争政策の基礎理論 (1)	ハーバード学派の競争政策論について解説する。
14	競争政策の基礎理論 (2)	シカゴ学派の競争政策論について解説し、ハーバード学派との違いについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返る。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社、2003年。
 （2年次の「ミクロ経済学」で使用したテキスト。第3～5、8、10、11週に使用する）その他、毎時間プリントを配布する。

《参考文献》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008年。井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治著『入門・産業組織』有斐閣、2010年。
 土井教之編著『産業組織論入門』ミネルヴァ書房、2008年。
 石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房、1997年。
 その他、適宜授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

- ・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
- ・学期末には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

・授業内容を理解するには基礎からの積み重ねが重要である。毎回必ず出席し、わからないことをそのままにせず、理解に努めていただきたい。質問は随時受け付ける。

科目名	産業組織論Ⅱ				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

競争政策は、自由主義経済において根本的に重要な経済政策と位置づけられており、世界各国で施行されている。産業組織論は、競争政策の基礎理論として発展してきた経緯があり、ここでの研究成果は、現実の政策施行に経済学的根拠を提供している。この講義では、経済学的視点に立って、競争政策の役割とそのあり方について勉強する。

《授業の到達目標》

- ・我々が暮らしている自由主義経済の基本的特徴と競争政策の役割について理解を深める。
- ・現実の産業に対する政策のあり方について考察するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題、レポート課題）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点30%、期末テスト70%とする。

《テキスト》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル産業組織論』有斐閣、2008年。
 その他、適宜プリントを配布する。

《参考文献》

小田切宏之著『競争政策論 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社、2008年
 川濱昇他著『ベーシック経済法 独占禁止法入門（第3版）』有斐閣、2010年
 R. ビトフスキー編・石原敬子・宮田由紀夫訳『アメリカ反トラスト政策論』晃洋書房、2010年

《授業時間外学習》

- ・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
- ・学期中に授業内容を復習し理解度を確認するためにレポート課題を2回課す予定である。
- ・学期末には復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

この授業を受講するには「産業組織論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と受講上の注意	競争政策とはどのようなものかを簡単に解説し、この授業の概要を説明する。
2	アメリカの反トラスト政策(1)	シャーマン法制定の背景 1980年代までの政策路線の変遷（独占に対する政策を中心に解説する。）
3	アメリカの反トラスト政策(2)	1990年代以降の動向
4	日本の独占禁止政策と産業政策(1)	独占禁止法制定から1970年代までの政策
5	日本の独占禁止政策と産業政策(2)	1980年代以降の動向
6	自然独占と規制(1)	自然独占とは何か 自然独占に対する従来の規制の問題点について考察する
7	自然独占と規制(2)	自然独占分野での政策のあり方について考察する
8	参入の経済効果(1)	コンテストアブル市場理論と参入の経済効果について考察する
9	参入の経済効果(2)	参入規制の問題点と規制緩和の経済効果
10	寡占市場の理論	クールノーモデルを用いた分析について考察する
11	カルテル・談合	カルテル・談合の問題点について考察し、理解を深める。 カルテル・談合に対する具体的政策について解説する。
12	合併	合併の経済効果、合併に対する政策のあり方について考察する。
13	不公正な取引方法について(1)	略奪的価格設定、再販価格維持行為をとりあげ、その問題点について経済学的視点から考察する。
14	不公正な取引方法について(2)	抱き合わせ販売、優越的地位の濫用をとりあげ、その問題点について経済学的視点から考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容について振り返る。

科目名	国際経済論 I				
担当者氏名	梶山 国宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

国際貿易の仕組みと貿易政策の意義を理解するために必要な基礎理論を学ぶことを目的とした講義を行う。講義では、理論の説明は最小限にとどめ、内容はできるだけ平易なものになるよう心がける。国際経済に対する興味・関心を誘うため、講義内容に関連した新聞・雑誌の経済記事や資料映像（ビデオ）なども適宜とりあげる。

《テキスト》

仙頭佳樹『最もやさしい国際経済学』（多賀出版）

《参考文献》

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ』（有斐閣）

《授業の到達目標》

- 各国はなぜ貿易をするのか、また各国は何を輸出し、何を輸入するかについて説明できるようになる。
- 輸出財と輸入財の交換比率はどのように決まるのかを説明できるようになる。
- 貿易からの利益はどのようなものか説明できるようになる。
- 貿易政策（特に関税）の経済効果について説明できるようになる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 指定されたテキストの次回予定された内容の箇所は事前に必ず読み、疑問点をチェックしておくこと。
- ・復習の方法 講義終了後、ノートで前回の講義内容を確認し、疑問点があれば次回までにメールで質問事項を送ること。

《成績評価の方法》

- ・授業中の質疑応答などへの参加状況やノートテイキングなどの平常点評価20%。
- ・中間テスト20%。
- ・定期試験（持ち込み不可で実施する）60%。

《備考》

- ・現実の国際経済問題に対する理解を深めるためには、常に最新の経済情報に接している必要があるため、日頃から、新聞・雑誌の経済記事を講読する習慣をつけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際分業の基礎1	比較生産費説を2財のケースについて学ぶ。
2	国際分業の基礎2	比較生産費説を多数財のケースについて学ぶ。
3	国際分業の基礎3	比較生産費説へのさまざまな批判と国際競争力指標について学ぶ。
4	国際分業の基礎4	ヘクシャー・オリーオン定理とレオンチェフ逆説について学ぶ。
5	国際分業の基礎4	プロダクトサイクル論について学ぶ。
6	国際貿易の一般均衡理論1	自給自足経済での均衡について学ぶ。
7	国際貿易の一般均衡理論2	貿易を行っている経済での均衡について学ぶ。
8	貿易からの利益	貿易利益と交易条件の関係について学ぶ。
9	産業内貿易	規模の経済性と産業内貿易の関係について学ぶ。
10	まとめと中間テスト	前回までの内容を振り返り、中間テストで理解度を確認する。
11	貿易政策1	貿易政策の目的と手段について学ぶ。
12	貿易政策2	輸入関税の経済効果を部分均衡分析の手法を用いて学ぶ。
13	貿易政策3	ストルパー・サミュエルソン定理について学ぶ。
14	貿易政策4	保護貿易主義について学ぶ。
15	学習のまとめ	前回までに学習したことを振り返り、内容を再確認する。

科目名	国際経済論Ⅱ				
担当者氏名	梶山 国宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 2-2 経済学的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

国際経済のマクロ的側面を理解するために必要な基礎理論を学ぶことを目的とした講義を行う。講義では理論の説明は必要最小限にとどめ、内容はできるだけ平易なものにするよう心がける。国際経済への興味・関心を誘うため、講義内容に関連した新聞・雑誌の経済記事や資料映像（ビデオ）なども適宜とりあげる。

《テキスト》

仙頭佳樹『最もやさしい国際経済学』（多賀出版）

《参考文献》

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ』（有斐閣）

《授業の到達目標》

○国際収支の構造を理解し、国際収支表の内容を説明できるようになる。 ○開放経済における国民所得の決定メカニズムを説明できるようになる。 ○地域統合の具体的な形態と経済効果について説明できるようになる。 ○直接投資の具体的な方法と経済効果について説明できるようになる。

《授業時間外学習》

・予習の方法 指定されたテキストの次回予定された内容の箇所は事前に必ず読み、疑問点をチェックしておくこと。
・復習の方法 講義終了後、ノートで前回の講義内容を確認し、疑問点があれば次回までにメールで質問事項を送ること。

《成績評価の方法》

・授業中の質疑応答などへの参加状況やノートテイキングなどの平常点評価20%。
・中間テスト20%。
・定期試験（持ち込み不可で実施する）60%。

《備考》

・現実の国際経済問題に対する理解を深めるためには、常に最新の経済情報に接している必要があるため、日頃から、新聞・雑誌の経済記事を講読する習慣をつけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際収支表1	経常収支について学ぶ。
2	国際収支表2	資本収支について学ぶ。
3	為替レート1	為替取引と外国為替市場について学ぶ。
4	為替レート2	為替レート制度と為替レート決定の理論について学ぶ。
5	所得分析と乗数理論1	国民所得水準の決定について学ぶ。
6	所得分析と乗数理論2	外国貿易乗数について学ぶ。
7	所得分析と乗数理論3	景気変動の国際的波及について学ぶ。
8	貿易不均衡の分析1	国際収支調整策について学ぶ。
9	貿易不均衡の分析2	アブソープション・アプローチについて学ぶ。
10	まとめと中間テスト	前回までの内容を振り返り、中間テストで理解度を確認する。
11	地域経済統合1	地域統合の様々な形態について学ぶ。
12	地域経済統合2	地域統合の具体例について学ぶ。
13	直接投資1	多国籍企業の行動原理と産業内貿易について学ぶ。
14	直接投資2	直接投資の経済効果について学ぶ。
15	学習のまとめ	前回までに学習したことを振り返り、内容を再確認する。

科目名	証券市場論				
担当者氏名	高本 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-2 経済学的思考力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

現代の経済は財・サービスの取引（実物取引）に対してお金の取引（マネー経済）が数倍・数十倍の規模に拡大している。マネー経済の実情と動向を知ることなしには、現代経済社会の仕組みは理解できなくなっている。ビジネスの世界で生きていくためには、新聞の経済記事を自由自在に読みこなせなければならない。

《授業の到達目標》

証券市場は経済社会の心臓部である。証券市場の存立意義と仕組みを中心に、広く経済のシステムと経済現象全般についての幅広い知識を身につけることを目標にしたい。金融機関（銀行・保険会社・証券会社）以外の企業に就職する人にも役立つような授業をするつもりである。

《成績評価の方法》

期末に学期全体で学んだ全般的範囲についてペーパーテスト（50%）を行う。日頃の学習態度（50%）を考慮する。

《テキスト》

独自に作成したプリントをテキストとして用いる。

《参考文献》

『経済のことがおもしろいほどわかる本（株と投資入門編）』 岩本秀雄（中経出版）
 『入門の入門・”株”の仕組み』 杉村富生（日本実業出版社）

《授業時間外学習》

新聞の経済記事をよく読むこと。

《備考》

難しい講義はするつもりはなく、極力わかりやすい授業をするつもりですが、無断欠席を繰り返していくとわからなくなるので、毎回必ず出席して下さい。授業中の私語も厳禁！

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	(1) 「証券市場論」を学ぶ意義	①現代経済社会の現状 ②株式と株式会社
2	(1) 「証券市場論」を学ぶ意義	③株式会社の仕組み ④金融と金融市場
3	(2) 株式投資の基本	①有価証券としての株式の本質 ②株式売買 ③株式投資に必要なもの
4	(3) 株式市場の成り立ち	①株式市場の参加者 ②証券会社の役割と業務
5	(3) 株式市場の成り立ち	③証券業界の実態 ④証券業界の直面する課題
6	(4) 株価の決定要因	①企業業績と株価（ファンダメンタル分析） ②投資の尺度 ③売買時期の選択（チャート分析）
7	(4) 株価の決定要因	④株価指数（市場全体の動向、マクロ的要因）⑤信用取引
8	(5) 公社債市場	①公社債（債券）市場 ②様々な利回り
9	(5) 公社債市場	③社債の発行形態 ④公社債とリスク
10	(5) 公社債市場	⑤金利の期間構造理論 ⑥転換社債 ⑦ワラント債
11	(6) 金融派生商品（デリバティブ）	①先物取引
12	(6) 金融派生商品（デリバティブ）	②オプション取引 ③スワップ取引
13	(7) 大暴落の研究	①暴落の背景 ②暴落のメカニズム
14	(7) 大暴落の研究	③アメリカのブラックマンデーと日本の平成大暴落
15	(7) 大暴落の研究	④リーマン危機と世界同時不況

科目名	経営戦略論Ⅰ				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

環境変化の中で企業を存続させ、成長させていくためには、経営戦略が不可欠である。この授業では、経営戦略とは何か、経営戦略をどのようにして策定していくのかについて、企業の環境分析、製品ー市場戦略、事業ドメイン、コア・コンピタンスなど基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

『経営戦略論』佐久間信夫・芦澤成光、創成社、2004

《参考文献》

『新しい戦略マネジメント』山倉健嗣、同文館出版、2007

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を調べてくること。

《成績評価の方法》

- (1) 定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
- (2) 課題レポート作成を10%として評価する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学総論」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営戦略とは何か	講義の概要と進め方についての説明、経営戦略とは何かについて学ぶ
2	経営戦略の重要性	経営戦略の重要性について学ぶ
3	経営戦略の理論①	チャンドラーの戦略論について学ぶ
4	経営戦略の理論②	アンゾフの戦略論（製品・市場戦略、多角化戦略）について学ぶ
5	企業の環境分析	市場セグメント、顧客ニーズ、競合企業の分析
6	企業の内部分析	売上高、収益性、顧客満足、製品・サービス品質、ブランド、企業イメージ、組織人材の能力、などの分析項目について学ぶ
7	事業ドメインの策定と決定①	事業ドメインの概念について学ぶ
8	事業ドメインの策定と決定②	事業ドメインと戦略の関係について学ぶ
9	競争戦略①	業界の収益性を決める5つの要因について学ぶ
10	競争戦略②	競争戦略の基本モデルについて学ぶ
11	競争戦略③	コア・コンピタンスについて学ぶ
12	事例研究	VTRを視聴し、企業戦略の具体的な事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する
13	統合的マーケティング戦略①	マーケティングの概念、マーケティング・ミックスについて学ぶ
14	統合的マーケティング戦略②	インターナル・マーケティングについて学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	経営戦略論Ⅱ				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用			

《授業の概要》

環境変化の中で企業を存続させ、成長させていくためには、経営戦略が不可欠である。この授業では、経営戦略とは何か、経営戦略をどのようにして策定していくのかについて、M&AやPPM、イノベーション、戦略と組織の関係など経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

『経営戦略論』佐久間信夫・芦澤成光、創成社、2004

《参考文献》

『新しい戦略マネジメント』山倉健嗣、同文館出版、2007

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を調べてくること。

《成績評価の方法》

全回出席を前提としたうえで、(1) 定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）(2) 課題レポート作成を10%として評価する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学総論」「経営戦略論Ⅰ」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	経営戦略の必要性	講義の概要と進め方について、経営戦略とは何か、経営戦略の必要性について学ぶ
2	提携戦略	戦略的提携、多国籍企業の戦略的提携について学ぶ
3	M&A	M&A（企業の買収・合併）について学ぶ
4	経験曲線とPLC	経験曲線とPLC（プロダクト・ライフ・サイクル）について学ぶ
5	PPM	PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）について学ぶ
6	ビジネス・スクリーン	GE社のビジネス・スクリーン（9セル・マトリックス）について学ぶ
7	経営資源の展開と競争優位の構築	無形資産と独自能力の形成について学ぶ
8	イノベーションと研究開発①	イノベーションの概念とそのマネジメントについて学ぶ
9	イノベーションと研究開発②	研究開発プロセスとそのマネジメントについて学ぶ
10	事例研究	VTRを視聴し、企業戦略の具体的な事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する
11	経営戦略と組織	経営戦略と組織構造の関係について学ぶ
12	経営戦略と企業文化	企業文化の概念、企業文化の種類、経営戦略との関係について学ぶ
13	非営利組織の経営戦略	非営利組織の概念と役割、非営利組織の戦略について学ぶ
14	情報ネットワーク化と経営戦略	情報ネットワーク化の効果、企業の情報戦略について学ぶ
15	まとめ	講義内容の復習と確認

科目名	財務諸表論 I				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

財務諸表は、株主（事業の元手[資本]を出资する者）や債権者（事業の運転資金[負債]を融資する者）等の各種利害関係者に対し、経営者が作成し提供する説明資料であり、企業の財政状態、経営成績、現金及び現金等価物の変動状態、資本構成の変動状態の会計情報に関する資料をいう。本科目は、企業の日々の経済的取引事象を、如何に認識し、測定し、記録し、集計し、財務諸表として作成するのか、その理論を対象とする。

《授業の到達目標》

財務諸表論の基礎を取扱い、(1)ストックとフローの概念、(2)収益・費用・資産・負債・純資産（資本）の概念、(3)利益の概念、これら3つの大きな概念（定義と具体的適用例）をまず説明できる力をつける。さらに、複数の概念間のリンケージ（関係性）をきちんと説明できる複合的体系的な概念理解の力をつける。特に、(1)を用いて(2)に関する異同比較や(2)から(3)を導く2つの思考方法を記述説明できる力をつける。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式」試験の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《テキスト》

後ほど案内する。

《参考文献》

中央経済社編『新版会計法規集(第4版)』中央経済社
 古賀智敏著『グローバル財務会計』森山書店
 古賀智敏著『価値創造の会計学』税務経理協会
 武田隆二著『会計学一般教程(第7版)』中央経済社
 桜井久勝＝須田一幸著『財務会計・入門(第8版)』有斐閣
 田中弘著『会計と監査の世界』税務経理協会

《授業時間外学習》

財務諸表論の理論を体系的に学ぶためには、会計実務に適用されている様々なルールを同時に理解する必要がある。上記参考図書『新版会計法規集』の最新版を手元に置きながら効果的に学習することを希望する。用語や概念の定義は、法規集の条文に記載してあればまずそれを押さえることが基本である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	会計の認識対象と財務会計の位置付け	簿記と会計と監査の関係性、財務会計と管理会計、制度会計と情報会計、内部報告会計と外部報告会計、各国会計制度と国際財務報告基準（IFRS、国際会計基準）
3	産業構造の変化と会計モデル	もの作りの製造業[有形財]重視のプロダクト型、資金調達市場の金融財重視のファイナンス型、知的所有権、ブランド、のれん等の無形財重視のナレッジ型の会計理論モデル
4	法と会計	ビジネスの基本ルールである会社法、株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法、納税申告書を作成するべく全ての会社に適用される法人税法
5	会計公準と一般原則	会計理論の前提となる公準、会計基準の核となる一般原則
6	ストックとフローの概念	2つの視点の観測方法：ある時点の状態(stock)とある一定期間の状況(flow)の関係性。時刻と時間、貸借対照表(財政状態変動表)と損益計算書(包括利益計算書)
7	利益概念と資本維持概念	利益を導出する2つの思考方法：資産負債アプローチ（ストック重視）と費用収益アプローチ（フロー重視）
8	収益会計	現金の流入(cash-in-flow)を意味する収入、収入と収益の関連性、収益の認識（現金主義、発生主義）
9	費用会計	現金の流出(cash-out-flow)を意味する支出、支出と費用の関係性、費用の測定（取得原価主義会計の意義と限界）
10	費用収益対応の原則	全体損益計算と期間損益計算、個別対応と期間対応
11	損益計算の構造	損益計算書の5つの利益、包括利益概念と包括利益計算書
12	資本会計（その1）	会社設立、増資、減資、
13	計算書類の範囲と業績報告	株主資本等変動計算書
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

科目名	財務諸表論Ⅱ				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

本科目は、財務諸表論Ⅰの後継上位科目としての性格を有している。したがって、本科目を受講する場合、財務諸表論Ⅰの単位を修得（合格）しておくことが望ましい。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《授業の到達目標》

資産・負債の概念（定義と具体的適用例）を説明できる力をつける。さらに、複数の概念間のリンケージ（関係性）をきちんと説明できる複合的体系的な概念理解の力をつける。そして、知識のアウトプット・トレーニングを意識した知識のインプット方法の力を養う。（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式」試験の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《テキスト》

財務諸表論Ⅰと同一。
（財務諸表論Ⅰの該当箇所参照）

《参考文献》

佐藤信彦ほか編著『財務会計論：1基本論点編（第5版）』『同：2応用論点編（第5版）』『同：3問題演習編（第2版）』中央経済社
 C.Nobes=R.Parker, "Comparative International Accounting (2nd ed.)," Financial Times
 J.Kothari=E.Barone, "Advanced Financial Accounting: An International Approach," Financial Times

《授業時間外学習》

専門用語の英単語（特に名詞）を少しでも増やすために、日本語の文献資料以外に英語の文献にも目を通す習慣をつけてもらいたい。企業のAnnual Reportの英語版と日本語版をまず入手し、同時に見比べながら、自学自習することから始めてもらいたい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	純資産会計	資本概念と純資産概念
3	資産会計（その1）	資産概念（調達資金の具体的使途としての資産、将来費用の固まりとしての資産、将来の収益源泉の割引現在価値としての資産）、資産の分類基準
4	資産会計（その2）	棚卸資産、商品有高帳、棚卸計算法と継続的記録法、先入先出し法・平均法・後入れ先出し法による払出単価算定の比較
5	資産会計（その3）	固定資産と減価償却（定額法、定率法、生産高比例法、級数法ほか）、取り替え法
6	資産会計（その4）	固定資産の減損会計と時価評価
7	資産会計（その5）	株式や社債などの有価証券
8	資産会計（その6）	無形固定資産、期間損益計算と繰延資産
9	負債会計（その1）	負債概念
10	負債会計（その2）	社債、引当金（負債か収益か）
11	貸借対照表論	貸借対照表と財政状態変動計算書
12	キャッシュフロー計算書	現金及び現金等価物の変動状態の意義、直説法と間接法
13	連結会計	連結企業集団と個別企業、連結の範囲（親会社・子会社・少数株主持分・関連会社）、連結財務諸表と個別財務諸表、本支店合併財務諸表と連結財務諸表、
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

科目名	情報会計論 I				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

情報会計論は、制度会計論に対峙する研究分野で非制度会計論とも呼ばれ、財務情報利用者側の立場から会計理論を考え、企業等の情報作成提供者は、如何なる基準で会計情報を作成し、如何なる媒体で発信すべきかを理論付ける学問である。本講義では、企業情報のディスクロージャー制度を検討し、実際の企業の財務情報（決算公告や有価証券報告書など）を入手し、分析し、読解することを内容とする。

《授業の到達目標》

企業情報のディスクロージャー制度を理解し、獲得できた企業情報には信頼性がどれほど担保されているのかを判断できる能力を養う。具体的には、会計情報の質的特性（意思決定有用性・目的適合性・信頼性・適時性・比較可能性など）と作成根拠（法定開示・任意開示）さらに開示手段（従来の紙媒体開示・電子開示）の意義を理解する力をつける。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《テキスト》

後ほど案内する。

《参考文献》

河崎照行編『ネットワーク社会の税務・会計』税務経理協会 / 河崎照行編『電子情報開示のフロンティア』中央経済社 / 田中弘著『会計データの読み方・活かし方』中央経済社 / 日経産業新聞編『日経シェア調査195』日本経済新聞出版社 / 日本経済新聞社編『日経業界地図(2012年版)』日本経済新聞出版社 / 太田裕士著『会計の「中身」を見抜く法』中央経済社

《授業時間外学習》

就職希望先の企業の現状と将来の成長性をしっかりと調べるためにも、産業界全体の種類とその特徴、希望企業がどの業界に属しどの企業と取引を行っているのか、売上高の構成要素（セグメント別）はどのようになっているのか、資本の規模と出資者（株主）の構成はどうなっているのか、これらのことは学習時間外に最低でも分析しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	情報会計論の位置付け	会計情報と情報会計、制度会計と情報会計、内部報告情報会計と外部報告情報会計
3	産業構造の変化と会計モデル	もの作りの製造業[有形財]重視のプロダクト型、資金調達市場の金融財重視のファイナンス型、知的所有権、ブランド、のれん等の無形財重視のナレッジ型の会計理論モデル
4	ディスクロージャー制度（その1）	会社法に基づく法定開示（登記簿と決算報告）、株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法に基づく法定開示（有価証券報告書）
5	ディスクロージャー制度（その2）	インサイダー取引と利害関係者
6	財務情報の入手方法	法定開示情報の開示手段
7	入手可能情報の信頼性の検証	入手経路（開示提供手段）の確認
8	会計コミュニケーションの基礎概念	コミュニケーション理論
9	会計測定システム	会計測定システムと情報選択基準
10	会計伝達システム	会計伝達システムと情報開示基準
11	会計データモデル	会計データモデルの展開
12	有価証券報告書の分析（その1）	有価証券報告書の意義と構成内容
13	有価証券報告書の分析（その2）	有価証券報告書の解読
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

科目名	情報会計論Ⅱ				
担当者氏名	沖野 光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

本科目は、情報会計論Ⅰの後継上位科目としての性格を有している。したがって、本科目を受講する場合、情報会計論Ⅰの単位を修得（合格）しておくことが望ましい。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《授業の到達目標》

従来の紙面ベースの開示書類とインターネット関連技術を利用した電子ベースの開示情報を異同比較し、その特質を判断できる能力と財務情報そのものを分析し、読解できる能力を養う。（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストの購入は、基本中の基本であるばかりか、講義受講の意欲を示すものであるため、必ずテキストを購入して講義に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義の意義と内容を説明し、履修登録の最終確認を行う。
2	財務情報の入手方法（その1）	法人格取得のための設立登記のために作成された登記簿（法務省）
3	財務情報の入手方法（その2）	会社法決算による決算公告
4	財務情報の入手方法（その3）	株式会社の上場会社に適用される金融商品取引法に基づいて作成された有価証券届出書と有価証券報告書
5	財務情報の入手方法（その4）	任意開示情報とシンクタンク調査会社が提供する有料調査資料
6	業界地図の確認	業界の全体の種類とその特徴
7	企業モデルの確認	売上高の構成要素を地域別や製品サービス別にセグメント分類し、当該企業の「儲けのからくり」（企業モデル）を確認し、競争優位性を見出す。
8	電子情報開示システム	金融庁のXBRL
9	電子情報開示の長所	インターネット関連技術に基づく電子開示の長所（発信者である企業側と受け手である利用者側）
10	電子情報開示の短所	インターネット関連技術に基づく電子開示の短所（発信者である企業側と受け手である利用者側）
11	財務情報の分析（その1）	時系列分析（フロー分析）と企業間比較分析（ストック分析）、複合分析
12	財務情報の分析（その2）	経営分析（フロー情報のみの比率分析、ストック情報のみの比率分析、ストック情報を元にしたフロー情報の比率分析）
13	財務情報の分析（その3）	その他の分析手法
14	進度調整	教育及び学習の進捗度を確認し、補足内容又は未到達内容を説明する。
15	まとめ	これまでの総括と重要事項の再確認を行う。

《テキスト》

情報会計論Ⅰと同一。
（情報会計論Ⅰの該当箇所参照）

《参考文献》

①坂上学著『会計のためのXBRL入門（新版）』同文館出版
 ②K. Roebuck, "XBRL: High-impact Strategies-What You Need to Know: Definitions, Adoptions, Impact, Benefits, Maturity, Vendors," tebbco (ISBN:978-1743332474) ③M. Cruz, "Adopting Extensible Business Reporting Language : A grounded theory," ProQuest (ISBN:978-1244621244)

《授業時間外学習》

就職希望先の企業の現状と将来の成長性をしっかりと調べるためにも、産業界全体の種類とその特徴、希望企業がどの業界に属しどの企業と取引を行っているのか、売上高の構成要素（セグメント別）はどのようになっているのか、資本の規模と出資者（株主）の構成はどうなっているのか、これらのことは学習時間外に最低でも分析しておくこと。

《備考》

科目名	労働経済論				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

マクロ経済学の応用分野として最近その研究が急速に進む労働市場の機能や各国の労働雇用の制度との関係を学ぶ。先進国のみならず開発途上国でもリーマン・ショック後の世界的不況を反映して失業の高止まりが続いている。雇用慣行と政府の雇用対策がどのように高水準の失業に関係しているのかを職業別、年齢別、男女別などの構造から比較考察する。

《テキスト》

『労働経済学入門』太田聡一・橋木俊詔、有斐閣、2004年

《参考文献》

『労働市場の経済学』大橋勇雄・中村二郎、有斐閣、2004年
『労働経済白書』各年版、厚生労働省

《授業の到達目標》

現在の厳しい雇用環境がいつ頃どのような要因によって形成されたのか、また労働の需要と供給のミスマッチはどのような対策によって削減されるのか、特に若年層の失業の原因とその長期化を解決するにはどのような政策が考えられ提案されてきたか、さらに企業経営の悪化による安易なリストラを阻止するにはどのような労働法の体系が必要かなどを学習する。

《授業時間外学習》

新聞やニュース報道で現在の雇用や失業の実態を把握すること。とくに全国平均とは別に関西地方や首都圏、中部地方などの完全失業率と有効求人倍率などの主要な指標に絶えず注目しておくこと。

《成績評価の方法》

中間テスト（50点）と期末テスト（50点）の合計で評価する。

《備考》

テキストを必ず購入すること。授業中の私語はもとより、遅刻や早退はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要	労働経済学とは何か、働くことの意義、人生の目的を考える。「アリギリス」の寓話の意味
2	労働の形態	雇用者と自営業者の労働の違い、労働時間と報酬に関する日本の雇用制度慣行を学ぶ。
3	賃金と雇用の決定（1）	労働市場の経済分析：家計の最適化行動としての労働供給の決定から労働供給曲線を導出。
4	賃金と雇用の決定（2）	企業の最適化行動（利潤最大化）から労働需要曲線を導出。両曲線の交点として均衡賃金および均衡雇用量の決定。
5	日本の労働市場の現実（1）	労働雇用統計の見方。労働力人口、就業者、完全失業者、失業率、労働力率、労働フローとしての就職と離職
6	日本の労働市場の現実（2）	正規雇用と非正規雇用、産業別および職業別就業構造、雇用形態別就業者数の変化、年齢別人口構成、名目賃金と実質賃金の推移などを考察する。
7	賃金格差の理論（1）	規模別・性別・学歴別の賃金格差の現実、生産性格差仮説、補償賃金仮説、労働市場の分断
8	賃金格差の理論（2）	非競争的な労働市場：賃金交渉仮説と効率賃金仮説
9	教育と訓練（1）	人的資本の形成と教育・訓練による生産性向上、学歴の効用と進学率の上昇、大学教育の内部収益率の国際比較、学歴間賃金格差発生理由
10	教育と訓練（2）	企業による訓練(OJT)、一般訓練と企業特殊訓練の訓練モデル、
11	教育と訓練（3）	訓練モデルの説明力：賃金プロファイル、二重労働市場（内部労働市場と外部労働市場）の特徴と企業特殊技能を持つ内部労働者の雇用安定
12	離職および転職行動	なぜ会社を辞めるのか、転職と離職のデータ、企業の解雇に対する法的制限（整理解雇の4条件、解雇権濫用禁止の法理）転職のメカニズム
13	失業の理論（1）	失業率統計からみる若年者の雇用と失業、年齢階級別失業率の違い、女性の失業率、先進国の経済不況による近年の失業率高止まりの原因分析
14	失業の理論（2）	賃金の下方硬直性、フィリップス曲線の理論を用いた失業低下策、ミスマッチによる失業（構造的失業）削減のための諸施策を検討。
15	まとめ	雇用と失業、日本の雇用慣行、労働法制度について要約する。

科目名	経済政策				
担当者氏名	萩原 史朗				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-2 経済学的思考力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

この科目では応用経済学の観点から経済政策について講義を行います。講義では、戦後の日本経済の推移と日本経済の現状についてデータや映像資料を活用しながら説明を行った後、日本の経済格差、社会保障、および財政の現状について説明を行います。その後、「今後、我々がどのような社会を構築するのか？」に関して、学生の皆さんとの議論を交えながら講義を進めていく予定です。

《授業の到達目標》

日本経済新聞の記事の内容を理解できるようになる。また、日本経済の現状と課題について理解し、今後必要とされる経済政策について論理的に説明できるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しません。代わりに講義資料を配布いたしますので、大事に保存してください。

《参考文献》

- [1]飯田泰之（2010）『ゼロから学ぶ経済政策 日本を幸福にする経済政策の作り方』光文社新書。
- [2]池田信夫（2009）『希望を捨てる勇気ー停滞と成長の経済学』ダイヤモンド社。
- [3]小野善康（2012）『成熟社会の経済学ー長期不況をどう克服するか』岩波新書。

《授業時間外学習》

新聞、ニュース、雑誌等に目を通し、現在、日本経済で何が起きているかを注意深く観察してください。

《成績評価の方法》

成績評価は、中間試験（30点満点）、平常点、期末試験（70点満点）の合計で行い、60点未満の場合には不可、60～69点の場合には可、70～79点の場合には良、80～89点の場合には優、90点以上の場合には秀とします。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要と経済政策の考え方	講義の概要と経済政策の考え方について講義を行う。
2	戦後の日本経済の推移と直近の日本経済	データや映像資料を用いて、戦後の日本経済の推移と直近の日本経済の状況について講義を行う。
3	バブル崩壊と「失われた20年」(1)	90年代以降の日本経済と経済政策についてデータや映像資料を用いて講義を行う。
4	バブル崩壊と「失われた20年」(2)	「なぜ90年代、日本経済は低迷したか？」に関する景気対策派と構造改革派の考え方の違いと両者の経済政策の理論的根拠について講義を行う。
5	バブル崩壊と「失われた20年」(3)	サブプライム・ローン問題が日本経済に与えた影響について講義を行う。
6	バブル崩壊と「失われた20年」(4)	円高が日本経済に与える影響について講義を行う。
7	中間のまとめ	中間試験
8	グローバル化と経済格差(1)	日本の格差の現状を様々なデータを用いて講義を行った後、格差発生メカニズムについて講義を行う。
9	グローバル化と経済格差(2)	アメリカや韓国の事例を取り上げながら、グローバル化が世界各国の経済に与えた影響について講義を行う。
10	グローバル化と経済格差(3)	アメリカ（ノースカロライナ州）、イギリス（リバプール）の事例を取り上げながら、各国の経済格差に対する諸政策について講義を行う。
11	今後の日本の社会のあり方をめぐって(1)	日本の社会保障制度の現状と問題点について講義を行う。
12	今後の日本の社会のあり方をめぐって(2)	先進各国の社会保障制度について講義を行う。
13	今後の日本の社会のあり方をめぐって(3)	オランダ・デンマークのフレキシキュリティ制度について講義を行う。
14	今後の日本の社会のあり方をめぐって(4)	日本の財政の現状について説明した後、財政赤字の弊害について講義を行う。
15	今後の日本の社会のあり方をめぐって(5)	「今後、我々日本人がどのような社会を目指すのか？」について、皆で議論を行い考察を行う。

《専門教育科目 コース専修科目 経済ビジネスコース専修科目》

科目名	職業指導				
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この授業では、高等学校商業科教員になった場合に、生徒が職業についての基礎となる知識・技術及び勤労を重んずる態度と個性に応じた適切な進路を選択できる能力を養えるよう、社会のさまざまな仕組み、職業の実際などの知識・技術を修得する。

《テキスト》

使用しません。

《参考文献》

授業中に指示します。

《授業の到達目標》

高等学校の生徒が将来の進路を適切に選択し、自己実現が図れるための適切な指導・援助の在り方やその指導法を修得する。

《授業時間外学習》

職業に関する新聞記事等を配布するので、読んでおくこと。到達度確認試験の範囲に含まれる。

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。

《備考》

教職（「商業」）免許の必修科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教科「職業指導」とは	免許法上の位置づけ。カリキュラム上の位置づけ。学校社会と仕事社会
2	学校社会と仕事社会	学校の意義と社会における位置づけ 学校と社会の連関
3	学校教育における職業指導の位置づけ	学校社会と仕事社会
4	職業とは	職業の意義と歴史
5	日本における雇用の現状 1	若年雇用の現状。失業率の推移。自発的失業の増加
6	日本における雇用の現状 2	学卒無業者とフリーター フリーターと正規雇用者の比較
7	非正規雇用の増加 1	非正規雇用増加の背景 新自由主義の台頭と社会的・思想的背景
8	非正規雇用の増加 2	世界経済のボーダレス化と企業を取り巻く環境変化
9	企業と教育	企業が求める学校教育 新自由主義的学校教育（自由と自己責任）
10	雇用の流動化	新自由主義的労働観の浸透 多様な働き方の選択
11	職業指導の意義と必要性 1	職業（進路）指導の歴史 職業（進路）指導の不在
12	職業指導の意義と必要性 2	1人1社制の意義と崩壊
13	職業社会の実際	企業・団体の類型と職業の種類（公務員を含む）
14	企業と従業員	法的関係と雇用関係法規
15	復習と到達度確認	総合演習に基づく復習と到達度の確認

科目名	経済ビジネス特論A				
担当者氏名	森 義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 ◎ 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

講義では中国やインドの急速な経済発展の現実を概観し、その背後にどのような社会経済的要因があったのか、またそれを理論的に解明する枠組み（成長理論）を新古典派のソロー・モデルに求め、詳しく解説する。成長に関する理論と実証について基礎から学習するのが本講義の目的である。

《授業の到達目標》

講義ではジョーンズの『マクロ経済学』第3-5章を中心に、世界の経済成長の実績を観察し、成長グループの間にどのような違いがあるのか、また現在の先進国と中国やインドのような新興経済諸国、アフリカの発展途上国との間に成長パターンの違いをもたらした原因は何か、一般に経済成長はどのような社会経済的要因によって決定されるのか、を理論的に学ぶ。

《成績評価の方法》

2回のレポート(40点)と定期試験(60点)の結果で評価する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

ジョーンズ『マクロ経済学I』（長期成長編）宮川、荒井他訳、東洋経済新報社、2011
 エーベル／バーナンキ『マクロ経済学（上）理論編』伊多波、大野ほか訳、CPA出版、2006
 ステイグリッツ『マクロ経済学』（第3版）藪下/秋山ほか訳、東洋経済新報社、2005

《授業時間外学習》

経済成長の基礎理論の理解のために必要とされる経済数学の知識もあわせて習得するようドリルを用意する。

《備考》

一般に経済発展や貧困、特に中国やインドの新興経済諸国の問題に関心があり、マクロ経済学を既修得している学生を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要	短期のマクロ経済モデルから長期の経済成長および景気循環の理論モデルへの研究の必然性、分析の次元の転換を理解する。
2	経済成長の概観（実証的証拠）	近代経済成長のパターン、経済成長の定義、世界各国の成長実績。
3	経済成長率の公式	対数目盛を使った人口成長率とGDP成長率のグラフ、経済成長に関する70の法則。
4	生産のモデル（生産関数）	規模に関する収穫法則、限界生産力逓減の法則、効率的資源配分と生産モデル。
5	生産性と技術進歩	全要素生産性（TFP）と生産モデルの適合性の有無、実現値と推定値の適合性の検証。
6	全要素生産性の規定要因	何がTFPの違いを説明するのか、「アジアの奇跡」の真の原因は何か、クルーグマンの仮説の紹介。
7	（補足）日本の高度成長の要因	資本・労働比率、技術進歩、旺盛な設備投資、輸出ドライブ（集中豪雨的輸出）、割安な為替レート（固定為替相場制）など
8	経済成長のソロー・モデル	モデルの基本構造、基本的な枠組み、モデルの図解。
9	定常状態解	経済成長の定常解（均衡解）の厚生の意味、黄金時代的解、ハロッド・ドーマーモデルとの違い。
10	内生変数の変化とGDP成長率(1)	技術進歩率、人口成長率、貯蓄率、資本減耗率、投資率の変動がGDP成長率や一人当たりGDPの成長率にどのような影響を及ぼすか。
11	内生変数の変化とGDP成長率(2)	発明・発見、アイデアの蓄積、外生的要因としての民主主義、学校教育（初等中等教育）、開発独裁の問題点。
12	移行過程の動学原理	成長の収束のタイプ（ α 収束と β 収束）、新興経済国や市場経済移行国は先進国に追いつくか。
13	ソロー・モデルの意義と限界	新古典派成長モデルの基本型としての意義、その後の内生的成長モデルの特徴および実証的検証の困難。
14	制度的社会的要因と新しいモデルの可能性	最近の経済成長の歴史的要因分析から各国固有の制度的側面と技術の性格やその組織の運営に及ぼした要因をどのように考えるか。
15	まとめ	ソロー・モデルを簡潔に要約し、現実の経済成長分析におけるそのモデルの説明力を検討する。

科目名	経済ビジネス特論B				
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 3-1 キャリア形成力 ◎ 3-4 経営学の知識の応用				

《授業の概要》

企業間の競争が激化する中、雇用する人材については、その質が厳しく問われている。つまり、企業にとって戦力となる人材がより一層求められる時代になってきているのである。そこで講義では、学生が企業が必要とする人材について自ら考え、就職活動やキャリア形成の基礎を作ることができるようになることを目的として、経営学の知識をもとにビジネス実務について解説する。

《授業の到達目標》

- 組織における個人の役割について理解が深まる。
- 顧客満足を中心としたビジネス活動の基本が理解できるようになる。
- 自らのキャリア設計を考えられるようになる。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験70% (なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する) (2) 課題レポート30%として評価する。きちんとした理由のない欠席が5回以上の場合、定期試験を受けることができない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ビジネス実務とは何か	講義の概要、ビジネス実務の定義、ビジネス実務の学習意義について学ぶ
2	企業が必要とする人材	学生と社会人との違い、働くとはどういうことなのかについて考え、自分の意見をまとめる
3	ビジネスワーカーの基本能力	4つの基本能力(主体的学習・情報共有・葛藤調整・職務達成)について学ぶ
4	ビジネスワークのとらえ方	ビジネスワークの現場について学ぶ
5	ビジネス活動のルール	企業の私的なルール、労働に関する法律について学ぶ
6	情報実務	協働業務と情報実務について学ぶ
7	コミュニケーション実務	協働のためのコミュニケーション実務(会議・プレゼンテーション・交渉)について学ぶ
8	サービス実務	顧客との接点としてのサービス実務について学ぶ
9	ビジネス実務と顧客満足①	顧客の立場で考えることを理解する
10	ビジネス実務と顧客満足②	顧客満足度調査の実践(グループワークによりアンケートシートを作成し、発表する)
11	消費者変化とビジネス創造	生活意識の変化について学ぶ
12	ワーキングライフの変化①	働きかた、働く場の変化について学ぶ
13	ワーキングライフの変化②	事例を検討する
14	ワーキングライフの変化③	これからの時代の人材育成、キャリア形成について学ぶ
15	まとめ	学習内容のまとめ

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

『ビジネスワーク論』森脇道子、実教出版、2000
 『仕事の常識 基本テキスト』キャリア総研、日本能率協会マネジメントセンター、2007

《授業時間外学習》

予習は、プリントの指示された箇所を読んでくること(該当箇所は、ひとつ前の授業時に提示する)。
 復習は、授業時に出す宿題および板書の確認。

《備考》

連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。
 当該科目を履修する上で「経営学総論」を履修しておくことが望ましい。

科目名	プログラミングⅡ				
担当者氏名	森下 博				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

プログラミングをおこなうことの意義を明確にし、解決手段の一つとしてプログラミング言語を自由に扱うことができるように学習していきます。プログラミングⅠを踏まえて、C言語の出力、演算、入力、条件分岐、繰り返しといった文法を確認し、そして配列、関数、ポインタ、構造体、ファイルの入出力といったあらたな文法を習得していきます。その理論を理解するとともに、コンピュータを活用した演習を進めます。

《授業の到達目標》

- プログラミング言語の文法を理解し、役割を説明することができる。
- 問題解決するための手順を考え、整理して説明することができる。
- プログラミング言語を活用して、実行したい内容を記述することができる。

《成績評価の方法》

授業内演習課題の提出30%
 最終提出課題とその成果10%
 筆記試験60%

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかつた課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングで大切なのは、実行したい内容を手順にそって組み立て、決められた文法にしたがって正確に記すことです。土台を固めながら着実に習得されることを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	01: 授業の概要の説明 02: 入出力処理の確認	01: 科目の位置付けや目標を示すとともに、授業展開方法や概要について説明する。 02: 実行までの流れを再確認し、入力出力文を用いたプログラムの作成をおこなう。
2	03: 条件判断処理の確認 04: 繰り返し処理の確認	03: 入力出力文の使い方を再確認し、条件文を加えたプログラムの作成をおこなう。 04: 条件文の使い方を再確認し、繰り返し文を加えたプログラムの作成をおこなう。
3	05: 一次元配列とは 06: データの集計と配列	05: 一次元配列の概念を説明し、データ中の最大値を求める考え方について学ぶ。 06: データの合計値を求めるための考え方と一次元配列の活用の仕方について学ぶ。
4	07: データの比較と並替 08: データの入替と並替	07: データの並び替えの一方法として、比較を繰り返すバブルソートについて学ぶ。 08: データの並び替えの別の方法として、入替を繰り返す選択ソートについて学ぶ。
5	09: 二次元配列とは 10: 行列の演算と配列	09: 二次元配列の概念を説明し、数値データの格納方法と行列の演算について学ぶ。 10: 二次元配列の添え字番号を意識しながら、2つの行列の積の演算について学ぶ。
6	11: 文字配列 12: 関数とは	11: 一文字と文字列の格納の区別を明確にし、文字配列への格納方法について学ぶ。 12: 関数の概念を説明し、プログラムにおける関数の定義と記述方法について学ぶ。
7	13: 関数の引数と戻り値 14: 関数の呼び出し	13: 関数の引数と戻り値の型を説明し、関数間の情報の受け渡し方法について学ぶ。 14: 定義した関数を引数の値を変えて何度でも呼び出しができる利点について学ぶ。
8	15: 関数と一次元配列 16: 関数と二次元配列	15: 関数間における一次元配列のデータの受け渡しの概念とその方法について学ぶ。 16: 関数間における二次元配列のデータの受け渡しの概念とその方法について学ぶ。
9	17: 再帰関数の呼び出し 18: ポインタとは	17: 定義した関数の中で再度自身を呼び出す再帰関数の仕組みと働きについて学ぶ。 18: 変数のアドレスとそれが指している値を取り出すポインタの概念について学ぶ。
10	19: さまざまな変数宣言 20: 関数とポインタ	19: ローカル変数とグローバル変数の宣言およびアドレスの取り扱いについて学ぶ。 20: 関数へのアドレスの引き渡しと指している値の取り出しの仕組みについて学ぶ。
11	21: 配列とポインタ 22: ファイルの入出力	21: 配列データを関数へ引き渡す際のアドレスの役割とポインタ変数について学ぶ。 22: データのファイルへの書き込みとファイルからの読み込みの方法について学ぶ。
12	23: 構造体とは 24: 構造体の演算子	23: いくつかの異なる型のデータをまとめて扱うための構造体の概念について学ぶ。 24: 構造体に関してドット演算子とアロー演算子の2つの記述の仕方について学ぶ。
13	25: 配列とファイル処理 26: 辞書単語検索(1)	25: 配列データをファイルに書き込んだり読み込んだりする集計方法について学ぶ。 26: これまで学習してきた文法をもとにして、辞書単語検索プログラムを制作する。
14	27: 辞書単語検索(2) 28: 辞書単語検索(3)	27: 1回の実行で何度でも辞書単語検索ができるようにプログラムの修正を加える。 28: 辞書に登録された単語の一覧の表示や単語検索および終了のメニューを加える。
15	29: 各文法の振り返り 30: 課題の提出と総括	29: 辞書単語検索プログラムの工夫をおこなうとともに、各文法について振り返る。 30: 課題の提出をおこなうとともに、プログラミングⅡ授業全体について総括する。

科目名	プログラミングⅡ				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

プログラミングの基礎知識を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としてのプログラミングの処理や制御など技法(後半部分)の獲得や論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミングの基礎の確立を目指します。授業は基礎となる知識や理論・方法を説明する講義と、C言語を使った演習を併せて行う形態で行います。また、よりよいプログラミングのためのデータ構造やその応用などにも触れます。

《授業の到達目標》

課されている問題解決のための一手段として、プログラミング言語を活用するための基礎(後半部分)を対象とし、プログラミング言語での処理を行う命令等の理解や記述規則に従いながら、処理の手順や手続きを記述できることや処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします。また問題解決へのアプローチを柔軟にすることも併せて目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(25%)、筆記による試験(中間試験と定期試験の2回)(70%)、平常点(5%)を総合的に判定し評価します。課題提出は提示された課題のすべてを対象とします。欠席回数が1/3以上ある場合には認定ができないことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 プログラミングIの復習	プログラミングIの復習
2	配列(1)	配列の有用性, 一次元数値配列
3	配列(2)	一次元文字配列
4	配列(3)	多次元配列
5	配列(4)	配列の応用, ソーティング
6	関数(1)	関数の基本, 関数プロトタイプ宣言, 引数と戻り値
7	関数(2)	再帰呼び出し関数
8	中間試験	中間試験の実施および解答返却/解説
9	ポインタ(1)	ポインタの基本, ポインタと配列・文字列
10	ポインタ(2)	ポインタと関数, ポインタの配列
11	構造体(1)	構造体の基本, データ構造
12	構造体(2)	構造体とポインタ
13	構造体(3)	構造体の応用, 共用体
14	ファイル入出力	ファイル入出力
15	まとめ	その他補足とまとめ

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は、適宜配付します。

《参考文献》

B. W. Kernighan, D. M. Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版, ¥2,940.-
 鈴木正人著, 『実践Cプログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』, サイエンス社, ¥1,995.- など
 その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい。
 また、計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから、各自で記述したプログラムの動作など確認を行ってください。

《備考》

『プログラミングI』, 『アルゴリズム』の既履修が望ましいです。履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更/修正する場合があります。

科目名	情報システム学				
担当者氏名	榎木 浩				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-4 経営学の知識の応用 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

高度化する情報社会に欠かせない情報システムを、情報技術の側面からだけではなく、情報技術を利用するという側面からも理解する。期前半は、情報システムとは何かという一般論や、様々な社会活動における情報システム利用についての基礎を学習する。期後半は、複雑で大規模な情報システムの開発で重要となるソフトウェア開発について学ぶ。

《テキスト》

毎回プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

(1) 情報システムの役割、(2) 社会・生活基盤としての情報システム、(3) 行政・ビジネスと情報システムの関係、(4) 顧客、商取引、組織と情報システムの関係、(5) 情報の共有、(6) 情報システムの倫理、(7) 情報システムの活用方法、(8) システム開発とは、(9) 開発の技法、(10) 要求工学、(11) ソフトウェア設計、(12) ソフトウェア実装、(13) ソフトウェア品質、(14) プロジェクト管理について説明できる。

《授業時間外学習》

事前学習

・授業のプリントを事前にWebに公開するので、授業までに読んでおくこと。

事後学習

・授業中の演習を復習すること。

《成績評価の方法》

レポート（2回を予定）(20%)、前半評価試験(40%)、後半評価試験(40%)

《備考》

授業方法は、週2コマのうち、1つを講義中心、もう1つを演習中心とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報システム学とは	授業内容の説明、情報システムとは、情報システムとコンピュータ
2	情報システムの利活用	社会基盤・生活基盤としての情報システム
3	情報システムの利活用	行政・ビジネスと情報システム
4	情報システムの利活用	ネットビジネス・電子商取引と情報システム
5	情報システムの利活用	顧客情報・組織と情報システム
6	情報システムの利活用	情報の共有と検索、情報システムと倫理
7	総括、評価	前半のまとめ、前半評価試験
8	情報システムの開発	情報システムの開発
9	情報システムの開発	システム開発モデル、開発手順
10	情報システムの開発	基本計画と外部設計
11	情報システムの開発	内部設計・プログラム設計・プログラミング
12	情報システムの開発	ソフトウェアテスト・運用保守
13	情報システムの開発	ソフトウェア品質
14	情報システムの開発	プロジェクト管理
15	総括、評価	後半のまとめ、後半評価試験

科目名	情報基礎理論				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-5 論理的思考力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-5 情報処理能力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用			

《授業の概要》

コンピュータの自動実行を司る理論の「オートマトン」の基礎知識とともに正則(正規)表現を学び、情報科学の根幹となる理論の獲得を目指します。授業は理論や動作などの説明を行う講義を主としますが、理解度の向上のためのレポートも実施します。

《授業の到達目標》

オートマトンでは、状態遷移図や数式モデルでの表現が可能ですが、それら表現方法による「機械」を正確に理解できることを目標とします。また、正則表現では、論理的な思考とその正確な表現方法の獲得を目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(20%)、筆記による定期試験の点数(75%)、平常点(5%)とし、総合的に判定・評価します。課題は提示したすべてを対象とします。また、欠席回数が1/3以上であるときには単位認定ができないことがあります。

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は、必要に応じて適宜配布します。

《参考文献》

J.Hopcroft :et 著, 野崎, 高橋, 町田, 山崎共訳, 『オートマトン言語理論 計算機論I 第2版』, サイエンス社, ¥2,940.-
 A.V.Aho :et 著, 原田賢一訳, 『コンパイラ[第2版]』, サイエンス社, ¥9,240.-

《授業時間外学習》

配布資料を熟読し、予習・復習を行って理解を深めて下さい。レポート課題は時間外で行ってください。

《備考》

「数理論理学」, 「コンピュータ基礎論」の既修得が望ましいです。履修者のより深い理解を促すために状況に応じて授業計画の順序等を変更・修正する場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要, 理解のための基礎知識(1)	文字列, 言語など, 理解のための準備としての基礎知識
2	理解のための基礎知識(2)	集合と関係, グラフなど, 理解のための準備としての基礎知識
3	決定性有限オートマトン(1)	決定性有限オートマトンの基礎である数的モデル, 遷移関数表, 状態図の解説
4	決定性有限オートマトン(2)	決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張
5	非決定性有限オートマトン(1)	決定性有限オートマトンとの相違点と有用性 非決定性有限オートマトンの数的モデル, 遷移関数表, 状態図の解説
6	非決定性有限オートマトン(2)	非決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張
7	非決定性有限オートマトン(3)	非決定性有限オートマトンから決定性有限オートマトンへの変換
8	ϵ 動作の非決定性有限オートマトン(1)	ϵ 動作の直観的説明, ϵ 閉包 ϵ 動作の非決定性有限オートマトンの数的モデル, 遷移関数表, 状態図の解説
9	ϵ 動作の非決定性有限オートマトン(2)	ϵ 動作の非決定性有限オートマトンの遷移関数の拡張 非決定性有限オートマトンへの変換
10	有限オートマトンのまとめ	有限オートマトンのそれぞれの特徴と適応をまとめる
11	正則表現(1)	正則表現の基礎と有用性などの解説
12	正則表現(2)	正則表現での演算
13	正則表現(3)	定義を使った正則表現から ϵ 動作の非決定性有限オートマトンへの変換
14	正則表現(4)	状態消去法を使った正則表現から ϵ 動作の非決定性有限オートマトンへの変換
15	正則表現のまとめ	授業全体のまとめを行う。

《専門教育科目 コース専修科目 情報システムコース専修科目》

科目名	情報セキュリティ				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

インターネットにより様々なサービスがネットワークを通じて手軽に利用できるようになっています。一方、個人情報流出の問題やネット犯罪の危険に遭遇する可能性も高くなっています。この講義では、情報セキュリティに関するしっかりとした基本知識を身につけることを目標としています。情報セキュリティの考え方から始まり、ウイルス、暗号などの基本技術、さらにはシステムの監査や診断といった課題も学びます。

《授業の到達目標》

情報セキュリティ技術の基本について理解します。例えば、Webで入力したパスワードはどの程度安全か、自宅のパソコンに対してどのような脅威が存在し、その脅威から守るにはどうすれば良いかがわかります。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《テキスト》

『情報セキュリティ 標準テキスト』 情報セキュリティ標準テキスト編集委員会編（オーム社）

《参考文献》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《備考》

「情報ネットワーク」を必ず受講しておいて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の進め方と概要	情報のセキュリティの概要
2	情報セキュリティの考え方	情報セキュリティの定義、情報セキュリティの必要性
3	不正攻撃(1)	情報システムの脆弱性
4	不正攻撃(2)	不正攻撃の定義、種類
5	ウイルス	不正プログラムの種類、ウイルスの種類とその対策
6	ファイアーウォール	ファイアーウォールの役割、機能、構成
7	暗号(1)	暗号技術とその応用
8	暗号(2)	公開鍵暗号方式の詳細
9	認証	利用者認証、第三者認証、認証応用技術
10	監査	セキュリティ監査と診断、各種ツール
11	情報セキュリティポリシー	考え方と対策
12	標準化	国際標準、国内標準、関連法規
13	セキュリティ管理者	不正アクセス基準から見たセキュリティ管理者の業務
14	習得事項の整理	情報セキュリティに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	データベース I				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この授業では表形式でデータを蓄積するリレーショナルデータベースについて学びます。その中で実際にデータを蓄積するリレーションについて説明し、そのリレーションに効率よくデータを蓄積するためのデータの分解や整理方法（正規化）について説明します。なお、可能な範囲でコンピュータを利用した演習も行います。

《テキスト》

「データベース入門」 増永良文 著（サイエンス社 1,900円）

（このテキストはⅡ期のデータベースⅡでも使用します）

《参考文献》

授業中に適宜指示します。

《授業の到達目標》

リレーションに効率よくデータを登録し、そのデータを的確に取り扱うために必要な次の知識を身に付ける。

- ・データを個々に識別して取り扱うために必要な候補キーの概念
- ・リレーション内の重複データを排除し、データの保守性を高める関数従属性の概念とそれを基にしたリレーションの分割法
- ・これらの知識を基にしたデータベースソフトの利用法

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと。また、授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと。また、自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し、活用できるかを常に考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回の課題やレポート（20%）、期末試験（80%）をもとに評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	データベースとは何か	データベースとはどのようなもので、どのようにデータを蓄積し、どのように活用できるかといったデータベースの概要について説明する。
2	データモデルについて	データベースに登録しようとする情報について、実際にデータベースに登録可能な形式の「データ」に変換する方法や考え方について説明する。
3	リレーショナルデータモデル	データベースの形式のひとつであるリレーショナルデータベースについてそのデータモデルを説明する。
4	リレーションと第1正規形	リレーショナルデータベースのデータ保存形式であるリレーション（表）とその個々のデータについての制限について説明する。
5	候補キーと主キー	データを個々に識別して取り扱うための主キーとその選定のもとになる候補キーについて説明する。
6	リレーショナル代数	リレーションに蓄積されたデータの中から特定のデータを取り出すためのデータベース演算について説明する。
7	リレーショナル代数	リレーションに蓄積されたデータを組み合わせ新しいデータを構成するためのデータベース演算について説明する。
8	更新時異状	リレーションに蓄積されたデータに対して様々な操作を行った時に発生する問題と、そのような問題を発生させないために必要な注意点について説明する。
9	第2正規形	更新時異状を発生させないデータ形式のひとつである第2正規形について説明する。
10	第3正規形	更新時異状を発生させないデータ形式のひとつである第3正規形について説明する。
11	関数従属性	更新時異状発生の原因となる関数従属性について説明する。
12	情報無損失分解	更新時異状が発生するリレーションを第2正規形や第3正規形になおすための情報無損失分解について説明する。
13	SQLについて	データベースを操作するために使用するデータベース操作言語について説明する。
14	SQLについて	データベースを操作するために使用するデータベース操作言語について説明する。
15	応用課題	今までのまとめと応用課題に取り組む。

科目名	データベースⅡ				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この授業ではⅠ期に学んだリレーショナルデータベースについて、そのデータベース操作・記述言語であるSQLについて説明します。そしてその上でデータベースに対して起こるさまざまな障害やその対処のための仕組みについて学び、データベースを高度に活用する技術を身に付けます。なお、コンピュータを利用した演習も行います。

《テキスト》

『データベース入門』 増永良文 著 (サイエンス社 ¥1,900)
 (このテキストはⅠ期のデータベースⅠで使用したものと同一ものです)

《参考文献》

授業中に適宜指示します。

《授業の到達目標》

データベースをサービスとして提供するデータベースサーバーを取り扱うために必要なデータベース操作言語SQLのうち、データの取得に使用するSELECT文の使い方を身につけます。その上でそのようなデータベースサーバーを大勢が同時に利用した場合に想定される問題点について説明し、それを回避するトランザクションの概念とそれを使った障害時回復の考え方を身につけます。

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと。また、授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと。また、自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し、活用できるかを常に考えるよう心がけること。

《成績評価の方法》

毎回の課題やレポート(20%)、期末試験(80%)をもとに評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習	授業の概要とデータベースⅠの範囲の復習を行う。
2	SQL(単純質問)	データベース操作言語SQLのSELECT文の基本形を説明する。
3	SQL(条件指定)	データベース操作言語SQLのSELECT文において条件を指定してデータを絞り込む方法を説明する。
4	SQL(グループ化と集約関数)	データベース操作言語SQLのSELECT文において同じ値を持つデータをグループにまとめ、集計を行う方法を説明する。
5	SQL(その他)	データベース操作言語SQLのSELECT文において複数のテーブルを結合してデータを取り出す方法を説明する。
6	データベース管理システムについて	データベースをサービスとして提供するデータベースサーバーの仕組みや構造について説明する。
7	データベースの設計について	データベースサーバーにデータを登録するためのテーブル設計などについて説明する。
8	トランザクション	データベースサーバー上のひとつのデータベースを大勢が同時に利用した時に発生する問題などについて説明する。
9	トランザクション	前回説明した問題点を回避するための仕組みであるトランザクションについて説明する。
10	同時実行制御について	トランザクションの同時実行について説明する。
11	同時実行制御について	複数のトランザクションの同時実行を可能にする同時実行制御について説明する。
12	同時実行制御について	同時実行制御のひとつである2相ロック法について説明する。
13	障害時回復について	トランザクションを基本としたデータベースの障害時回復について説明する。
14	応用課題	今までの復習と応用課題に取り組む
15	応用課題	今までのまとめと応用課題に取り組む

科目名	オペレーションズ・リサーチ				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この授業では、表計算ソフト（Excel）を使って、企業経営を中心とする様々な問題を効率的に解くOR手法を実践的に学びます。特に従来表計算ソフトとして使ってきたExcelの問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を学びます。ORは問題を科学的に解決するための「問題解決学」です。誰もがORを学ぶことによって問題解決能力を高めることができます。

《授業の到達目標》

（1）問題解決能力を高めることができます。さらに、（2）従来表計算ソフトとして使ってきたExcelの問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を使いこなすことができるようになります。

《成績評価の方法》

到達目標（1）については、試験によって見ます。（2）については、毎回提出してもらった課題を見ます。平常点（毎回の課題）を40%、期末試験を60%の割合で評価します。ただし、課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。

《テキスト》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考文献》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については、次の授業までに完成させて、提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ORの歴史と手法の例	ORの歴史と代表的な活用例を学び、概要を理解する。
2	日程管理	手法の理解とExcelを使った実習。
3	PERT計算	手法の理解とExcelを使った実習。
4	PERTを使った日程管理	手法の理解とExcelを使った実習。
5	線形計画法とは	手法の理解とExcelを使った実習。
6	線形計画法の代表例	手法の理解とExcelを使った実習。
7	輸送問題	手法の理解とExcelを使った実習。
8	在庫管理	手法の理解とExcelを使った実習。
9	在庫管理手法のシミュレーションによる検討	手法の理解とExcelを使った実習。
10	待ち行列とモンテカルロシミュレーション	手法の理解とExcelを使った実習。
11	待ち行列のシミュレーションによる検討	手法の理解とExcelを使った実習。
12	現在価値と期待値	手法の理解とExcelを使った実習。
13	動的計画法	手法の理解とExcelを使った実習。
14	意思決定	手法の理解とExcelを使った実習。
15	学習のまとめ	各手法の理解確認。

科目名	情報数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力				

《授業の概要》

前半では、基礎知識として知っておきたい三角関数を学ぶ。後半では、「線形代数」を基礎から勉強する。抽象的な理論を理解し、具体的に展開することにより、情報学の学習に適應できる基礎学力を養う。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

三角関数を理解することができ、応用できるようになる。
線形代数の基礎を理解することができるようになる。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直すこと。次回の復習テストに備えること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

基礎を学ぶには、積み重ねが重要である。毎回復習を行い理解して次の週に臨むこと。
相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基礎数学の学力チェック	2年II期までに学んだ数学の知識の確認を行う。
2	三角関数の定義	三角関数の定義を理解する。
3	三角関数の定理	三角関数の定理を理解する。
4	三角関数のグラフ	三角関数のグラフが描けるようになる。
5	これまでの学習のふり取り	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。
6	ベクトル演算	ベクトル演算の定義を理解し、演習問題が解けるようになる。
7	行列演算	行列演算の定義を理解し、演習問題が解けるようになる。
8	行列式	行列式の定義を理解し、演習問題が解けるようになる。
9	クラメルの公式	クラメル公式を知り、演習問題を解けるようになる。
10	方程式を解く(1)	これまで学んだ知識で方程式を解けるようになる。
11	固有値	固有値の定義を知り、計算できるようになる。
12	固有ベクトル	固有ベクトルの定義を知り、計算できるようになる。
13	行列の対角化	行列の対角化を知り、計算できるようになる。
14	方程式を解く(2)	第10回で学習した方程式よりもさらに複雑な方程式を解けるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	応用プログラミングA				
担当者氏名	田中 正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

JavaScript言語を使ったプログラミングの演習を行います。オブジェクト指向、イベントドリブン、DOMについて学んだ後、ウェブブラウザ上で動作するクライアントサイドプログラミングにとりくみます。

《テキスト》

なし
資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》

<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。

JavaScriptによるプログラミング
オブジェクト指向の考え方

自ら考えることで、思考と表現の幅を広げることができる。

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。
プログラムの入力やデバッグの作業。

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《備考》

e-Learningシステムを利用します。
C言語、HTML、CSSの基礎を理解していること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	言語概要	JavaScriptとECMAScript
2	処理系の使い方	対話的に用いる処理系の使い方、C言語との比較
3	変数、制御文	変数、スコープ、Cと異なる制御文
4	関数	関数の定義と呼び出し、関数の引数
5	オブジェクト	オブジェクト、プロパティ、コンストラクタ、メソッド
6	配列	配列の定義、配列のメソッド
7	正規表現	正規表現によるパターンマッチング
8	DOM	HTMLとブラウザ上のオブジェクト
9	イベント	HTMLとイベント
10	CSS	CSSを扱うスクリプト
11	グラフィックス	スクリプトによる描画
12	応用	動的なウェブページを設計する
13	応用	データの連携を考える
14	応用	予期せぬ使い方に対応する
15	応用	まとめとセキュリティの話

科目名	オブジェクト指向方法論				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-3 システム的思考力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

ソフトウェア開発によく用いられている「オブジェクト指向」の基礎知識や思考方法などのアプローチとその表現方法としてのモデル化を学び、計算機上の空間だけでなく、現実世界に存在するシステム設計や評価のための方法論の確立を目指します。モデリングの記述にはUML(Unified Modeling Language:統一モデリング言語)を使いますから、UMLの記述規則の理解も必要です。

《授業の到達目標》

現実世界を認知した通りにモデル化では、オブジェクトの持ち合わせる特性や特徴(構造や構成、関連など)を表現する静的モデリング、処理の手続きや制御(時系列、事象・状態)を表現する動的モデリング、システムの入出力アクセスを表現する機能モデリングの3つを対象とします。具象化と抽象化の概念、記述規則に対して正確な記述方法と思考力の獲得を目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(35%)、試験に代わる課題(60%)平常点(5%)を基本として総合的に判定し評価します。課題については提示する課題すべてを対象とします。欠席回数が全授業実施回数の1/3以上ある場合には単位認定ができないことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要と導入 モデリングの基礎	モデリングの概要と基礎
2	静的モデル(1): オブジェクト(1)	インスタンスとクラス
3	静的モデル(2): オブジェクト(2)	関連, リンク, 制限
4	静的モデル(3): オブジェクト(3)	集約, 汎化, 継承
5	動的モデル(1)	シナリオと事象トレース図
6	動的モデル(2)	アクティビティ図
7	動的モデル(3)	状態チャート図
8	動的モデル(4)	状態チャート図
9	機能モデル(1)	データフロー図
10	機能モデル(2)	データフロー図の拡張
11	総合的な演習・課題(1)	静的モデルの演習
12	総合的な演習・課題(2)	動的モデルの演習
13	総合的な演習・課題(3)	機能モデルの演習
14	総合的な演習・課題(4)	具体的なシステムの設計
15	まとめ	授業のまとめ

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考文献》

Sinan Si Albir著, 原 隆文 訳, 『入門UML』, オライリージャパン, ¥3,360.-
 Russ Miles, Kim Hamilton著, 原 隆文 訳, 『入門UML 2.0』, オライリージャパン, ¥2,940.-など。
 その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい。

《備考》

『情報デザイン』, 『情報基礎理論』の既履修が望ましいです。より深い理解を促すために授業計画の順序等を変更・修正する場合があります。

科目名	システム解析				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力				

《授業の概要》

システム解析とは、様々な情報を集約・整理し、適切な意思決定を行うための方法を探究する学問と考える。データ解析、予測は、情報などの分野に限らず、経済などあらゆる分野で必要となる。この授業では、特に解析手法など基本的な技法について学習し、あわせて種々の学問分野を横断する「ものの見方」、「考え方」、「センス」を養う。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

線形代数の基礎を思いだし、できるようになる。
 微分法を思いだし、できるようになる。
 基本的な積分を理解し計算できるようになる。
 基本的な微分方程式が解けるようになる。
 基本的なラプラス変換ができるようになる。
 これらを用いてデータ解析の基礎を身につける。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の箇所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
 予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直すこと。次回の復習テストに備えること。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

この科目は、特に基礎知識を要求される。線形代数、微分を理解した上で受講したほうが望ましい。
 相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基礎数学の学力チェック	3年I期までに学んだ数学の知識の確認を行う。
2	線型代数の復習(1)	1年II期の「基礎経済数学」で学んだ線型代数の知識の確認を行う。
3	線型代数の復習(2)	第2回で学習した内容の計算練習を行う。
4	微分の復習(1)	2年I期の「基礎情報数学」で学んだ微分の知識の確認を行う。
5	微分の復習(2)	第4回で学習した内容の計算練習を行う。
6	積分(1)	積分の基本的な知識を学ぶ。
7	積分(2)	第6回で学習した内容の計算練習を行う。
8	これまでの学習の振り返り	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。
9	微分方程式(1)	微分方程式の基本的な知識を学ぶ。
10	微分方程式(2)	第9回で学習した内容の計算練習を行う。
11	ラプラス変換(1)	ラプラス変換の基本的な知識を学ぶ。
12	ラプラス変換(2)	第11回で学習した内容の計算練習を行う。
13	データ解析の基礎(1)	データ解析の基礎的な知識を学ぶ。
14	データ解析の基礎(2)	第13回で学習した内容の計算練習を行う。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	情報検索論				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-5 情報処理能力 ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-4 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

高度情報化社会においては、単なる検索技術の習得だけでなく、情報の構造、世の中の情報の流れ、インターネットをはじめとする情報システムの仕組みを理解し、さらに情報を見る目を養う必要があります。そのような情報スキルを身につけるための基礎となる知識や技術を学びます。授業の中では、パソコンを使った実習も多く取り入れていきます。

《授業の到達目標》

情報検索は何かの問題解決のためのひとつのプロセスです。ですから、みなさんがこの授業で得た知識や技術を実際の問題解決の場で活用できるようになることが目標です。そのために、検索エンジンの仕組みの理解を図ります。そのうえで、日常生活の中での問題解決に必要な情報、他の授業におけるレポート作成や研究に必要な情報、ビジネスにおける問題解決に必要な情報検索のスキルを身につけることが目標です。

《成績評価の方法》

平常点（毎回の課題）を20%，復習テスト（毎回授業の最初に行います）を80%の割合で評価します。

《テキスト》

特に使用しません。その都度、資料を提示します。

《参考文献》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《授業時間外学習》

毎回授業の復習をし、確認テストに備えてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	検索エンジンが目指すこと	検索エンジンの概要を図書館システムと対比させながら理解する。
2	Googleを使いこなす	Googleの様々な機能を使ってみる。
3	検索エンジンの仕組み（情報の集め方）	図書館システムについて理解する。
4	検索エンジンの仕組み（情報の集め方）	クローラのWebページ収集方法について理解する。
5	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	分類について学ぶ。
6	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	全文検索のアルゴリズムを学ぶ。
7	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	索引付けについて理解する。
8	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	索引付けについて理解する。
9	検索エンジンの仕組み（情報の整理）	検索エンジンを評価する。
10	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	情報要求について理解する。
11	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	図書館員の仕事について理解する。
12	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	検索モデルについて理解する。
13	検索エンジンの仕組み（情報の検索）	検索システムの将来について学ぶ。
14	キーワードの見つけ方	体系的に検索キーワードを見つける方法を取得する。
15	検索エンジンの問題点	検索エンジンに係わるインターネット上の問題点について考察する。

科目名	情報法学				
担当者氏名	上原 克之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力				

《授業の概要》

情報化社会における通信、放送、インターネット、行政等に対する情報公開・個人情報保護制度、知的財産、マス・メディアなどの諸領域に対する法的規律について検討していく。この授業では、これらの情報諸領域に関する法についての基礎的な知識を習得することによって、情報化社会における法制度、法的な思考力（リーガルマインド）を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- 情報に関する基本的人権・権利のあり方について理解する。
- 情報に関する法制度、法的仕組みについて理解する。
- 情報法の諸問題を分析し、法的な論理を展開できる。

《成績評価の方法》

- (1) 期末の論述式を中心とする筆記試験の成績（80%）
- (2) 授業への取り組みなどの平常点（20%）を総合的に判断して評価する。

《テキスト》

テキストは指定しないが、授業内容についてのプリントを配布する。

《参考文献》

石村善治・堀部政男編『情報法入門』（法律文化社、2000）
 原田三朗・日笠完治・鳥居壮行『新・情報の法と倫理』（北樹出版、2006）
 松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社、2003）

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：事前に配布する教材に目を通し、よく理解できない点についてチェックしておく。
- (2) 復習の方法：授業のノート整理を通じて授業内容をよく理解できているかどうかを確認する。よく理解できていない点は、参考図書等を利用して、自分で調べてみる。

《備考》

新聞、テレビ等で情報化社会について生じているさまざまな問題について日頃から関心を持っておくことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報法学の概要	この授業で学習する情報法学の全体像について理解する。
2	情報と憲法(1)	憲法上の諸原則と情報との関わり及びとりわけ表現の自由の位置づけについて理解する。
3	情報と憲法(2)	名誉・プライバシーと表現の自由との関係について理解する。
4	情報と憲法(3)	わいせつ表現と表現の自由との関係について理解する。
5	放送制度	放送に関する法制度について理解する。
6	通信制度	通信に関する法制度、通信の秘密について理解する。
7	インターネットと法	インターネット社会、表現の自由とインターネット、プロバイダーの責任、インターネットと情報セキュリティ等について理解する。
8	マス・メディアと法(1)	マス・メディア発達の歴史、現状について理解する。
9	マス・メディアと法(2)	取材の自由について理解する。
10	マス・メディアと法(3)	マス・メディアの特権と責任について理解する。
11	情報公開	情報公開制度の意義としくみについて理解する。
12	個人情報保護	個人情報保護制度の意義としくみについて理解する。
13	電子商取引	電子商取引のしくみについて理解する。
14	知的財産法(1)	知的財産法の概要、著作権法のしくみについて理解する。
15	知的財産法(2)	特許法の仕組み等について理解する。

科目名	情報管理論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input type="radio"/> 2-5 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-1 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

この講義では、(1) 近年の「情報化」が、ビジネスのあり方をいかに変えてきているかを考え、さらに(2) 近年の「情報化」が、社会で働く個人々の働き方や考え方にどのような変化をもたらしているかを議論し、最後に(3) 近年の「情報化」がもたらした新しいタイプの社会的リスク(犯罪、格差等)について考察したいと思います。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》

講義の中で随時紹介する

《授業の到達目標》

- IT社会を考察するのに必須の知識やボキャブラリーを習得できる。
- IT社会のメリット、デメリットを具体的に理解できる。
- 情報科教員として生徒に授業を行う際に必要な内容と視点を習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント(場合によってはそれ以上の量)にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

講義中にテストを実施し、レポートを課す。これらの結果を総合して評価(レポート50%、テスト50%)をおこなう。テストやレポートの詳細については講義の中で説明する。

《備考》

・「情報」の高等学校教諭一種免許状の取得を目指す諸君は必ず履修して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	IT社会とは
2	情報化によるビジネス環境の変化(1)	コンピュータの歴史、ENIACからメインフレームへ
3	情報化によるビジネス環境の変化(2)	コンピュータの歴史、電卓からパソコンへ
4	新しいビジネスモデル(1)	MIS、DSS
5	新しいビジネスモデル(2)	SIS、BPR
6	新しいビジネスモデル(3)	SCM
7	現代のIT社会の諸相(1)	国家のIT戦略
8	現代のIT社会の諸相(2)	インターネットの発達
9	現代のIT社会の諸相(3)	インターネットビジネスの勃興
10	労働環境と労働意識の変化(1)	雇用形態、コア・コンピタンス
11	労働環境と労働意識の変化(2)	アウトソーシング、組織のフラット化
12	労働環境と労働意識の変化(3)	成果主義、IT技術者の現状
13	リスクマネジメント(1)	リスクとは
14	リスクマネジメント(2)	IT社会の様々なリスク
15	まとめ	具体的なリスクの対処法

科目名	情報システム特論A				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-5 情報処理能力			

《授業の概要》

基本情報処理技術者試験午前問題の出題範囲のうち、コンピュータ構成要素、システム構成要素、アルゴリズムとプログラミングを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《テキスト》

『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 (オーム社)

《参考文献》

適宜提示します。

《授業の到達目標》

受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては情報処理技術者試験午前問題の合格レベルに達することを目標とします。

《授業時間外学習》

授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えてください。

《成績評価の方法》

第3週から第15週までの授業の最初に前週の授業内容に関する10点満点のテストを行います。13回のテストのうち、良い成績10回分の合計点(100%)により成績を評価します。

《備考》

10人程度の小人数のクラス編成とする。受講希望者は必ず第一回目の授業に参加して受講許可を得てください。情報科学入門、コンピュータ基礎論、アルゴリズムを受講しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	基本情報技術者試験の概要、授業の進め方、単位の認定基準 受講者多数の場合は選抜を実施
2	コンピュータ構成要素(1)	CPU性能評価、高速化技術
3	コンピュータ構成要素(2) 試験	メモリーの種類、キャッシュ 第2週の講義内容に対する試験
4	コンピュータ構成要素(3) 試験	磁気ディスクの容量、磁気ディスクのアクセス時間 第3週の講義内容に対する試験
5	コンピュータ構成要素(4) 試験	RAID、入出力アーキテクチャ 第4週の講義内容に対する試験
6	システム構成要素(1) 試験	集中処理と分散処理、サーバクライアントシステム、高信頼化手法 第5週の講義内容に対する試験
7	システム構成要素(2) 試験	システムの信頼性、稼働率、平均故障間隔、平均修理時間 第6週の講義内容に対する試験
8	システム構成要素(3) 試験	直列構成の稼働率、並列構成の稼働率 第7週の講義内容に対する試験
9	システム構成要素(4) 試験	2 out of 3 システム 第8週の講義内容に対する試験
10	アルゴリズム(1) 試験	配列、リスト構造 第9週の講義内容に対する試験
11	アルゴリズム(2) 試験	完全2分木、スタック、キュー 第10週の講義内容に対する試験
12	アルゴリズム(3) 試験	2分探索木、ハッシュ法、ハッシュ関数 第11週の講義内容に対する試験
13	アルゴリズム(4) 試験	整列処理、探索処理 第12週の講義内容に対する試験
14	アルゴリズム(5) 試験	ハミング符号 第13週の講義内容に対する試験
15	まとめ 試験	全試験内容に対する復習 第14週の講義内容に対する試験

科目名	情報システム特論B				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-5 情報処理能力			

《授業の概要》

通常の講義で学んでいる情報技術を情報技術者試験の問題を題材として学ぶことにより、理解を深め、知識を定着させることを目的とします。具体的には、情報の表現方法、集合と論理、アルゴリズムなどの項目について、情報技術者試験の各種問題を解きます。情報技術者試験の対策も兼ねています。

《テキスト》

『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 (オーム社)

《参考文献》

特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《授業の到達目標》

情報の表現方法、集合と論理、アルゴリズムなどの項目について理解が深まります。情報技術者試験の対策ができます。

《授業時間外学習》

毎回授業の復習をし、確認テストに備えてください。

《成績評価の方法》

平常点(毎回の課題)を20%、復習テスト(毎回授業の最初に行います)を80%の割合で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報の表現	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
2	情報の表現	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
3	情報の表現	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
4	情報の表現	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
5	情報の表現	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
6	集合と論理	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
7	集合と論理	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
8	集合と論理	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
9	集合と論理	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
10	確率	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
11	統計	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
12	アルゴリズム	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
13	アルゴリズム	基本事項を確認し基本問題及び実戦問題を解く。
14	復習と補足	13回目までの内容で理解不十分な項目を復習する。
15	復習と補足	14回目までの内容で理解不十分な項目を復習する。

科目名	人と地域				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

個人が所属する、各レベルの共同体の発生と、共同体内の諸原理を考えます。それらの原理により、人間が如何なる行動をとるか、を考えましょう。
 難しく表現すれば、共同体論と政治過程論とを扱います。

《テキスト》

なし

《参考文献》

京極純一『日本の政治』（東京大学出版会）
 網野善彦『東と西の語る日本の歴史』（講談社学術文庫）

《授業の到達目標》

日本文化の多様性を感じていく感覚の獲得と、多様な文化を受容するためのシードを獲得する。各レベルの共同体の生成過程と、その中での行動原理を一生をかけて考察するシードを獲得する。

《授業時間外学習》

柔軟な思考ができるように、頭のストレッチをしてから講義に臨んでください。また、常に周囲の人間行動に関心を持ち、観察してください。参考文献を自主的に読破してみてください。

《成績評価の方法》

学期末に行う確認テスト（ペーパーテスト）を60パーセントとします。比較的小人数の講義になるので、講義への積極的参加を40パーセントとし、随時行う小テスト等で評価します。

《備考》

大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要 地域とは何か
2	東と西の語る日本の歴史 1	西国 東国 照葉常緑樹林帯 広葉落葉樹林帯 弥生文化 縄文文化
3	東と西の語る日本の歴史 2	南西諸島 北海道 非弥生文化圏 非水稻耕作文化圏
4	東と西の語る日本の歴史 3	武士 公家 牛 馬 郡司
5	太政官の議定会議	御神輿型政治構造 稟議と根回し 天皇制
6	惣の成立	惣 契約共同体 地縁 村と町
7	惣のシステム	自治 老若組織 株 多数決 相互扶助 共有財産 村請
8	タテ社会とヨコ社会 1	平等 トップダウン 護送船団方式 稟議 根回し
9	タテ社会とヨコ社会 2	無責任の体制 狩猟文化 牧畜文化 農耕文化
10	共同体の行動原理 1	親心の政事 正論の政事
11	共同体の行動原理 2	桃太郎主義 鬼と仏 行者から仙人へ はぐれ者
12	身近な素材での考察 1	餅 牛 豚
13	身近な素材での考察 2	家 男系 女系 婿養子 嫁入り
14	身近な素材での考察 3	町内会をどうしよう？
15	おわりに	全体の総括

科目名	地域デザイン論				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

地域をデザインするとは何かをまず学びます。ついで、基礎的な理論や現実を学びます。また、「地域づくり・まちづくり」について学び、様々な局面での地域デザインの手法を学びます。

《テキスト》

特に使用しません。授業の進行に合わせて、必要なプリントや資料を配布します。

《参考文献》

適宜、リストを紹介します。

《授業の到達目標》

「地域」という言葉を中心に据えて、そのあり方を構築していくデザインするための複数の視点を習得する力を高めます。

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、日常的に接する情報の中から地域問題やまちづくりに関しての知識を深めてください。

《成績評価の方法》

授業中に提示する複数の課題についてのレポート(100%)で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	地域デザインとは何かを考えます。
2	地域をデザインするとは	課題の発見・整理の手法を考えます。
3	地域をデザインするとは	課題の発見・整理の手法を考えます。
4	地域をデザインするとは	計画・予測の手法を考えます。
5	地域をデザインするとは	計画・予測の手法を考えます。
6	地域をデザインするとは	評価・利害調整の手法を考えます。
7	地域をデザインするとは	評価・利害調整の手法を考えます。
8	地域をデザインするとは	中心市街問題を考えます。
9	地域をデザインするとは	中心市街問題を考えます。
10	地域をデザインするとは	中心市街問題を考えます。
11	地域をデザインするとは	流域圏としての計画を考えます。
12	地域をデザインするとは	流域圏としての計画を考えます。
13	地域をデザインするとは	コンパクトシティを考えます。
14	地域をデザインするとは	コンパクトシティを考えます。
15	学習のまとめ	これからの地域デザインのあり方を考えます。

科目名	地域経済論Ⅱ				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力 <input type="radio"/> 3-3 経済学の知識の応用				

《授業の概要》

地域経済のダイナミックな動きを検証し、地域経済の発展が全国経済や他地域の経済に与えた影響を探ります。なぜ、地域経済の発展は様々な展開を見せるのかについて、地域類型の動向や全国総合開発計画の変遷を実証的に分析します。また、地域経済統計の基本的な見方を学びます。

《テキスト》

特に使用しません。授業の進行に合わせて、必要なプリントや資料を配布します。

《参考文献》

適宜、リストを紹介します。

《授業の到達目標》

地域政策の課題を探る力や地域経済政策を考える基礎力を養います。

《授業時間外学習》

特に指定しませんが、日常的に接する情報の中から地域問題に関しての知識を深めてください。

《成績評価の方法》

授業中に提示する複数の課題についてのレポート(100%)で評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	地域政策を考える視点を考えます。
2	地域政策とは	「様々な変化」について考える
3	地域政策とは	「地域」の見方を考えるー1
4	地域政策とは	「地域」の見方を考えるー2
5	地域政策とは	「政策」を考えるー1
6	地域政策とは	「政策」を考えるー2
7	地域政策とは	「変遷」を考えるー1
8	地域政策とは	「変遷」を考えるー2
9	地域政策とは	「自治体財政」を考えるー1
10	地域政策とは	「自治体財政」を考えるー2
11	地域政策とは	「都市空間」を考えるー1
12	地域政策とは	「都市空間」を考えるー2
13	地域政策とは	「地域産業」を考えるー1
14	地域政策とは	「地域産業」を考えるー2
15	学習のまとめ	これからの地域経済政策について考えます。

科目名	環境と地理				
担当者氏名	南 埜 猛				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力 ○ 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

この講義では、大学周辺の地域や兵庫県・日本を題材に、その環境を認識することを目的とします。認識するための道具として地図を使います。地図は見るものではなく、読むものです。読むための技術を図上作業等を通じて習得します。またGIS（地理情報システム）を利用すれば、オリジナルの地図が簡単に作れます。この授業では実際にコンピュータを使った地図作成も行ないます。

《授業の到達目標》

- 環境の把握の方法を知り、地域の環境を理解することができる。
- 地図についての基礎知識を説明できる。
- 地図が読めるようになる。
- コンピュータでオリジナルの地図（主題図）を作ることができる。

《成績評価の方法》

- (1)授業内討論等への参加 20%（参加意欲・協力度によって評価する）(2)授業時間内に指示する課題等の提出 60%（提出遅れについては、減点する）(3)最終レポート 20%

《テキスト》

・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。ただし、作業教材として大学周辺の地形図を必ず購入します（540円程度）。

《参考文献》

- 『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 新版』後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・加藤一郎，古今書院，2007。
 『地図表現ガイドブック』浮田典良・森三紀，ナカニシヤ出版，2004。
 『ジオ・パル21 地理学便利帳』浮田典良・池田碩・戸所隆・野間晴雄・藤井正，海青社，2001。

《授業時間外学習》

・授業時間内だけで課題をこなすことは出来ません。課題をするための時間を予め確保するようにしてください。

《備考》

- ・授業を欠席した時は、必ず学生センター教務課で配布資料を受け取り、また課題を確認し提出期限内に提出してください。
- ・色鉛筆とUSBメモリーを用意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の目的、内容、進め方の説明。
2	地理と環境	地理とはどんな学問なのかを学ぶ。地理学的視点から環境の認識の仕方を理解する。
3	環境の認知－メンタルマップ	地図を通じた環境の認知について考える。
4	いろいろな地図	古代から現代まで、そして身近な地図から世界の地図まで、いろいろな地図や面白い地図の存在を知る。
5	地図を読む 1	地図を読むための基礎を学ぶ。
6	地図を読む 2	地図の図上作業を通じて、地域の環境を考える。
7	地図を読む 3	大学周辺の環境を理解する。
8	地図と景観 1	地図で表現された環境と実際の景観を考察する（自然景観）。
9	地図と景観 2	地図で表現された環境と実際の景観を考察する（人文景観）。
10	過去の地図と未来の地図	旧版地図やデジタル地図の基礎的知識を得て、その活用を考える。
11	オリジナルの地図を作ろう 1	GIS（地理情報システム）の基礎を学ぶ。アプリケーションのインストール方法や基本操作を身につける。
12	オリジナルの地図を作ろう 2	オリジナルの地図を作るためのデータの所在や入手方法を知る。
13	オリジナルの地図を作ろう 3	各自の関心のあるテーマで地図を作成する。
14	オリジナルの地図を作ろう 4	第11回から13回で作成した地図をもとに、それぞれの地域の環境を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認する。

科目名	社会調査Ⅱ				
担当者氏名	根本 敏行				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

前半は、各種の社会調査の手法について、その特性やメリット・デメリット等を学ぶ。特に、ニュースなどの身の回りの社会現象を具体的な事例として取り上げる。後半は、実践的なデータ収集や現場取材の方法などを学び、特にマーケティングの手法との関連について理解するとともに、現場を実際に体験することによる臨場的な手法を理解する。必要に応じて視聴覚教材を活用する。

《授業の到達目標》

- 社会調査の方法論の有効性やその限界等について理解する。
- 具体的な社会情勢の中からケースを想定し、統計データなどの定量的な分析によってこれを検証してみるプロセスを理解する。

《成績評価の方法》

出席は2/3以上が必要で1/3以上の欠席は不可。授業への積極的な参加意欲に応じて成績評価の30%程度までを加点。複数回のレポートを課し、全てを提出する。これらの質的な内容の程度に応じて成績評価の70%とする。提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方の説明
2	ケーススタディ (1)	時事問題などからトピックを取り上げ、社会調査の手法の特性について考察する
3	ケーススタディ (2)	調査手法のメリットとデメリット (定性調査)
4	ケーススタディ (3)	調査手法のメリットとデメリット (定量調査)
5	中間課題 (1)	身近な社会の課題を取り上げて、各自の興味関心に応じて客観的分析を試みる
6	マーケティング・リサーチについて (1)	マーケティング・リサーチについての一般的な意義と基本的考え方
7	マーケティング・リサーチについて (2)	マーケティング・リサーチについての具体的な事例に基づいた応用について
8	エリア・マーケティング	地理的特性を前提とする産業立地論に基づいたエリア・マーケティングの基礎
9	中間課題 (2)	身近な社会の課題を取り上げて、各自の興味関心に応じて客観的分析を試みる
10	ケーススタディ (4)	エリア・マーケティングに関連する具体的な事例について
11	ケーススタディ (5)	地域特性を踏まえた社会事象について、時事問題などからトピックを取り上げて考察する
12	ケーススタディ (6)	臨場的な地域調査について、時事問題などからトピックを取り上げて考察する
13	タウン・ウォッチングの方法	具体的な地域の表象としての相貌を社会科学的手法で観察する方法について
14	社会調査の課題と将来	社会調査の手法の限界や構造的な課題について
15	まとめと講評	レポートについての講評と授業全体のまとめ

《テキスト》

特に指定しない。
授業の中で適宜資料を配布する。

《参考文献》

特に指定しない。
授業の中で適宜資料を配布する。

《授業時間外学習》

普段から身の回りの社会経済の現象に興味・関心を持ち、時に批判的に社会を観察する習慣を実践する。授業で配布されるレポート課題等について、事前に取り組んで理解できないことや知らなかった言葉などについて調べる。授業後も授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりすること。

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、わからないところなどはできるだけ授業時に質問すること。

科目名	ジャーナリズム論				
担当者氏名	森本 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

民主主義社会が成り立つ要件の重要な柱の一つは、健全なジャーナリズムの存在だが、それがいま、衰退しつつある。なぜなのかを内外メディアの現状に照らしつつ考える。さらに、時事ニュースを例題にジャーナリズムの機能を学習しつつ、考えを組み立て、討論し、文章にまとめ、社会の動きを的確につかみ、分析する能力を養う。

《授業の到達目標》

○ジャーナリズムの機能と役割を理解し、説明できる ○授業で取り上げるニュースについて、考えをまとめ、発表できる
 ○各回授業のテーマについて、自らの意見を文章にまとめることができる

《成績評価の方法》

出席状況 50%、授業の中でのディスカッションへの参加姿勢と発表内容 25%、毎回提出のレポートの内容 25%で総合評価する。定期試験は行わない。

《テキスト》

毎回、講義内容に則したレジメと最新データ、図版を組み込んだ資料を配布する

《参考文献》

『神戸新聞の100日』神戸新聞社編, 角川ソフィア文庫, 1992
 『ジャーナリズムの思想』原寿雄, 岩波新書, 1997
 『ジャーナリズムの可能性』原寿雄, 岩波新書, 2009
 『新聞は生き残れるか』中馬清福, 岩波新書, 2003

《授業時間外学習》

(1) 最新ニュースを取り上げて講義を進めるため、可能な限り、新聞、テレビのニュースを点検し、核心部分をつかみ、疑問点などは整理しておくこと
 (2) 阪神・淡路大震災と東日本大震災については、関連図書や新聞縮刷版で概要を把握しておくこと

《備考》

ジャーナリズムの基本は、好奇心です。私たちの社会に起こるあらゆることに関心を持ち、なぜと問いかける姿勢を保ち続けるように心がけて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	大災害の現場から～地域ジャーナリズムの役割	阪神・淡路大震災と東日本大震災における地方紙の報道を通して、多様なものの見方、考え方を学ぶ。
2	新聞ジャーナリズムの現状～日本の新聞から	日本の新聞の特徴と現状を見ながら、新聞の読み方を学ぶ。
3	新聞ジャーナリズムの現状～欧米の新聞から	廃刊が相次ぐ米国、無料紙に脅かされる欧州の実例から、その問題点を引き出し、報道と経営の課題を考えてみる。
4	スポーツ新聞の憂鬱	娯楽紙は必要か。読者離れが著しいスポーツ新聞の現状を通して、討論し、問題の発見力をつける。
5	テレビジャーナリズムの限界点	娯楽と報道の境界線があいまいなテレビの情報番組。日ごろ、見ているテレビ番組を例に、何が必要な情報なのかを考える。
6	政治報道と政局報道	政界の動きを追うことに終始する政治報道の中身を点検し、政治のあり方を考え、政治に対する関心を高め、政治へ主体的姿勢を養う。
7	記者クラブとは何か	情報操作がつきまとう記者クラブの存在と実態を知り、国民の知る権利とは何かを討論しながら、考えを組み立てることができる。
8	人権報道の変遷	なぜ、人権報道が強く意識されるようになったか。その変遷をたどりながら、人権について視点を学ぶことができる。
9	調査報道とは何か	小さな疑問から説き起こし、権力を突き動かす調査報道こそがジャーナリズムの本来の姿。優れた調査報道の実例に照らしつつ、論理的に考える力を養う。
10	出版ジャーナリズムの危機	活字離れから出版不況とさえいわれる中、なぜ本を読まないのか、どんな本なら読みたいのか、それぞれの意見を出し合い、多様な意見をまとめる力をつける。
11	時事問題演習～地球環境について	足踏みを続ける地球環境問題。国際的な動きを追いながら、解決の道筋を論理的に考える演習ができる。
12	時事問題演習～沖縄の基地問題をめぐって	沖縄の基地問題とは何か。国際関係、国と地域の関係を読み解き、分析する演習ができる。
13	新聞コラムの読み方	すぐれた文章、面白い文章、感動させる文章、新聞社の達人たちのコラムを読み、文章への関心を高める。
14	言論機能とは～社説読み比べ	最も難解といわれる新聞社説だが、読み比べると、各紙の主張はかなり違う。同じ問題に対して違う結論に導く論理を通して、論理的思考力を高める。
15	ジャーナリズムの可能性とその思想	ジャーナリズム再生に向けて、その可能性と思想を探り、併せてそれぞれの考え方を組み立てる演習を体験できる。

科目名	社会政策 I				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

社会保障制度(所得保障, 医療・保健, 社会福祉サービス)や雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は, 様々な社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し, 人々の社会的な繋がりを強めることを目指してきた。現在すべての主要先進国では, その役割と守備範囲を大きく広げ, 公共支出の面でも重要な地位を占めている。本講義では社会政策の理論, 制度面について社会保障制度を中心に解説する。

《授業の到達目標》

社会政策の意義や仕組みを理解する。
 社会政策の中核を構成する社会保障制度について, 制度の内容, 現状, 将来展望について説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験80%, 授業への参加とその成果20%(小テスト等により評価する)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会の変化と社会政策	オリエンテーション(講義の課題と対象, 社会政策の基本的な構造や役割等を講義する)
2	社会政策と関連制度	福祉国家政策や社会保障制度との関連について講義する
3	社会保障の定義	社会保障の目的, 機能, 体系, 財政
4	医療保障(1)	医療費の動向
5	医療保障(2)	日本における医療供給システムの特徴, 医療保険制度
6	医療保障(3)	医療制度改革
7	所得保障(1)	年金制度の仕組み
8	所得保障(2)	日本の年金制度 1
9	所得保障(3)	日本の年金制度 2
10	所得保障(4)	児童手当, 労働保険
11	社会福祉(1)	社会福祉の法制度, 動向
12	社会福祉(2)	社会福祉の実施体制, 社会福祉制度形成史
13	社会福祉(3)	社会福祉施策: 母子福祉, 老人福祉, 介護保険
14	社会福祉(4)	社会福祉施策: 生活保護, 児童福祉, 障害者福祉
15	近年の社会保障制度改革	社会福祉基礎構造改革, 高齢者介護政策, 少子化対策, 障害者政策, 医療改革, 年金改革等

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。
 授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については, 新聞や書籍, ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し, 疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追求あまり, 社会政策の改善はなおざりにされてきたが, そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

科目名	社会政策Ⅱ				
担当者氏名	河野 真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

社会保障制度(所得保障, 医療・保健, 社会福祉サービス)や雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は, 様々な社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し, 人々の社会的な繋がりを強めることを目指してきた。現在すべての主要先進国では, その役割と守備範囲を大きく広げ, 公共支出の面でも重要な地位を占めている。本講義では社会政策の現状や近年の動向, 歴史的展開過程を中心に解説する。

《授業の到達目標》

社会政策が対応する今日的課題(格差問題, 少子化問題, 高齢化問題)について, それらの本質や動向について理解する。社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで, 公共サービスの民営化や市場化, 再国営化を推し進める政策意図がより深く理解できるようになる。社会政策の発展プロセスの学習を通して, 社会政策の本質や制度形成のメカニズムを理解する。

《成績評価の方法》

定期試験80%, 授業への参加とその成果20%(小テスト等により評価する)

《テキスト》

市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考文献》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。授業で扱うトピックスの基礎的な情報や動向については, 新聞や書籍, ウェブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し, 疑問や関心を持った上で受講することが望ましい。

《備考》

従来日本では経済的繁栄を追うあまり, 社会政策の改善はなおざりにされてきたが, そうした政策運営には見直しが迫られている。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会政策の新しい課題	オリエンテーション: 講義の課題と対象
2	格差問題(1)	日本及び世界の所得格差の状況
3	格差問題(2)	格差問題の諸相, 格差問題の背景と社会保障制度
4	少子化をめぐる諸問題(1)	少子化の状況
5	少子化をめぐる諸問題(2)	少子化が進む理由, 問題点
6	少子化をめぐる諸問題(3)	少子化対策の動向(日本及び先進諸国)
7	高齢社会をめぐる諸問題(1)	高齢化の状況
8	高齢社会をめぐる諸問題(2)	高齢化の背景, 問題点
9	高齢社会をめぐる諸問題(3)	日本における高齢化対策の動向
10	公私の役割分担(福祉多元主義)(1)	福祉多元主義の理論
11	公私の役割分担(福祉多元主義)(2)	公的部門, 民間(営利・非営利)部門, インフォーマル部門の長所・短所
12	公私の役割分担(福祉多元主義)(3)	福祉改革をめぐる近年の動向(新自由主義, 社会民主主義, 第三の道)
13	社会政策発達史(1)	英国社会政策発達史(1) 第2次世界大戦終了まで
14	社会政策発達史(2)	英国社会政策発達史(2) 戦後～現代
15	社会政策発達史(3)	日本社会政策発達史

科目名	行政学 I				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力 				

《授業の概要》

国・地方の行政活動の分析を通じて行政の問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問だ。行政学 I では主に「人」の側面から行政の問題について講義を行う。

《テキスト》

『行政学の基礎』風間規男編、一藝社、2007

《参考文献》

『行政学』〔新版〕西尾勝、有斐閣、2001
 『行政学教科書』〔第2版〕村松岐夫、有斐閣、2003
 『講座 行政学』（全6巻）
 西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《成績評価の方法》

小テスト (40%)
 定期試験 (60%)
 授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《備考》

公務員試験を目指す学生は行政学 I と行政学 II を通年科目とみなして受講するとよい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明、公務員試験受験に関する特別指導について
2	行政とは何か	行政学を学ぶ目的、市民による行政統制
3	行政国家	国家の役割の拡大、職能国家あるいは福祉国家概念との比較
4	官房学	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学
5	アメリカ行政学	現代行政学の誕生、アメリカ行政学説史
6	小テスト	1～5週までの学習範囲について小テストを行う予定
7	官僚制の概念	ウェーバー、ラスキ、マートンの官僚制論
8	官僚の行動様式	インクリメンタリズム、レッドテープなど
9	日本の公務員制度	我が国における近代的公務員制度の確立について
10	諸外国の公務員制度	英国および米国における公務員制度の歩み
11	公務員制度改革	幹部人事のあり方について
12	小テスト	7～11週までの学習範囲について小テストを行う予定
13	官僚と政治家	諸外国における政官関係の比較
14	意思決定の仕組み	稟議制について
15	予算編成と会計検査	予算編成過程、決算の仕組み

科目名	行政学Ⅱ				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

国・地方の行政活動の分析を通じて行政の問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問だ。行政学Ⅱでは主に「組織」の側面から行政の問題について講義を行う。

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《成績評価の方法》

小テスト (40%)
 定期試験 (60%)
 授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《テキスト》

『行政学の基礎』風間規男編、一藝社、2007

《参考文献》

『行政学』〔新版〕西尾勝、有斐閣、2001
 『行政学教科書』〔第2版〕村松岐夫、有斐閣、2003
 『講座 行政学』(全6巻)
 西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《備考》

公務員試験を目指す学生は行政学Ⅰと行政学Ⅱを通年科目とみなして受講するとよい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明等
2	組織の理論 (1)	ギューリックの行政理論
3	組織の理論 (2)	バーナードの組織理論
4	国家行政組織	行政機関の構造
5	ラインとスタッフ	我が国独特のスタッフ組織
6	小テスト	1～5週までの学習範囲について小テストを行う予定
7	内閣制度の沿革	内閣制度の歴史
8	議院内閣制	首相権限の強化、内閣委員会制度、法案成立率
9	大統領制	米国の大統領、議会との関係
10	行政改革と行政管理	国家公務員制度改革基本法
11	小テスト	7～10週までの学習範囲について小テストを行う予定
12	日本の政府間関係	国・地方関係の姿
13	諸外国の政府間関係	米国の連邦制度
14	住民による行政統制	直接請求制度、住民投票
15	自治とNPO	コミュニティ・ビジネス

科目名	環境経済論A				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

3.11東日本大震災以降、環境問題は福島原発事故とあわせてこれまでにない新しい段階を迎えた。人工物は限界強度がある。作ったものは必ず壊れる。文明の利器は便利だが、壊れると凶器にもなる。エントロピーの観点から環境問題を論じ、グローバルな視点・ローカルな視点から地球環境問題・地域の環境問題の論点を整理し、環境問題入門編として授業する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業の到達目標》

①環境問題は他人事でないことを自覚する。②文明の進歩や科学技術の発達の意味を理解する。③成長経済学から持続可能な経済学への転換の意義を理解する。④エントロピー経済学を理解する。⑤現代社会が抱える環境問題に対して経済学はどのような役割を担うのか理解する。

《授業時間外学習》

3.11東日本大震災と環境問題について考えレポートする。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 試験 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	今なぜ、「環境」と「経済」なのか。
2	地球環境を考える	VTRレスター・ブラウンの「地球白書」(NHK)をみる。世界の環境問題の実情を凝視し、環境問題の「問題」は何かを考える。
3	地球温暖化対策を考える	VTR「CO2を減らそう」(NHK)をみる。温暖化対策について調べ、環境問題と経済学の関係について考える。
4	人類の歴史と環境	人類史を概ね人類革命⇒農業革命⇒商業革命⇒産業革命⇒情報革命⇒環境革命として捉え、環境問題との相関を考える。
5	食料問題と環境問題	「人口増加増加率>食料増加率」を主張したR.マルサスの「人口の原理」を学習し、「収穫逡減の法則」と環境問題、「成長の経済学」の問題提起をする。
6	産業革命と環境問題	1760年代から始まる産業革命を機に生産力が飛躍的に高まり、資本主義の確立をみた。環境問題の歴史的幕開けともいえる環境問題の歴史的起点について考える。
7	近代的自然観と環境問題	産業革命以降の機械製大工業による自然環境破壊が近代的自然観と自由主義経済によって加速され、環境問題の所在が明らかになる。自然と人間のあり方を問いかける。
8	エネルギー問題と環境問題	CO2を大量に排出し発達してきた資本主義的市場経済。石油の代替エネルギーは何か？3.11の原発事故を機に浮上してきた再生可能なエネルギーについて考える。
9	エントロピーと環境問題	熱力学の第二法則・エントロピー論を応用し、これからの環境問題の捉え方について問題提起する。特に、これまでの生産概念に注目し、つくることの意味を考える。
10	経済学のあゆみと環境問題	環境経済学が台頭してきた経済学説史の背景を概観し、これからの環境と経済のあり方考える。
11	市場経済と資本主義的市場経済の区別と同一性	市場経済と資本主義的市場経済について理解を深め、環境経済の意義と役割について考える。
12	市場経済至上主義の問題点と「市場の失敗」	自然環境破壊は、生態学的赤字を累積し、経済的赤字以上の深刻な地球環境問題を引き起こしている。「市場の失敗」について理解を深め、環境経済のこれからの考える。
13	生命系の世界からみた環境と経済	「食の地産地消」・「エネルギーの地産地消」について論じ、「地産地消の経済学」の現代的意義について環境問題の視点から考える。
14	水と土と循環型社会	水循環と栄養循環によって支えられる循環型社会について、経済学と生態学の本来の意味を「田んぼと水とため池」の連携をモデルとし考える。
15	まとめ	口頭試問

科目名	環境経済論B				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-2 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

環境経済論Aは、地球環境問題の入門と経済学のおゆみの関係について学習した。環境経済論Bは、環境経済の基礎理論と日本の経済と環境問題に重点をおいて学習する。特に、日本は1960年代の高度経済成長期にエコノミックアニマルと非難され公害列島化し、そのツケがその後の日本経済に多大な影響を及ぼした。「前向きの大敗走」ともいえる急成長の功罪を説きながらわが国の環境と経済の問題について学習する。

《授業の到達目標》

①身近な地域の環境問題を意識し発見する。②発見した地域の環境問題を解決することによって、住みよい地域づくりに参画する能力が鍛えられる。③日本経済論として、また地域環境論として環境経済が生かせるようになる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業時間外学習》

身近な環境問題とその対策について調査・学習し、その成果をレポートする。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30% 試験 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	環境経済論Aと環境経済論Bとの関係を解説する。
2	環境経済の基礎Ⅰ	市場経済について
3	環境経済の基礎Ⅱ	資本主義的市場経済について
4	環境経済の基礎Ⅲ	市場価格と生産価格について
5	環境経済の基礎Ⅳ	共有地（コモンズ）の悲劇について
6	環境経済の基礎Ⅴ	市場経済と環境経済について
7	日本経済と環境問題一	戦後復興経済と学校給食
8	日本経済と環境問題二	高度経済成長と環境問題①
9	日本経済と環境問題三	高度経済成長と環境問題②
10	日本経済と環境問題四	低成長経済と公害対策
11	日本経済と環境問題五	安定成長経済と円高と農産物輸入大国日本
12	日本経済と環境問題六	経済の国際化と地域の衰退
13	日本経済と環境問題七	地産地消の経済と地域の再生
14	現代文明と環境問題	地下資源型文明社会から地上資源型文明社会へ
15	まとめ	口頭試問

科目名	情報社会論				
担当者氏名	藤田 智博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-1 問題発見力・分析力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

私たちの暮らす社会が情報社会と呼ばれるようになって久しい。その背景にはメディアの著しい発達と普及があるといえる。この授業では、私たちの生活になくてはならない身近なモノとなったメディアについて、それが発展してきた歴史、社会や個人の生活におけるメディアの役割、メディアとのありべき接し方、そしてそれらの問題点等について理解を深めていくことを狙いとす。

《授業の到達目標》

- ・さまざまなメディア（電話、ラジオ、テレビ、インターネット、携帯電話等）が発展してきた歴史と、社会のかかわりについて説明できる
- ・広い意味でのメディアリテラシー（メディアを読み解く能力、メディアで表現する能力等）を高めることによって、マスメディア等の情報を批判的に読み解くことができる

《成績評価の方法》

(1) 定期試験60%、平常点（授業への取組状況、授業内小テスト）40%とする。(2) 定期試験は、授業内で解説した用語、視聴した映像に関する論述、メディアと社会とのかかわりについての論述を予定している。(3) 授業内小テストは進行の度合いにもよるが、3回程度を予定している。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	情報社会、情報、メディアとは何かを説明できる
2	メディア・リテラシーについて	メディア・リテラシーとは何かを説明できる
3	出版について	出版が西欧社会において発達してきた歴史と、公共性（圏）という概念の基本的な点について説明できる
4	出版について	出版が社会的な集団の「想像」を可能にした側面について説明できる
5	電話について	声の文化と文字の文化について、電子メディアの社会的役割について説明できる
6	映画について	複製技術が芸術に与える影響について説明できる
7	テレビについて	大衆文化、大衆社会論について基礎的な説明ができる
8	現代のメディア	インターネット、携帯電話の普及と役割について基本的な点を説明できる
9	小括	これまでの授業で得られた知識を体系的に整理することができる
10	メディアがもたらす問題①	監視社会とは何か、基礎的な側面を説明できるようになる
11	メディアがもたらす問題②	映像を通して、監視社会についての理解を深める
12	メディアがもたらす問題③	メディアと表現の自由の問題について理解を深める
13	ニュースの読み解き方	マスメディアの情報との接し方について理解を深める
14	メディアとグローバル化	グローバル化とメディアとの関係について、基本的な点を説明できる
15	まとめ	これまでの授業で得られた知識を踏まえ、ありべき情報との接し方について理解を深める

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。

《参考文献》

『メディア・コミュニケーション論 I』
竹内郁郎他編、北樹出版、2005年

《授業時間外学習》

(予習) 授業中、次回の予習について指示する。それへの取り組みを予習とすること（初回は除く）
(復習) プリント・資料を配布する。そのプリント・資料に記されている重要な用語について説明できるよう復習すること

《備考》

科目名	いなみ野ため池学				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

日本一を誇るいなみ野ため池群。今ため池は、米づくりだけでなく、地域の宝として重宝され始めた。兵庫大学は、いなみ野台地に立地し、借景に寺田池がある。授業は、身近にあるため池を教材としながら、いなみ野台地の歴史・文化・伝統、そしてため池の築造技術や水生動植物の生態にまで及ぶ。なぜ、いなみ野台地に日本一のため池灌漑ができたのかを問いかけながら「ため池発見」をテーマに授業する。

《授業の到達目標》

ため池ができた歴史的・経済的背景を理解し、いなみ野台地で生きてきた先人の労苦と叡知を学び、その学習を通して、地域の問題を発見する力、分析する力、解決する力が身につくこと。

《成績評価の方法》

授業中の提出物 30%。レポート 70%

《テキスト》

なし

《参考文献》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業時間外学習》

自分の住む地域の特色と問題点を調べ、解決策の提言を各自授業外学習として課す。

《備考》

授業は、学内講師2名、学外講師5名を招き、オムニバス形式でおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス	授業の概要についてガイドする。
2	いなみ野ため池学入門	ため池の役割とは何か？ため池の価値とは何か？ため池ができた背景は何か？について考える。
3	播磨のため池	全国で最もため池が発達した播磨。その実態とその背景にある歴史的・経済的理由は何かについて考えるための話題を提供する。
4	フィールドワーク	兵庫大学の借景にある寺田池を散策し、自分の目と頭で問題を発見し、いなみ野ため池学の理解を深める。
5	ため池とダムの違い	ため池堤体の構造と築造技術を学習し、ハイテクノロジーとロウテクノロジーの違いについて学ぶ。ダムとため池の違いからため池の価値について認識を深める。
6	ため池の歴史	東南アジア、中国を経て渡来したため池の歴史とその背景について学ぶ。
7	共有地（コモンズ）としてのため池	社会的共通資本としてのため池の役割を発見し、地域コミュニティの場としての新たなため池の価値について話題提供する。
8	ため池と中世史	現代社会の基礎が中世史にあるとの中世史研究者からいなみ野ため池学を学ぶ。
9	ため池と土木技術	ため池の技術について土木学研究者からいなみ野ため池学を学ぶ。
10	ため池と生き物（1）	生態学研究者と寺田池を散策し、ため池の生きものについて学ぶ。
11	ため池と生き物（2）	寺田池の活性化実験、寺田池のアオコ発生とその対策、寺田池と今後について考える。
12	いなみ野ため池ミュージアム構想	兵庫県東播磨県民局から地域と兵庫大学とかかわってきたいなみ野ため池ミュージアムについて話題提供してもらう。地域行政の在り方や自治の進め方について学ぶ。
13	いなみ野台地とため池の歴史	稲美町の郷土史研究者から稲美町の歴史と現状について話題提供してもらう。
14	いなみ野ため池灌漑と淡山疏水の歴史的意味	いなみ野台地の先人の苦勞と叡知に学び、いなみ野ため池灌漑の意義について考える。
15	まとめ	口頭試問

科目名	いなみ野まちおこし学				
担当者氏名	瀧本 眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input checked="" type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

「まちおこし・まちづくり」は地域にとって重要な課題であると同時に固有の歴史や文化を背景としたものでなければなりません。現場で起きていることを直視し、他地域の動向を把握することも必要です。現状と課題について、様々な分野での実績を学び、これからの地域のあり方について考えます。

《テキスト》

使用しません。必要に応じてプリントや資料を配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

地域の現状を把握し、問題点を発見し、他地域との比較をふまえた分析を行い、解決策や展望を提示できる力を高めることを目標とします。

《授業時間外学習》

日常的に接する事柄から、地域の問題・課題・解決策・展望を読み取ってください。さらに、地域問題に関しての知識も深めてください。

《成績評価の方法》

受講した講義の中から関心を持ったテーマについてのレポート(100%)、または、講義から各自が触発されたテーマについてのレポート(100%)で評価します。

《備考》

授業は、学内から5名、学外から3名の講師を招き、オムニバス形式で行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	いままぜ「まちおこし」か? 注:以下は2010年度の内容です。講師の都合により変更があります。
2	現場からの報告	「まちおこし」と「まちづくり」とは
3	現場からの報告	総合計画とまちおこし
4	現場からの報告	中心市街地とまちおこし
5	現場からの報告	地域ブランドとまちおこし
6	現場からの報告	観光ビジネスとまちおこし
7	現場からの報告	農業(地産地消)とまちおこし
8	現場からの報告	市(いち)とまちおこし
9	現場からの報告	教育とまちおこし
10	現場からの報告	地方制度とまちおこし
11	現場からの報告	地域共同体とまちおこし
12	現場からの報告	NPOとまちおこし
13	現場からの報告	文化歴史遺産とまちおこし
14	現場からの報告	地域ビジョンとまちおこし
15	まとめ	これまでの講義についての議論

科目名	メディアと政治				
担当者氏名	木下 準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

メディアの進歩が民主政治の発展とどのような関わりを持ってきたかについて解説する。また、インターネットの普及が政治・行政のあり方にどのような変革を与えうるか考える。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

- 『大統領とメディア』石澤靖治、文春新書、2001
- 『Eポリティックス』横江公美、文春新書、2001
- 『コミュニケーションの政治学』鶴木眞、慶応義塾大学出版会、2003

《授業の到達目標》

政治過程においてメディアが演じている役割を理解し、国内外の政治を批判的に見る力を身に付ける。

《授業時間外学習》

適宜宿題を指示する。

《成績評価の方法》

小テスト (40%)
 定期試験 (60%)
 授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《備考》

質問や相談のある学生は研究室(1W-112)を訪ねてほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明等
2	メディアと民主政の歴史	政治的コミュニケーションの種類と性格
3	メディアの機能 (1)	情報の収集と分析
4	メディアの機能 (2)	情報の発信と説得
5	記者クラブ制度	日米記者クラブ比較
6	演説と広告	政治演説と政治広告
7	情報公開	我が国の情報公開制度
8	小テスト	1～7週までの学習範囲について小テストを行う予定
9	大統領選挙とディベート	アメリカ大統領選挙の仕組みとディベートの重要性
10	選挙とインターネット	選挙運動とインターネット
11	日本の選挙とメディア	公職選挙法と政治広告
12	ネット時代の市民運動	中東におけるジャスミン革命
13	報道官の仕事	情報幕僚の日米比較
14	世論と現代民主主義	電子民主主義の可能性
15	学習のまとめ	これから学ぶべきこと

科目名	地域史				
担当者氏名	岡 陽一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ◎ 1-5 論理的思考力 ◎ 2-5 情報処理能力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

本授業の目標は、地名という身近な資料から中世社会を復元し、これを現代社会と比較することで二つの時代の特徴を考える作業を通じ、多様なものの見方を学ぶこと。そしてレポート作成を通じ、自ら設定した問題を解決する為の手段（資料の収集・整理・データ分析）と、自分の意見を自分の言葉で表現する力を鍛えることである。

《テキスト》

特になし

《参考文献》

随時提示する

《授業の到達目標》

授業を通じ、多角的なものの見方を身につける。
 また、自分の考えを自分の言葉で、相手に理解してもらうための方法を理解し、その能力を高める。

《授業時間外学習》

登録終了後、指示に従って簡単なレポートを提出してもらう。これは君たちのレポート作成能力を見極め、個人ごとの弱点や問題点を把握し、授業中に各人の能力に見合った個別指導を行うためである。

《成績評価の方法》

登録後の小レポートを提出（3割）、最終授業後に提出してもらうレポート（6割）。これに授業中に求める意見や感想、それに授業中の態度（1割）を加味し、その上で総合評価を行う。

《備考》

授業中の私語など、問題行動をとる学生については毅然とした処置をとる。また、成績については、課題を提出すれば可、ではないことを予告しておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身近な文化財としての地名	地域の歴史と特徴を知る上での地名の重要性と、その歴史的価値を理解する
2	課題説明及びレポートの書き方	レポートの指示。レポートの書き方と、それに必要な資料の収集・整理の方法を理解し、これまでの自分のレポートがこの基準に達したものであったのかを確認する。
3	荘園地名	中世社会の基本である荘園制について、荘園関連地名を材料に理解する。
4	都市の時代1 「市や宿から」	われわれが想像する「中世社会＝農業が中心社会」は幻想であり、実態は商業や交通に支えられた「都市の時代」であったことを、各地の「市」・「宿」地名から理解する。
5	都市の時代2 「津・泊・湊」	中世社会における水上交通の重要性を、各地に残る港湾関連地名から理解する。
6	中世都市加古川	加古川が中世都市であったことを「千軒」地名などから説明できるようにする。
7	中世の陸上交通	中世における交通の実態を「大道」地名を中心に理解する。また、この視点から当時の加古川の重要性を説明できるようにする。
8	中世の職能民	中世の商工業者や職人の活動を、各地に残された地名から理解する。
9	宗教と地名	中世人の信仰のあり方や、土地と神仏の繋がりを宗教関係から理解する。また、授業で触れた事例を参考に、任意の土地の歴史的な性格を説明できるようにする。
10	中世人の空間認識	「あの世」と「この世」に代表される中世人の空間認識を地名から探り、それらと現代人の空間認識との相異を説明できるようにする
11	名字と地名	われわれの持つ名字が中世に遡ることや、当時の人々の空間認識と深く結び付いていることを理解する。
12	武士と地名 1	中世が武士の時代であったことと、彼らの特徴を各地に残る居館地名から理解する。
13	武士と地名2 レポートQ&A	中世の戦争のあり方や武士の領国支配の一端を、各地の城郭地名から理解する。 レポートの相談・添削
14	武士と地名3 レポートQ&A	中世武士と近世武士との違いを、城下町関連地名から理解する。 レポートの相談・添削
15	まとめにかえて レポートQ&A	人々が地名に託した理念や願いを理解すると共に、現代社会でも同種の行為が行われていることを知り、その背景を説明できるようにする。 レポートの相談・添削

科目名	地域デザイン特論A				
担当者氏名	亀田 俊和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

兵庫大学がある兵庫県の諸地域が地理的・歴史的条件に規定されながら発展してきた様相を、「政治権力による地域創出・経営」の視点から論じます。特に本年度は、大河ドラマ『平清盛』が放映されるなど、兵庫県が大きく注目されていると言えるでしょう。豊かな地域形成の歴史を有する兵庫県に関心を抱き、理解する上でも、本講義が果たしうる役割は大きいと考えます。

《授業の到達目標》

地域の歴史的な前提や地理的条件と、それに規定され、影響を及ぼした政治権力の歴史を学ぶ。
この講義で学んだ研究手法や考察の方法を応用させ、授業で言及しなかった地域・時代の勉強にまで、自発的・意欲的に取り組む態度を養う。

《成績評価の方法》

- (1) 毎回講義終了時に課す小テスト50%
- (2) 学期末に行う確認試験50%

《テキスト》

作成したレジュメを、毎回授業開始時に配布する。プロジェクトを使用し、地図・画像資料や講師が行った現地調査で撮影した写真を紹介する。

《参考文献》

授業終了時に適宜指定する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：前回の授業で指定した参考図書を読んでください。
- (2) 復習の方法：配布されたレジュメを読んで授業内容を再確認し、授業中に紹介した文献等を読んでください。

《備考》

授業内容は、現地調査や学会参加等で講師が最新の研究成果を得たなどといった理由によって変更される場合があります。私語はもちろん禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンスーその1	本講義の授業内容や成績評価の方法等について詳細に説明する。
2	授業ガイダンスーその2	日本の地理と歴史の概略について説明する。
3	現代播磨地方の地理	現代の大発展し、日本有数の県となった兵庫県および播磨地方、特に加古川市と姫路市の地理の概略について説明する。
4	古代の播磨の地域と歴史	日本古代の英雄日本武尊と加古川との密接な関係や奈良時代の播磨地方について論じる。日本を支配した平清盛の神戸・加古川経営や日宋貿易についても取り上げる。
5	鎌倉・室町時代の播磨の地域と歴史	加古川が鎌倉幕府の播磨支配に果たした重要な役割や、後醍醐天皇を支えた加古川出身の護持僧文観、室町幕府の重臣であった播磨守護赤松氏を紹介する。
6	戦国時代の播磨の地域と歴史	有力な戦国大名別所氏・龍野赤松氏が播磨国で活躍した様相や、天下人豊臣秀吉が姫路城を本拠とし、播磨支配を足がかりに天下統一を達成した過程を見る。
7	近世・近代の播磨の地域と歴史	現在の姫路城を築き、「西国大將軍」と称された池田輝政や、幕府老中が支配した江戸時代の姫路、日本陸軍の基地となった近代の軍都姫路について紹介する。
8	古代の神戸の地域と歴史	兵庫県の県庁所在地で人口全国第6位の大都市神戸が、古代から経済的に繁栄し、平清盛が一時遷都したほどの日本有数の港湾都市であった事実を論じる。
9	鎌倉・室町時代の神戸の地域と歴史	神戸が戦場となり、中世日本の歴史を決定づけた一の谷の戦い、湊川の戦いを紹介する。また、足利義満の政権運営に港湾都市神戸が果たした経済的重要性を論じる。
10	戦国～近代の神戸の地域と歴史	戦国時代の神戸で活躍した著名な武将松永久秀、江戸時代の神戸出身の大商人高田屋嘉兵衛、幕末に開港して大発展を遂げた近代の神戸等を紹介する。
11	古代・中世の室津の地域と歴史	伝説の初代天皇神武以来、日本史上重要な役割を果たしてきた播磨地方の港湾都市室津の古代・中世の歴史について取り上げる。
12	江戸時代の室津の地域と歴史	江戸時代の室津が、参勤交代のため西国の多くの大名が宿泊し、朝鮮通信使が訪問し、シーボルトも海外に紹介するほど発展した国際都市であった様相を見る。
13	赤穂の地域と歴史	江戸時代、忠臣蔵の舞台となり、塩の産地として経済的にも栄えた赤穂の地理と歴史を学ぶ。
14	授業全体のまとめーその1	これまでの授業を振り返り、取り上げた諸地域に共通する地域と歴史の法則をまとめる。
15	授業全体のまとめーその2	授業内容の理解度をあらためて確認する。

科目名	地域デザイン特論B				
担当者氏名	亀田 俊和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力 ◎ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

I期と同様、諸地域が地理的・歴史的条件下に規定されながら発展してきた様相を、「政治権力による地域創出・経営」の視点から論じますが、Ⅱ期開講の本講義は、取り上げる地域を兵庫県から日本内外に拡大します。多くの地域で兵庫県の地理・歴史と同じ法則があてはまることを理解し、知識を増やし、増やした知識に基づいて物事を考え、より深い教養を養うすばらしさを知ってほしいです。

《授業の到達目標》

地域の歴史的・前提や地理的条件と、それに規定され、影響を及ぼした政治権力の歴史を学ぶ。

この講義で学んだ研究手法や考察の方法を応用させ、授業で言及しなかった地域・時代の勉強にまで、自発的・意欲的に取り組む態度を養う。

《成績評価の方法》

- (1) 毎回講義終了時に課す小テスト50%
- (2) 学期末に行う確認試験50%

《テキスト》

作成したレジュメを、毎回授業開始時に配布する。プロジェクトを使用し、地図・画像資料や講師が行った現地調査で撮影した写真を紹介する。

《参考文献》

授業終了時に適宜指定する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：前回の授業で指定した参考図書を読んでください。
- (2) 復習の方法：配布されたレジュメを読んで授業内容を再確認し、授業中に紹介した文献等を読んでください。

《備考》

I期開講の「地域デザイン特論A」と同様、授業内容は変更される場合があります。私語はもちろん禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンスーその1	本講義の授業内容や成績評価の方法等について詳細に説明する。
2	授業ガイダンスーその2	日本の地理と歴史の概略について説明する。
3	大韓民国の地域と歴史	日本に最も近い隣国韓国の地理と歴史について、講師が見学した史跡等を中心に学習する。外国においても、日本の地理と歴史の法則と共通面が多いことを論じる。
4	古代・鎌倉時代の滋賀県の地域と歴史	地理と歴史において兵庫県と共通点が多い滋賀県を取り上げ、古代の大津京や鎌倉幕府重臣佐々木氏の学習を通して、同県が日本史上に果たした役割を見ていく。
5	南北朝～江戸時代の滋賀県の地域と歴史	中世の滋賀県が、織田信長・豊臣秀吉を筆頭に多くの著名な武将の本拠地となるなど、一貫して日本史上重要な地域であり続けた様相を学習する。
6	古代の青森県の地域と歴史	発展するための地理と歴史の法則は、辺境地域においても成立する機会が多い。古代の青森県を取り上げ、縄文遺跡や異民族蝦夷の学習を通して、その様相を見ていく。
7	中近世の青森県の地域と歴史	中世の東北地方は、中央政府から重要な支配地域と認識されていた。青森県を本拠とした北畠氏・安藤氏・南部氏といった権力者と同県との関係を説明する。
8	近代の青森県の地域と歴史	近代の青森県が、軍事的に重要な地域として、日本陸軍と海軍、そして米軍に重視された事実を紹介する。
9	京都市の地域と歴史	千年以上にわたって日本の首都となり、現代なお繁栄を続ける京都市の地理と歴史の概略を学ぶ。
10	中世の小田原の地域と歴史	中世の小田原は、戦国大名後北条氏の本拠地となり、関東地方の中心として栄えた。それを可能にした地理的・歴史的條件を学習する。
11	近世の小田原の地域と歴史	江戸時代の小田原が、江戸幕府老中・大久保氏の本拠地となり、東海道屈指の宿場町として繁栄をきわめた事実を学ぶ。
12	二宮尊徳と小田原	貧しい農村の復興に多大な貢献をした二宮尊徳は、江戸時代後期の小田原出身の農政家である。小田原がこうした人物を生み出した地理的・歴史的要因を考察する。
13	北九州市の地域と歴史	九州最北端の大都市北九州が、日本と大陸をつなぐ交通の要衝として、古代から近代に至るまで日本史上重要な役割を果たし続けた事実を学習する。
14	授業全体のまとめーその1	これまでの授業を振り返り、取り上げた諸地域に共通する地域と歴史の法則をまとめる。
15	授業全体のまとめーその2	授業内容の理解度をあらためて確認する。

《教職に関する科目》

科目名	教育史				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は、文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと、無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ、それについて発表することにより、教育史を身近に感じてもらうことが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考文献》

妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』、乙武洋匡『五体不満足』、ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	公民科教育法（I期分）				
担当者氏名	吉井 直樹				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講座は高等学校公民科教諭の普通免許状取得のために開講されるものであり、「高等学校学習指導要領公民編」の分析を基に、学習指導の方法、教材の精選と工夫、学習活動の評価、授業研究の4つを中心に講義を展開していく。

併せて学習指導案の作成、模擬授業の実施等、実践課題に取り組む。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省、教育出版

《参考文献》

『公民科教育法 改定版』森 秀夫著、学芸図書出版
『高等学校新学習指導要領の展開公民科編』
大杉昭英編著、明治図書

《授業の到達目標》

1. 高等学校公民科の各科目の指導内容、指導方法についての基本的な理解を深める。
2. 科目「現代社会」の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。
3. 模擬授業の実践をとらして公民科教員としての資質・技能を培う。

《授業時間外学習》

1. 講義にともなうテキストの該当箇所は、必ず目を通しておくこと。
2. 年間指導計画や学習指導案の作成に当たって、個別の作業時間を十分に確保すること。
3. 模擬授業の実施について、綿密な教材研究を行うこと。

《成績評価の方法》

小テスト（20%）、課題提出2回（40%）、模擬授業（40%）により総合評価する。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが、学習課題に応じて意見交換や発表の場を設け、講座の活性化を図るように工夫していきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公民科教育法を学ぶにあたって	I期・II期を通じたオリエンテーション
2	教育課程と学習指導要領	学習指導要領の意義・法的効力・歴史的変遷
3	公民科の教育内容(1)	教科公民科の目標と科目編成
4	公民科の教育内容(2)	科目「現代社会」の目標・指導内容・内容の取扱いについて
5	公民科の教育内容(3)	科目「倫理」の目標・指導内容・内容の取扱いについて
6	公民科の教育内容(4)	科目「政治・経済」の目標・指導内容・内容の取扱いについて
7	教材の活用(1)	教科用図書の意義・使用義務・使用方法等について
8	教材の活用(2)	補助教材の意義、活用方法・使用上の留意点
9	年間指導計画	年間指導計画の意義と必要性について学び、その作成に取り組む
10	公民科の授業づくり(1)	指導方法～学習集団の形態、学習活動の形態について
11	公民科の授業づくり(2)	教材研究の意義と必要性～「教師は、授業で勝負する」
12	公民科の授業づくり(3)	諸資料の教材化～具体的な教材をもとに、教材研究を実践する
13	学習指導案の作成(1)	学習指導案の構成と形式～作成要領の説明
14	学習指導案の作成(2)	II期の模擬授業に向けて、指導単元の学習指導案の作成に取り組む
15	I期のまとめ	小テスト、その他

《教職に関する科目》

科目名	公民科教育法（Ⅱ期分）				
担当者氏名	吉井 直樹				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講座は高等学校公民科教諭の普通免許状取得のために開講されるものであり、「高等学校学習指導要領公民編」の分析を基に、学習指導の方法、教材の精選と工夫、学習活動の評価、授業研究の4つを中心に講義を展開していく。

併せて学習指導案の作成、模擬授業の実施等、実践課題に取り組む。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省、教育出版

《参考文献》

『公民科教育法 改定版』森 秀夫著、学芸図書出版
『高等学校新学習指導要領の展開公民科編』
大杉昭英編著、明治図書

《授業の到達目標》

1. 高等学校公民科の各科目の指導内容、指導方法についての基本的な理解を深める。
2. 科目「現代社会」の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。
3. 模擬授業の実践をとらえて公民科教員としての資質・技能を培う。

《授業時間外学習》

1. 講義にともなうテキストの該当箇所は、必ず目を通しておくこと。
2. 年間指導計画や学習指導案の作成に当たって、個別の作業時間を十分に確保すること。
3. 模擬授業の実施について、綿密な教材研究を行うこと。

《成績評価の方法》

小テスト（20％）、課題提出2回（40％）、模擬授業（40％）により総合評価する。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが、学習課題に応じて意見交換や発表の場を設け、講座の活性化を図るように工夫していきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業研究にあたって	模擬授業に使用する学習指導案・補助教材等の最終点検、確認
2	授業研究(1)	模擬授業の実施、研究協議
3	授業研究(2)	模擬授業の実施、研究協議
4	授業研究(3)	模擬授業の実施、研究協議
5	授業研究(4)	模擬授業の実施、研究協議
6	授業研究(5)	模擬授業の実施、研究協議（補充による再実施を含む）
7	授業研究の反省とまとめ	全体を通じた模擬授業の総括と自己評価
8	学習指導と評価	教育評価の意義、評価の場面・観点・基準等について
9	評価問題の作成	模擬授業で使用した教材をもとに評価問題の作成に取り組む
10	新学習指導要領の展開(1)	改訂の経過と背景、改訂の方針と主たる改善事項
11	新学習指導要領の展開(2)	公民科改善の基本方向、各科目の内容構成
12	新学習指導要領の展開(3)	科目「現代社会」における内容改善のポイント
13	公民科の教育実習	教育実習の意義と役割、実習の内容・展開・評価等について
14	公民科教員として期待されるもの	教員としての資質、指導力及び自己啓発について
15	Ⅱ期のまとめ	小テスト、その他

《教職に関する科目》

科目名	情報科教育法（I期分）				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

情報活用の実戦力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、それぞれの指導方法を実践的に学びます。

《テキスト》

後日指定する。

《参考文献》

(教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』小柳和喜雄・小野賢太郎・平井尊士編著、学芸図書、2012

《授業の到達目標》

情報教育の意味を理解し、そのために必要な知識と技術を取得することを目的とします。さらに、情報科ならではの新しい学習形態を考案できるような応用力の獲得を目指します。

《授業時間外学習》

実習、課題作成のために必要な調査は授業時間以外で行ってください。

《成績評価の方法》

学期中に課す課題が100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報科とは	情報科設置経緯の概観、情報科の目標、情報科の学習内容について理解する。
2	情報活用の実戦力の指導法（1）	指導すべき情報活用の実戦力の具体的な内容を理解する。
3	情報活用の実戦力の指導法（2）	情報活用の実戦力の指導方法について考察する。
4	情報の科学的な理解の指導法（1）	指導内容を理解する。
5	情報の科学的な理解の指導法（2）	指導方法について考察する。
6	問題解決とモデル化の指導法（1）	指導内容を理解する。
7	問題解決とモデル化の指導法（2）	指導方法について考察する。
8	アルゴリズムとプログラミングの指導法（1）	指導内容を理解する。
9	アルゴリズムとプログラミングの指導法（2）	指導方法について考察する。
10	情報検索とデータベースの指導法（1）	指導内容を理解する。
11	情報検索とデータベースの指導法（2）	指導方法について考察する。
12	情報モラル・情報倫理の指導法（1）	指導内容を理解する。
13	情報モラル・情報倫理の指導法（2）	指導方法について考察する。
14	メディアリテラシーの指導法（1）	指導内容を理解する。
15	メディアリテラシーの指導法（2）	指導方法について考察する。

《教職に関する科目》

科目名	情報科教育法（Ⅱ期分）				
担当者氏名	高野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

情報活用の実戦力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度、それぞれの指導方法を実践的に学びます。

《テキスト》

後日指定する。

《参考文献》

(教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』小柳和喜雄・小野賢太郎・平井尊士編著、学芸図書、2012

《授業の到達目標》

情報教育の意味を理解し、そのために必要な知識と技術を取得することを目的とします。さらに、情報科ならではの新しい学習形態を考案できるような応用力の獲得を目指します。

《授業時間外学習》

実習、課題作成のために必要な調査は授業時間以外で行ってください。

《成績評価の方法》

学期中に課す課題が100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	情報通信ネットワークの指導法（1）	指導内容を理解する。
2	情報通信ネットワークの指導法（2）	指導方法について考察する。
3	情報システムと社会の指導法（1）	指導内容を理解する。
4	情報システムと社会の指導法（2）	指導方法について考察する。
5	評価方法	様々な評価方法とその問題点について理解し、評価方法の工夫について考察する。
6	学習指導案（1）	学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案（2）	実習
8	情報科とプレゼンテーション（1）	用途に応じたプレゼンテーションの行い方や技術を理解・修得する。
9	情報科とプレゼンテーション（2）	実習
10	授業形式の実習（1）	模擬授業の実施と相互評価
11	授業形式の実習（2）	模擬授業の実施と改善についての議論
12	授業形式の実習（3）	模擬授業の実施と相互評価
13	これからの情報教育（1）	現在の情報教育の課題と問題点を議論する。
14	これからの情報教育（2）	情報科教育の意義について考える。
15	情報教育に必要な知識	情報を指導するための前提となる知識の確認を行う。

《教職に関する科目》

科目名	商業科教育法（I期分）				
担当者氏名	鎌田 志恵雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

商業科教員を目指す人には必修の科目です。
 変化の激しい社会の中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体が調和された「生きる力」を育むことは教育の重要な課題となっています。商業科教育法Iでは「高等学校学習指導要領解説商業編」を中心に商業教育の意義、各科目の目標や内容とその取扱いを分析し、商業科の教員として第一に必要なとされる確かな学力を育むための授業力養成の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

- 1 教育を取り巻く現状や教育法規、自己の体験を基に、教員としての教育観をもつことができる。
- 2 商業教育の意義や目標、商業科の科目編成について理解できる。
- 3 商業科の各科目の目標や、その取扱いについて理解し教材の工夫や指導方法について考えることができる。

《成績評価の方法》

到達目標について試験を実施します。また、事前の課題の準備や資料の提出の状況、意見発表や指導案の作成等の達成状況を評価します。評価の割合は試験60%、事前の課題や資料20%、意見発表や達成状況20%とし、100点満点で60点以上を合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 学校教育について	最初に、今後の授業の進め方や評価方法についてのガイダンスを行います。法規等を基に学校教育と教員の役割について考えます。
2	学校と教育を取り巻く状況	生徒や教員に関する調査データ、報道等を資料に、教育を取巻く状況について理解し、教員として必要な資質について考察します。
3	高等学校における商業教育の現状と課題	さまざまな商業高校の活動や教員採用試験から商業科教員としての心構えや、身に付けておきたいことがらを考察します。
4	商業教育の歩みと科目の変遷	我が国の商業教育の歩みと学習指導要領による科目の変遷について学習し、商業教育について考えます。
5	学習指導要領の改訂と商業科の目標・科目編成	改定の趣旨や目標から商業教育の意義を考えるとともに各科目の内容を概観します。
6	ビジネス基礎と学習指導案作成（1）	商業の基礎科目である「ビジネス基礎」を取り上げ、学習指導案の書き方を覚えると共に、科目の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
7	ビジネス基礎と学習指導案作成（2）	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
8	マーケティング分野と学習指導案作成（1）	マーケティング分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
9	マーケティング分野と学習指導案作成（2）	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
10	ビジネス経済分野と学習指導案作成	ビジネス経済分野の目標・内容の理解を深め、各自の考えを加味し、学習指導を効果的に行うための学習指導案を作成します。
11	会計分野と学習指導案作成（1）	会計分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
12	会計分野と学習指導案作成（2）	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
13	ビジネス情報分野と学習指導案作成（1）	ビジネス情報分野の目標・内容の理解を深め、学習指導を効果的に行う方法を考察します。
14	ビジネス情報分野と学習指導案作成（2）	前時の学習を基に各自の考えを加味し、効果的授業のための学習指導案を作成します。また、授業実施にあたって必要となる資料も考えます。
15	総合的な科目と学習指導案作成・まとめ	総合的な科目の目標・内容の理解を深め、各自の考えを加味し、学習指導を効果的に行うための学習指導案を作成します。最後にまとめと試験について説明します。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編 著作権文部科学省発行実教出版株式会社 平成22年5月初版発行
- ・その他プリントを適宜配布します。

《参考文献》

- ・高等学校学習指導要領および同解説総則編
- ・商業科教育法 日本商業教育学会 実教出版2011.4/25発行
- ・商業科教育法 吉野弘一著 実教出版
- ・実教出版 商業教科書 ビジネス基礎 総合実践 マーケティング 商品と流通 経済活動と法 簿記 会計 会計実務 原価計算 情報処理 ビジネス情報 プログラミング

《授業時間外学習》

事前に指示する資料収集や課題をまとめ、授業時間に提示や発表できるようにしてください。また、提出を指示された課題は指定期日までに提出してください。

《備考》

高等学校商業教科書を持っている人は授業で使用しますので指示したときに持ってきてください。

《教職に関する科目》

科目名	商業科教育法（Ⅱ期分）				
担当者氏名	鎌田 志恵雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

商業科教員を目指す人には必修の科目です。
本講義ではⅠ期の授業内容に引き続き、年間学習計画の立案、学習指導案の作成、模擬授業の実施と一連の流れを通して教師としての実践力を高めていきます。また、生徒の立場での授業評価を実施し、意見交換をする中で授業に必要な要素や方法・課題を考察します。

《授業の到達目標》

- 1 教材研究の方法について理解し、指導案に反映する事ができる。
- 2 指導案を基に模擬授業を実施する事ができる。
- 3 教育課程や履修・修得を理解し、指導する事が出来る。
- 4 教育公務員としての服務や教員としての資質を理解し、教員として努力する姿勢がある。

《成績評価の方法》

到達目標について試験を実施します。また、指導案に基づく模擬授業の実施状況、指導案や授業についての意見交換の内容を評価します。評価の割合は試験50%、模擬授業の実施状況30%、指導案や意見交換20%とし、100点満点で60点以上を合格とします。

《テキスト》

- ・高等学校学習指導要領解説商業編 著作権文部科学省発行実教出版株式会社 平成22年5月初版発行
- ・その他プリントを適宜配布します。

《参考文献》

- ・高等学校学習指導要領および同解説総則編
- ・商業科教育法 日本商業教育学会 実教出版2011.4/25発行
- ・商業科教育法 吉野弘一著 実教出版
- ・実教出版 商業教科書 ビジネス基礎 総合実践 マーケティング 商品と流通 経済活動と法 簿記 会計 会計実務 原価計算 情報処理 ビジネス情報 プログラミング

《授業時間外学習》

事前に指示する資料収集や課題をまとめ、授業時間に提示や発表できるようにしてください。また、提出を指示された課題は指定期日までに提出してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	年間学習指導案の立案 授業指導と教員評価	最初に、年間学習指導案について学習します。 また、授業指導における教員の留意事項について考察します。
2	「ビジネス基礎」学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
3	「ビジネス基礎」の模擬授業・授業評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
4	「ビジネス基礎」の模擬授業・授業評価・反省会	教員役を交替し、模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
5	マーケティング分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
6	マーケティング分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
7	ビジネス経済分野模擬授業準備と実施	各自、任意の科目・単元について事前に作成した学習指導案と教材で、教員役と生徒役に分かれて模擬授業実施、評価・反省会で授業力向上を目指します。
8	会計分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
9	会計分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
10	ビジネス情報分野学習指導案と模擬授業準備	各自、任意の科目・単元について学習指導案を作成し、模擬授業の教材を準備・作成します。
11	ビジネス情報分野の模擬授業・評価・反省会	時間を設定し、教員役が模擬授業を実施し、他は生徒役として評価します。また、授業反省会を実施し、授業力向上を目指します。
12	総合的な科目模擬授業準備と実施	各自、任意の科目・単元について事前に作成した学習指導案と教材で、教員役と生徒役に分かれて模擬授業実施、評価・反省会で授業力向上を目指します。
13	教育課程の作成	学習指導要領を確認しながら学科と教育目標を各自で設定し、教育課程を作成します。
14	教職員の服務と危機管理対応	教育公務員としての服務を整理し、模擬事例から学校におけるさまざまな危機管理対応について、意見交換をして考察します。
15	教員採用試験とまとめ	教員採用試験への対応について検討し、最後に講義のまとめを行います。

《教職に関する科目》

科目名	教育情報化演習 I				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

演習の前半は、担当者が現代社会の諸問題について、特に若い世代に伝えたい問題に絞って授業する。後半は、ゼミ生から教育実習を念頭に据え、生徒に伝えたいテーマをまとめ、その内容をパワーポイントで編集し、ミニ授業をする。ミニ授業の後、授業の合評会をする。

《テキスト》

なし

《参考文献》

池本廣希著『地産地消の経済学』新泉社 2008年

《授業の到達目標》

①現代の教育問題について主体的に考える力がつく。 ②情報機器を活用し、プレゼンテーション能力が向上する。 ③授業運営能力とディスカッション能力が向上する。

《授業時間外学習》

ミニ授業の準備

《成績評価の方法》

ミニ授業 70% ディスカッション能力 30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	教育情報化演習の意義と演習計画についてガイダンスする。
2	現代社会の諸問題 その一	3.11東日本大震災と原発事故の問題について話題提供し、意見交換する。
3	現代社会の諸問題 その二	エネルギー問題と環境問題について話題提供し、意見交換する。
4	現代社会の諸問題 その三	食料問題と食育・食卓について話題提供し、意見交換する。
5	現代社会の諸問題 その四	少子高齢化と高齢者介護問題について話題提供し、意見交換する。
6	現代社会の諸問題 その五	中央集権と地域主権について話題提供し、意見交換する。
7	現代社会と教育①	自然と土に学ぶ 自然主義教育について話題提供し、意見交換する。
8	現代社会と教育②	地域づくりと地域の教育力について話題提供し、意見交換する。
9	現代社会と教育③	家庭のかたちと家庭教育について話題提供し、意見交換する。
10	現代社会と教育④	地域と家庭を結ぶ学校教育について話題提供し、意見交換する。
11	ミニ授業①	受講生によるミニ授業の後、討論する。
12	ミニ授業②	受講生によるミニ授業の後、討論する。
13	ミニ授業③	受講生によるミニ授業の後、討論する。
14	ミニ授業④	受講生によるミニ授業の後、討論する。
15	まとめ	口頭試問

《教職に関する科目》

科目名	教育情報化演習Ⅱ				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業はI期の「教育情報化演習I」の続きであり、教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに、交替で情報機器を用いた模擬授業を行う。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて、教壇での発声、板書から始まり、子どもたちに情報機器を用いたメッセージ伝達ができるようにする。

《授業時間外学習》

休日に、教育の情報化に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。その他、必要に応じて指示する。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

評価の詳細な内訳は受講生の様子を見て微調整するほか、下記授業計画も進行状況によって変更することがある。これらは教育学のイロハである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本授業の進め方の説明と協議
2	情報機器を用いた模擬授業の準備(1)	担当教員による模範模擬授業
3	情報機器を用いた模擬授業の準備(2)	教材研究ガイド(上級)
4	情報機器を用いた模擬授業の準備(3)	授業のアウトラインづくり(上級)
5	情報機器を用いた模擬授業の準備(4)	教材研究における文献検索(上級)
6	情報機器を用いた模擬授業の準備(5)	板書計画(上級)
7	情報機器を用いた模擬授業(1)	例：受講生A
8	情報機器を用いた模擬授業(2)	例：受講生B
9	情報機器を用いた模擬授業(3)	例：受講生C
10	情報機器を用いた模擬授業(4)	例：受講生D
11	情報機器を用いた教師の仕事を考える(1)	視聴覚資料または文献から(深める)
12	情報機器を用いた教師の仕事を考える(2)	とくに教師が行う「芸」(深める)
13	情報機器を用いた教師の仕事を考える(3)	とくに子ども観(深める)
14	情報機器を用いた教師の仕事を考える(4)	とくに人権教育(深める)
15	本授業の総括	情報機器を用いた教師の仕事の深い楽しみ

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられるが、このような問題に対して、日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか？悩む人々と治療者の関係という実践の中から生み出された臨床心理学の理論は、人と人との関係が希薄だといわれる現代人にとって新鮮であるかもしれない。このような臨床心理学理論を学び自分なりの気づきや視点をもてるように学ぶ。

《授業の到達目標》

カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになる。自分自身のこころに焦点をあてそこに耳を傾けられるようになること。子どもたちを取りまく様々な問題のサインを見逃さず、自分なりの視点を持てるようになること。

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト等20% 授業内容の理解50%

《テキスト》

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

《参考文献》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』
滝口俊子・田中慶江編 創元社1400円＋税
『特別支援教育のための100冊』
特別支援プロジェクトチーム 創元社1800円

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。リストの中から自分の最も興味ある1冊を選んで手書き・用紙問わず5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ひとの話を聴くということ、その心得について
2	カウンセリングの基礎理論	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について
3	カウンセリングの基礎技術	DVD 「初回面接での信頼関係の確立」から学ぶ
4	カウンセリングの実習	簡単なロールプレイを経験して、日常の自分自身の話を聞く態度などをふりかえってみる
5	こころの世界を取り扱うには	相談に来た人が、自由に思いついたことがいえる雰囲気をつくるにはどのようなことに留意すべきか
6	自分のこころをみつめる①	「フォーカシング」の理論
7	自分のこころをみつめる②	「フォーカシング」の体験
8	こころの発達理論	関係性の発達を知り、思春期以降の子どものこころの問題を理解しやすくする
9	子どもたちが育つ環境の問題	大人たちが子どもの成長を妨げている事例について考える
10	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題	軽度発達障害についての理解を深める
11	箱庭療法の理論	箱庭療法が生まれた背景と理論について理解を深める
12	箱庭療法から心の治癒過程を知る	DVDに表現された子どもの箱庭療法の事例をみることによって、心の治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師にできることとできないことは何か、専門機関にリファーするにあたって教師にできることは何か
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりに考える
15	まとめ	この授業で学んだことをふり返り、今後活かすべきことは何か考える

《総合・キャリア関連科目》

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

- 論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
- 状況に応じて用語を使いわけできる。
- 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
- 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《総合・キャリア関連科目》

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を発展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

- 読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
- 各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
- 口頭発表の資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成できる。

《成績評価の方法》

- 課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。
- 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理（ここまで）のふり返し
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	学習のふり返し

《テキスト》

- 授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
- その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》

- 矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
- 奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。
- その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

《総合・キャリア関連科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、(1)自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。(2)長期に亘るキャリアについて考える。(3)経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

(1) 家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。(2) ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。(3) 生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。(4) 収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 筆記試験 50%
- (2) 課題提出物 30%
- (3) 授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

(1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 (2) 矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 (3) 最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 (4) スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- (1) 次回のプリントを読んでおくこと
- (2) 「読む力」の課題をしておくこと
- (3) 新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- (1) 毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える (1)	生活経営とは何か
2	生活を考える (2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活 (1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活 (2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択 (1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択 (2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択 (3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択 (4)	職業の選択とライフロール (映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論 (1)	職業キャリアからライフキャリアへ (スーパー)
10	キャリア発達理論 (2)	組織におけるキャリア発達 (シャイン)
11	キャリア発達理論 (3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ (克蘭ボルツ)
12	キャリア発達理論 (4)	転機へのアプローチ (シュロスバーグ)、視点の変化 (ハンセン)
13	生涯学習の必要性 (1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性 (1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力 I				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。自らの行動パターンを分析を通し対人折衝能力を高めます。スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》

学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム1単位「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・発言を奨励：40%
 授業中に実施するレポート及び実技試験：60%
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》

プリント資料（講師作成）
 テキストは使用しない

《参考文献》

ホスピタリティの教科書：林田正光 あさひ出版
 あいさつの教科書：挨拶教育研究会 中経出版
 あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク 草思社
 日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の違いの分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識一言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《テキスト》

最新最強のSPIクリア問題集13年版：成美堂出版
プリント資料（講師作成）

《参考文献》

筆記試験の完全攻略
内定ロボット 日経ナビ&就職ガイド編集部

フィンランドメソッド実践ドリル
諸葛正弥 毎日コミュニケーションズ

《授業の到達目標》

本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力一言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40%
筆記試験：60%
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	SPI非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なSPI基礎知識を知る
2	SPI検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・SPI言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	SPI検査対策	SPI言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	SPI検査対策	SPI検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び3級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び2級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだSPI非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にSPI検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書1	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書2	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書3	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《テキスト》

はじめてのビジネスマナー
株式会社 同友館発行 著者 東条文千代

《参考文献》

ビジネス基本ルール120：PHP研究所
日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業の到達目標》

「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40%
筆記試験（記述式）：60%
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身に付ける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する5つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身に付けるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書1	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書2	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本—為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする

平成 21（2009）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係					学年配当（数字は週当り授業時間）								平成24年度の担当者	ページ				
			必修	選択	情報	商業	公民	1年		2年		3年		4年									
								I	II	I	II	I	II	I	II								
演習科目	基礎演習A	演習	2							2													
	基礎演習B	演習	2								2												
	発展演習I	演習	2									2											
	発展演習II	演習	2										2										
	専門演習I	演習	2											2									
	専門演習II	演習	2												2								
	卒業演習I	演習	2													2				*1	318		
	卒業演習II	演習	2														2				*1	319	
	卒業研究	演習	4															4				*1	320
	専門教育科目 共通科目	経済情報概論	講義	4							4												
数学基礎		講義	2							2													
アプリケーションソフト		演習	4		□						4												
プレゼンテーションA		演習	2								2	2											
プレゼンテーションB		演習	2								2	2											
現代経済社会論A		講義	2								2												
現代経済社会論B		講義	2									2											
簿記原理I		講義	2				△					2											
簿記原理II		講義	2				▲					2											
経済学入門		講義	2				◆					2											
経済統計		講義	2				▲					2											
民法		講義	2				▲					2											
会計学入門		講義	2				△					2											
情報科学入門		講義	2									2											
プログラミング入門		講義	2									2											
コンピュータ基礎論		講義	2		□							2											
グラフィックス		講義	2		□							2											
ウェブデザイン		講義	2									2											
基礎経済数学		講義	2									2											
基礎情報数学		講義	2										2										
統計学		講義	2										2										
社会経済史		講義	2				▲					2											
コミュニケーション論		講義	2		■							2											
国際政治学		講義	2					◇				2											
国際社会論		講義	2										2										
マスメディア論		講義	2											2									
比較文化論		講義	2										2										
インターンシップ		講義	2										2										
経済情報特論A		講義	2								2												
経済情報特論B		講義	2									2											
経済情報特論C		講義	2										2										
経済情報特論D		講義	2											2									
経済情報特論E	講義	2												2									
経済情報特論F	講義	2													2								

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 科 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教 員 免 許 関 係				学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 4 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択	情 報	商 業	公 民	1 年		2 年		3 年		4 年					
								I	II	I	II	I	II	I	II				
専 門 教 育 科 目	フィールドワーク	演習	④										4						
	地域分析論	講義	④										4						
	人と地域	講義	④										4						
	地域デザイン論	講義	④										4						
	地域経済論Ⅰ	講義	2			◆						2							
	地域経済論Ⅱ	講義	2			◆						2							
	環境と地理	講義	2									2							
	社会調査Ⅰ	講義	2									2							
	社会調査Ⅱ	講義	2									2							
	社会情報論	講義	2									2							
	ジャーナリズム	講義	2										2						
	社会政策Ⅰ	講義	2			◇						2							
	社会政策Ⅱ	講義	2			◆							2						
	行政学Ⅰ	講義	2										2						
	行政学Ⅱ	講義	2											2					
	環境経済論A	講義	2										2						
	環境経済論B	講義	2										2						
	情報社会論	講義	2		□								2						
	情報通信論	講義	2		■									2					
	いなみ野ため池学	講義	2										2						
	いなみ野まちおこし学	講義	2											2					
メディアと政治	講義	2										2							
地域史	講義	2											2						
地域デザイン特論A	講義	2										2							
地域デザイン特論B	講義	2											2						

- は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
- △は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
- ◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※単位数の④はコースにおける必修科目単位

*1 森・三宅・高本・瀧本・田中・石原・高野・金子・穂積・榎木・竹川・西田

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教 員 免 許 関 係				学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 4 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
									1 年		2 年		3 年		4 年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2	□	△	◇	2											
	教育原理	講義	2	□	△	◇	2											
	教育史	講義	2	■	▲	◆						2						
	発達心理学	講義	2	■	▲	◆			2									
	教育心理学	講義	2	□	△	◇		2										
	教育制度論	講義	2	□	△	◇		2										
	教育課程論	講義	2	□	△	◇				2								
	公民科教育法	講義	4	□	△	◇						4						
	情報科教育法	講義	4	□	△	◇						4						
	商業科教育法	講義	4	□	△	◇						4						
	特別活動論	講義	2	□	△	◇				2								
	教育方法・技術論	講義	2	□	△	◇				2								
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2	□	△	◇			2									
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2	□	△	◇							2					
	総合演習	演習	2	□	△	◇							2					
事前・事後指導	講義	1	□	△	◇									1			岡本 洋之	322
高等学校教育実習	実習	2	□	△	◇								2				岡本 洋之	323

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
指定の科目を修得すること。

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		教 員 免 許 関 係				学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 2 4 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
									1 年		2 年		3 年		4 年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
総 合 ・ キ ャ リ ア 関 連 科 目	日本語表現法	演習	2					②		②		②		②			[野田 直恵]	324
	コンピュータ応用演習	演習	2					②		②		②		②			(河野 稔)	325
	特別講義	講義	2					②		②		②		②				
	私のためのキャリア設計	講義	2					②		②		②		②			[有働 壽恵]	326
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2						②		②		②		②		[山本 清美]	327
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2							②		②		②			[山本 清美]	328
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2								②		②		②		[山本 清美]	329

※総合・キャリア関連科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業演習 I				
担当者氏名	森義隆, 三宅伸二, 高本茂, 瀧本眞一, 田中正彦, 石原敬子, 高野敦子, 金子哲, 穂積隆広, 榎木浩, 竹川宏子, 西田悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

各コース専修科目、3年次の専門演習 I・II で学んだことに基づいて、各自研究テーマを設定し、卒業研究に取り組む。授業では、教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・3年次までに学んだことを、卒業研究のテーマに合わせてさらに発展させる。
- ・論理的に考える力を身につける。

《授業時間外学習》

各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《備考》

2012年度 II 期の卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		※ 授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業演習Ⅱ				
担当者氏名	森義隆, 三宅伸二, 高本茂, 瀧本眞一, 田中正彦, 石原敬子, 高野敦子, 金子哲, 穂積隆広, 榎木浩, 竹川宏子, 西田悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

卒業演習Ⅰで取り組んだ研究内容をさらに発展させ、卒業研究に取り組む。

授業では、教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・卒業研究を仕上げる。
- ・論理的に考える力を身につける。

《授業時間外学習》

各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《備考》

卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		※ 授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	森義隆, 三宅伸二, 高本茂, 瀧本眞一, 田中正彦, 石原敬子, 高野敦子, 金子哲, 穂積隆広, 榎木浩, 竹川宏子, 西田悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 1-4 プレゼンテーション力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

卒業演習Ⅰ、卒業演習Ⅱで取り組んだ研究内容を卒業論文（もしくは作品）にまとめ、発表する。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・卒業研究を仕上げる。
- ・論理的に考える力を身につける。
- ・自分が取り組んだ研究内容について、口頭発表や文章にまとめて伝える力を身につける。

《授業時間外学習》

卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《成績評価の方法》

指定された期間内に提出された卒業研究の内容をもって評価する。
 （提出物、提出期間など詳細については、決まり次第、掲示により通知する。）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	応用プログラミングB				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 情報処理の知識の応用				

《授業の概要》

現在のコンピュータは画面上の表示をマウスで操作するGUIが主流となっています。この授業ではこのようなGUIベースのアプリケーションソフト開発の基礎としてMicrosoft社のVisual Basicを使用したプログラミングについて学びます。

《テキスト》

必要に応じてプリント等を配布します。

《参考文献》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではまずVisual Basicを使ったウィンドウプログラミングの基礎として、アプリケーションウィンドウの作成法と、そのウィンドウ上のボタンなどを操作したときに記述した命令が実行されるイベント駆動型プログラミングについて学びます。また、それぞれのボタンやメニューなどのフォーム要素（コントロール）に対応したクラス変数について説明し、オブジェクト指向型プログラミングについても学びます。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません。毎回予習として自分が作るうとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください。また、授業内で作ったプログラムを振り返り、様々な課題に応用して復習するようにしてください。

《成績評価の方法》

毎回の課題（40%）と、期末試験（60%）によって評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Visual Basicの基礎	Visual Basicのプログラム開発環境について説明し、ウィンドウプログラミングの基礎を身に付ける。
2	電卓の制作	ウィンドウ上に配置したそれぞれのボタン類ごとにプログラムを記述し、動作させるイベント駆動型プログラミングについて説明する。
3	カレンダー	Visual Basicにおける変数の取り扱いや、条件分岐や繰り返しといった制御文について説明する。
4	並べ替え	Visual Basicにおける配列変数の取り扱いについて説明する。
5	タイピングゲーム	Visual Basicにおけるキー入力の取り扱いについて説明する。
6	時計	ウィンドウへの描画命令とタイマーイベントについて説明する。
7	ライフゲーム	ウィンドウへの描画命令とタイマーイベントを使った応用プログラムを作成する。
8	マインスイーパー	ウィンドウへの描画命令と再帰プログラミングの基礎を説明する。
9	画像ビューア	画像ファイルの取り扱いとウィンドウへのドラッグアンドドロップについて説明する。
10	テキストエディタ	ファイルの読み込みや書き込み時に使用するファイルダイアログの取り扱いについて説明する。
11	方眼紙	印刷ダイアログの取り扱いなど、ウィンドウに描画した内容の印刷方法について説明する。
12	リバーシ	ゲームの盤面をクラスとして定義したオブジェクト指向型プログラミングの考え方について説明する。
13	リバーシ	ゲームの盤面をクラスとして定義したオブジェクト指向型プログラミングの考え方に基づいてゲームを完成させる。
14	応用課題	まとめと復習
15	応用課題	まとめと復習

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。おおよその予定は次の通りである。

- (1) 教育実習事前学習会(模擬授業)--4月および5月
- (2) 教育実習に関する講話--同上, (3) 教育実習報告会--6月
- (4) 高等学校授業見学--秋
- (5) 兵庫県播州地域に特有の教育問題に関する特別見学--冬

《授業の到達目標》

事前指導としては、教育実習の目的、実習校の立場・状況、高校生の関心度を理解し、実習期間中の態度と教員としての認識を深める。事後指導としては、実習報告書の作成と実習報告会を通して、実習生各自の体験を深めるとともに、教員としての資質の充実をはかる。

《成績評価の方法》

平常点(100%)のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。基本的に全回出席を単位の条件とする。なお教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき、上記「授業の概要」の内容を変更することがある。

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』

《参考文献》

「高等学校教育実習」のページを参照

《授業時間外学習》

科目の性質上、意欲的な自学自習が求められる。このほか、インターンシップを行うことがある。

《備考》

時間割上は土曜日の午後に一時間だけ設定されているが、4・5月は長引くのがふつうであると考え、同月の土曜日午後にはアルバイト等の予定をいっさい入れないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		不定期開講につき本表では表示できない。学修時間の合計をもって「通年1単位」としているのであり、本授業においては授業回数と単位数につながりはない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

受講生は全員が、定められた期間、あらかじめお願いをしていた高等学校（特別な事情がある者は中学校）で、受入れ校の指導教員のアドヴァイスを承りながら、学校教育の見学と実践を行う。

《授業の到達目標》

教科に関する科目と教職に関する科目の総決算ともいうべき教育実習を行う。具体的内容として、(1)実習に臨む態度、実習校の組織と実習生受入れの立場、事前訪問時の書類作成、(2)教科指導(教材研究と資料の準備、指導案作成、授業運営)、(3)生徒指導(注意のあり方、体罰禁止等)、(4)実習日誌の書き方などについて、実習校の指導教員が具体的・現実的に教育指導し、本学の担当者が責任をもつ。

《成績評価の方法》

実習受入れ校の指導教員の所見（100%）に基づいて合否を決定する。ただし教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき、柔軟に運用することがある。

《テキスト》

とくに定めないが、全員が『教育実習日誌』と『教育実習の手引き』を実習校に毎日持参し、日誌の所定欄に記入するとともに、指導教員に所見等の記入をお願い申し上げること。

《参考文献》

- ・教育実習を考える会編『実践「教育実習」』教育実習を考える会編(蒼丘書林)
- ・教師養成研究会編著『教育実習の研究』(学芸図書)
- ・白井慎他編著『教育実習57の質問』(学文社)

《授業時間外学習》

授業の性質上、各自で積極的に行うことは言うまでもない。

《備考》

本科目を履修登録するためには、別に定められた単位取得に関する要件をクリアしたうえで、前年度のうちに高等学校または中学校から教育実習受入れ内諾を得ていなければならない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		授業の性質上、本表では表示できない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

- 論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
- 状況に応じて用語を使いわけできる。
- 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
- 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《総合・キャリア関連科目》

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 情報処理能力				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を発展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

- 読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
- 各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
- 口頭発表の資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成できる。

《成績評価の方法》

- 課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。
- 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理（ここまで）のふり返り
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	学習のふり返り

《テキスト》

- 授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
- その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》

- 矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
- 奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。
- その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

《総合・キャリア関連科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、(1)自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。(2)長期に亘るキャリアについて考える。(3)経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

(1) 家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。(2) ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。(3) 生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。(4) 収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 筆記試験 50%
- (2) 課題提出物 30%
- (3) 授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

(1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 (2) 矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 (3) 最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 (4) スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- (1) 次回のプリントを読んでおくこと
- (2) 「読む力」の課題をしておくこと
- (3) 新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- (1) 毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える (1)	生活経営とは何か
2	生活を考える (2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活 (1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活 (2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択 (1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択 (2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択 (3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択 (4)	職業の選択とライフロール (映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論 (1)	職業キャリアからライフキャリアへ (スーパー)
10	キャリア発達理論 (2)	組織におけるキャリア発達 (シャイン)
11	キャリア発達理論 (3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ (克蘭ボルツ)
12	キャリア発達理論 (4)	転機へのアプローチ (シュロスバーグ)、視点の変化 (ハンセン)
13	生涯学習の必要性 (1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性 (1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力 I				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力				

《授業の概要》

コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。自らの行動パターンを分析を通し対人折衝能力を高めます。スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》

学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目指します。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム1単位「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・発言を奨励：40%
 授業中に実施するレポート及び実技試験：60%
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》

プリント資料（講師作成）
 テキストは使用しない

《参考文献》

ホスピタリティの教科書：林田正光 あさひ出版
 あいさつの教科書：挨拶教育研究会 中経出版
 あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク 草思社
 日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の違いの分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 ビジネス基礎力				

《授業の概要》

過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識一言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《テキスト》

最新最強のSPIクリア問題集13年版：成美堂出版
プリント資料（講師作成）

《参考文献》

筆記試験の完全攻略
内定ロボット 日経ナビ&就職ガイド編集部

フィンランドメソッド実践ドリル
諸葛正弥 毎日コミュニケーションズ

《授業の到達目標》

本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力一言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40%
筆記試験：60%
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	SPI非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なSPI基礎知識を知る
2	SPI検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・SPI言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	SPI検査対策	SPI言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	SPI検査対策	SPI検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び3級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び2級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだSPI非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にSPI検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書1	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書2	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書3	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《総合・キャリア関連科目》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-4 ビジネス基礎力 ○ 3-1 キャリア形成力 ○ 3-2 社会の動きをみる力				

《授業の概要》

社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《テキスト》

はじめてのビジネスマナー
株式会社 同友館発行 著者 東条文千代

《参考文献》

ビジネス基本ルール120：PHP研究所
日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業の到達目標》

「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40%
筆記試験（記述式）：60%
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身に付ける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する5つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身に付けるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書1	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書2	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本—為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする

